特　記　仕　様　書

工事名称　　本郷小学校屋内運動場長寿命化改修工事（建築主体工事）

工事場所　　三原市本郷北三丁目

工事内容　　三原市立本郷小学校の屋内運動場における、長寿命化改修工事を行う。

［工事概要］
・建築一式工事
（1）屋内運動場　内部・外部改修工事
　　鉄骨造、地上2階、延床面積925㎡
（2）渡り廊下　　改修工事
（3）スロープ　　改修工事

準則　　公共建築工事標準仕様書(建築工事編・電気設備工事編・機械設備工事編)、公共建築改修工事標準仕様書(建築工事編・電気設備工事編・機械設備工事編)、建築物解体工事共通仕様書（各 最新版　国土交通省官房官庁営繕部監修）に基づき施工する。

別途発注工事　・本郷小学校屋内運動場長寿命化改修工事（設備工事）

支払条件等　　前払金及び中間前金払・部分払等の支払については、令和8年度は請負代金額の10分の4以内の額とする。

関係法令等　　本工事については、次の関係法令その他の規定等に基づき施工すること。
・建築基準法、同施行令、同施行規則
・消防法、同施行令、同施行規則
・廃棄物の処理及び清掃に関する法律、同法施行令、同法施行規則
・労働安全衛生法、同法施行令、同法施行規則
・建設業法、同施行令、同施行規則
・建設工事公衆災害防止対策要綱
・石綿障害予防規則
・大気汚染防止法、振動規制法及び土壌汚染対策法
・建設工事に係る再資源化等に関する法律、同法施行令、同施行規則
・その他関係法令

工事保険等　　受注者は、本工事において第三者に危害を与えた損害を補填する保険又はその他必要とする建設工事に関連する保険等に加入しなければならない。

疑義変更　　・本設計図書は、設計の大要を示すものであり、詳細部等について技術的必要事項は明記なくとも完全に施工すること。
・別途発注工事の設計図書について、取り合いなどの整合を確認すること。
・施工に際して疑義が生じた場合、または軽微な変更を必要とする場合には、速やかに監理者と協議し、監督員の指示により施工すること。ただし、これらにおいて請負代金額の増減はなきものとする。
・本設計図書と不整合が確認されて設計変更（増額）が必要な場合は、その変更数量が確認できる根拠としての写真などの記録が存在し、かつ監督員に承認されたもの以外は認められない。

提出書類　　・施工に先立ち、工事工程表、仮設計画図及び監督員の指示する書類を提出し、監督員の承認を受けること。
・商品名及び製造者名が記載された材料については、当該商品又は同等品を使用するものとし、同等品を使用する場合は、監督員の承諾を受けること。
・設計図書に定める品質及び性能を有することについて、証明となる資料を提出して監督員の承諾を受けること。

工　　期　　本工事は請負契約締結の後、令和10年2月28日をもって工期とする。
このうち検査期間として13日間を見込んでいる。（工事の完成通知予定日は令和10年2月15日。）

留意事項

・入札に先立ち、現地調査を十分に行うこと。質疑がある場合は入札前に確認すること。
・図面について、設計者からの設計意図等の説明が必要な場合は申し出ること。
・作業日は、原則、月曜日から金曜日とし、土曜日及び日曜日は休工日とすること。
・行政機関の休日に関する法律（昭和63年法律第91号）に定める行政機関の休日に工事の施工を行わない。ただし、あらかじめ監督職員の承諾を受けた場合は、この限りではない。
・本工事は「発注者指定型」による週休２日適用工事の対象工事であり、「三原市週休２日適用工事等実施要領（建築工事）」（令和7年6月24日改定）により工事を行うこと。
・工事着手前までに「週休２日適用工事」または「週休２日交代制適用工事」に取り組むことを工事打合せ簿にて提出すること。
・「週休２日適用工事」または「週休２日交代制適用工事」である旨の表示を工事現場に設置すること。
・月単位の週休２日適用工事を達成できなくなった場合は、対象期間中の現場閉所（現場休息）の状況に応じた補正係数により労務費を減額する。
・本工事は居ながら工事を基本とし、必要に応じて施設使用者の通行制限を行うこととする。工事の詳細については、事前に施設管理者等への説明を行って承諾を得ること。
・デジタル化を積極的に推進すること。
・生成AIを積極的に活用して工事を進めること。提出書類については、必ず生成AIによるチェックを行った上で提出すること。
・定例会議の頻度と方法は協議による。方法は現場事務所での現地開催を基本とし、一部Web会議(現場事務所と市役所を想定)併用とする。現場でのWeb会議の環境設定（受注者側がホスト。Web会議の使用料、現場の通信費等を含む。Web会議用カメラ、マイク、スピーカーなどの周辺機器を含む。）は、工事に含む。
・紙資料の削減を目的として、電子機器の利用を主とすること。
・定例会の資料は、電子データを原則とすること。
・受注者は各定例会の前日までに必要な資料を所定の場所に提出すること。
・受注者は各定例会後の5日以内に議事録を作成して、所定の場所に提出し、出席者に内容を共有すること。
・現場事務所には、HDMI規格により出力できるモニター（50インチ以上）を設置すること。
・現場事務所内は、無線通信（会議にて同時接続10台以上）が可能な環境とすること。
・工事着手の10日より前に住民説明会を開催し、工事の概要を説明すること。日時や場所等については発注者との協議により決定する。
・工事期間中も一部の学校行事については屋内運動場を利用する必要があるため、倉庫(C)を除く屋内運動場2階部分及び中2階屋内運動場ギャラリーの改修工事については、令和9年4月12日から令和9年11月12日までの期間内に工事を行い、完成させること。
・工事期間中もプールを利用する必要があるため、ポーチ及び西外部階段Bを除く屋内運動場の外部改修については令和9年5月31日までに工事を行い、完成させること。また、外部足場解体後、渡り廊下から1階ピロティを経由してプールに至るまでの経路には安全通路を設けること。
・工事期間中も校舎から屋内運動場及びプールに至る移動経路として渡り廊下を利用する必要があるため、渡り廊下の改修工事については、令和9年7月26日から令和9年10月8日までの期間内に工事を行い、完成させること。
・騒音・振動等の発生が予想される作業を含めた工事全般について、学校と協議の上でなるべく児童・生徒等に配慮した作業計画すること。授業時間等に十分配慮して作業すること。
・使用する塗料は原則として水性塗料とするなど、学校に配慮すること。
・着手にあたり、工事着手前の周辺道路や近隣敷地の状況を写真等により記録しておくこと。
・近隣住民等の安全はもとより、丁寧な説明と施工により、関係者の理解と協力を得ながら実施すること。苦情等が発生した場合には誠意をもってこれに対応すること。
・近隣において、その他の工事が行われている場合は、取り合い工事及び工程等の調整を行うこと。
・近隣住民等への支障を最小限とするため、騒音・振動・粉塵等の対策については最大限配慮した施工方法を採用すること。
・使用する建設機械については、原則、「低騒音型、低振動型建設機械」として国土交通省の指定を受けた機械を選定して使用すること。これが確認できる資料を施工計画書で示すこと。なお、事情により使用が難しい場合は監督員との協議を行うこと。
・解体工事・アンカー工事等の騒音・振動・粉じん等の発生が予想される工種については、施工時間及び施工方法等を最大限配慮した計画により作業を行うこと。
・粉塵の発生が予想される工事は、確実に散水を行う等して、周辺環境への粉塵飛散がないように作業をすること。
・騒音計・振動計・デジタル粉塵計・表示盤等を設置し、常時監視をしながら作業を行うこと。
・騒音計・振動計の表示盤は、近隣に対して1カ所以上を掲示すること。
・騒音測定については、騒音規制法(特定建設作業)の測定方法により測定して、工事中の作業音は許容限度である85デシベルを厳守すること。

・振動測定については、振動規制法(特定建設作業)の測定方法により測定して、工事中の作業振動は許容限度である75デシベルを厳守すること。
・施工箇所周囲の備品・機器等については、粉塵対策として養生及び清掃等を確実に行うこと。養生や移動を行う場合は、事前に施設管理者または所有者に連絡すること。
・近隣家屋・敷地または周辺道路に対して、工事による汚れ・損傷・粉じん等を与えた場合は、受注者が責任をもって、速やかに清掃及び補修等を行うこと。誠意をもって対応し、現状復旧に努めること。
・周辺道路の保全及び清掃については常に注意を払って監視をし、定期的に清掃を行うこと。
・敷地境界付近には仮囲い（高さ2m以上）を設置すること。
・第三者災害防止及び飛散防止対策のために、必要に応じて監督員が指示する範囲にバリケード等を設置すること。
・工事期間中は、工事用出入口に交通誘導員を常時配置し、付近の交通の安全を図ること。その他、必要な場所に交通誘導員を配置し、事故及び危険防止に努めること。
・交通誘導員は本工事で見込んでいる。実施数量が設計数量に満たない場合は設計変更（減額）の対象とする。
・工事車両の通行については、近隣住民及び通学児童等の安全を最優先すること。
・工事車両は、幅員の広い道路の通行を基本とし、住宅地内などの狭い道を抜け道として使用しないこと。工事車両の周辺の通行経路については、工事着手前に発注者の了承を得ること。
・工事車両は、原則、敷地南側の通用門からの出入りとすること。大型車両や特殊車両の進入等、やむを得ず敷地西側の校門から出入りを行う場合は、あらかじめ搬入時刻、車両台数等について発注者の了承を得ること。
・工事車両の出入りについては、児童の通学時間帯である午前7時40分から午前8時15分及び午後3時40分から午後4時00分を除く時間帯とし、児童との接触事故を防止するため、交通誘導員を配置し誘導を行わせること。
・特殊車両の搬出入の有無については、あらかじめに発注者に報告すること。
・特殊車両の搬出入を夜間や早朝に行う必要がある場合は、発注者との協議の上で、事前に近隣住民等へ案内文のポスティング等を行うこと。
・工事車両は、場内を5ｋｍ/ｈ以下で徐行すること。場内に注意喚起表示を行うこと。
・場内に喫煙所を設ける場合は、施設使用者と近隣住民へ配慮し、設置位置と使用方法を協議してから設けること。また、使用方法を作業員に周知徹底すること。
・工事区域内の残置する設備配管・配線等については、事前に位置を確認してから作業を行うこと。事前調査記録を作成すること。
・工事に支障となる遊具、記念碑等の移設が必要な場合は、事前に関係者と移設場所・方法・時期等を協議の上で実施すること。
・工事中の雨水・湧水・洗浄水等の排水については、ノッチタンクによる汚泥等の処理を行う等した上で、適切に排水すること。定期的にpHを測定し、必要に応じて適宜中和を行うこと。
・受注者事務所、休憩所及び便所等は関係法令に従って設けること。
・仮囲い、足場、山留、型枠支保工、構台等の仮設については、施工者が計算等により責任をもって決定し、計画通りに施工すること。仮設設置期間は日常点検を行い、記録に残すこと。
・図面等に示されている仮設等についても、必ず受注者で安全性や施工性等を検証すること。受注者が責任をもって設置、施工すること。
・足場設置期間中は、シート等の飛散が無いように定期的に点検を行うこと。
・台風等の強風等異常気象が見込まれる場合は、事前に足場等の養生シートを折りたたむなど対策を施すこと。また、必要に応じて現場巡視と災害防止対策を行うこと。
・足場については、交差筋交い及び外部シートとは別に、高さ15センチメートル以上の幅木を外部・内部の両側に設置すること。（※労働安全衛生法の基準以上の足場とし、安全に配慮する。）
・足場については、必要に応じて朝顔を設置すること。
・足場については「手すり先行工法等に関するガイドライン」における「手すり先行工法等に関する基準」、「働きやすい安心感のある足場に関する基準」に適合する施工方法にて設置、解体をすること。（親綱は手摺とは扱わない。）
・外部足場等に過剰な宣伝広告はしないこと。
・工事関係者の駐車場については、屋内運動場の1階ピロティ部分の一部を足場の設置に影響のない範囲で使用するを想定している。
・工事に係る電気、水道及び下水道使用料金等は受注者の負担とする。
・工事の要求に必要な仮設は、工事に含むものとする。
・重機が転倒しないように事前検討を行い、安全に作業を行うこと。
・配筋検査は、受注者による自主検査を行ったうえ、監理者及び監督員による検査を受検すること。なお、これらの検査は、種類・径・数量についての全数検査を行うこと。
・配筋検査前に、上記内容はもとより、継手定着長さ・位置、かぶり厚さ、鉄筋のあき寸法など、設計図書通りに施工されていることを確認してから検査に臨むこと。

・コンクリートの調合は、標準仕様書に基づき構造体強度補正を見込む。(原則、外構工事を含む。無筋コンクリートは除く。)
・コンクリート打設後の所定期間中は、散水等による湿潤養生を適切に行うこと。
・木工事で使用する木材の産出地は、原則、広島県産材（可能な範囲で三原市産材）とすること。
・工事完了後に、木工事で使用する木材の産出地について、数量を整理して提出すること。
・家具については転倒防止対策のため、床及び壁へ固定すること。
・雨水の浸入を防止する部分、屋根、外壁又はこれらの開口部に設ける戸、枠その他の建具周り等からの雨水の浸入に関する瑕疵については、引渡しの日の翌日から10年間責任を負うこと。このことについて、保証書を作成して提出すること。（改修工事については、本工事の範囲）
・図面に水勾配がある箇所については、施工図に勾配のﾊﾟｰｾﾝﾄを記載すると共に、完成図にも勾配のﾊﾟｰｾﾝﾄを計測して記載すること。計測する箇所については監督員と協議すること。
・塗装の下塗り、中塗り、上塗りは原則的に色を塗り分けること。
・鍵のプランについては、協議の上で同一キーとする箇所を確認すること。
・シリンダーキーについては、既存のグランドマスターキー及びマスターキーに取り込むこと。
・既存壁紙(クロス)撤去については、既存壁紙(クロス)の裏紙が残らないように処理し、完全に撤去すること。
・改修した防火設備の作動状況の確認及び連動する煙感知器等の作動状況の確認については、資格者（建築基準法第12条４項）による総合試験とすること。
・外壁劣化状況の調査費用は本工事で見込んでいる。
・「①建築物を解体する作業を伴う建設工事であって､当該作業の対象となる床面積の合計が80㎡以上であるもの」、「②建築物を改造し、または補修する作業を伴う建設工事であって、当該作業の請負代金の合計額が100万円以上であるもの」、「③工作物を解体し、改造し、または補修する作業を伴う建設工事でって、当該作業の請負代金の合計額が100万円以上であるもの」については、事前調査結果を労働基準監督署及び広島県東部厚生環境事務所環境管理課に石綿等に関する事項を報告すること。
・石綿含有建材の調査（書面・目視調査、分析調査調査及び検体採取を含む）について、工事着手前までに一般建築物石綿含有建材調査者、または特定建築物石綿含有建材調査者が行うこと。
・その他石綿の飛散防止等については、改正大気汚染防止法及び施行令（令和3年4月1日施行）に基づくこと。
・石綿含有分析調査は試料採取と分析調査費を見込んでいる。分析は定性（JIS A 1481-1。含有の場合は、含有する層の判定も行う。）による。（4検体）
・作業員に対して、新規入場教育時に石綿含有建材の使用位置を確認させること。
・石綿則に基づく事前調査のアスベスト分析マニュアル(最新版)に基づくこと。
・石綿含有建材の除去専門業者については、建設技術審査証明協議会による「建設技術審査証明事業」の提出、又は本工事に相応した技術を有することが分かる施工実績証明等が確認できること。
・石綿含有建材の除去作業者については、一般健康診断・石綿健康診断・じん肺健康診断の３種類を定期的に受診していることが確認できること。
・石綿を含有する建築物の解体等を行う際には届出を行うこと。レベル1・2については「工事計画届」「特定粉じん排出等作業届書」「事前届出の実施」「建築物解体等作業届」等遅滞なく提出すること。
・PCB含有シーリング材の撤去については、「PCB含有ポリサルファイド系シーリング材撤去工事標準施工要領書」に沿って撤去すること。
・請負契約の締結後から現場施工に着手するまでの期間（現場事務所の設置、資機材の搬入又は仮設工事等が開始されるまでの期間）については、現場代理人及び主任（監理）技術者の専任を要しない。なお、現場施工に着手する日については、監督職員との打合せにおいて定める。
・仮使用申請、道路使用、道路改築申請等の工事に必要な各種手続きは、受注者の負担により遅滞なく行うこと。
・その他、工事に伴う官公庁等への手続きは、受注者により遅滞なく行うこと。この時、各種申請手数料等が発生した場合は受注者の負担とする。
・本工事は別途契約の工事と施工上密接に関連するため、本工事の受注者が調整を行うこと。
・工程計画、取り合い工事及び工事用車両の出入り等については、当該別途契約の工事関係者と互いに協力し合い、相互の工事を考慮した上で十分調整し、工事の円滑な施工に務めること。
・足場、交通誘導員、工事関係者駐車場用地等は、建築主体工事に見込んでいるが、別途発注工事業者も使用できるものとする。（維持管理上必要な費用は、各業者で協議の上分担すること。）
・品質証明員（技術士、1 級施工管理技士もしくは１級建築士の資格を有するもので、当該工事に従事していない者）を定める場合は、「総合施工計画書」に品質証明計画と品質証明員の氏名・資格を記載し、資格証明書の写しを添付すること。
・品質証明員を定める場合は、品質証明員が関係書類、出来形、品質等の確認を工事全般に行うこと。また、社内検査を実施し、報告書等を適宜提出すること。

・大雨等の警報が発令した場合、また台風及び強風等による自然災害の発生が予測される場合は、現場代理人等は現場事務所等へ待機のうえ、現場及び周囲の巡回を行うとともに必要に応じて対策を講じ報告すること。
・本工事の外注資材、労務等の調達については、極力、三原市内に主たる営業所を有する業者に発注すること。困難な場合は、あらかじめ理由を添えて発注者の承認を受けること。（理由については、三原市内に主たを有する業者に発注できない具体的な理由を明記すること。）
・熱中症対策として、従業員及び作業員が必要に応じて水分を補給できるよう作業所に給水設備を設置すること。
・広島県工事中情報共有システムを利用すること。なお、本工事にシステム利用料金を見込む。
・各工程の状況（写真、進捗率等を月2回程度）を工事中情報共有システムの連絡事項にて報告すること。
・工事書類については、工事中情報共有システムの決裁データ等を整理して、CD-R又はDVD-R(２部)にて提出すること。
・書面での提出が必要なもの（建退共の掛金収納書、試験結果、保証書 等）については、PDFを工事中情報共有システムで提出し、別に書面提出ファイルとしてまとめて提出すること。
・請負代金額300万円以上の工事について、建設業退職金共済事業部の「建設業退職金共済制度事務処理手引き（令和7年10月改訂版）」に基づき、「掛金収納書提出用台紙」及び「建設業退職金共済制度掛金充当実績総括表」を提出すること。
・完成写真（竣工写真）の撮影を外注する場合は、撮影データを三原市が利用することについての承諾書を提出すること。（押印した原本）
・製本図面（A3縮小版・二つ折り）として完成図を３部提出すること。
・以下の設計図面は、A2判をA3判に縮小している。（縮小率約70.7%）

本郷小学校屋内運動場長寿命化改修工事
（建築主体工事）

図面番号	図面名称	縮尺	図面番号	図面名称	縮尺	図面番号		縮尺
	【意匠図】							
A-00	表紙・図面リスト	—	A-30	西外部階段 B　平面・断面詳細図	1/10, 1/50	A-60	安全通路架設計画図（参考図）	1/100
A-01	改修工事特記仕様書-1	—	A-31	鉄骨外部階段　断面詳細図	1/50	A-61	全体工程表（参考）	—
A-02	改修工事特記仕様書-2	—	A-32	改修前後　２階平面詳細図	1/50			
A-03	改修工事特記仕様書-3	—	A-33	改修前　2階展開図	1/50			
A-04	改修工事特記仕様書-4	—	A-34	改修後　2階展開図	1/50			
A-05	改修工事特記仕様書-5	—	A-35	改修前後　１・２階便所平面詳細図	1/50			
A-06	改修工事特記仕様書-6	—	A-36	改修前　１・２階便所展開図	1/50			
A-07	改修工事特記仕様書-7	—	A-37	改修後　１・２階便所展開図	1/50			
A-08	改修工事特記仕様書-8	—	A-38	2階屋内運動場　展開図（1）	1/100			
A-09	改修工事特記仕様書-9	—	A-39	2階屋内運動場　展開図（2）	1/100			
A-10	外壁改修工事特記仕様書-1	—	A-40	2階ｽﾃｰｼﾞ　展開図	1/100			
A-11	外壁改修工事特記仕様書-2	—	A-41	２階床伏図・断面詳細図	1/20, 200			
A-12	外壁改修工事特記仕様書-3	—	A-42	1階天井伏図	1/100			
A-13	工事区分表	—	A-43	2階天井伏図	1/100			
A-14	付近見取図・配置図	1/500	A-44	R階天井伏図	1/100			
A-15	外部仕上表（1）	—	A-45	建具表（1）	1/100			
A-16	外部仕上表（2）	—	A-46	建具表（2）	1/100			
A-17	外部仕上表（3）	—	A-47	建具表（3）	1/100			
A-18	内部仕上表（1）	—	A-48	部分詳細図（1）	1/10, 20			
A-19	内部仕上表（2）	—	A-49	部分詳細図（2）	1/10			
A-20	1階平面図・建具配置図	1/100	A-50	部分詳細図（3）	1/5, 10, 20, 50			
A-21	2階平面図・建具配置図	1/100	A-51	部分詳細図（4）	1/5, 10, 20			
A-22	ｷﾞｬﾗﾘｰ平面図・建具配置図	1/100	A-52	屋内運動場ｺｰﾄﾗｲﾝ図	1/100			
A-23	屋根伏図	1/100	A-53	渡り廊下　平面図・天井伏図・屋根伏図・断面図	1/100			
A-24	立面図	1/200	A-54	スロープ　平面図・立面図・断面図	1/30, 100			
A-25	断面図	1/200	A-55	（参考図1）屋内運動場 体育器具用基礎図・ﾊﾞｽｹｯﾄ台撤去図	1/20, 30, 200			
A-26	断面詳細図（1）	1/50	A-56	（参考図2）屋内運動場 防球ﾈｯﾄ詳細図	1/50			
A-27	断面詳細図（2）	1/50	A-57	（参考図3）ｽﾃｰｼﾞ 器具平面図・断面図	1/30, 50			
A-28	断面詳細図（3）	1/50	A-58	（参考図4）ｽﾃｰｼﾞ ﾕﾆｯﾄｷｬﾘｱ・ﾋﾟｯﾄ内詳細図	1/20			
A-29	西外部階段 A　平面・断面詳細図	1/50	A-59	仮設計画図（参考図）	1/500			

事業年度　年度 工事完成　年度	設計 令和 年 月	三原市都市部建築課	大	中	小	地域	施設	種類 建築	工事名 本郷小学校屋内運動場長寿命化改修工事	事務所名・建築士登録番号・氏名 有限会社　ＭａｓＭａｓ 一級建築士登録　第325897号 小松木 靖之	図面名称・縮尺　－　(A3版-71%縮小) 表紙・図面リスト	図番 A-00

Ⅰ．工　事　概　要

１．工事名称：本郷小学校屋内運動場長寿命化改修工事（建築主体工事）　　仕　様　書
２．工事場所：三原市本郷北三丁目
３．敷地面積：15,457.00 ㎡
４．構造規模：屋内運動場　　鉄骨造２階建て　925㎡
５．工事種目：改修工事
６．別途工事：本郷小学校屋内運動場長寿命化改修工事（設備工事）

７．調査協力について

本工事は工事中及び竣工後、次の調査を行うため、発注者より連絡があれば対応すること。
（１）公共事業労務費調査…工事中に実施（調査票等の記入提出、発注者の調査実施への協力等）
（２）契約不適合調査…建設工事請負契約約款第５３条に定める期間内
（３）公共建築物木材利用事例調査票…工事中に実施（調査票の記入提出、発注者の調査実施への協力等）

８．公衆災害防止措置

（１）工事に際し、工事関係者以外の第三者の生命、身体及び財産の危機、並びに迷惑を防止するために必要な措置をとること
（２）上記について、「建設工事公衆災害防止対策要綱（平成５年１月１２日付　建設事務次官通達）」に基づき実施すること

９．現状復旧

工事に際し、隣接建物等に損傷を与えた場合は、速やかに現状復旧を行うこと

１０．主要資材等

（１）主要資材を購入しようとする場合は、極力三原市内に営業所・本店を有する業者に発注するものとし、予め購入先の名称所在地及び資材名等を発注者に通知するものとする
（２）当該工事に使用する砂については、海砂（県外産を含む）を使用しないこと
（３）この工事の施工に際し、やむを得ず工事の一部（主体の部分を除く）を第三者に請け負わせようとする場合は、原則として三原市内に主たる営業所・本店を有する業者に発注するものとする
（４）当該工事に使用する木材については、原則広島県産材（特に三原市産）とする。

Ⅱ．建築改修工事仕様

１．図面及び特記仕様書に記載されていない事項は、すべて国土交通省大臣官房官庁営繕部制定「公共建築改修工事標準仕様書（建築工事編）（令和７年版）」（以下、「改修標準仕様書」という。）による。
図面、本特記仕様書及び改修標準仕様書に記載されていない事項は、国土交通省大臣官房官庁営繕部制定「公共建築工事標準仕様書（建築工事編（令和７年版）」以下、「標準仕様書」という。）による。
２．特記仕様
（１）項目は番号に○印のついたものを適用する
（２）特記事項は⊙印のついたものを適用する
⊙印のつかない場合は、※印のついたものを適用する
⊙印と　㊟　印のついた場合は共に適用する
（３）項目に記載［　　］の内表示番号は、改修標準仕様書の当該項目、当該図又は当該表を示す。
（　　）の内表示番号は、標準仕様書の当該項目、当該図又は当該表を示す。
（４）工事施工上必要な官公署その他への諸手続き及び届出は、全て受注者の負担において遅滞無く行うこと
（５）関係法令の改正等により（条例を含む）、工事内容が法令等に抵触する恐れがあることを認識した場合には、その対応等について、監督職員と協議すること。
（６）材料及び製造所等の記載は順不同である

章		項　　目	特　　記　　事　　項
1 一般共通事項	1	適用基準等	※公共建築工事標準仕様書（建築工事編）　国土交通省大臣官房官庁営繕部監修（最新版） ※建築工事標準詳細図　国土交通省官房官庁営繕部監修（最新版） ※建築工事公衆災害防止対策要綱　※建設副産物適正処理実施要領（広島県土木局制定） ※建築工事安全施工技術指針　※再生資源利用促進実施要領（広島県土木局制定） ※県産木材の利用促進に関する指針 図面、本特記仕様書、標準仕様書及び改修標準仕様書に記載のない事項は次による。 ※建築物解体工事共通仕様書　令和４年版　国土交通省大臣官房官庁営繕部
	2	電気保安技術者 ［１．３．３］	※配置する
	3	工事実績情報の登録 ［１．１．４］	受注者は、受注時又は変更時において請負金額が５００万円以上の工事について、工事実績情報サービス（ＣＯＲＩＮＳ）に基づき、受注、変更、竣工、訂正時に工事実績情報として「工事実績データ」を作成し、監督職員の確認を受けた後に登録機関に登録申請し、登録機関発行の「登録内容確認書」を監督職員に提出しなければならない。また、途中変更時の登録が必要な場合とは、工期の変更、技術者の変更があった場合とする。
	4	施工条件 ［１．３．５］	下記以外は現場説明書による。 ・施工時間帯　（※指定あり　　） ・部位別の施工順序　（※図示　・　　） ・工事車両の駐車場所　（※図示　・　　） ・資機材置場　（※図示　・　　） ・建設発生土仮置場　（※図示　・　　）
	5	工事安全計画書	建築工事安全施工技術指針及び建設工事公衆災害防止対策要綱（建築工事編）を参考に、工事の施工に先立ち工事現場の安全対策に関する具体的な工事安全計画書を監督職員に提出する
	6	発生材の処理等 ［１．３．１２］	・引渡しを要するもの（　　） ・特別管理産業廃棄物（　　） 処理方法（　　） ・現場において再利用を図るもの（　　） ・再生資源化を図るもの ・コンクリート塊　・アスファルトコンクリート塊　・建設発生木材 ・PCB含有シーリング材の処理 ・第一次判定 現場にてサンプルを採取し、シーリング材種及び分析の要否を判定する。 採取箇所数　計　箇所 採取箇所　※図示 ・第二次判定 専門分析機関にてPCB含有量の分析を行う。 分析個数　計　箇所 ・除去処理工事 除去範囲　※図示 ・せっこうボードの処理 ・石綿含有せっこうボード　改修特記仕様書第８章環境配慮改修工による ・ひ素・カドミウム含有せっこうボード ・製造業者に回収委託 ・埋立処分（管理型最終処分場）
			・石綿含有、ひ素・カドミウム含有以外のせっこうボード ・再生資源化（再資源化施設）　・最終処分（管理型最終処分場） （１）本工事で発生した建設廃棄物は、広島県（環境県民局）及び保健所設置政令市等（広島市、呉市、福山市）が廃棄物処理法に基づき許可した適正な施設（許可対象とならない中間処理施設にあっては、廃棄物処理法に定められた基準に従った適正な施設）で処理することただし、建設廃棄物が破砕等（選別を含む）により有用物となった場合、その用途に応じて適切に処理すること（原則、県内処分） （２）本工事における再資源化に要する費用（運搬費を含む処分費）は、前記（１）に掲げる施設のうち受入れ条件が合うもののの中から、運搬費と受入れ費（平日の受入れ費用）の合計が最も経済的になるものを見込んでいる。従って、正当な理由がある場合を除き、再資源化に要する費用（単価）は変更しない （３）本工事で発生する建設廃棄物のうち、広島県内の最終処分場に搬入する建設廃棄物については、広島県産業廃棄物埋立税が課税されるので適正に処理すること。なお、広島県産業廃棄物埋立税は見込んでいる

章		項　　目	特　　記　　事　　項
1 一般共通事項	7	建設発生土	※　現場説明書の施工条件明示による ⊙構内指示場所に堆積 ・構内指示場所に敷き均し
	8	環境への配慮 ［１．４．１］	化学物質を放散させる建築材料等 本工事の建物内部に使用する建築材料等は、設計図書に規定する品質及び性能を有すると共に、次の（１）から（４）を満たすものとする （１）合板、木質系フローリング、構造用パネル、集成材、単板積層材、ＭＤＦ、パーティクルボード、その他の木質建材、ユリア樹脂板、壁紙、接着剤、保温材、緩衝材、断熱材、塗料、仕上塗材は、アセトアルデヒド及びスチレンを発散しない又は発散が極めて少ない材料で、設計図書に規定する「ホルムアルデヒドの放散量」の区分に応じた材料を使用する （２）接着剤及び塗料にトルエン、キシレン及びエチルベンゼンの含有量が少ない材料を使用する （３）接着剤は、可塑剤（フタル酸ジ－ｎ－ブチル及びフタル酸ジ－２－エチルヘキシル等を含有しない難揮発性の可塑剤を除く）が添加されていない材料を使用する （４）（１）の材料を使用して作られた家具、書架、実験台、その他の什器類等は、ホルムアルデヒド、アセアルデヒド及びスチレンを発散しないか、発散が極めて少ない材料を使用したものとする また、設計図書に規定する「ホルムアルデヒドの放散量」の区分において、「規制対象外」 とは次の①又は②に該当する材料を指し、同区分「第三種」とは次の③又は④に該当する材料を指す。 ①建築基準法施行令第２０条の第７第１項に定める第一種、第二種及び第三種ホルムアルデヒド発散建築材料以外の材料 ②建築基準法施行令第２０条の第７第４項の規定により国土交通大臣の認定を受けた材料 ③建築基準法施行令第２０条の第７第１項に定める第三種ホルムアルデヒド発散建築材料 ④建築基準法施行令第２０条の第７第３項の規定により国土交通大臣の認定を受けた材料 国等による環境物品等の調達の推進等に関する法律（平成１２年法律第１００号）に基づき制定された「広島県グリーン購入方針」に掲載されている品目については、他の特記事項及び図面表記の範囲内で、環境負荷を低減できる材料を優先的に選定するよう努めるものとする
	9	材料の品質等 ［１．４．２］	材料・機材等の品質及び性能 （１）本工事に使用する材料は、設計図書に定める品質及び性能の他、通常有すべき品質及び性能を有するものとする （２）備考欄に商品名が記載された材料は、当該商品又は同等品を使用するものとし、同等品を使用する場合は監督職員の承諾を受ける。 （３）標準仕様書に記載されていない特別な材料の工法については、材料製造所の指定する工法とする （４）本工事に使用する材料のうち、（５）に指定する材料の製造業者等は、次の①～⑥の事項を満たすものとし、その証明となる資料（外部機関が発行する証明書の写し）を監督職員に提出して承諾を受けるものとする。ただし、あらかじめ監督職員の承諾を受けた場合はこの限りではない ①品質及び性能に関する試験データを整備していること ②生産施設及び品質の管理を適切に行っていること ③安定的な供給が可能であること ④法令等で定める許可、認可、認定又は免許を取得していること ⑤製造又は施工の実績があり、その信頼性があること ⑥販売、保守等の営業体制を整えていること。 （５）製造業者等に関する資料の提出を定める材料

床型枠用鋼製デッキプレート	オーバーヘッドドア
鉄骨柱下無収縮モルタル	防水剤
無収縮グラウト材	現場発泡断熱材
乾式保護材	フリーアクセスフロア
既調合モルタル	可動間仕切
既調合目地材	移動間仕切
ルーフドレン	トイレブース
吸水調整材	天井点検口
錠前類	床点検口
クローザ類	グレーチング
自動扉機構	屋上緑化システム
自閉式上吊り引戸機構	トップライト
重量シャッター	ポリマーセメントモルタル
軽量シャッター	鋳鉄製ふた

1 一般共通事項	10	石綿含有建材の調査 ［１．５．１］	調査 ※ 石綿含有建材の事前調査 工事着手に先立ち、あらかじめ関係法令に基づき、石綿含有建材の事前調査を行う。 貸与資料（　分析結果報告書　　） ・ 分析による石綿含有建材の調査 分析対象 アクチノライト、アモサイト、アンソフィライト、クリソタイル、クロシドライト、トレモライト 分析方法

材料名	分析方法（定性） JIS A 1481-1又はJIS A 1481-2	分析方法（定量） JIS A 1481-3、JIS A 1481-4 又はJIS A 1481-5
	・　箇所	・　箇所
	・　箇所	・　箇所
	・　箇所	・　箇所

材料が仕上塗材の場合は、層ごとの分析を行うこと
サンプル数　１箇所あたり３サンプル
採取箇所　・図示　・

	11	施工数量調査 ［１．６．２］	調査範囲　㊟外壁（庇、笠木共）　⊙屋根　・図示 調査方法　※テストハンマーによる打診及び目視　・図示 外壁調査は、外壁改修フローに対応する外壁面のひび割れ、浮き、欠損部、内部まで貫通したひび割れ及び雨漏りの有無についての位置及び数量（幅、長さ、面積）の調査を行う 屋根調査は、防水面のひび割れ、浮き、欠損部、目地欠損部及び雨漏りの有無についての位置及び数量（幅、長さ、面積）の調査を行う。 また、その報告書は、結果を立面図等に記載し集計表を添えて監督職員に２部提出する（必要に応じ写真等を添付する）
	12	調査のための破壊部分の補修 ［１．６．３］	補修方法　※図示 補修範囲　※図示
	13	技能士 ［１．７．２］	

工事種目	技能検定職種	技能検定作業
仮設工事	とび	とび作業
防水改修工事	防水施工	アスファルト防水工事作業
		ウレタンゴム系塗膜防水工事作業
		アクリルゴム系塗膜防水工事作業
		合成ゴム系シート防水工事作業
		塩化ビニル系シート防水工事作業
		セメント系防水工事作業
		シーリング防水工事作業
		改質アスファルトシートトーチ工法防水工事作業
		ＦＲＰ防水工事作業
外壁改修工事	樹脂接着剤注入施工	樹脂接着剤注入工事作業
	左官	左官作業
	タイル張り	タイル張り作業
建具改修工事	サッシ施工	ビル用サッシ施工作業
	ガラス施工	ガラス工事作業
	自動ドア施工	自動ドア施工作業
	ガラス用フィルム施工	建築フィルム作業
塗装改修工事	塗装	建築塗装作業
内装改修工事	タイル張り	タイル張り作業
	建築大工	大工工事作業
	建築板金	鋼製下地工事作業
		内外装板金作業
	左官	左官作業
	内装仕上施工	プラスチック系床仕上げ工事作業
		カーペット系床仕上げ工事作業
		ボード仕上げ工事作業
	表装	壁装作業
耐震改修工事	とび	とび作業
	鉄筋施工	鉄筋組立作業
	型枠施工	型枠工事作業
	コンクリート圧送施工	コンクリート圧送工事作業
	鉄工	構造物鉄工作業
環境配慮改修工事	配管	建築配管作業
	路面表示施工	溶融ペイントハンドマーカー工事作業
		加熱ペイントマシンマーカー工事作業
	塗装	塗装工事作業

※技能士においては、積極的な活用を図ること。

	14	化学物質の濃度測定 ［１．７．９］	測定対象室及び測定箇所数は図示による。 （１）ホルムアルデヒド・トルエン・キシレン・スチレン・エチルベンゼンの室内濃度を測定し、厚生労働省が定める指針値以下であることを確認し、監督職員に報告する 測定箇所は仕上表により、施工方法は施工条件明示による パッシブ型採取機器を用いて測定を行う場合には、次の要領で測定及び分析を行う ①３０分間換気 測定対象室のすべての窓及び扉（造り付け家具、押し入れ等の収納部分の扉を含む）を開放し、３０分間換気する ②５時間閉鎖 ①の後、測定対象室のすべての窓及び扉を５時間閉鎖する ただし、造り付け家具、押し入れ等の収納部分の扉は開放したままとする ③測定 イ　②の状態のままで測定する ロ　測定時間は、原則として２４時間とする。ただし工程等の都合により、２４時間測定が行えない場合は、８時間測定とする。なお、８時間測定の場合は、午後２時～３時が測定時間帯の中央となるよう、１０時３０分～１８時３０分までの時間帯で測定する ハ　測定回数は１回とし、複数回の測定は不要とする ④分析 測定対象化学物質を採取したパッシブ型採取機器を分析機関に送付し、濃度を分析する ⑤その他 監督職員から測定方法に関する注意事項等の指示を受けること （２）木材の防腐・防蟻処理剤は、クロルピリホス、ダイアノジン及びフェノブカルブを含有しない薬剤とし、加圧式防腐・防蟻処理等は工場で行い十分乾燥させた後現場に搬入する （３）保温材、断熱材、緩衝材については、ホルムアルデヒドを発散しないか発散が極めて少ないＦ☆☆☆☆等級のものとする （４）塗料、壁紙、仕上塗材、合板、接着剤等で屋内に面するものについては、ホルムアルデヒドを発散しないか、発散が極めて少ないＦ☆☆☆☆等級のものとする （５）屋内に面して用いる材料は、上記（２）～（４）に適合した上で、揮発性有機化合物の発散が無い若しくは極めて少ないものを選択するように努め、（１）の規定を満たすこと ※行う（回数及び時期については監督職員の指示による）　・行わない
	15	中間技術検査 ［１．８．２］	
	16	工事写真等	下記のものを監督職員に提出する。工事中写真及び完成写真の撮影は国土交通省大臣官房官庁営繕部制定の「営繕工事写真撮影要領」によるものとする （１）工程写真 工事の進捗に伴い工事全体状況及び主要工程の写真（カラー・サービス版）を期間別工事工程報告書に添付するものとする （２）工事中写真 水中又は地下に埋設される部分、その他完成後外部から検査・確認する事が出来なくなる部分、及びその他監督職員が指示する箇所は、Ａ４版写真台帳にまとめて完成検査日までに提出するものとする 【提出部数】：１部 （３）完成写真 【撮影箇所】建物外観各方向、主要箇所、主要室内その他監督職員が指示する箇所 【規格・提出部数】※Ａ４版クリアファイル　部　・Ａ４版写真台帳　部 （４）その他の写真 隣接建物等に損傷のおそれがある場合は、施工前・施工後の写真（カラー・キャビネ版）を監督職員の指示により提出するものとする （５）保管 工事写真のデータは、受注者において工事完成後２年間保管すること
	17	完成時の提出図書	※提出を要する　完成図書：１部 竣工図の種類（※全て　・　　） 竣工図の作成方法　CAD（ＣＡＤデータの提出（※要　・不要）） 原図　・普通紙　※ 不要 竣工図　二つ折製本（・ Ａ１版　部　・Ａ２版　部　⊙Ａ３版　３　部） 竣工図は原則としてCADにて修正を行い、施工図・保全に関する資料で必要なものの提出は監督職員の指示による なお、１８　電子納品で対象工事である場合は、加えて電子成果品を　２部提出すること 工事完了時の建物仕様に関する資料（保全マネジメントシステム） ・建物基本情報 ・型式台帳 工事完了時の建物使用に関する資料は、監督職員が指定する様式で作成する。

	18	電子納品	※電子納品対象工事とする 電子納品とは、「調査、設計、工事などの各業務段階の最終結果を電子データで納品すること」をいう。ここでいう電子データとは、「営繕工事電子納品要領（以下、要領という）」に基づいて作成されたものを指す 成果品については、「要領」に基づいて作成した電子成果品を電子媒体で提出する。「要領」で特に記載がない項目については、原則として電子データを提出する義務はないが、「要領」の解釈に疑義がある場合は監督職員と協議の上、電子化の是非を決定する また、成果品提出の際には、ウイルス対策を実施したうえで提出すること
	19	工事中情報共有システム	（１）本工事は、受発注者間の情報を電子的に交換・共有することにより、業務の効率化を図る情報共有システムの対象である。なお、運用にあたっては「広島県工事中情報共有システム運用ガイドライン」に基づき実施すること （２）本工事で使用する情報共有システムは次とする 広島県工事中情報共有システム（http://chotatsu.pref.hiroshima.lg.jp/asp/index.html） （３）監督職員及び受注者が使用する情報共有システムのサービス提供者（以下「サービス提供者」という）との契約は、受注者が行い、利用料を支払うものとする （４）受注者は、監督職員又はサービス提供者から技術上の問題点の把握、利用にあたっての評価を行うためのアンケート等が求められた場合、協力しなければならない
	20	施工図及び施工計画書	提出した施工図及び施工計画書の著作に係る当該建物に限る使用権は、発注者に委譲するものとする
	21	設備工事との取合い	設備機器の位置、取り合い等が検討できる施工図を提出して、監督職員の承諾を受ける
	22	撤去部分	コンクリート、モルタル等の撤去部分の項目は、原則としてダイヤモンドカッター切りとする
	23	適用区分	建築基準法に基づき定まる風圧力及び積雪荷重の算定には次の条件を用いる 基準風速　Ｖｏ＝　32 ｍ／ｓ 地表面粗度区分　・Ⅰ　・Ⅱ　⊙Ⅲ　・Ⅳ 積雪区分　平成12年5月31日建設省告示第１４５５号　別表（　　）
	24	騒音・振動の防止	「低騒音型・低振動型建設機械の指定に関する規定」に基づき指定された建設機械を使用する
	25	施工中の安全確保	・同一場所で別契約の関連工事が行われる場合は、労働安全衛生法第３０条第２項に基づき、当該工事について、同条第１項に規定する措置を講ずべき者として本工事現場代理人を指名する ・労働安全衛生法第１５条に基づく統括安全衛生責任者を選任したときは、本契約後直ちに「統括安全衛生責任者選任届出書」（任意様式）を提出すること
	26	実施工程表 ［１．２．１］	工事期間は建築設備を含んだ期間とし、工事全体を把握して作成し、監督職員の承諾を受ける
	27	工程報告	別紙様式による期間別工事工程報告書を毎月１回１部提出すること
	28	保証書	次の工事について保証書を提出すること

工事区分	材　料　名	保証年数	備　　考
⊙防水改修工事	・アスファルト防水	年	漏水の場合等
	・改質アスファルトシート防水	10年	漏水の場合等
	・合成高分子ルーフィング防水	年	漏水の場合等
	⊙塗膜防水	10年	漏水の場合等

	29	コンクリートの試験 （6.9.1～6）	※コンクリートの強度試験 公的機関又はこれに準ずる機関で行う。ただし、調合管理強度の管理試験用及び型枠取外し時期の決定用については、生コン工場試験室でもよい
2 仮設工事	1	騒音・粉じん等の対策	騒音・粉じん等の対策　・防音パネル　・防音シート　［２．１．３］ 防音パネル、防音シートを取り付ける足場の設置範囲 ※ 工事に必要な範囲
	2	足場等	［２．２．１］［表２．２．１］ 「手すり先行工法に関するガイドライン」に基づく足場の設置に当たっては、同ガイドラインの別紙１手すり先行工法による足場の組立て等に関する基準」における2の（2）手すり据置き方式又は（3）手すり先行専用足場方式により行う。 外部足場　⊙設置する（範囲　※ 工事に必要な範囲　・　　）　・設置しない 防護シート　・設置する（範囲　※ 工事に必要な範囲　・　　）　・設置しない 内部足場　⊙設置する（㊟脚立、足場板等　○枠組本足場　　）　・設置しない 材料、搬去材等の運搬方法　・Ａ種　※Ｂ種　・Ｃ種　・Ｄ種　・Ｅ種 Ｃ種：利用可能なエレベーター（　　） Ｄ種：利用可能な階段（　　）
	3	既存部分の養生	養生方法等　［２．３．１］ ○既存部分の養生方法　※ ビニルシート、合板等による　・ ○既存家具、既存設備等の養生方法　※ビニルシート等　・ ○既存ブラインド、カーテン等の養生方法　※ ビニルシート等（取外し再取付を行う） 保管場所　※ 構内既存施設内　・ ○固定された家具等（備品、机、ロッカー等）の移動　※ 行う（図示） 既存部分に汚染又は損傷を与えるおそれのある場合は養生を行う。また、万一損傷等を与えた場合は、受注者の責任において速やかに修復等の処置を行う。
	4	仮設間仕切り	仮設間仕切り及び仮設扉の設置箇所　※ 図示　［２．３．２］［表２．３．１］ 仮設間仕切りの種別と材質等 ・Ａ種　※Ｂ種　・Ｃ種　・図示 Ａ、Ｂ種の仕上げ材 ※ せっこうボード（GB-R 厚さ9.5mm）　・ 合板（普通合板 厚さ9mm） Ａ、Ｂ種の片面への塗装等　※ 行わない　・ 行う Ａ種のグラスウールの充填 ※行う（ＪＩＳ　Ａ　６３０１グラスウール吸音材３２Ｋ厚５０mm） ・行わない 仮設扉の種別　※木製（合板張り程度）　・
	5	監督職員事務所等	・ 設ける　※ 設けない　［２．４．１］ 現場に設置する備品等は、現場説明書の施工条件明示による
	6	工事用水	構内既存の施設　※ 利用できる（※ 有償　・ 無償）　⊙ 利用できない
	7	工事用電力	構内既存の施設　※ 利用できる（※ 有償　・ 無償）　⊙ 利用できない
	8	仮囲い等の安全施設	別紙設計図による
	9	工事現場の表示	現場の見えやすい位置に、監督職員が指示する次の表示板を設置する ※工事名等の表示板（900mm×600mm）　⊙工事概要等の説明看板（900mm×600mm）
	10	交通誘導員	㊟配置する　・配置しない ㊟大型車両進入時　（　１　）人／日　⊙常時配置　（　１　）人／日 ・（　　）作業期間　（　　）人／日
	11	快適トイレモデル工事	本工事は快適トイレモデル工事（※発注者指定型　・受注者希望型）であり、「快適トイレモデル工事試行要領（令和４年６月１日一部改正）」に基づき実施するものとする。 快適トイレチェックシートの様式は、「広島県の調達情報」の「様式集＞建設工事関係_その他の契約関係の様式」に掲載している。 また、完成検査までに提出するアンケートは、「広島県の調達情報」の「入札・契約制度」入札・契約制度関係要綱」に掲載している。

事業年度　年度 工事完成　年度	設計 令和　年　月	三原市都市部建築課	大	中	小	地域	施設	種類 建築	工事名 本郷小学校屋内運動場長寿命化改修工事	事務所名・建築士登録番号・氏名 有限会社　ＭａｓＭａｓ 一級建築士登録　第325897号 小松木　靖之　印	図面名称・縮尺　non scale　(A3版-71%縮小) 改修工事特記仕様書-1	図　番 A-01

③ 防水改修工事

1 降雨等に対する養生方法

※ 改修標準仕様書3.1.3(5)(ｱ)～(ｳ)による。 [３．１．３]
・

② 既存防水の処理

既存保護層の撤去 ・行う（範囲 ※ 図示 ・ ） [３．１．４] [３．２．３、４、６]
⊙ 行わない
既存防水層の撤去 ⊙ 行う（範囲 ※ 図示 ・ ）
・ 行わない
既存露出防水層表面の仕上げ塗装の除去
・ 行う（ ・ M4AS ・ M4ASI ・ M4C ・ M4DI ・ L4X）
⊙行わない

3 既存下地の処置

既存下地の補修箇所の形状、長さ、数量等 ※ 図示 [３．２．６]
POS工法及びPOSI工法（機械的固定工法）の既存保護層を撤去し防水層を非撤去とした立上り部等の処置 ※ 改修標準仕様書3.2.6(4)(ｳ)(g)①～③による ・
設備機器架台、配管受部、パラペット、貫通パイプ回り、手すり・丸環の取付け部、塔屋出入口部等の欠損部及び防水層末端部の納まり部の処理
※ 図示。だたし、図示が無いものは監督職員と協議する

4 アスファルト防水

屋根保護防水 [３．３．２～５]
防水層の種別

工法	種別	施工箇所	断熱材 □	絶縁用シート	立上り部の保護
・Ｐ２Ａ	・Ａ－１ ※Ａ－２ ・Ａ－３			※ポリエチレンフィルム 厚さ 0.15mm以上又はフラットヤーンクロス 70／m2程度	・乾式保護材 ・コンクリート押え ・れんが押え ※JIS R 1250 ・
・Ｐ１Ｂ	・Ｂ－１ ※Ｂ－２				
・Ｐ２ＡＩ	・ＡＩ－１ ※ＡＩ－２ ・ＡＩ－３		(材質) JISA9521に基づく押出法ポリスチレンフォーム断熱材3種ｂＡ（スキン層付き) (厚さ)（mm） ※25 ・50 ・	※フラットヤーンクロス 70／m2程度 ・	
・Ｐ１ＢＩ	・ＢＩ－１ ※ＢＩ－２				

改質アスファルトルーフィングシートの種類及び厚さ
※ 改修標準仕様書3.3.5から表3.3.6による
・JIS A 6013に基づく種類及び厚さ
用途による区分
材料構成による区分 ※ R種
厚さ （ mm以上）

部分粘着層付改質アスファルトルーフィングシートの種類及び厚さ
※ 改修標準仕様書表3.3.3から表3.3.4による
・JIS A 6013に基づく種類及び厚さ
用途による区分
材料構成による区分 ※ R種
厚さ （ mm以上）

平場の保護コンクリートの厚さこて仕上げ
こて仕上げ ※ 水下 80mm以上
床タイル張り ※ 水下 60mm以上

乾式保護材
窯業系パネル：無石綿の繊維質原料等を主原料として、板状に押出成形しオートクレーブ養生したもの。
金属複合板：金属板と樹脂を積層一体化したもの。

（品質・性能）

分類・規格		・ 窯業系パネルⅠ類（寒冷地仕様）	・ 窯業系パネルⅡ類（一般地仕様）	・ 金属複合板
寸法（mm）	厚さ（mm）			
	幅（mm）			
寸法の許容差		厚さ：＋10%、－5%、幅：±1%		
出荷時の含水率		出荷時において10%以下		－
曲げ強さ・曲げモーメント（Ｎ・ｃｍ）（スパン40ｃｍにおける単位幅1ｃｍあたりの曲げモーメント）	標準時	550以上	450以上	300以上
	凍結融解完了時（試験サイクル数）	400以上（300）	320以上（200）	250以上（300）
吸水率（%）		20以下	20以下	1以下
吸水による長さ変化率(%)		0.07以下	0.07以下	0.01以下
難燃性		不燃	不燃	表面材は不燃
耐凍結融解性能		３００サイクル後、著しい割れ、剥離がなく、外観上の異常がないこと。	２００サイクル後、著しい割れ、剥離がなく、外観上の異常がないこと。	３００サイクル後、著しい割れ、剥離がなく、外観上の異常がないこと。（明らかに吸水しないと認められるものは耐凍結融解試験を省略できる。）
耐衝撃性能		質量500（窯業系パネルⅠ類は1,000）のなす形おもりを高さ1.0mから試験体の弱点部に落としたとき、裏面に達する穴があかないこと。		質量500のなす形おもりを高さ1.0mから試験体の弱点部に落としたとき、裏面に達する穴があかないこと。残留変形量1/100以下。
剛性（Ｅ×Ｉ）（スパン40ｃｍ幅30ｃｍの中央曲げ時に荷重720Ｎの時、たわみ4mm以下となる剛性）		－	－	80,000Ｎ・ｃｍ2以上

（試験方法）
（１）寸法の測定方法
（厚さ）供試体の周辺から20mm以上内側の四隅を0.05mmまで測定できる測定器で測り、4点の平均値を求めてパネルの厚さとする。
（幅）供試体を平らな台に置き、供試体のほぼ中央１箇所の幅寸法を、JIS B 7512「鋼製巻尺」に規定する目量が1mmの1級コンベックスルール又は、JIS B 7516「金属性直尺」に規定する目量が1mmの1級直尺を用いて測定する。
（２）曲げ強度試験は、JIS A 1408「建築用ボード類の曲げ及び衝撃試験方法」による。試験体は3号試験体とする。幅及び厚さは製品寸法とし、支持スパン長さは400mmとする。試験方法は試験体の表面からスパン中央全幅に集中荷重を載荷し、試験体が破壊した時の最大荷重を測定する。同時に破壊時の中央部のたわみ量について、変位計を用いて測定する。測定項目については、凍結融解試験前、同試験100、200、300サイクル完了後の合計4項目に亘って測定する。
（窯業系パネルⅡ類は200サイクルまでとする。）なお、荷重を加える時の平均速度は、1～3分間で予想最大荷重に達する程度とする。
（３）吸水率試験は、JIS A 5430「繊維強化セメント板」に準じて行う。
（４）難燃性試験は、JIS A 1321「建築物の内装材料及び工法の難燃性試験方法」に準じて行う。
（５）吸水による長さ変化率試験は、試験体（幅40mm×長さ160mm×素材厚さ）を乾燥機に入れ、その温度を60±3℃に保ち24時間経過した後取り出してJIS K 8123「塩化カルシウム（試薬）」に規定する塩化カルシウム又は JIS K 1464「工業用乾燥剤」に規定する品質に適合するシリカゲルで調湿したデシケータに入れ、常温まで冷却する。次に、試験片の標線間隔が140mmになるように標線を刻む。その後、1/150mm以上の精度をもつコンパレータを用いて標線間の長さを測定し、それを基準（Ｌ1）とする。次に試験片の長さ方向を水平にこば立てし、その上端が水平下約30mmとなるように保持して、常温の水中に浸せきする。
24時間経過した後、試験片を水中から取り出して湿布で表面に付着した水を拭き取り、再び標線間の長さ（Ｌ2）を測る。
吸水による長さ変化率（ΔＬ）は、次式によって求める。
（ΔＬ）＝（Ｌ2 － Ｌ1）／ Ｌ1×１００ ΔＬ ：吸水による長さ変化率（%）
Ｌ1：乾燥時の標線間の長さ（mm） Ｌ2 ：吸水時の標線間の長さ（mm）
（６）耐凍結融解性能試験は、JIS A 5422「窯業系サイディング」の気中凍結水中融解法によって行う。100、200、300各サイクル完了時の曲げ強度測定及び外観の状態を観察する。（窯業系パネルⅡ類は200サイクルまでとする。）
凍結融解操作の試験条件は、試験片の切断小口面をあらかじめシール し、5～35℃の清水中に24時間浸せきさせた後、凍結融解試験装置の槽内に設置し、-20±3℃の気中で約2時間の凍結20±3℃の水中で約1時間の融解を行う約3時間を1サイクルとする。
（７）耐衝撃性能試験は、JIS A 1408「建築用ボード類の曲げ及び衝撃試験方法」の衝撃性試験に準じて行う。試験体の支持装置は、記号Ｓ２対辺単純支持方法による。
試験体の大きさは、4号（長さ400mm、幅300mm）とする。おもりは、鋼製のなす形おもりとし、記号（Ｗ１－1000）、質量1.000gとする。試験体を支持装置で支持して、堅固な床に水水平に置き、おもりを試験体のほぼ中央の鉛直上1.0mから試験体の弱点部に自然落下させ、裏面に達する穴の「有・無」を確認する。金属複合板の残留変形量は、最大くぼみ深さを測定する。

屋根露出防水 防水層の種別

工法	種別	施工箇所	断熱材	仕上塗料 種類	仕上塗料 使用量	高日射反射率の防水	備考
・M4C	・C-1 ※C-2 ・C-3 ・C-4			・	・ ※製造所の仕様	・適用する	
・M3D ・P0D	・D-1 ※D-2			・	・ ※製造所の仕様	・適用する	脱気装置 ・設ける ・設けない 改修用ドレン ・設ける ・設けない
・P0DI ・M3DI ・M4DI	・DI-1 ※DI-2		JIS A 9521(建築用断熱材)に基づく発泡プラスチック断熱材 (種類) ※硬質ウレタンフォーム断熱材２種２号 ・ (厚さ)（mm） ※25 ・50	・	・ ※製造所の仕様	・適用する	脱気装置 ・設ける ・設けない 改修用ドレン ・設ける ・設けない

改質アスファルトルーフィングシートの種類及び厚さ
※ 改修標準仕様書表3.3.7から表3.3.9による
・JIS A 6013に基づく種類及び厚さ
用途による区分
材料構成による区分 ※ R種
厚さ （ mm以上）
・
部分粘着層付改質アスファルトルーフィングシートの種類及び厚さ
※ 改修標準仕様書表3.3.8から表3.3.9による
・JIS A 6013に基づく種類及び厚さ
用途による区分
材料構成による区分 ※ R種
厚さ （ mm以上）
・
脱気装置の種類 ※ アスファルトルーフィング類の製造所の指定 ・
脱気装置の設置数量 ※ アスファルトルーフィング類の製造所の指定 ・ （個）

屋根露出防水絶縁断熱工法の場合の、ルーフドレン回り及び立上り部周辺の断熱材の張りじまい位置 ※ 図示
屋内防水

工法	種別	施工場所	保護層
・ＰＩＥ ・ＰＩＥ	・Ｅ－１ ※ Ｅ－２		・ 設ける ・ 設けない

Ｅ－１の場合で工程３を行う部位（ ※ 貯水槽、浴槽等常時水に接する部位 ・ ）
保護層 ・ 設ける（ ※ 図示 ・ ） ・設けない
立上り部の押え金物の材質、形状及び寸法
※ アルミニウム製 L-30×15×2.0mm程度
屋上排水溝 ・ 図示 ・

5 改質アスファルトシート防水

屋根露出防水
防水層の種別 [３．４．２、３]

工法	種別	施工箇所	断熱材	仕上塗料 種類	仕上塗料 使用量	高日射反射率防水	備考
・M4AS	・AS-T1 ・AS-T2 ・AS-J2			・	・ ※製造所の仕様	・適用する	
・M3AS ⊙P0AS	・AS-T3 ・AS-T4 ⊙AS-J1 ・AS-J3	管理・特別教室様		・	・ ※製造所の仕様	⊙適用する	脱気装置 ⊙設ける ・設けない 改修用ドレン ⊙設ける ・設けない
・M3ASI ・M4ASI ・P0ASI	・ASI-T1 ・ASI-J1		JIS A 9521(建築用断熱材)に基づく発泡プラスチック断熱材 (種類) ※硬質ウレタンフォーム断熱材２種２号 ・ (厚さ) ※25mm ・50ｍｍ	・	・ ※製造所の仕様	・適用する	脱気装置 ・設ける ・設けない 改修用ドレン ・設ける ・設けない 防湿層 ・設ける ・設けない

改質アスファルトシートの種類及び厚さ
※ 改修標準仕様書表3.4.1から表3.4.3による
・JIS A 6013に基づく種類及び厚さ
用途による区分
材料構成による区分 ※ R種
厚さ （ mm以上）
・
粘着層付改質アスファルトシートの種類及び厚さ
※ 改修標準仕様書表3.4.1から表3.4.3による
・JIS A 6013に基づく種類及び厚さ
用途による区分
材料構成による区分 ※ R種
厚さ （ mm以上）
・
部分粘着層付改質アスファルトシートの種類及び厚さ
※ 改修標準仕様書表3.4.1から表3.4.3による
・JIS A 6013に基づく種類及び厚さ
用途による区分
材料構成による区分 ※ R種
厚さ （ mm以上）
・
脱気装置の種類 ※ 改質アスファルトシートの製造所の指定 ・
脱気装置の設置数量 ※ 改質アスファルトシートの製造所の指定 ・ （個）

立上り部の押え金物の材質、形状及び寸法
※ アルミニウム製 L-30×15×2.0mm程度

絶縁断熱工法の防水湿シート
・設置する
・設置しない

6 合成高分子系ルーフィングシート防水

[３．５．２～４] [表３．５．１～３]
防水層の種別

工法	種別	施工箇所	断熱材	仕上塗料 種類	仕上塗料 使用量	高日射反射率防水	備考
・P0S ・S4S	・S-F1			・	・ ※製造所の仕様	・適用する	脱気装置 ・設ける ・設けない 改修用ドレン ・設ける ・設けない
	・S-F2					・適用する	
	・S-M1			・	・ ※製造所の仕様	・適用する	
	・S-M2					・適用する	
・S3S	・S-F1			・	・ ※製造所の仕様	・適用する	脱気装置 ・設ける ・設けない
	・S-F2					・適用する	
・M4S	・S-M1			・	・ ※製造所の仕様	・適用する	脱気装置 ・設ける ・設けない
	・S-M2					・適用する	
・P0SI ・S3SI ・S4SI ・M4SI	・SI-F1		改修標準仕様書3.5.2(3)(ｴ)(b)による (種類) ※硬質ウレタンフォーム断熱材２種２号 ・ (厚さ)（mm） ※25 ・50	・	・ ※製造所の仕様	・適用する	脱気装置 ・設ける ・設けない 改修用ドレン ・設ける ・設けない
	・SI-F2					・適用する	
	・SI-M1		改修標準仕様書3.5.2(3)(ｴ)(a)による (種類) ※硬質ウレタンフォーム断熱材２種２号 ・ (厚さ)（mm） ※25 ・50	・	・ ※製造所の仕様	・適用する	
	・SI-M2					・適用する	

Ｓ－Ｆ１、Ｓ－Ｍ１、Ｓ－Ｆ２、Ｓ－Ｍ２の仕様
※ 非歩行用 ・ 軽歩行用
ＳＩ－Ｆ１、ＳＩ－Ｆ２、ＳＩ－Ｍ１及びＳＩ－Ｍ２における防湿用フィルムの設置
※ 設置しない ・ 設置する
ＳＩ－Ｍ２の絶縁用シートの材種
※ 発泡ポリエチレンシート
Ｓ－Ｍ２及びＳＩ－Ｍ２の立上り部の工法
※ 接着工法（立ち上がり面のシートの厚さ ※ 1.5mm ・ ） ・ 機械的固定工法

⑦ 塗膜防水

屋内防水
防水層の種別

種別	施工箇所	保護層 平場のモルタル塗り 塗厚	保護層 平場のモルタル塗り 工法	保護層 立上り部の保護モルタルの塗厚
・Ｓ－Ｃ１	・	・	・ 床塗り ・ 下地モルタル塗り ・	※ 7mm以下 ・

屋内防水で平場を保護コンクリート仕上げとする場合の厚さ
合成高分子系ルーフィングシートの種類及び厚さ
※ 改修標準仕様書表3.5.1から表3.5.3による
・JIS A 6008に基づく種類及び厚さ
用途による区分
材料構成による区分 ※ R種
厚さ （ mm以上）
・
固定金具の材質及び寸法形状
※ 防錆処理した鋼板、ステンレス鋼板又はそれらの鋼板の片面若しくは両面に樹脂を積層加工したもので、厚さ0.4mm以上のもの
・
脱気装置の種類及び設置数量
接着工法の場合の脱気装置の種類 ※ ルーフィングシートの製造所の仕様 ・
接着工法の場合の脱気装置の設置数量 ※ ルーフィングシートの製造所の仕様 ・ （個）
プレキャストコンクリート部材下地の目地処理（接着工法の場合）
・ 行う（ ・ 図示 ・ ） ・ 行わない
プレキャストコンクリート部材の入隅部の増張り（種別S-FI、SI-FIの場合）
・ 行う（ ・ 図示 ・ ） ・ 行わない
機械的固定工法の場合の一般部のルーフィングシートの張付け
1章 17 適用区分による風圧力の（ ・ 1 ・ 1.15 ・ 1.3）倍の風圧力に対応した工法

屋内防水
防水層の種別 [３．６．２、３]

工法	種別	施工箇所	仕上塗料 種類	仕上塗料 使用量	高日射反射率防水	備考
・ＰＯＸ	※Ｘ－１ ・Ｘ－２ ・Ｘ－１Ｈ ・Ｘ－２Ｈ		※２成分形アクリルウレタン樹脂系 ・ふっ素樹脂系 ・アクリルシリコン樹脂系	※主材料の製造所の仕様 ・	・適用する	脱気装置 ・設ける ・設けない 改修用ドレン ・設ける ・設けない
⊙Ｌ４Ｘ	※Ｘ－１ ・Ｘ－２ ・Ｘ－１Ｈ ・Ｘ－２Ｈ			※主材料の製造所の仕様 ・	⊙適用する	脱気装置 ・設ける ⊙設けない
・Ｐ１Ｙ	※Ｙ－２					保護層 ・設ける ・設けない
・Ｐ２Ｙ	※Ｙ－２					保護層 ・設ける ・設けない

Ｘ－１（絶縁工法）の脱気装置の種類 ※ 主材料の製造所の仕様 ・
Ｘ－１（絶縁工法）の脱気装置の設置数量 ※ 主材料の製造所の仕様 ・ （個）

⑧ シーリング

シーリング改修工法の種類 [３．７．２、３、３．７．７]
⊙ シーリング充填工法
・ シーリング再充填工法
・ 拡幅シーリング再充填工法
・ プリッジ工法
ボンドブレーカー張り ・ 適用する ・ 適用しない
エッジング材張り ・ 適用する ・ 適用しない
シーリング材の種類、施工箇所
下表以外は、改修標準仕様書表3.7.1による

施工箇所	シーリング材の種類（記号）

仕上げを行わない施工箇所
・ 図示による ・ 打継目地
シーリング材の目地寸法 ※ 改修標準仕様書3.7.3(1)による
接着性試験 ※ 簡易接着性試験 ・ 引張接着性試験

⑨ とい

といの材種 ・ 配管用鋼管 [３．８．２、３]
⊙ 硬質ポリ塩化ビニル管
・ ルーフドレン
・ 表面処理鋼板（表面及び裏面の塗膜の種類 ・ ）

ルーフドレン

種別	施工箇所
・ ろく屋根用（ ・ 縦型 ・ 横型）	
・ バルコニー用	
・ バルコニー中継用	

事業年度 年度 工事完成 年度	設計 令和 年 月	三原市都市部建築課	大	中	小	地域	施設	種類 建築	工事名 本郷小学校屋内運動場長寿命化改修工事	事務所名・建築士登録番号・氏名 有限会社 ＭａｓＭａｓ 一級建築士登録 第325897号 小松木 靖之 印	図面名称・縮尺 non scale (A3版-71%縮小) 改修工事特記仕様書-2	図番 A-02

4－1 外壁改修工事（共通事項）

	10	アルミニウム製笠木	とい受け金物及び足金物の材種、形状及び取付け間隔 ※ 改修標準仕様書表3.8.2により、溶融亜鉛めっきを行ったもの 多雪地域　・適用する　・適用しない 防露材のホルムアルデヒド放散量 ※ Ｆ☆☆☆☆ 既存のといその他の撤去及び障雨等に対する養生方法　※ 図示 鋼管製といの防露巻き　※ 改修標準仕様書表3.8.4による たてどい受金物の取付け　※ 図示 ［3．9．2、3］ 種類　・オーブン形式（　・ 押出250形　・ 押出300形　・ 押出350形　） ・ 板材折曲げ形（　・ オーブン形式　・ シール形式） 本体幅（　　）mm　板厚（※ 2.0mm　・　　mm） 表面処理　種別（　　）種 色合等　・ 標準色（　　）　・ 特注色（　　） 既存笠木等の撤去　・ 行う（範囲　※ 図示　・　　） ・ 行わない 下地補修の工法　※ 図示　・ 板材折曲げ形の笠木の取付方法　※ 図示　・ 笠木の固定金具の工法等 1章 17 適用区分による風圧力の（　・ 1　・ 1.15　・ 1.3）倍の風圧力に対応した工法

防水改修フロー及び数量
・ 既存保護層の補修及び処置

防水面調査（施工数量調査）								
ひび割れ部補修		欠損部改修	浮き部補修	ぜい弱部補修	既存目地欠損部補修	既存目地欠損部補修（脱気に利用する場合）		
アスファルト防水工事用シール材（幅2mm未満）	Uカットのうえポリウレタン系シーリング材（幅2mm以上）	ポリマーセメントモルタル補修	ポリマーセメントモルタル補修	撤去のうえ、ポリマーセメントモルタル補修	ケレン等のうえ、ポリマーセメンベース下補修	アスファルト防水工事用シール材	ポリマーセメントモルタル補修	既存目地撤去のうえポリウレタン系シーリング材
0m	0m	0m	0m2	0m2	0m2	0m	0m	0m

シーリング改修	
シーリング再充填工法	
mm× mm 0m	mm× mm 0m

4－1 外壁改修工事（共通事項）

①	ポリマーセメントモルタル	（品質・性能）　［4．2．2］	

項目			品質・性能
だれ	下がり量（mm）		5以内
	表面の状態		ひび割れの発生が無いこと。
曲げ強さ（N/mm2）			6.0以上
圧縮強さ（N/mm2）			20.0以上
接着強さ（N/mm2）	標準条件		1.0以上
	特殊条件	湿潤時	0.8以上
		低温時	0.5以上
透水性			裏面のぬれ、水滴の付着が無いこと。
その他			1）均質で有害と認められる異物の混入がないこと。 2）高分子エマルションは、常温常湿において製造後6か月保存しても、変質しないこと。

②	ポリマーセメントスラリー	（品質・性能）　［4．2．2］	

広がり速度（cm/s）	長さ変化率（収縮）（%）	引張接着性（材齢28日）（N/mm2）	曲げ性能（材齢28日）（N/mm2）	吸水性（72時間）（%）	耐久性（劣化曲げ強さ）（N/mm2）
3以上	3以下	0.5以上	5.0以上	15以下	5.0以上

保水係数　0.35～0.55
粘調係数　0.50～1.00

③	吸水調整材	改修標準仕様書表4.3.2による　［4．3．5］	
4	既調合モルタル	［4．3．5］ モルタル下地としたタイル工事に使用する張付け用モルタルとして、セメント、細骨材、混和剤等を予め工場において所定の割合に配合した材料とする。	

（品質・性能）

項目	品質・性能	項目	品質・性能
保水率	70.0%以上	長さ変化率	0.20%以下
単位容積質量	1.80ｋｇ/ｌ以上	曲げ強さ	4.0N/mm2以上
接着強さ・ 標準時	0.60N/mm2以上		
接着強さ・ 温冷繰り返し後	0.40N/mm2以上		

（試験方法）
（1）試料の調製
製造業者の定める、正味質量と標準練り上がり量より換算して、所定量の試料を練り上げるのに要する材料と練り混ぜ水を計算して用意する。
練り混ぜは、JIS R5201「セメントの物理試験方法」の10.2に規定する練り混ぜ機を使用し、練りばちに用意した水を入れ、撹拌しながら30秒間に材料を投入し、3分間練り混ぜて試料とする。
（2）保水率の試験方法
JIS R3202「フロート板ガラス及び磨き板ガラス」に規定する磨き板ガラス（縦150mm、横150mm、厚さ5mm）の上にJIS P3801「ろ紙（化学分析用）」に規定するろ5 Aろ紙（直径11ｃｍ）をのせ、その中央部に真ちゅう製リング型わく（内径50mm、高さ10mm、厚さ3mm）を設置し、（1）で調製した試料を平滑に詰込む。
その後、直ちにリング型わく上部にガラス板を当てて上下を逆さまにし、ろ紙部分が上部になるようにして静置する。 60分後にろ紙へにじみ出した水分の広がりが最大と認められた方向とこれに直角な方向の長さをノギスを用いて、1mmの単位まで測定する。
試験は3回実施し、その平均値を用いて次式により保水率を求める。
保水率＝50／平均値×100　（注） 50：リング型わくの内径　mm
（3）単位容積質量の試験方法
JIS A 1171「ポリマーセメントモルタルの試験方法」に準ずる。
（4）接着強さ（標準時）の試験方法
イ）適用タイルが「モザイクタイル」の場合
（試験体の作製）JIS A5371「プレキャスト無筋コンクリート製品」に規定する普通平板N－300を下地板とし、表面をサンドペーパーを用いて軽く研磨した後、水湿しを行い直ちに（1）で調製した試料を厚さ5mmになるように塗付ける。直ちにJIS A 5209「セラミックタイル」に規定するタイルで押出し又はプレス成形による施ゆうの「50角ユニットタイル（外のり寸法約300mm×300mm）」を圧着する。その後、28日間、温度20±2℃、湿度80%以上の状態で湿空養生を行い、これを試験体とする。
（試験方法）JIS A 6909「建築用仕上塗材」の7.10付着強さ試験に準じて行う。試験体をダイヤモンドカッターを用いて、タイル周辺に沿って下地板に達するまで切り込みを入れ、シ樹脂接着剤で鋼製アタッチメントを接着し、引張試験機を用いて接着強さエポキ試験を行う。なお、接着強さの測定箇所は、試験体の中からまんべんなく5箇所を選び抜き取る。（全てが0.6N/mm2以上を確保していること）
また、試験後の部材破断位置の表示を下記の中から選び明記する。
T　：タイルの母材破断
TM：既調合モルタルとタイルの界面破断
M　：既調合モルタルの母材破断
MG：既調合モルタルと下地板の界面破断
G　：下地板の母材破断
ロ）適用タイルが「小口タイル・二丁掛けタイル」の場合
（試験体の作製）JIS A5371「プレキャスト無筋コンクリート製品」に規定する普通平板N－300を下地板とし、表面をサンドペーパーを用いて軽く研磨した後、水湿しを行い直ちに（1）で 調製した試料を厚さ7mmになるよう塗付ける。直ちに JIS A 5209「セラミックタイル」 に規定するタイルで押出し又はプレス成形による施ゆうの「小口タイル 108mm×60mm×12mm」を4枚2列、計8枚を圧着する。その後、28日間、温度20±2℃、湿度80%以上の状態で湿空養生を行い、これを試験体とする。
（試験方法）「モザイクタイル」の場合と同様に行う。
（5）接着強さ（温冷繰返し後）の試験方法
（試験体の作製）「モザイクタイル」及び「小口タイル・二丁掛タイル」とも、各々（4）接着強さ（標準時）の試験方法の「試験体」と同様とする。
（温冷繰返し試験）「モザイクタイル」及び「小口タイル・二丁掛タイル」とも、各々JIS A6909「建築用仕上塗材」に規定する7.11温冷繰返し試験に準じて行う。
試験の手順は、試験体を20±2℃の水中に18時間浸せきした後、直ちに－20±2℃の恒温器中で3時間冷却し、次いで50±3℃の別の恒温器中で3時間加温し、この24時間を１サイクルとする操作を10回繰返した後、試験室に2時間静置し、ひび割れ及び膨れの有無を目視によって調べる。
（温冷繰返し後の接着強さ試験方法）「モザイクタイル」及び「小口タイル・二丁掛タイル」とも、各々温冷繰返し試験完了後の試験体を標準状態で2日間静置養生した後、標準時の接着強さ試験方法と同様に行う。（全てが0.4N/mm2以上を確保していること）
（6）長さ変化率の試験方法
JIS A6203「セメント混和用ポリマーディスパージョン及び再乳化形粉末樹脂」9.9 長さ変化率に準ずる。
（7）曲げ強さの試験方法
JIS A6916「建築用下地調整塗材」の7.11 曲げ強さ試験に準ずる。
試験室の状態：試験室は温度20±2℃、湿度65±10%とする。

4－2 外壁改修工事（コンクリート打放し仕上げ外壁）

①	ひび割れ部改修工法	※ 樹脂注入工法　［4．1．4］［4．2．4、5、6、7］	

工法の種類	ひび割れ幅（mm）	注入口間隔（mm）	注入量（mL／m）
※ 自動式低圧エポキシ樹脂注入工法	0.2以上0.3未満	200～300	※40　・
	0.3以上0.5未満		※40　・
	0.5以上1.0未満		※70　・
・ 手動式エポキシ樹脂注入工法	0.2以上0.3未満	50～100	※40　・
・ 機械式エポキシ樹脂注入工法	0.3以上0.5未満	100～200	※70
	0.5以上1.0未満	150～250	※130

注入状況の確認方法　※ 注入量により確認　・ コアの抜取りを行う
コア抜取りの場合の個数　※ 長さ500mごと及びその端数につき1個
コア抜取りの場合の抜取り部の補修方法　※ポリマーセメントモルタル充填　・ 図示
・ Uカットシール材充填工法
・シーリング材
充填材料　※１成分形又は２成分形ポリウレタン系　・
シーリング材の上にポリマーセメントモルタルの充填　※ 行う　・ 行わない
※ 可とう性エポキシ樹脂
・ シール工法
※ パテ状エポキシ樹脂　・ 可とう性エポキシ樹脂

②	欠損部改修工法	※ 充填工法　［4．1．4］［4．2．4、8］ ・ エポキシ樹脂モルタル　・ ポリマーセメントモルタル ・	

4－3 外壁改修工事（モルタル塗仕上げ外壁）

1	ひび割れ部改修工法	※ モルタルを撤去しないで改修　［4．1．4］［4．3．5、6、7、8］ ※ 樹脂注入工法	

工法の種類	ひび割れ幅（mm）	注入口間隔（mm）	注入量（mL／m）
※ 自動式低圧エポキシ樹脂注入工法	0.2以上0.3未満	200～300	※40　・
	0.3以上0.5未満		※40　・
	0.5以上1.0未満		※70　・
・ 手動式エポキシ樹脂注入工法	0.2以上0.3未満	50～100	※40　・
・ 機械式エポキシ樹脂注入工法	0.3以上0.5未満	100～200	※70
	0.5以上1.0未満	150～250	※130

注入状況の確認方法　※ 注入量により確認　・ コアの抜取りを行う
コア抜取りの場合の個数　※　長さ500mごと及びその端数につき1個
コア抜取りの場合の抜取り部の補修方法　※ポリマーセメントモルタル充填　・ 図示
・ Uカットシール材充填工法
・シーリング材
充填材料の種類　※ １成分形又は２成分形ポリウレタン系　・
シーリング材の上にポリマーセメントモルタルの充填　※ 行う　・ 行わない
※可とう性エポキシ樹脂
・ シール工法
※　パテ状エポキシ樹脂　・ 可とう性エポキシ樹脂
・ モルタルを撤去して改修
モルタル撤去後のコンクリート部分の改修は、4-2 外壁改修工事（コンクリート打放し仕上げ外壁）による
モルタル撤去後のモルタル欠損部の補修は、 2 欠損部改修工法による

2	欠損部改修工法	［4．1．4］［4．3．9、10］	

※ 充填工法（欠損部の面積が0.25m2／箇所程度以下の場合）
充填材の種類　※ ポリマーセメントモルタル　・ エポキシ樹脂モルタル
・ モルタル塗替え工法
モルタルの材料　※ 現場調合材料　・ 既調合材料
既製目地材　・ 使用する（形状　　）
仕上げ厚又は全塗厚が25mmを超える場合の措置　※ 図示

3	浮き部改修工法	※ モルタルを撤去しないで改修　［4．1．4］［4．3．11～16］ ・ アンカーピンニング部分エポキシ樹脂注入工法 ・ アンカーピンニング全面エポキシ樹脂注入工法 ・ アンカーピンニング全面ポリマーセメントスラリー注入工法 ※ 注入口付アンカーピンニング部分エポキシ樹脂注入工法 ・ 注入口付アンカーピンニング全面エポキシ樹脂注入工法 ・ 注入口付アンカーピンニング全面ポリマーセメントスラリー注入工法	

4－4 外壁改修工事（タイル張り仕上げ外壁）

1	タイルの形状、寸法等	タイル部分張替え工法及びタイル張替え工法用接着剤の種類　［4．4．5、8］ ・ JIS A 5557による一液反応硬化形の変成シリコーン樹脂系 タイルの形状、寸法等	

施工箇所	形状/寸法（mm）	再生材料の適用	吸水率による区分			うわぐすりの施ゆう		役物		色		耐凍害性		耐滑り性	備考
			Ⅰ類	Ⅱ類	Ⅲ類	施ゆう	無ゆう	有	無	標準	特注	有	無		
		・	・	・	・	・	・	・	・	・	・	・	・		
		・	・	・	・	・	・	・	・	・	・	・	・		

耐滑り性：JIS A 1509-12（セラミックタイル試験方法ー第12部：耐滑り性試験方法）で規定する C.S.R値は0.4～1.0とする。
役物の使用箇所

内装	出隅　天端
外装	出隅、窓台、マグサ（標準ー体成型品以外は接着成型品とする）

見本焼き
・行う（施工箇所：　　）　※行わない
試験張り
・行う（施工箇所：　　）　※行わない

2	ひび割れ部改修工法	［4．1．4］［4．5．5、6］	

※ タイルを撤去して改修
下地モルタルまで撤去後のコンクリート部分の改修は、4-2 外壁改修工事（コンクリート打放し仕上げ外壁）による
モルタルを存置した場合のモルタル部分の改修は、4－3 外壁改修工事（モルタル塗仕上げ外壁）による
タイル撤去後のタイル欠損部の補修は、 3 欠損部改修工法による
・ タイルを撤去しないで改修

※ 樹脂注入工法

工法の種類	ひび割れ幅（mm）	注入口間隔（mm）	注入量（mL／m）
※ 自動式低圧エポキシ樹脂注入工法	0.2以上0.3未満	200～300	※40　・
	0.3以上0.5未満		※40　・
	0.5以上1.0未満		※70　・
・ 手動式エポキシ樹脂注入工法	0.2以上0.3未満	50～100	※40　・
・ 機械式エポキシ樹脂注入工法	0.3以上0.5未満	100～200	※70
	0.5以上1.0未満	150～250	※130

注入状況の確認方法　※ 注入量により確認　・ コアの抜取りを行う
コア抜取りの場合の個数　※ 長さ500mごと及びその端数につき1個
コア抜取りの場合の抜取り部の補修方法　※ ポリマーセメントモルタル　・ 図示
・ Uカットシール材充填工法
・ シーリング材
充填材料の種類　※１成分形又は２成分形ポリウレタン系　・
シーリング材の上にポリマーセメントモルタルの充填　※ 行う　・ 行わない
※ 可とう性エポキシ樹脂

3	欠損部改修工法	［4．1．4］［4．5．7、8］	

・ タイル部分張替え工法（欠損部の面積が0.25m2／箇所以下の場合及び下地モルタルがある場合）
接着剤の種類　・ ポリマーセメントモルタル　・ 外装タイル接着剤張りの接着剤
・ タイル張替え工法（下地モルタルを撤去する場合）
貼付けモルタルの材料　※ 現場調合材料　・ 既調合材料
伸縮調整目地及びひび割れ誘発目地の位置　※ 改修標準仕様書表4.4.2による
外装タイル張り下地等の下地モルタル及び下地調整材塗りの接着力試験　・ 行う　・ 行わない
・ セメントモルタルによるタイル（セラミックタイル）張り
タイル張りの工法　・ 外装タイル（ ・ 密着張り　・ 改良圧着張り　・ 改良積上げ張り）
・ ユニットタイル（ ・ マスク張り　・ モザイクタイル張り）
・ 有機系接着剤によるタイル（セラミックタイル）張り
目地詰め　※行う　・行わない
下地モルタル塗りを行うコンクリート素地面の処理
※ 目荒し工法
シーリング材の種類　打継ぎ目地及びひび割れ誘発目地　※ ポリウレタン系
伸縮調整目地その他の目地　※ 変成シリコーン系　・

4	浮き部改修工法	［4．1．4］［4．4．5、9～15］［4．5．9～15］	

・ アンカーピンニング部分エポキシ樹脂注入工法
・ アンカーピンニング全面エポキシ樹脂注入工法
・ アンカーピンニング全面ポリマーセメントスラリー注入工法
※ 注入口付アンカーピンニング部分エポキシ樹脂注入工法
・ 注入口付アンカーピンニング全面エポキシ樹脂注入工法
・ 注入口付アンカーピンニング全面ポリマーセメントスラリー注入工法
・ 注入口付アンカーピンニングエポキシ樹脂注入タイル固定工法
注入口付アンカーピン本数　・
アンカーピンの材質　※ ステンレス鋼（SUS304）呼び径4mmの丸棒で全ネジ切り加工をしたもの

注入口付アンカーピンの材質　※ ステンレス鋼（SUS304）呼び径外径6mm程度

・ タイル部分張替え工法
接着剤の種類　・ ポリマーセメントモルタル　・ 外装タイル接着剤張りの接着剤
・ タイル張替え工法（下地モルタルを撤去する場合）
貼付けモルタルの材料　※ 現場調合材料　・ 既調合材料
伸縮調整目地及びひび割れ誘発目地　位置　※ 改修標準仕様書表4.5.1による
外装タイル張り下地等の下地モルタル及び下地調整材塗りの接着力試験　・ 行う　・ 行わない
・ セメントモルタルによるタイル（セラミックタイル）張り
タイル張りの工法　・ 外装タイル（ ・ 密着張り　・ 改良圧着張り　・ 改良積上げ張り）
・ ユニットタイル（ ・ マスク張り　・ モザイクタイル張り）
・ 有機系接着剤によるタイル（セラミックタイル）張り
下地モルタル塗りを行うコンクリート素地面の処理
※ 目荒し工法
シーリング材の種類　打継ぎ目地及びひび割れ誘発目地　※ ポリウレタン系
伸縮調整目地その他の目地　※ 変成シリコーン系　・

5	目地改修工法	［4．1．4］［4．5．5、16］	

・ 目地ひび割れ部改修工法
・ 伸縮調整目地改修工法　伸縮調整目地の位置及び寸法　※ 図示

6	外壁複合改修構工法	平成７年度建設省告示第１８６０号による「外壁複合改修構工法の開発」において、建設大臣の技術評価を取得した工法とする	

4－5 外壁改修工事（仕上塗材仕上げ外壁）

①	既存塗膜等の除去、下地処理及び下地調整	［4．5．4］	

工法	処理範囲	下地の補修
⊙ サンダー工法	※既存仕上げ面全体　・ 図示	4－2 外壁改修工事（コンクリート打放し仕上げ外壁）、4－3 外壁改修工事（モルタル塗仕上げ外壁）による
・ 高圧水洗工法 吐出圧力　・ 30ＭＰａ～50ＭＰａ ・ 50ＭＰａ～100ＭＰａ ・ 100ＭＰａ以上	※既存仕上げ面全体　・ 図示	
・ 塗膜はく離剤工法	※既存仕上げ面全体　・ 図示	
・ 水洗い工法	※サンダー工法、高圧水洗工法、塗膜はく離剤工法の処理範囲以外の既存仕上面全面　・ 図示	
石綿含有仕上げ塗材の除去は、９章環境配慮改修工事による		

②	下地調整材	※ 下地調整塗材　・ ポリマーセメントモルタル　［4．5．2］	
③	仕上塗材仕上げ	［4．1．5］［4．5．2］［表4．5．1］ 建物内部に使用する塗料のホルムアルデヒド放散量 ※ Ｆ☆☆☆☆　・ 仕上塗材の種類 ⊙ 薄付け仕上塗材	

呼び名	仕上げの形状	工法	防火材料
※ 外装薄塗材Ｅ			・
⊙可とう形外壁薄塗材Ｅ	ゆず肌	ローラー	・

・ 厚付け仕上塗材

呼び名	仕上げの形状	工法	上塗り材	防火材料
			・ 適用する	・
			・ 適用する	・

⊙ 複層仕上塗材

呼び名	仕上げの形状	工法	上塗り材の種類	耐候性	防火材料
※ 複層塗材Ｅ ※ 防水形複層塗材Ｅ	凹凸状	吹付け	溶媒　※ 水系 樹脂　※ アクリル系 外観　※ つやあり	※ 耐候形３種 ・	・
・ 複層塗材RE	ゆず肌	ローラー			

軽量骨材仕上塗材

呼び名	防火材料
	・
	・

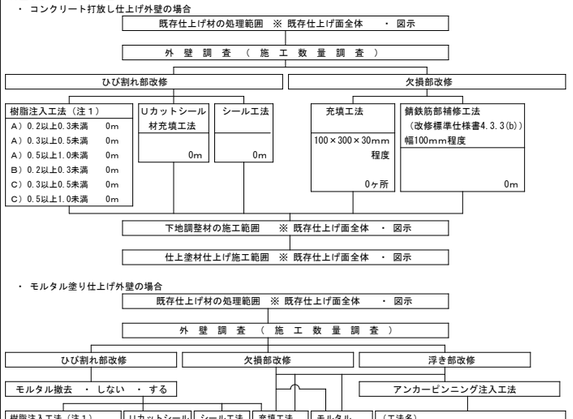
④	マスチック塗材塗り	［4．1．5］［4．6．2］［表4．6．1］ 種別　・ Ａ種　・ Ｂ種	
⑤	外壁用塗膜防水材塗り	［4．1．5］［4．7．2、3］［表4．7．1］ 仕上げの形状 工法 仕上塗材の耐候性　・ 耐候形1種　・ 耐候性2種　・ 耐候性3種 下地挙動緩衝材　・ 適用する　・ 適用しない 模様材の種類　・ 仕上塗料の種類 ・	

6	外壁複合改修構工法	平成７年度建設省告示第１８６０号による「外壁複合改修構工法の開発」において、建設大臣の技術評価を取得した工法とする	

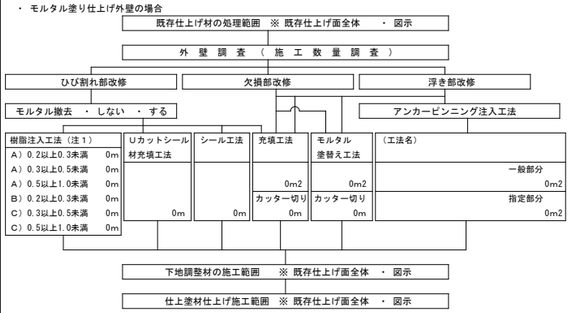
事業年度　年度 工事完成　年度	設計 令和 年 月	三原市都市部建築課	大	中	小	地域	施設	種類 建築	工事名 本郷小学校屋内運動場長寿命化改修工事	事務所名・建築士登録番号・氏名 有限会社　ＭａｓＭａｓ 一級建築士登録　第325897号 小松木　靖之　印	図面名称・縮尺　non scale　(A3版-71%縮小) 改修工事特記仕様書-3	図番 A-03

外壁改修フロー及び数量

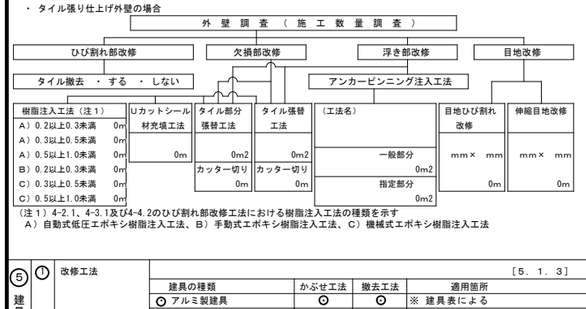
・ コンクリート打放し仕上げ外壁の場合



・ モルタル塗り仕上げ外壁の場合



・ タイル張り仕上げ外壁の場合



（注１）4-2.1、4-3.1及び4-4.2のひび割れ部改修工法における樹脂注入工法の種類を示す
A）自動式低圧エポキシ樹脂注入工法、B）手動式エポキシ樹脂注入工法、C）機械式エポキシ樹脂注入工法

⑤ 建具改修工事

① 改修工法 ［5．1．3］

建具の種類		かぶせ工法	嵌込工法	適用箇所
⊙ アルミ製建具		⊙	⊙	※ 建具表による
・ 樹脂製建具		・	・	※ 建具表による
⊙ 鋼製建具	・ 外部	⊙	⊙	※ 建具表による
	・ 内部	・	・	※ 建具表による
・ 鋼製軽量建具		・	・	※ 建具表による
・ ステンレス製建具		・	・	※ 建具表による

新規に建具を設ける場合
壁部分の開口の開け方 ※ 図示
新規建具周囲の補修工法及び範囲 ※ 図示 ・

2 防火戸 ・ 適用する 指定箇所（ ※ 建具表による ・ ） ［5．1．4］
防火戸の自動閉鎖機構及び防火戸とヒューズ装置、熱感知器又は煙感知器との連動
※連動させる 適用箇所（・建具表による ・ ）
・連動させない

3 見本の製作等 建具見本の製作 ・行う（建具符号： ） ・行わない ［5．1．5］
特殊な建具の仮組 ・行う（建具符号： ） ・行わない

4 防犯建物部品 ・ 適用する 適用箇所（ ※ 建具表による ・ ） ［5．1．7］

⑨ アルミニウム製建具 性能値等 ［5．2．2～5］［表5．2．2］
・ 耐風圧性の等級（ ）、気密性の等級（ ）、水密性の等級（ ）
※ 改修標準仕様書表5.2.1による種別
外部に面する建具の種別 ⊙ A種（建具符号：⊙ 全て ・ 建具表による ・ ）
・ B種（建具符号： ・ 全て ・ 建具表による ・ ）
・ C種（建具符号： ・ 全て ・ 建具表による ・ ）
防音ドア、防音サッシ 遮音性の等級（ ）
（建具符号： ・ 建具表による ・ ）
断熱ドア、断熱サッシ 断熱性の等級（ ）
（建具符号： ・ 建具表による ・ ）
耐震性能
建築非構造部材の耐震性能に係る特記事項による
ステンレス鋼板の材料 ※ SUS304、SUS430J1L又はSUS443J1
形状及び仕上げ
枠の見込みみ寸法 ※ 建具表による ・
表面処理
外部に面する建具 種別 ⊙ BB-1種 ・ BB-2種 ・
色合等 ※ 標準色（ ） ・ 特注色（ ）
屋内の建具 種別 ・ BC-1種 ・ BC-2種 ・
色合等 ※ 標準色（ ） ・ 特注色（ ）
結露水の処理方法 ※ 図示 ・
取付工法
水切り板、ぜん板 ※ 図示 ・
木下地の場合の内付け建具 ・ 適用しない ・ 適用する

6 網戸等 ［5．2．3］［5．3．3］

種類	材質	線径	網目
・ 防虫網	※ 合成樹脂製 ・ ガラス繊維入り合成樹脂製 ・ ステンレス（SUS316）製	※ 0.25mm以上 ・	※ 16～18メッシュ ・
・ 防鳥網	ステンレス（SUS304）線材	1.5mm	網目寸法15mm

7 樹脂製建具 ［5．2．2］［5．3．2～5］
性能値等
・ 耐風圧性の等級（ ）、気密性の等級（ ）、水密性の等級（ ）
※ 改修標準仕様書表5.3.1による種別
外部に面する建具 ・ A種（建具符号： ・ 全て ・ 建具表による ・ ）
・ B種（建具符号： ・ 全て ・ 建具表による ・ ）
・ C種（建具符号： ・ 全て ・ 建具表による ・ ）
防音ドア、防音サッシの遮音性の等級 ・ T－1 ・ T－2
（建具符号： ・ 建具表による ・ ）
断熱ドア、断熱サッシ の断熱性の等級 ・ H－4 ・ H－5 ・ H－6 ・ H－7 ・ H－8
（建具符号： ・ 建具表による ・ ）
外部に面する建具の日射熱取得性の等級
・
形状及び仕上げ
枠の見込み寸法 ※ 建具表による
表面色 ※標準色 ・ 特注色
取付工法
水切り板、ぜん板 ※ 図示
木下地の場合の内付け建具 ・ 適用しない ・ 適用する
ガラス ※ 複層ガラス

⑧ 鋼製建具 ［5．2．2］［5．4．2～4］［表5．4．2］
性能値等（建具符号： ・ 建具表による ・ ）
簡易気密型ドアセット 気密性の等級 ・ A－3
水密性の等級 ⊙ W－1
外部に面する面する建具の耐風圧性 ・ S－4
・ S－5
・ S－6
防音ドア、防音サッシ 遮音性の等級（ ）
断熱ドア、断熱サッシ 断熱性の等級（ ）
耐震ドア 面内変形追従性の等級（ ）
耐震性能
建築非構造部材の耐震性能に係る特記事項による
ステンレス鋼板の材料 ※ SUS304、SUS430J1L又はSUS443J1
形状及び仕上げ
鋼板類の厚さ ※ 改修標準仕様書表5.4.2による
使用箇所（ ）
標準型鋼製建具の形状及び寸法 ※建具表による

9 鋼製軽量建具 ［5．2．2］［5．5．2～4］
性能値等（建具符号： ・ 建具表による ・ ）
簡易気密型ドアセット ・適用する
防音ドア、防音サッシ 遮音性の等級（ ）
断熱ドア、断熱サッシ 断熱性の等級（ ）
耐震ドア 面内変形追従性の等級（ ）
耐震性能
建築非構造部材の耐震性能に係る特記事項による
鋼板の材料 ※ 亜鉛めっき鋼板 ・ ビニル被覆鋼板 ・ カラー鋼板 ・ ステンレス鋼板
ステンレス鋼板の材料 ※ SUS304、SUS430J1L又はSUS443J1
形状及び仕上げ
鋼板類の厚さ ※ 改修標準仕様書表5.5.1による
使用箇所（ ）
召合せ、框小口包み板の材質 ※ 鋼板
標準型鋼製建具の形状及び寸法 ※建具表による

10 ステンレス製建具 ［5．2．2］［5．4．2］［5．6．2～5］
性能値等（建具符号： ・ 建具表による ・ ） ［5．7．2、3］
簡易気密型ドアセット ・ 適用する
外部に面する面する建具の耐風圧性 ・ S－4
・ S－5
・ S－6
防音ドア、防音サッシ 遮音性の等級（ ）
断熱ドア、断熱サッシ 断熱性の等級（ ）
耐震ドア 面内変形追従性の等級（ ）
耐震性能
建築非構造部材の耐震性能に係る特記事項による
ステンレス鋼板の材料 ※ SUS304、SUS430J1L又はSUS443J1
くつずりの仕上げ
ステンレス鋼板を用いる場合 ※ ＨＬ以上
形状及び仕上げ
表面仕上げ ※ ＨＬ ・ 鏡面仕上げ ・
工法
ステンレス鋼板の曲げ加工 ※ 普通曲げ ・ 角出し曲げ（ ・ a角 ・ b角 ・ c角）

⑪ 建具用金物
金物の種類及び見え掛り部の材質等
※ 改修標準仕様書表5.7.1及び適用は建具表による ・
金属製建具に使用する丁番の枚数及び大きさ ※ 改修標準仕様書表5.8.2による
樹脂製建具に使用する丁番の枚数及び大きさ ※ 標準仕様書表5.8.3による ・
木製建具に使用する丁番の枚数及び大きさ ※標準仕様書表5.8.4による
木製建具に使用する戸車及びレール ※標準仕様書表5.8.5による
握り玉及びレバーハンドル、押板類、クレセントの取付け位置 ※ 建具表による ・

錠前類
【シリンダ箱錠及びシリンダ本締まり錠】
（品質）
デッドボルトの出寸法は17mm以上とする。 鍵付きのものはマスターキー、グランドマスターキー、コンストラクションキーなどのキーシステムが構築できるものとする。
（性能）
<使用頻度による性能>
1）（シリンダ箱錠のみ）ラッチボルトの開閉繰り返し試験（40万回）を行った後、ハンドルでの開閉操作力及びラッチング力が試験前の2倍未満であり、動作に支障がない。
2）キーによるデッドボルトの施解錠繰り返し試験（10万回）を行った後、 試験前の回転トルクの2倍未満であり、施解錠操作に支障がない。（シリンダ本締り錠のみ）シリンダ単体の施解錠繰り返しの評価は、シリンダ だけの回転トルクが10N・ｃｍ以下とする。
3）キーによる施錠機構の施解錠繰り返し試験（10万回）を行なった後、 試験前の回転トルクの2倍未満であり、施解錠操作に支障がない。
4）キーの抜き差し繰り返し試験（10万回）を行なった後、キーの抜き差 しに要する荷重は10N以下である。また、未使用の合鍵でシリンダが回転で き、かつ、1箇所1段差浅い刻みをもつ異なるキーでは、シリンダが回転しないこと。（キーに加えるトルクは、150N・ｃｍとする）
<外力に対する性能 >
1）デッドボルトの押込み強度試験（10ＫＮ）を行なった後、荷重を除い ときのデッドボルトの出寸法は8mm以上であること。
2）デッドボルトの側圧強度試験（10ＫＮ）を行なった際、加圧板がデッドボルトを通過しない。
3）デッドボルトの押込み強度（衝撃荷重）試験（58.8Ｊ）の衝撃荷重を加えたとき、解錠状態（デッドボルトの突出量が8mm未満）にならないこと。
4）デッドボルトの側圧強度（衝撃荷重）試験(58.5Ｊ)の衝撃荷重を加えたとき、解錠状態（加圧板がデッドボルトを通過した状態）にならないこと。
5）（シリンダ本締り錠はグレード3以上の彫込錠の場合）ストライクプレートの厚さ1.5mm以上のステンレス鋼製とし、トロヨケは厚さ1.6mm以上の鋼製の一体絞りとする。又はストライクの強度と同等以上の強度をもつものとする。
<使用扉の質量に対する性能（シリンダ箱錠のみ）>
1）ラッチボルトの側圧強度試験（4ＫＮ）を行い、荷重を除いたとき、ハンドル操作及びラッチングに支障がない。
2）レバーハンドルのねじり強度試験（3.5ＫＮ・ｃｍ）を行なった後、トルクを除いたとき、ハンドルが正常に作動していること。また、施錠時ハンドルが固定される錠は、施錠状態が維持され、かつ、施解錠操作に支障がない。
3）握り玉のねじり強度試験（3ＫＮ・ｃｍ）を行なった後、トルクを除いたとき、握り玉が正常に作動していること。また、施錠時握り玉が固定される錠は、施錠状態が維持され、かつ、施解錠操作に支障がない。
4）ハンドルの引張強度試験（2ＫＮ）を行い、荷重を除いたとき、ハンドルが正常に作動していること。また、施錠時ハンドルが固定される錠は、施錠状態が維持され、かつ、施解錠操作に支障がない。
5）ハンドルの垂直荷重強度試験（2ＫＮ）を行い、荷重を除いたとき、ハンドルが正常に作動していること。また、施錠時ハンドルが固定される錠は、施錠状態が維持され、かつ、施解錠操作に支障がない。
<鍵>
1）かぎ（鍵）違い数は、1.5万以上とする。ただし、異なるキーウェイ形状であっても、共通のキーセクションが存在する場合は、有効かぎ（鍵）違い数とみなさないものとする。
2）同一タンブラーの使用数は、60%以下とする。また、６本タンブラーにおいては、キーの同一刻みは、最大2連続までとしていること。
試験方法は、JIS A 1541-1（建築金物－錠－第１部：試験方法）による。

【レバーハンドル】
（性能）
<ねじり強度>
レバーハンドルのねじり強度試験（3.5ＫＮ・ｃｍ）を行なった後、トルクを除いたとき、ハンドルが正常に作動していること。また、施錠時ハンドルが固定される錠は、施錠状態が維持され、かつ、施解錠操作に支障がないこと。
<引張り強度>
ハンドルの引張強度試験（2ＫＮ）を行い、荷重を除いたとき、ハンドル が正常に作動していること。また、施錠時ハンドルが固定される錠は、 施錠状態が維持され、かつ、施解錠操作に支障がないこと。
<垂直荷重強度>
ハンドルの垂直荷重強度試験（2ＫＮ）を行い、荷重を除いたとき、ハンドルが正常に作動していること。また、施錠時ハンドルが固定される錠は、施錠状態が維持され、かつ、施解錠操作に支障が ないこと。
試験方法は、JIS A 1541-1（建築金物－錠－第１部：試験方法）による。

クローザー類
（品質・性能）

性能試験項目 ＼ 区分			① ドアクローザー		② ヒンジクローザー		③ フロアヒンジ	
開閉力（25～67N以内）	Grade2	番手	閉じモーメント（N・m）	効率（%）	閉じモーメント（N・m）	効率（%）	閉じモーメント（N・m）	効率（%）
		1	5以上	30以上	5以上	30以上	5以上	30以上
		2	10以上	30以上	10以上	30以上	10以上	30以上
		3	15以上	35以上	15以上	35以上	15以上	35以上
		4	25以上	40以上	25以上	40以上	25以上	40以上
		5	35以上	45以上	35以上	45以上	35以上	45以上
		6	45以上	45以上	45以上	45以上	45以上	45以上
閉じ速度（秒）			常温（5～35℃）無風状態において、開扉（70°）から全閉（0°）までの時間を5～8秒に調整できること。					
温度依存性（℃）			緩衝油の流動点は、JIS K 2269(原油及び石油製品の流動点並びに石油製品曇り点試験方法）により測定し、－15℃以下であること。					
ラッチ	ストップ入力		60N・m以下 但し、コンシールド型は200N・m以下		100N・m以下		100N・m以下	
	ストップ解除力		8N・m以上		3N・m以上		10N・m以上	
バックチェック性能（秒）（バックチェック機能を有する機種のみ適用）			ドア開扉方向に荷重60N/m2を開扉50°から負荷する。バックチェック開始角度（70～85°）から更に20° まで開く間の時間は0.8秒以上としていること。		—		—	
ディレードアクション性能（秒）ディレード アクション解除角度（60～75°）（ディレードアクション機能を有する機種のみ適用）			開扉90° の位置からディレードアクション解除角度までの時間が10秒以上確保でき、また、その時間の調整が可能であること。		—		—	
戸の閉鎖位置（中心吊り込み両自由のみに適用）			—		—		±3mm以内	
性久耐	繰返し開閉後の閉じモーメント（N・m）	Grade2	耐久試験後も上記初期値を満足していること。		耐久試験後も上記初期値を満足していること。		耐久試験後も上記初期値を満足していること。	
	繰返し開閉後の効率（%）	Grade2	耐久試験後も上記初期値を満足していること。		耐久試験後も上記初期値を満足していること。		耐久試験後も上記初期値を満足していること。	
	繰返し開閉後の閉じ速度（秒）		耐久試験後も上記初期値を満足していること。					
	繰返し開閉後のバックチェック性能（秒）		耐久試験後も上記初期値を満足していること。		—		—	
	繰返し開閉後のディレードアクション性能（秒）		耐久試験後も上記初期値を満足していること。		—		—	
	繰り返し開閉後の戸開鎖位置（mm）		—		—		耐久試験後±6mm以内	
耐久性の試験回数（繰り返し開閉回数）		Grade2	20万回		10万回		30万回	

注１．パラレル取付けは、右記の閉じモーメントの70%程度までとする。
注２．コンシールド型は右記の閉じモーメントの50%程度までとする。
Grade1を選定する場合は、図示による。
（試験方法）
１）性能試験は、JIS A 1510-3（建築用ドア金物の試験方法－第３部：フロアヒンジ、ドアクローザ及びヒンジクローザ）に規定する試験方法による。
２）試験ドアの質量は、1番手は25ｋ、2番手は40ｋ、3番手は60ｋ、4番手は80ｋ、5番手は100ｋ、6番手は120ｋとする。

⑫ 鍵 ［5．8．4］
マスターキー ※ 製作する（ 組） ・ 製作しない ⊙ 既存に組込む
鍵の製作本数 ※ 各室３本１組（室名札付き）
鍵箱 ・ 設ける（ 個用 組） ・ 設けない

13 自動ドア開閉装置 ［5．9．2、3］
引き戸用駆動装置
性能値
※ 改修標準仕様書表5.8.1による
種類 ・ SSLD-1 ・ SSLD-2 ・ DSLD-1 ・ DSLD-2
2）レバーハンドルのねじり強度試験（3.5ＫＮ・ｃｍ）を行なった後、トルクを除いたとき、ハンドルが正常に作動していること。また、施錠時ハンドルが固定される錠は、施錠状態が維持され、かつ、施解錠操作に支障がない。
3）握り玉のねじり強度試験（3ＫＮ・ｃｍ）を行なった後、トルクを除いたとき、握り玉が正常に作動していること。また、施錠時握り玉が固定される錠は、施錠状態が維持され、かつ、施解錠操作に支障がない。
4）ハンドルの引張強度試験（2ＫＮ）を行い、荷重を除いたとき、ハンドルが正常に作動していること。また、施錠時ハンドルが固定される錠は、施錠状態が維持され、かつ、施解錠操作に支障がない。
5）ハンドルの垂直荷重強度試験（2ＫＮ）を行い、荷重を除いたとき、ハンドルが正常に作動していること。また、施錠時ハンドルが固定される錠は、施錠状態が維持され、かつ、施解錠操作に支障がない。
<鍵>
1）かぎ（鍵）違い数は、1.5万以上とする。ただし、異なるキーウェイ形状であっても、共通のキーセクションが存在する場合は、有効かぎ（鍵）違い数とみなさないものとする。
2）同一タンブラーの使用数は、60%以下とする。また、６本タンブラーにおいては、キーの同一刻みは、最大2連続までとしていること。
試験方法は、JIS A 1541-1（建築金物－錠－第１部：試験方法）による。

【レバーハンドル】
（性能）
<ねじり強度>
レバーハンドルのねじり強度試験（3.5ＫＮ・ｃｍ）を行なった後、トルクを除いたとき、ハンドルが正常に作動していること。また、施錠時ハンドルが固定される錠は、施錠状態が維持され、かつ、施解錠操作に支障がないこと。
<引張り強度>
ハンドルの引張強度試験（2ＫＮ）を行い、荷重を除いたとき、ハンドル が正常に作動していること。また、施錠時ハンドルが固定される錠は、 施錠状態が維持され、かつ、施解錠操作に支障がないこと。
<垂直荷重強度>
ハンドルの垂直荷重強度試験（2ＫＮ）を行い、荷重を除いたとき、ハンドルが正常に作動していること。また、施錠時ハンドルが固定される錠は、施錠状態が維持され、かつ、施解錠操作に支障が ないこと。
試験方法は、JIS A 1541-1（建築金物－錠－第１部：試験方法）による。

クローザー類
（品質・性能）

性能試験項目 ＼ 区分			① ドアクローザー		② ヒンジクローザー		③ フロアヒンジ	
開閉力（25～67N以内）	Grade2	番手	閉じモーメント（N・m）	効率（%）	閉じモーメント（N・m）	効率（%）	閉じモーメント（N・m）	効率（%）
		1	5以上	30以上	5以上	30以上	5以上	30以上
		2	10以上	30以上	10以上	30以上	10以上	30以上
		3	15以上	35以上	15以上	35以上	15以上	35以上
		4	25以上	40以上	25以上	40以上	25以上	40以上
		5	35以上	45以上	35以上	45以上	35以上	45以上
		6	45以上	45以上	45以上	45以上	45以上	45以上
閉じ速度（秒）			常温（5～35℃）無風状態において、開扉（70°）から全閉（0°）までの時間を5～8秒に調整できること。					
温度依存性（℃）			緩衝油の流動点は、JIS K 2269(原油及び石油製品の流動点並びに石油製品曇り点試験方法）により測定し、－15℃以下であること。					
ラッチ	ストップ入力		60N・m以下 但し、コンシールド型は200N・m以下		100N・m以下		100N・m以下	
	ストップ解除力		8N・m以上		3N・m以上		10N・m以上	
バックチェック性能（秒）（バックチェック機能を有する機種のみ適用）			ドア開扉方向に荷重60N/m2を開扉50°から負荷する。バックチェック開始角度（70～85°）から更に20° まで開く間の時間は0.8秒以上としていること。		—		—	
ディレードアクション性能（秒）ディレード アクション解除角度（60～75°）（ディレードアクション機能を有する機種のみ適用）			開扉90° の位置からディレードアクション解除角度までの時間が10秒以上確保でき、また、その時間の調整が可能であること。		—		—	
戸の閉鎖位置（中心吊り込み両自由のみに適用）			—		—		±3mm以内	
性久耐	繰返し開閉後の閉じモーメント（N・m）	Grade2	耐久試験後も上記初期値を満足していること。		耐久試験後も上記初期値を満足していること。		耐久試験後も上記初期値を満足していること。	
	繰返し開閉後の効率（%）	Grade2	耐久試験後も上記初期値を満足していること。		耐久試験後も上記初期値を満足していること。		耐久試験後も上記初期値を満足していること。	
	繰返し開閉後の閉じ速度（秒）		耐久試験後も上記初期値を満足していること。					
	繰返し開閉後のバックチェック性能（秒）		耐久試験後も上記初期値を満足していること。		—		—	
	繰返し開閉後のディレードアクション性能（秒）		耐久試験後も上記初期値を満足していること。		—		—	
	繰り返し開閉後の戸開鎖位置（mm）		—		—		耐久試験後±6mm以内	
耐久性の試験回数（繰り返し開閉回数）		Grade2	20万回		10万回		30万回	

注１．パラレル取付けは、右記の閉じモーメントの70%程度までとする。
注２．コンシールド型は右記の閉じモーメントの50%程度までとする。
Grade1を選定する場合は、図示による。
（試験方法）
１）性能試験は、JIS A 1510-3（建築用ドア金物の試験方法－第３部：フロアヒンジ、ドアクローザ及びヒンジクローザ）に規定する試験方法による。
２）試験ドアの質量は、1番手は25ｋ、2番手は40ｋ、3番手は60ｋ、4番手は80ｋ、5番手は100ｋ、6番手は120ｋとする。

⑫ 鍵 ［5．8．4］
マスターキー ※ 製作する（ 組） ・ 製作しない ⊙ 既存に組込む
鍵の製作本数 ※ 各室３本１組（室名札付き）
鍵箱 ・ 設ける（ 個用 組） ・ 設けない

13 自動ドア開閉装置 ［5．9．2、3］
引き戸用駆動装置
性能値
※ 改修標準仕様書表5.8.1による
種類 ・ SSLD-1 ・ SSLD-2 ・ DSLD-1 ・ DSLD-2

多機能トイレ出入口引き戸用駆動装置
性能値
※ 改修標準仕様書表5.9.2による
引き戸用検出装置の種類は、多機能トイレスイッチとする

引き戸用検出装置
性能値
※ 改修標準仕様書表5.9.3による
種類 ・ 光線（反射）センサー ・ 熱線センサー ・ 音波センサー ・ 光電センサー
・ 電波センサー ・ タッチスイッチ ・ 押しボタンスイッチ
戸の開閉方式 ※ 建具表による
防錆 ・ 適用する ・ 適用しない
凍結防止措置 ・ 適用する ・ 適用しない

14 自閉式上吊り引戸装置 性能値等 ※ 標準仕様書表5.10.1による ［5．10．3］
（試験方法）
（１）耐久性（開閉繰り返し）試験
閉については外力によらず、試験体の自閉装置及び制御装置のみにより戸を開端位置から閉端位置までの作動を確認できる試験を行う。同試験に用いる試験体は片引戸とし、開口内法有効高さ2,000mm、幅は最大寸法とする。適用戸総質量の区分毎に試験を行う。自閉装置、制御装置は10万回以上の時点で1回のみ調整を行えるものとし、また、その他の制御装置についてはメーカーの耐久性能試験成績書において2万回以上の耐久性能を確認することで、試験に代えることができるものとする。
（２）耐衝撃性試験
落下高さ17ｃｍにて、ドアの中央部にドアが外れる方向に衝撃を与える。
耐衝撃性試験に用いる試験体は片引戸、開口内法有効寸法は高さ2,000mm、幅900mmとする。
適用戸総質量の区分毎に試験を行う。
（３）気密性能試験
JIS A 1516「建具の気密性試験方法」による。

15 重量シャッター ［5．11．2、3］
シャッターの種類 ・ 管理用シャッター
・ 外壁用防火シャッター
・ 屋内用防火シャッター
・ 防煙シャッター
外壁開口部に設ける重量シャッターの耐風圧強度（ ）Pa
開閉方式の種類 ※ 上部電動式（手動併用） ・ 上部手動式
安全装置
急降下制動装置、急降下停止装置を設けた電動シャッターの設置箇所
※ 図示 ・
障害物感知装置を設けた電動シャッターの設置箇所 ※ 図示 ・
屋内用防火シャッター若しくは防煙シャッターの危害防止機構の設置箇所
※「防火区画に用いる防火設備等の構造方法を定める件」（昭和48年12月28日建設省告示第2563号）に定める基準に適合するもの
・
管理用シャッターのシャッターケース ・ 設ける ・ 設けない
スラット及びシャッターケース用鋼板
鋼板の種類 ※ JIS G 3302（溶融亜鉛めっき鋼板及び鋼帯）
・ JIS G 3312（塗装溶融亜鉛めっき及び鋼帯）
めっきの付着量 ※ Z12又はF12を満足するもの
ガイドレール、まぐさ、雨掛りに用いる座板及び座板のカバー、雨掛りに用いるスイッチボックス類のふたの材質
ステンレス鋼板の材料 ※ SUS304、SUS430J1L又はSUS443J1 ・

16 軽量シャッター ［5．12．2～4］
開閉方式の種類 ※ 手動式 ・ 上部電動式（手動併用）
耐風圧強度 （ ）N／m2
障害物感知装置を設けた電動シャッターの設置箇所
※ 図示
スラットの材質の種類
※ JIS G 3312（塗装溶融亜鉛めっき鋼板及び鋼板）
めっきの付着量（ ※ Z06 又はF06を満足するもの ・ ）
・ JIS G 3312（塗装溶融５５%アルミニウム－亜鉛合金めっき鋼板及び鋼板）
めっきの付着量（ ※ AZ90を満足するもの ・ ）
スラットの形状 ※ インターロッキング形 ・ オーバーラッピング形
シャッターケース ※ 設ける ・ 設けない
ガイドレール（中柱共）の材質 ※ ステンレス鋼板（SUS304） 厚さ1.0mm

座板の材質（屋外の場合） ※ ステンレス製既製品 ・

17 オーバーヘッドドア ［5．13．2、3］

セクション材料による区分	耐風圧性能区分	開閉方式による区分	収納方式による区分	ガイドレールの材料
※スチールタイプ ・アルミニウムタイプ ・ファイバーグラスタイプ	・ 175 ・ 125 ・ 100 ・ 75 ・ 50	※バランス式 ・チェーン式 ・電動式	※スタンダード形 ・ローヘッド形 ・ハイリフト形 ・バーチカル形	※溶融亜鉛めっき鋼板 ・ステンレス鋼板

電動式タイプで障害物感知装置を設ける箇所 ※図示 ・

⑱ 木製建具 ［5．7．2～4］
建具材の加工、組立時の含水率 ※ Ａ種 ・
建物内部の木製建具に使用する表面材及び接着剤のホルムアルデヒド放散量
※ Ｆ☆☆☆ ・
⊙ フラッシュ戸
表面材のホルムアルデヒド放散量等 ※標準仕様書16.7.2(2)(f)(a)による
表面材の合板の種類

合板の種類	規格等	備考
⊙ 普通合板	表面の樹種 生地、透明塗料塗り （ ※ ラワン合板程度 ・ ） 不透明塗料塗り （ ※ しな合板程度 ・ ） 板面の品質（ ・ 広葉樹１等 ・ ） 接着の程度（ ・ 1類 ・ 2類 ）	
・ 天然木化粧合板	樹種名（ ） 接着の程度（ ・ 1類 ・ 2類 ）	
・ 特殊加工化粧合板	化粧加工の方法 （ ・ オーバーレイ ・ プリント ・ 塗装） 表面性能（ ）タイプ 接着の程度（ ・ 1類 ・ 2類 ）	
・ ミディアムデンシティファイバーボード（ＭＤＦ）	表裏面の状態による区分（ ） 曲げ強さによる区分（ ） 接着剤による区分（ ） 難燃性による区分（ ）	

表面板の厚さ ※改修標準仕様書表5.7.6による ・
引戸の召合せかまちのいんろう付きの適用 ・ 適用する ・ 適用しない
・ かまち戸
かまち樹種（ ） 鏡板樹種（ ）
見込み寸法 ※建具表による ・

事業年度 年度 工事完成 年度	設 計 令和 年 月	三原市都市部建築課	大	中	小	地域	施設	種類 建築	工事名 本郷小学校屋内運動場長寿命化改修工事	事務所名・建築士登録番号・氏名 有限会社 ＭａｓＭａｓ 一級建築士登録 第325897号 小松木 靖之 印	図面名称・縮尺 non scale (A3版-71%縮小) 改修工事特記仕様書-4	図 番 A-04

⑲ ガラス

・ ふすま
　張りの種別（ ・ Ⅰ型 ・ Ⅱ型）
　上張り（押入等の裏側以外） ・ 鳥の子 ・ 新鳥の子又はビニル紙程度
　縁仕上げ ・ 塗り縁 ・ 生地縁（素地） ・ 生地縁（ウレタンクリヤー塗装）
　見込み寸法 ※ 建具表による ・
・ 戸ぶすま 見込み寸法 ※ 建具表による ・
・ 紙張り障子 見込み寸法 ※ 建具表による ・
枠の材料 ※ 木製枠（６章内装改修工事による）
　・ 鋼製枠（※亜鉛めっき鋼板 ・ビニル被覆鋼板 ・カラー鋼板 ・ステンレス鋼板）
くつずりの材料 ・ ステンレス鋼板 ⊙ 木製
（3．7、5．13．2～4）（図5．14．1）

下記のガラス以外の品種、厚さの呼びによる種類等
※建具表による
合わせガラスの材料板ガラスの種類及び厚さの組合せ並びに合わせガラスの合計厚さ及び特性による種類 ※ 下記以外は建具表による

材料板ガラスの種類、組合せ	落球衝撃はく離特性並びにショットバック衝撃特性による種類
⊙ フロート板、フロート板合わせガラス	・ Ⅰ類 ・ Ⅱ－１類 ・ Ⅱ－２類 ・ Ⅲ類

強化ガラスの形状による種類、材料板ガラスの種類による名称及び特性による種類
※ 下記以外は建具表による

材料板ガラスによる種類による名称	材料板ガラス	破片の状態及びにショットバック衝撃特性による種類
・ フロート強化ガラス ・	・ フロート板ガラス ・	・ Ⅰ類 ・ Ⅲ類
	・	

熱線吸収板ガラスの板ガラスによる種類、厚さによる種類及び性能による種類
※ 下記以外は建具表による

材料板ガラスによる種類	性能による種類	色 調
・ 熱線吸収フロート板ガラス	・ １種 ・２ 種	・ グリーン
・ 熱線吸収網入り磨き板ガラス		

複層ガラスの材料板ガラスの種類及び厚さの組合せ並びに複層ガラスの厚さ
※ 下記以外は建具表による

断熱性による区分	乾燥気体の種類
・Ｔ１ ・Ｔ２ ・Ｔ３ ・Ｔ４ ・Ｔ５ ・Ｔ６	・ 空気 ・ アルゴン

日射取得性、日射遮蔽性による区分	乾燥気体の種類
・Ｇ ・ Ｓ	・ 空気 ・ アルゴン

熱線反射ガラスの材料板ガラスの種類及び厚さによる種類
※ 下記以外は建具表による

材料板ガラスによる種類	日射熱遮蔽性による区分	耐久性による区分
・ 色調（ ・ブルー ・ グレー ・ ）	・ １種 ・ ２種 ・ ３種	Ａ類 ・ Ａ類 ・ Ｂ類 Ｂ類

反射皮膜面 ・ 内面 ・ 外面
映像調整 ・ 行わない ・ 行う

ガラスの留め材及び溝の大きさ

建具の種類	ガラス留め材	ガラス溝の大きさ（mm）
アルミニウム製	※ シーリング材 ・ ガスケット ・ グレイジングチャンネル形 ・	※ 建具の製造所の仕様による ・
鋼製及び鋼製軽量	※ シーリング材 ・	※ 建具の製造所の仕様による ・
ステンレス製	※ シーリング材 ・	※ 建具の製造所の仕様による ・
樹脂製	※ シーリング材 ・ ガスケット ・ グレイジングチャンネル形 ・	※ 建具の製造所の仕様による ・

耐震性能
　建築非構造部材の耐震性能に係る特記事項による
（５．１４．５）

表面形状	呼び寸法（mm）	厚さ（mm）	色調 クリア	色調 乳白	目地幅（mm） 平積み	目地幅（mm） 曲面積み	伸縮調整目地位置（mm）	防火性能
・正方形	・160×160	・95 ・125	・	・	※8～15	外側 ※標準仕様書5.14.5(2)(ｳ)(a)② ・ 内側 ※標準仕様書5.14.5(2)(ｳ)(a)② ・	※6mm以下ごとに幅10～25 ・図示 ・	・無し ・有り
	・200×200	・95 ・125	・	・				

壁用金属枠及び補強材の材質・形状 ※ 図示

力骨 材質 ※ ステンレス鋼（SUS304）
　寸法 ※ 径5.5mm
　形状 ※ はしご形状複筋及び単筋
化粧目地モルタルの色（ ）
シーリングの種類 （ ）
金属製化粧カバー 材質 ・ ステンレス製 ・ アルミニウム製
　寸法 ※ 図示
　形状 ※ 図示
工法 1章 適用区分による風圧力の（ ・ 1 ・ 1.15 ・ 1.3）倍の風圧力に対応した工法
目地部の横力骨の納まり
※ガラスブロック製造所の仕様による ・ 図示

20 ガラスブロック積み

21 ガラス用フィルム

種 類	記号 内張り用	記号 外張り用	その他性能等
・ 日射調整フィルム	・ ＳＣ－１	・ ＳＣ－２	日射遮へい性能による区分 ・Ａ ・Ｂ ・Ｃ ・Ｄ ・Ｅ
・ 低放射フィルム	ＬＥ		熱還流率による区分 ・Ａ ・Ｂ ・Ｃ ・Ｄ
・ 衝撃破壊対応ガラス飛散防止フィルム	・ＧＩ－１	・ＧＩ－２	
・ 相関変位破壊対応ガラス飛散防止フィルム	・ＧＤ－１	・ＧＤ－２	
・ ガラス貫通防止フィルム	ＳＦ		ガラスの貫通防止性能による区分 ・Ａ ・Ｂ

品質 ＪＩＳ Ａ５７５９による

6 内装改修工事

1 他の部位との取り合い等

既存間仕切壁の撤去に伴う当該壁の取り合う天井、壁面及び床の改修範囲 [６．１．３]
※ 壁厚程度とし、既存仕上げに準じた仕上げを行う ・ 図示
天井内の既存壁の撤去に伴う当該壁の取り合う天井の改修範囲
※ 壁面より両側600mm程度とし、既存仕上げに準じた仕上げを行う ・ 図示
既存天井の撤去に伴う取り合い部の壁面の改修
※ 既存のまま ・ 図示

② 既存床の撤去及び下地補修

ビニル床シート等の撤去 ※ 仕上材のみ（接着剤とも） [６．２．２]
・ 下地モルタルとも（ ・ 図示の範囲 ・ 撤去範囲全て）
合成樹脂塗床材の除去工法 ・ 機械的除去工法 ・ 目荒し工法
既存のコンクリート又はモルタル面の下地処理に用いるポリマーセメントモルタル及びエポキシ樹脂モルタルは、４章外壁改修工事による。

3 既存壁の撤去及び下地補修

間仕切壁撤去に伴う他の構造体の補修 [６．３．２]
※ 改修標準仕様書4.3.10によるモルタル塗り
（仕上げ厚又は全塗厚25mmを超える場合の処置 ※ 図示 ・ ）
・

④ 製材

ホルムアルデヒド放散量 ※ Ｆ☆☆☆又は標準仕様書6.5.2(1)(ｳ)(b)による ・
・JAS 1083-5 製材 － 第５部に基づく下地用製材 [６．５．２]

施工箇所	寸法（mm）	等級	含水率	保存処理	間伐材等の適用
		※２級 ・	※Ａ種 ・Ｂ種 ・		・
		※２級 ・	※Ａ種 ・Ｂ種 ・		

・ JAS 1083-2 製材 － 第２部に基づく造作用製材

施工箇所	寸法（mm）	等級	含水率	保存処理	間伐材等の適用
見え掛り面		※上小節 ・	※Ａ種 ・Ｂ種 ・		・
見え掛り面以外		※小節以上 ・	※Ａ種 ・Ｂ種 ・		・

・ JAS 1083-6 製材 － 第６部に基づく広葉樹製材

施工箇所	寸法（mm）	等級	含水率	保存処理	間伐材等の適用
		※１等 ・	※10%以下 ・Ａ種 ・Ｂ種 ・		・
		※１等 ・	※10%以下 ・Ａ種 ・Ｂ種 ・		・

・ JAS 1083（製材）以外の製材

施工箇所	寸法（mm）	材面の品質	防虫処理	含水率	間伐材等の適用
		（ ） 造作材の場合 （※Ａ種 ・Ｂ種）	・適用する ・適用しない	※Ａ種 ・Ｂ種 ・	・

⑤ 造作用集成材 [６．５．２]

ホルムアルデヒド放散量 ※ Ｆ☆☆☆又は標準仕様書6.5.2(1)(ｳ)(b)による ・
⊙「集成材の日本農林規格」による造作用集成材

施工箇所	品名	樹種名	寸法（mm）	見付け材面	見付け材面の品質	間伐材等の適用
					※１等 ・２等	・

・「集成材の日本農林規格」による化粧ばり造作用集成材

施工箇所	品名	樹種名	寸法（mm）	化粧薄板の厚さ（mm）	見付け材面	見付け材面の品質	間伐材等の適用
		化粧薄板： 芯材：				※１等 ・２等	・

・「集成材の日本農林規格」以外の造作用集成材

施工箇所	樹種	寸法（mm）	化粧薄板の厚さ（mm）	見付け材面の品質	含水率	間伐材等の適用
	化粧薄板： 芯材：				※15%以下 ・	・

・「集成材の日本農林規格」以外の化粧ばり造作用集成材

施工箇所	樹種	寸法（mm）	化粧薄板の厚さ（mm）	見付け材面の品質	含水率	間伐材等の適用
	化粧薄板： 芯材：				※15%以下 ・	・

6 造作用単板積層材 [６．５．２]

ホルムアルデヒド放散量 ※ Ｆ☆☆☆又は標準仕様書6.5.2(1)(ｳ)(b)による ・
・ JAS 0701に基づく造作用単板積層材

施工箇所	品名	寸法（mm）	表面の化粧加工	防虫処理	間伐材等の適用
			・有り（加工：・天然木化粧加工 ・塗装加工） ・無し（等級： ）	・適用する ・適用しない	・

・ JAS 0701以外の造作用単板積層材

施工箇所	品名	寸法（mm）	表面の化粧加工	防虫処理	含水率	間伐材等の適用
			・有り （加工：・天然木化粧加工 ・塗装加工） ・無し（ ）	・適用する ・適用しない	※14%以下 ・	・

・ JAS 3079に基づく直交集積板

施工箇所	品名	強度等級	種別	接着性能（使用環境）	樹種名	寸法（mm）	間伐材等の適用
							・

7 合板等 [６．５．２]

ホルムアルデヒド放散量 ※Ｆ☆☆☆又は標準仕様書6.5.2(1)(ｳ)(b)による ・
⊙ 普通合板

施工箇所	厚さ（mm）	単板の樹種名	接着の程度	板面の品質	防虫処理	間伐材等の適用
	※5.5 ・		※1類 ・2類	広葉樹 ※2等以上 ・1等 針葉樹 ※C-D以上	⊙適用する ・適用しない	・

⊙ 構造用合板

施工箇所	等級	単板の樹種名	接着の程度	板面の品質	厚さ（mm）	防虫処理	強度等級	間伐材等の適用
	※2級以上 ・1級		※１類 ・特類	※C-D 以上 ・	※12 ・	⊙適用する ・適用しない	・適用する （ ） ・適用しない	・

・「合板の日本農林規格」による化粧ばり構造用合板

施工箇所	厚さ（mm）	単板の樹種名	接着の程度	防虫処理	間伐材等の適用
			※１類 ・特類	・適用する ・適用しない	・

・「合板の日本農林規格」による天然木化粧合板

施工箇所	化粧板に使用する単板の樹種名	厚さ（mm）	接着の程度	防虫処理	間伐材等の適用
			※１類 ・２類	・適用する ・適用しない	・

・「合板の日本農林規格」による特殊加工化粧合板

施工箇所	厚さ（mm）	接着の程度	表面性能	化粧加工の方法	防虫処理	間伐材等の適用
		※１類 ・２類			・適用する ・適用しない	・

・ パーティクルボード

施工箇所	表裏面の状態による区分	曲げ強さによる区分	耐水性による区分	難燃性による区分	厚さ（mm）
		※13タイプ ・	※Ｐ又はM ・		※15 ・

・ JAS 0360に基づく構造用パネル

施工箇所	等級	寸法（mm）
	・１級 ・２級 ・３級 ・４級	

・ ミディアムデンシティーファイバーボード（ＭＤＦ）

施工箇所	厚さ（mm）	表裏面の状態による区分	曲げ強さによる区分	接着剤による区分	難燃性による区分	間伐材等の適用

8 接合具等

造作材の化粧面の釘打ち [６．５．３]
※隠し釘打ち ・釘頭埋め木 ・つぶし頭釘打ち ・釘頭現し
諸金物
※かすがい、座金、箱金物、短冊金物
（標準仕様書 表6.5.3～5に示す程度の市販品 表8.20.1のF種程度）
・（形状： 寸法： 材質： ）

9 防腐・防蟻処理

・ 薬剤の加圧注入による防腐防蟻処理 ・ [６．５．５]

適用部材	保存処理性能区分
	・Ｋ２ ※Ｋ３ ・Ｋ４
	・Ｋ２ ※Ｋ３ ・Ｋ４
	・Ｋ２ ※Ｋ３ ・Ｋ４

・ 薬剤の塗布等による防腐、防蟻処理

適用部材	処理の方法	薬剤の種類
	※ 薬剤の製造所の仕様による ・	※ JIS Ｋ 1571に適合又は同等品 ・

・ 薬剤の接着剤への混入による防腐、防蟻処理
適用部位（ ）
・ 合板等の加圧注入処理等の適用
適用部位（ ）

10 内部間仕切り軸及び床組み

・ 間仕切軸組に用いる木材の樹木名（製材を用いる場合） [６．５．６]
※杉又は松
・ 床組みに用いる木材の樹種名（製材を用いる場合）

11 窓、出入口その他

・ 窓、出入口その他に用いる木材の樹木名（製材を用いる場合） [６．５．７]
※吊元枠、水掛りの下枠及び敷居はひのき、その他は杉又は松

12 床板張り

・ 縁甲板及び上がりかまちに用いる木材の樹種名（製材を用いる場合） [６．５．８]
※ひのき

13 壁及び天井下地

・ 壁胴縁、野縁受桟、野縁及び吊木に用いる木材の樹種名（製材を用いる場合）[６．５．９]
※杉又は松

14 軽量鉄骨天井下地

野縁等の種類 [６．６．２～４]
屋外（ ※ 25形 ・ ） 屋内（ ※ 19形 ・ 25形）
・ 屋外の軒天井、ピロティ天井等
工法
1章 適用区分による風圧力の（ ・ 1 ・ 1.15 ・ 1.3）倍の風圧力に対応した工法
野縁受、つりボルト及びインサートの間隔 ・ 図示 ・
周辺部の端からの間隔 ・ 図示 ・
野縁の間隔 ・ 図示 ・
既存の埋込みインサート ⊙ 使用する ・ 使用しない
あと施工アンカーの施工後の確認試験
⊙ 行う（試験箇所数 ※屋内の場合、当該階において3箇所 ・ ）
（確認強度 ※改修標準仕様書6.6.4(1)(ｳ)による ・ ）
・ 行わない

・ つりボルトの間隔が900mmを超える場合
補強方法 ※ 図示 ・
・ 天井のふところが3.0mを超える場合
補強方法 ※ 図示 ・

・ 天井の下地材における耐震性を考慮した補強
補強箇所 ※ 高さが６ｍを超える天井 ・ 図示 ・
補強方法 ※ 「特定天井及び特定天井の構造耐力上安全な構造方法を定める件」（平成25年国土交通省告示第771号）第３第２項第二号に適合させる。
・ 図示
耐震性能
建築非構造部材の耐震性能に係る特記事項による

15 軽量鉄骨壁下地

スタッド、ランナの種類 [６．７．３、４]［表６．７．１］
※ 改修標準仕様書表6.7.1によるスタッドの高さによる区分に応じた種類 ・図示
スタッドの高さが5.0mを超える場合 ※ 図示
出入口及びこれに準ずる開口部の補強 ※ 改修標準仕様書6.7.4.(5)による

⑯ ビニル床シート [６．８．２、３]

種類の記号	色柄	特殊機能	厚さ（mm）	備考
※ＦＳ ・	⊙ 無地 ・ マーブル柄 ⊙ 柄物（木目調 上等品）	・ 帯電防止 ・ 耐動荷重性 ⊙ 防滑性	※ 2.0 ⊙ 2.5	

※目地処理（工法 ※ 熱溶接工法 ・ ） ・ 突付け（施工箇所： ）
特殊機能
帯電防止 ・ 帯電防止性能評価値（JIS A 1455）1.2以上～3.2未満
又は体積電気抵抗値（JIS A 1454）1×10^{7}～$1\times10^{9}\Omega$程度
・

17 ビニル床タイル [６．８．２]

種類の記号	色柄	寸法	特殊機能	厚さ（mm）	備考
※ＫＴ ・ＴＴ ・ＦＴ ・ＦＯＡ ・ＦＯＢ	・ 無地 ⊙ 柄物	・ 300×300 ⊙ 450×450 ・ 500×500	⊙ 帯電防止 ・ 防滑性	※ 2.0 ・ 2.5 ・ 3.0	

特殊機能
帯電防止 ⊙ 帯電防止性能評価値（JIS A 1455）1.2以上～3.2未満
又は体積電気抵抗値（JIS A 1454）1×10^{7}～$1\times10^{9}\Omega$程度
・

⑱ 接着剤 [６．５．３、４] [６．８．２][６．９．３][６．１１．４、５]

接着剤は可塑剤（難揮発性の可塑剤を除く）が添加されていないものとする。
ホルムアルデヒド放散量
※ 規制対象外 ・
施工箇所の下地がセメント系下地及び木質系下地以外の場合の接着剤の種別
・ 図示

⑲ ビニル幅木 [６．８．２]

材質の種類 ※ 軟質 ・ 硬質
高さ（mm） ※ 60 ・ 75 ・ 100
厚さ（mm） ※ 1.5以上 ・

20 ゴム床タイル [６．８．２]

種類 ・ 単層品 ・ 複層品
色柄 （ ）
厚さ（mm） ・ 3.0 ・ 4.5 ・ 6.0 ・ 9.0
寸法（mm）（ ）

21 カーペット敷き [６．９．２、３][表６．９．１]

・ 織じゅうたん

織り方	パイルの形状	帯電性	備考
・ ウィルトンカーペット ・ ダブルフェースカーペット ・ アキスミンターカーペット	・ カットパイル ・ ループパイル ・ カット、ループ併用	・ 適用する ・ 適用しない	

色柄
※模様のない無地
パイル糸の繊維種等
※無地の織りじゅうたんの種別（・A種 ・B種 ・C種）
織じゅうたんの接合方法
※ ヒートボンド工法 ・ つづり縫い

・ タフテッドカーペット

パイルの形状	パイル長さ（mm）	工法	帯電性	備考
・ カットパイル ・ ループパイル ・ カット、ループ併用	・ 5～7 ・ ・ 4～6 ・ ・	※ 全面接着工法 ・ グリッパー工法	・ 適用する ・ 適用しない	

タフテッドカーペット用接着剤のホルムアルデヒド放散量
※Ｆ☆☆☆

⊙ タイルカーペット

パイルの形状	種類	施工箇所	寸法（mm）	総厚さ（mm）	備 考
※ ループパイル	※ 第一種 ・ 第二種	校長室	※ 500×500	※ 6.5	
・ カットパイル	・ 第一種 ・ 第二種		※ 500×500	※ 6.5	
・ カット、ループ併用	・ 第一種 ・ 第二種		※ 500×500	※ 6.5	

タイルカーペット用接着剤のホルムアルデヒド放散量
※Ｆ☆☆☆
タイルカーペットの敷き方 平 場 ※ 市松敷き ・ 模様流し ・
階段部分 ※ 模様流し ・ 市松敷き ・
見切り、押え金物の材質、種類及び形状 ※ 図示 ・
下敷き材 ※ 反毛フェルト（JIS L 3204）の第2種2号 呼び厚さ 8mm ・

事業年度 年度 工事完成 年度	設 計 令和 年 月	三原市都市部建築課	大	中	小	地域	施設	種類 建築	工事名 本郷小学校屋内運動場長寿命化改修工事	事務所名・建築士登録番号・氏名 有限会社 ＭａｓＭａｓ 一級建築士登録 第325897号 小松木 靖之 印	図面名称・縮尺 non scale (A3版-71%縮小) 改修工事特記仕様書-5	図 番 A-05

22 合成樹脂塗床 ［6．10．2、3］

種別	施工箇所	工法	仕上げの種類
・厚膜型塗床材 弾性ウレタン樹脂系塗床			※ 平滑仕上げ ・ 防滑仕上げ ・ つや消し仕上げ
・厚膜型塗床材 エポキシ樹脂系塗床		・薄膜流しのべ工法 ・厚膜流しのべ工法 ・樹脂モルタル工法	・平滑仕上げ ・防滑仕上げ
・薄膜型塗床材			※ 平滑仕上げ

塗料のホルムアルデヒド放散量 ※Ｆ☆☆☆ ・

23 防じん用塗床

材料 水性アクリル系樹脂塗材とし、製造所の指定する製品とする
工法 製造所の指定する工法とする
なお、上塗りは２回塗りとし、総塗布量は０．２５ｋ／ｍ2以上とする
仕上げの種類（ ※ 平滑仕上げ ・ 防滑仕上げ ）（ ※ 標準色 ・ ）
JIS K 5970に基づく塗料のホルムアルデヒド放散量 ※ Ｆ☆☆☆ ・

24 フローリング張り ［6．11．2～6］

単層フローリング

種類	工法	樹種	厚さ（mm）	間伐材等の適用
・フローリングボード１等	・釘留め工法（根太張り）	※ なら ・	15	・
	・釘留め工法（直張り）	※ なら ・	・ 12	・
	・接着工法	※ なら ・	・ 8	・
・フローリングブロック１等	・接着工法	※ なら ・	15	・

複合フローリング

種類	工法	樹種	種別	厚さ（mm）	間伐材等の適用
⊙ 天然木化粧複合フローリング	・釘留め工法(根太張り)	※ なら ・	・Ａ種	・ 15	・
	・釘留め工法(直張り)		・Ｂ種	・ 12	
			※ Ｃ種	・ 12	
	⊙ 接着工法	※ なら ・	・Ａ種	・ 12	・
			・Ｂ種	・ 12	
			※ Ｃ種	・ 12	

フローリング及び接着剤のホルムアルデヒド放散量 ※ 改修標準仕様書6.11.2(2)による ・
各工法に使用する接着剤のホルムアルデヒド放散量 ※Ｆ☆☆☆
接着工法の場合の裏面緩衝材 ※ 合成樹脂発泡シート
現場塗装仕上げ ・ 行う
※ ウレタン樹脂ワニス塗り
・ オイルステインの上、ワックス塗り
・ 生地のままワックス塗り
・ 行わない

25 畳敷き ［6．12．2］

種別 ・Ａ種 ・Ｂ種 ・Ｃ種 ※Ｄ種（畳床：・ＫＴ－Ⅰ ・ＫＴ－Ⅱ ※ＫＴ－Ⅲ ・ＫＴ－Ｋ ・ＫＴ－Ｎ）
下地の種類 ・ 標準仕様書12.6.1による床組
・ ポリスチレンフォーム床下地（ノンフロン ）
・
畳表及び畳床はホルムアルデヒド、アセトアルデヒド及びスチレンを発散しないか、発散が極めて少ない材料を使用したものとする。
衝撃緩和型畳（畳表：・Ｃ1 ・Ｃ2）

㉖ せっこうボードその他ボード及び合板張り ［6．13．2、3］

ＭＤＦ、パーティクルボード及び接着剤のホルムアルデヒド放散量
※Ｆ☆☆☆☆
合板のホルムアルデヒド放散量
※標準仕様書19.7.2(2)(イ)の(a)～(d)のいずれか

種類	JISの記号	厚さ（mm）、規格等
・硬質木毛セメント板	HM	・15 ・20 ・25 ・
・中質木毛セメント板	MM	・15 ・20 ・25 ・
・普通木毛セメント板	NM	・15 ・20 ・25 ・
・硬質木片セメント板	HF	・12 ・15 ・18 ・21 ・
・普通木片セメント板	NF	・30 ・
・けい酸カルシウム板	0.8FK 1.0FK	タイプ２（無石綿） ・６ ・８
・ロックウール化粧吸音板	DR	・フラットタイプ（・９(不燃) ・12(不燃) ・ ） ・凹凸タイプ（・12(不燃) ・15(不燃) ・ ）
・ロックウール吸音ボード1号	RW-B	・25 ・
・グラスウール吸音ボード32K	GW-B	・25(ガラスクロス包) ・
・せっこうボード	GB-R	※ 12.5（不燃） ・15（不燃）
・不燃積層せっこうボード	GB-NC	９.５（不燃） 化粧無（下地張り用） 化粧有（トラバーチン模様）
・シージングせっこうボード	GB-S	12.5 （※不燃 ・準不燃）
・強化せっこうボード	GB-F	・12.5（不燃） ・15（不燃）
・せっこうラスボード	GB-L	９.５
・化粧せっこうボード（木目）	GB-D	12.5 （不燃）幅 440mm 程度 模様（・ 柾目 ・ 板目） 専用下地材有り
⊙ 化粧せっこうボード（吉野石膏スクエアトーン同等品）	GB-D	９.５（準不燃）
⊙ 普通合板		表板の樹種名 生地、透明塗料塗り （ ※ ラワン程度 ・ ） 不透明塗料塗り （ ※ しな程度 ・ ） 板面の品質（ ） 厚さ（mm）（ ） 接着の程度（・１類 ・２類 ） 防虫処理（・ 行う ・ 行わない）
・ 天然木化粧合板		樹種名（ ） 接着の程度（・１類 ・２類 ） 厚さ（mm）（ ） 防虫処理（・ 行う ・ 行わない）
・ 特殊加工化粧合板		化粧加工の方法（ ・オーバーレイ ・プリント ・塗装） 表面性能（ ）タイプ 接着の程度（・１類 ・２類 ） 厚さ（mm）（ ） 防虫処理（ ・ 行う ・ 行わない）
・ メラミン樹脂化粧板		JIS K 6903 による厚さ （ ※ 1.2 ・ ）
・ ポリエステル樹脂化粧板		
・ ミディアムデンシティファイバーボード	MDF	・３ ・７ ・９ ・12 ・
・ 単板張り パーティクルボード		・ 無研磨板 ＶＮ ・ 研磨板ＶＳ ・10 ・12 ・15 ・18 ・
・ 化粧石こう吸音板		９.５（準不燃）
・ 化粧パーティクルボード		・ 単板オーバーレイ ＤＶ ・ プラスチックオーバーレイ ＤＯ ・ 塗装 ＤＣ ・ 10（難燃） ・12（難燃） ・
・ ハードボード（素地）	HB	・ 無研磨板（ ・スタンダード ・テンパード ＲＮ） ・ 研磨板 （ ・スタンダード ・テンパード ＲＳ）
・ ハードボード（化粧）		・ 内装用ＤＩ ・外装用ＤＥ ・２.５ ・３.５ ・５ ・７ ・
・ インシュレーションボード	IB	A級（ ・ 天井仕上げ ・ 内装仕上げ ・ ） ・９ ・12 ・15 ・18 ・

天井のボード類（ロックウール吸音板を除く）の重ね張りを行う場合
※ 図示による
合板の張付け ・Ａ種 ・Ｂ種
せっこうボードの目地工法 ・ 仕上表による ・

27 壁紙張り ［6．14．2、3］

ホルムアルデヒド放散量 ※ Ｆ☆☆☆☆

施工箇所	壁紙の種類 紙	繊維	プラスチック	無機質	その他	防火性能	備考
	・	・	・	・	・	⊙ 不燃 ・準不燃 ・難燃	
	・	・	・	・	・	・ 不燃 ・準不燃 ・難燃	

モルタル・せっこうプラスター面の素地ごしらえの種別 ※ Ｂ種 ・
コンクリート面の素地ごしらえの種別 ※ Ｂ種 ・
せっこうボード面及びその他ボード面の素地ごしらえの種別 ※ Ｂ種 ・

㉘ モルタル塗り ［6．15．3、5、6］

モルタル ※ 現場調合材料 ・ 既調合材料（材料 ）
既製目地材 ・ 設ける 施工箇所（ ） 形状（ ※ 図示 ・ ）
・ 設けない
床の目地 ・ 設ける（目地割り ※ ２ｍ2程度（最大目地間隔３ｍ程度 ・ ）
（種類 ※ 押し目地 ・ ）
・ 設けない
外装タイル張り下地等の下地モルタル塗り及び下地調整材塗りの接着力試験
・ 適用する ・ 適用しない
壁面の仕上げ厚又は全塗り厚が25mmを超える場合の下地処理
・図示による
建具回り等の充填モルタルに使用する防水剤
（品質・性能）
（試験方法）JIS A1404「建築用セメント防水剤の試験方法」による

項目	品質・性能
防水剤の種別	建築用のモルタルに用いるセメント防水剤
混合割合	セメント重量の5%以下
凝結及び安定性	（凝結時間）始発：1時間以上 終結：10時間以内 （安定性）収縮性、膨張性のひび割れ及びそりの有無について確認する。
曲げ及び圧縮強度比	防水剤を混入したもの、しないものの曲げ強度比及び圧縮強度比 70%以上
吸水比	防水剤を混入したもの、しないものの吸水比 95%以下
透水比	防水剤を混入したもの、しないものの透水比 80%以下 ただし、透水試験における水圧は、3.0×10^{5}Ｐａとし1時間行う

29 タイル張り ［6．16．2～4］

伸縮調整目地の位置 床タイル（ ※ 縦、横とも4m以内ごと ・ 図示 ・ ）
床タイル以外（ ※ 図示 ・ ）
・ セメントモルタルによるタイル（セラミックタイル）張り

施工箇所	形状/寸法（mm）	再生材料の適用	吸水率による区分 Ⅰ類	Ⅱ類	Ⅲ類	うわぐすり 施ゆう	無ゆう	役物 有	無	色 標準	特注	耐凍害性 有	無	耐滑り性	備考
		・	・	・	・	・	・	・	・	・	・	・	・		
		・	・	・	・	・	・	・	・	・	・	・	・		

耐滑り性：JIS A 1509-12（セラミックタイル試験方法ー第12部：耐滑り性試験方法） で規定する
C.S.R値は0.4～1.0とする。
標準的な曲がりの役物は一体成形とする
試験張り ・ 行う ※ 行わない
見本焼き ・ 行う ・ 行わない

既調合モルタル
モルタル下地としたタイル工事に使用する強付け用モルタルとして、セメント、細骨材、混和剤等を予め工場において所定の割合に配合した材料とする。

（品質・性能）

項目	品質・性能	項目	品質・性能
保水率	70.0%以上	長さ変化率	0.20%以下
単位容積質量	1.80ｋ／Ｌ以上	曲げ強さ	4.0Ｎ/mm2以上
接着強さ 標準時	0.60Ｎ/mm2以上		
接着強さ 温冷繰り返し後	0.40Ｎ/mm2以上		

（試験方法）
（１）試料の調製
製造業者の定める、正味質量と標準練り上がり量より換算して、所定量の試料を練り上げるのに要する材料と練り混ぜ水を計算して用意する。
練り混ぜは、JIS R5201「セメントの物理試験方法」の10.2に規定する練り混ぜ機を使用し、練りぱちに用意した水を入れ、撹拌しながら30秒間に材料を投入し、3分間練り混ぜて試料とする。
（２）保水率の試験方法
JIS R3202「フロート板ガラス及び磨き板ガラス」に規定する磨き板ガラス（縦150mm、横150mm、厚さ5mm）の上にJIS P3801「ろ紙（化学分析用）」に規定する5 Aろ紙（直径11ｃｍ）をのせ、その中央部に真ちゅう製リング型わく（内径50mm、高さ10mm、厚さ３mm）を設置し、（１）で調製した試料を平滑に詰込む。
その後、直ちにリング型わく上部にガラス板を当てて上下を逆さまにし、ろ紙部分が上部になるようにして静置する。 60分後にろ紙へにじみ出した水分の広がりが最大と認められた方向とこれに直角な方向の長さをノギスを用いて、１mmの単位まで測定する。
試験は３回実施し、その平均値を用いて次式により保水率を求める。
保水率＝50／平均値×100 （注） 50：リング型わくの内径 mm
（３）単位容積質量の試験方法
JIS A 1171「ポリマーセメントモルタルの試験方法」に準ずる。

（４）接着強さ（標準時）の試験方法
イ）適用タイルが「モザイクタイル」の場合
（試験体の作製）JIS A5371「プレキャスト無筋コンクリート製品」に規定する普通平板Ｎ－300を下地板とし、表面をサンドペーパーを用いて軽く研磨した後、水湿しを行い直ちに（１）で調製した試料を厚さ5mmになるように塗付ける。直ちにJIS A 5209「セラミックタイル」に規定するタイルで押出し又はプレス成形による施ゆうの「50角ユニットタイル（外のリサ法約300mm×300mm）」を圧着する。その後、28日間、温度20±2℃、湿度80%以上の状態で湿空養生を行い、これを試験体とする。
（試験方法）JIS A 6909「建築用仕上塗材」の7.10付着強さ試験に準じて行う。試験体をダイヤモンドカッターを用いて、タイル周辺に沿って下地板に達するまで切り込みを入れ、シ樹脂接着剤で鋼製アッタッチメントを接着し、引張試験機を用いて接着強さエポキ試験を行う。なお、接着強さの測定箇所は、試験体の中からまんべんなく5箇所を選び抜き取る。
（全てが0.6Ｎ/mm2以上を確保していること）。
また、試験後の部材破断位置の表示を下記の中から選び明記する。
Ｔ ：タイルの母材破断 Ｍ ：既調合モルタルと下地板の界面破断
ＴＭ：既調合モルタルとタイルの界面破断 ：下地板の母材破断
Ｍ ：既調合モルタルの母材破断
ロ）適用タイルが「小口タイル・二丁掛けタイル」の場合
（試験体の作製）JIS A 5371「プレキャスト無筋コンクリート製品」に規定する普通平板Ｎ－300を下地板とし、表面をサンドペーパーを用いて軽く研磨した後、水湿しを行い直ちに（１）で 調製した試料を厚さ7mmになるよう塗付ける。直ちに JIS A 5209「セラミックタイル」 に規定するタイルで押出し又はプレス成形による施ゆうの「小口タイル 108mm×60mm×12mm」を4枚2列、計8枚を圧着する。その後、28日間、温度20±2℃、湿度80%以上の状態で湿空養生を行い、これを試験体とする。
（試験方法）「モザイクタイル」の場合と同様に行う。

（５）接着強さ（温冷繰返し後）の試験方法
（試験体の作製）「モザイクタイル」及び「小口タイル・二丁掛タイル」とも、各々（４）接着強さ（標準時）の試験方法の「試験体」と同様とする。
（温冷繰返し試験）「モザイクタイル」及び「小口タイル・二丁掛タイル」とも、各々JIS A6909「建築用仕上塗材」に規定する7.11温冷繰返し試験に準じて行う。
試験の手順は、試験体を20±2℃の水中に18時間浸せきした後、直ちに－20±2℃の恒温器中で3時間冷却し、次いで50±3℃の別の恒温器中で3時間加温し、この24時間を１サイクルとする操作を10回繰返した後、試験室に2時間静置し、ひび割れ及び膨れの有無を目視によって調べる。
（温冷繰返し後の接着強さ試験方法）「モザイクタイル」及び「小口タイル・二丁掛タイル」とも、各々温冷繰返し試験完了後の試験体を標準状態で2日間静置養生した後、標準時の接着強さ試験方法と同様に行う。（全てが0.4Ｎ/mm2以上を確保していること）
（６）長さ変化率の試験方法
JIS A 6203「セメント混和用ポリマーディスパージョン及び再乳化形粉末樹脂」9.9 長さ変化率に準ずる。
（７）曲げ強さの試験方法
JIS A 6916「建築用下地調整塗材」の7.11 曲げ強さ試験に準ずる。
試験室の状態：試験室は温度20±2℃、湿度65±10%とする。
既調合目地材
（品質・性能）

項目	品質・性能	項目	品質・性能
保水率	30.0%以上	吸水量	50以下
長さ変化率	0.2%以下（収縮）	単位容積質量	1.80ｋ／Ｌ以上

（試験方法）
（１）試験の条件
試験室は、温度20±2℃、湿度65±5% RHの標準状態とする。また、試験に使用する材料、器具などを、予め24時間以上標準状態に置いた後使用する。
（２）試料の調整
正味質量と標準練り上がり量より、1.0～1.2Ｌの試料を練り上げるのに要する材料に相当する量を計算して用意し、さらに標準加水量より用意した材料に相当する量の練り混ぜ水を計算して用意する。 練り混ぜは、JIS R 5201「セメントの物理試験方法」11.2に規定する練り混ぜ機を使用し、練りぱちに用意した水を入れ、撹拌しながら30秒間に材料を投入し3分間練り混ぜて試料とする。
（３）保水性（ろ紙法）
JIS R 3202「フロート板ガラス及び磨き板ガラス」に規定する磨き板ガラス（縦200mm、横200mm、厚さ5mm）の上にJIS P 3801「ろ紙（化学分析用）」に規定する5 Aろ紙（直径18.5ｃｍ）をのせ、その中央部に真鍮製リング型わく（内径50mm、高さ10mm、厚さ3mm）を設置し、２）で練り混ぜた試料を金ベらで平滑に詰め込む。その後、直ちにリング型わく上部にガラス板を当て上下を逆さにし、ろ紙部分が上部になるようにして静置する。
10分後にろ紙へにじみ出した水分の広がりが最大と認められた方向とこれに直角な方向の長さをノギスを用いて１mmまで測定する。 試験は3回実施し、その平均値を用いて次式により保水率を求める。
保水率（%）＝50／平均値×100 注）50：リング型わくの内径（mm）
（４）単位容積質量
（２）で練り混ぜた試料を、JIS A 1171「ポリマーセメントモルタルの試験方法」の6.4に規定する方法で求める。
（５）長さ変化率
（２）で調整した試料を用いてJIS A 1171の7.8長さ変化率試験に従って行う。
（６）吸水量
（２）で調整した試料を用いてJIS A 1404「建築用セメント防水剤の試験方法」7.5に規定する方法で24時間の吸水量を求める。試験体数は3個とし、その平均値とする。
有機系接着剤によるタイル（セラミックタイル）張り
タイルの形状、寸法等

施工箇所	形状/寸法（mm）	再生材料の適用	吸水率による区分 Ⅰ類	Ⅱ類	Ⅲ類	うわぐすり 施ゆう	無ゆう	役物 有	無	色 標準	特注	耐凍害性 有	無	備考
		・	・	・	・	・	・	・	・	・	・	・	・	
		・	・	・	・	・	・	・	・	・	・	・	・	

標準的な曲がりの役物は一体成形とする
有機質接着剤のホルムアルデヒド放散量 ※Ｆ☆☆☆ ・

30 セルフレベリング材塗り ［6．17．2、3］

塗厚（mm） ※10mm程度 ・

⑦ 塗装改修工事

① 材料 ［7．1．3］

屋内で使用する塗料のホルムアルデヒド放散量
※ Ｆ☆☆☆ ・
防火材料 ※ 屋内の壁、天井仕上げは防火材料とする
・ 次の箇所を除き防火材料とする（ ・ ）

② 下地調整、素地ごしらえ ［7．2．1～7］

塗替え種別がＲＢ種の場合の既存塗膜の除去範囲
※ 劣化部分は除去し、活膜部分は残す ・
下地調整、素地ごしらえ

下地面の種別	塗替え 下地調整の種別	新規 素地ごしらえの種別	ひび割れ部の補修
木部	※ＲＢ種 ・	・Ａ種 ・Ｂ種	―
鉄鋼面	※ＲＢ種 ・	Ｃ種	―
鉄鋼面（ＤＰ）	※ＲＢ種 ・	Ｂ種	―
亜鉛めっき面	※ＲＢ種 ・	・Ａ種 ・Ｂ種	―
モルタル面、せっこうプラスター面	※ＲＢ種 ・	・Ａ種 ・Ｂ種	・行う
コンクリート面（ＤＰ以外） ＡＬＣパネル	※ＲＢ種 ・	・Ｂ種	・行う
押出成形セメント板面（ＤＰ） コンクリート面	・ＲＢ種 ・ＲＣ種	・Ａ種 ・Ｂ種	・行う
せっこうボード面、その他ボード面	※ＲＢ種 ・	・Ａ種 ・Ｂ種	―

③ 錆止め塗料塗り ［7．4．2、3］

錆止め塗料塗りの種別

塗装面			塗料の種別	工程の種別
鉄鋼面	ＳＯＰ	新規見え掛り		・Ａ種 ・
		新規見え隠れ		・Ｂ種 ・
		塗替え		・Ｃ種 ・
	ＥＰ－Ｇ	新規見え掛り	・Ａ種 ※Ｂ種	・Ａ種 ・
		新規見え隠れ		・Ｂ種 ・
		塗替え		・Ｃ種 ・
	ＤＰ	新規		・Ａ種 ・
亜鉛めっき鋼面	ＳＯＰ	新規鋼製建具等	※Ａ種 ・Ｂ種	・Ａ種 ・
		新規その他		・Ｂ種 ・
		塗替え		・Ｃ種 ・
	ＥＰ－Ｇ	新規鋼製建具等		・Ａ種 ・
		新規その他		・Ｂ種 ・
		塗替え		・Ｃ種 ・

④ 仕上げ塗料塗り ［7．5．2～7．13．2］

塗装の種類	塗装面	工程 塗替え	工程 新規
⊙合成樹脂調合ペイント塗り（ＳＯＰ） 塗料の種類 ※１種 ・２種	木部屋外	※Ｂ種 ・	※Ａ種 ・
	木部屋内	※Ｂ種 ・	※Ｂ種 ・
	鉄鋼面	※Ｂ種 ・	・Ａ種 ※Ｂ種
	亜鉛めっき鋼面（鋼製建具以外）	※Ｂ種 ・	※Ｂ種 ・
	亜鉛めっき鋼面（鋼製建具）	※Ａ種 ・	※Ｂ種 ・
・クリアラッカー塗り （ＣＬ）	木部	・Ａ種 ※Ｂ種	・Ａ種 ※Ｂ種
・アクリル樹脂系非水分散形塗料塗り（ＮＡＤ）		・Ａ種 ※Ｂ種	・Ａ種 ※Ｂ種
⊙耐候性塗料塗り（ＤＰ） 上塗り等級 ・１級 鉄骨階段、庇：構造部材 ・２級 ⊙３級 上記以外	コンクリート面及び押出成形セメント板面	・Ａ－１種 ・Ｂ－１種 ・Ｃ－１種	・Ａ－１種 ・Ｂ－１種 ・Ｃ－１種
⊙つや有合成樹脂エマルションペイント塗り（ＥＰ－Ｇ）	コンクリート面	※Ｂ種 ・	・Ａ種 ・Ｂ種
	モルタル面	※Ｂ種 ・	・Ａ種 ・Ｂ種
	せっこうプラスター面	※Ｂ種 ・	・Ａ種 ・Ｂ種
	せっこうボード面	※Ｂ種 ・	・Ａ種 ・Ｂ種
	屋内木部	※Ｂ種 ・	※ Ａ 種
	屋内鉄鋼面	※Ｂ種 ・	・Ａ種 ・Ｂ種
	屋内亜鉛めっき面	※Ａ種 ・	※Ａ種 ・Ｂ種
⊙合成樹脂エマルションペイント塗り（ＥＰ）		※Ｂ種 ・	・Ａ種 ・Ｂ種
・ウレタン樹脂ワニス塗り （ＵＣ）			・Ａ種 ※Ｂ種
・スティン塗り			・ピグメントスティン塗り ・オイルスティン塗り（ＯＳ）
・木材保護塗料塗り （ＷＰ）			・Ａ種 ※Ｂ種 ・Ａ種 ※Ｂ種

つや有合成樹脂エマルションペイント塗り（コンクリート面、モルタル面、せっこうプラスター面、せっこうボード面、その他ボード面）の塗替えの場合のしみ止め
※ Ｂ種又は1種の場合は改修標準仕様書表7.9.1のＡ種１の下塗りをしみ止めシーラーとする

合成樹脂エマルションペイント塗りの塗替えの場合のしみ止め
※ Ｂ種又は1種の場合は改修標準仕様書表7.10.1のＡ種１の下塗りをしみ止めシーラーとする

・ 高日射反射率塗料塗り
下地調整（改修標準仕様書表7.2.2） ・ ＲＡ種 ※ ＲＢ種 ・ ＲＣ種

工程	塗料その他 規格番号	規格名称	種類	等級	塗付け量（ｋ/m2）
塗料塗り	JIS K 5675	屋根用高日射反射率塗料	2種	・1級 ・2級 ・3級	塗料製造所の仕様による

クリアラッカー塗りＡ種の工程２の着色
・適用しない ・適用する（着色剤：・溶剤形着色剤 ・油性染料着色剤）
ウレタン樹脂ワニス塗りの工程１の着色
・適用しない
・適用する（着色剤：・ 油性顔料着色剤 ・ 溶剤形顔料着色剤）
オイルステイン塗りの工程等

8 耐震改修工事

特記仕様書（構造関係）による

⑨ 環境配慮改修工事

① 石綿含有建材の除去工事 ［9．1．1、3～5］

調査
⊙ 石綿含有建材の事前調査
工事着手に先立ち、あらかじめ関係法令に基づき、石綿含有建材の事前調査を行う。
貸与資料（ 分析結果報告書 ）

⊙ 分析による石綿含有建材の調査
分析対象
アクチノライト、アモサイト、アンソフィライト、クリソタイル、クロシドライト、トレモライト
分析方法

材料名	分析方法（定性） JIS A 1481-1又はJIS A 1481-2	分析方法（定量） JIS A 1481-3又はJIS A 1481-4
	・ 箇所	・ 箇所
	・ 箇所	・ 箇所
	・ 箇所	・ 箇所

材料が仕上塗材の場合は、層ごとの分析を行うこと
サンプル数 １箇所あたり３サンプル
採取箇所 ・ 図示 ・

⊙ アスベスト粉じん濃度測定
測定時期、場所及び測定点

適用	測定名称	測定時期	測定場所	測定点（各施工箇所ごと）
・	測定１	処理作業前	処理作業室内	・ 計 点
・	測定２		調査対象室外部の付近	・ 計 点
・	測定３	処理作業中	処理作業室内	・ 計 点
※	測定４		セキュリティゾーン入口	・ 計 点
※	測定５		集じん・排気装置の排出口（処理作業室外の場合）	出口吹出し風速１ｍ／ｓ以下の位置 ・ 計 点
※	測定６		処理作業室外 ・施工区画周辺 ・敷地境界	・ 計 点
※	測定７	処理作業後（シート養生中）	処理作業室内	・ 計 点
・	測定８	処理作業後	処理作業室内	・ 計 点
・	測定９	（シート撤去後１週間以降）	調査対象室外部の付近	・ 計 点

| | | |

測定方法
⊙ 自動測定器による測定

測定名称	測定方法
・ 測定4 ・ 測定5 ・ 測定（　　）	粉じん相対濃度計（デジタル粉じん計）、パーティクルカウンター、繊維状粒子自動測定器（リアルタイムファイバーモニター）等の粉じんを迅速に測定できる機器を用いた測定

・ JIS K 3850-1に基づいた測定

測定名称	メンブレンフィルタ直径（mm）	試料の吸引流量（l/min）	試料の吸引時間（min）
・ 測定4 ・測定5 ・測定（　　）	25	5	30
・ 測定（　　）	47	10	120
・ 測定（　　）	47	10	240
・ 測定（　　）			

石綿含有建材の処理
⊙ 石綿含有吹付け材の除去
除去対象範囲 ※ 図示
除去工法 ※ 改修標準仕様書9.1.3(2)(ｱ)による
・
除去した石綿含有吹付け材等の飛散防止措置 ※ 湿潤化 ・ 固形化
除去した石綿含有吹付け材等の処分
・ 埋立処分（管理型最終処分場） ・ 中間処理（溶融施設又は無害化処理施設）

・ 石綿含有保温材等の除去
除去対象範囲 ※ 図示
除去工法 ※ 原形のまま、手ばらし ・ 破砕して除去
除去した石綿含有吹付け材等の飛散防止措置 ※ 湿潤化 ・ 固形化
除去した石綿含有保温材等の処分
・ 埋立処分（管理型最終処分場） ・ 中間処理（溶融施設又は無害化処理施設）

⊙ 石綿含有成形板（石綿含有けい酸カルシウム板第1種以外）の除去
除去対象範囲 ※図示
除去した石綿含有成形板の処分
⊙ 石綿含有石こうボード
※ 埋立処分（管理型最終処分場）
⊙ 石綿含有せっこうボードを除くアスベスト含有成形板
・ 埋立処分（安定型最終処分場）
・ 中間処理（溶融施設又は無害化処理施設）

⊙ 石綿含有成形板（石綿含有けい酸カルシウム板第1種）の除去
除去対象範囲 ※図示
養生方法
・
除去した石綿含有けい酸カルシウム板第1種の処分
⊙ 埋立処分（安定型最終処分場）
・ 中間処理（溶融施設又は無害化処理施設）

⊙ 石綿含有仕上塗材又は石綿含有成形板（下地調整材）の除去
下記以外は、改修標準仕様書9.1.1及び9.1.2による
除去工法
※ 石綿障害予防規則（平成十七年二月二十四日厚生労働省令第二十一号）第６条による措置と同等以上の効果を有する措置とされる工法
・ 集じん装置併用手工具ケレン工法
・ 集じん装置付き高圧水洗工法（15ＭＰａ以下、30～50ＭＰａ程度）
・ 集じん装置付き超高圧水洗工法（100ＭＰａ以上）
・ 超音波ケレン工法（ＨＥＰＡフィルター付き掃除機併用）
・ 剥離剤併用手工具ケレン工法
・ 剥離剤併用高圧水洗工法（30～50ＭＰａ程度）
・ 剥離剤併用超高圧水洗工法（100ＭＰａ以上）
・ 剥離剤併用超音波ケレン工法
・ 集じん装置付きディスクグラインダーケレン工法
⊙ 泡噴出・集じん装置付き湿式ディスクグラインダーケレン工法
⊙ 負圧隔離養生＋集じん装置付きディスクグラインダーケレン工法
除去対象範囲 ※ 図示
作業場の隔離 ※ 行わない ⊙ 行う
試験施工 ※ 行わない ⊙ 行う
除去した石綿含有仕上塗材の処分
・ 埋立処分（安定型最終処分場） ⊙ 埋立処分（管理型最終処分場）
⊙ 中間処理（溶融施設又は無害化処理施設）
除去した石綿含有仕上塗材の保管、運搬及び処分
※ 改修標準仕様書9.1.3(3)による
確認及び後片付け ※ 改修標準仕様書9.1.3(4)の(ｱ)、(ｲ)、(ｳ)及び(ｵ)による

石綿含有建材除去後の仕上げ工事 ※ 図示

2 外断熱改修工事

断熱材 [９．２．１～４]
断熱材の種類（　　）、断熱材の厚さ（　　mm）
施工箇所 ・ 図示 ・
ホルムアルデヒド放散量 ※ Ｆ☆☆☆☆ ・
外装材

種類	防火性能	備考
・		

既存外壁の処置
既存外壁仕上材の撤去 ・ あり ・ なし
下地面の清掃 ・ 行う ・ 行わない
欠損部がある場合の改修工法 ※ ４章外壁改修工事にる

工法
1章適用区分による風圧力（ ・1 ・1.15 ・1.3）倍の風圧力に対応した工法
不陸等の下地調整 ・ 図示
通気層の有無 ・ あり（　　mm） ・ なし
断熱材、外装材の施工及び外装材の外壁への取付け
※ 断熱材及び外装材製造所の仕様による ・

3 断熱・防露改修工事 [９．３．２～４]

フェノールフォーム断熱材又は保温材、接着剤のホルムアルデヒド放散量
※ Ｆ☆☆☆☆ ・
・ 断熱材打込み工法

種類		厚さ（mm）	施工箇所
・ ビーズ法ポリスチレンフォーム断熱材		・ 25	・
※ 押出法ポリスチレンフォーム断熱材（スキン層なし）	※ ２種ｂＡ ・	※ 25	※ 外壁 ・
	※ ３種ｂＡ ・	※ 25	※ スラブ ・
・ 硬質ウレタンフォーム断熱材		・ 25	・
・ フェノールフォーム断熱材		・ 25	・

施工箇所の詳細は、仕上表及び図示による

・ 断熱材現場発泡工法
断熱材の種類 ※ Ａ種１ ・ Ａ種１Ｈ
吹付け厚さ（mm） ・ 25 ・ 30 ・
施工箇所 ※ 窓回り等の断熱材補修部分、ルーフドレン回りの床版下等、部分的に後張りとしなければならない箇所
・ 図示

現場発泡断熱材
（品質・性能）

項目	品質・性能
難燃性	下記のいずれかによっていること （１）JIS A 1321「建築物の内装材及び工法の難燃性試験方法」による難燃2級表面加熱試験又は難燃3級表面加熱試験に適合していること。 （２）法定準不燃材料、難燃材料の評価方法に使用している発熱性試験（コーンカロリー試験）に適合していること。
発熱性	準不燃材料試験の加熱時間は10分、難燃材料試験の加熱時間は5分において次の （１）～（３）に適合していること。 （１）総発熱量が8ＭＪ／m2以下であること。 （２）防火上有害な裏面まで貫通する亀裂及び穴がないこと。 （３）最高発熱速度が、10秒以上継続して200ＫＷ／m2を超えないこと。

（試験方法）
（１）原液試験（原液粘度試験）
JIS K 7117-1「プラスチック－液状、乳濁状又は分散状の樹脂－ブルックフィールド形回転粘度計による見掛け粘度の測定方法」による。
（２）発泡品試験
１）試料の作製は、JIS A 9526「建築物断熱用吹付け硬質ウレタンフォーム」の6.2.1による。
２）試料の状態調節は、JIS A 9526の6.2.2による。また、試験片の作製はJIS A 9526の6.2.3による。
３）試験場所は、JIS A 9526の6.2.4による。
４）圧縮強さ試験は、JIS A 9526の6.2.5による。
５）熱伝導率試験は、JIS A 9526の6.2.6による。
６）接着強さ試験は、JIS A 9526の6.2.7による。
７）透湿率試験は、JIS A 9526の6.2.8による。
（３）難燃性の試験は、下記のJIS A 1321に規定する表面試験及び発熱性試験による。
１）難燃性の試験については、JIS A 1321に規定する試験方法に準じる。
２）発熱性試験は、建築基準法に基づく指定性能評価機関が準不燃材料、難燃材料の評価方法に使用している試験方法に準じる。

・ 断熱材後張り工法
断熱材の種類（　　）
断熱材の厚さ（　　mm）
・ 断熱材にせっこうボード等を張り付けたパネル（材質　　厚さ　　mm）
・ 張り付け工法
断熱材の張り付け工法 ・
断熱材へのボードの張り付け工法 ・

4 屋上緑化改修工事 [９．４．２～４]

植栽基盤及び材料
屋上緑化軽量システム ・ 適用する ・ 適用しない
芝及び地被類の種類等 ※ 図示 ・
見切り材、舗装材、排水穴、マルチング材等 ※ 図示 ・

（品質・性能等）

項目	品質・性能
透水、排水層等構成材の主要材質	合成樹脂等で耐腐食性及び耐久性のあるものであること。（保水層を有する場合は、保水層共）
透水層	目詰まりにより植物の生育に支障を生じることがなく、植え込み用土を流出させない構造であること。
排水層	植物の生育に必要な排水性能を持ち、通気性及び植込み土壌を支え、流出しない構造をもつこと。
排水層の鉛直方向の排水性能	240Ｌ／m2・ｈ以上
耐荷重性能（排水層の許容圧縮強度）	一般メンテナンス時の上部歩行に際し破壊しないこと。 3×10^{5} Ｎ／m2以上の載荷重で破損・有害な変形がないこと。
耐根層	重ね合わせ部を含め、クマザサ等の地下茎伸長力の強い植物に対して３年以上の耐根性能を有し、かつ、耐腐食性及び耐久性のあるものであること。
耐根層保護層	材質は、合成樹脂等とし、耐腐食性及び耐久性を有し、かつ、施工中及び施工後の耐根層を保護するものであること。ただし、耐根層を保護コンクリート（絶縁シートも含む）の下に設ける場合は省略することができるものとする。

（試験方法）
（１）排水基盤の耐荷重性能
（イ）3×10^{5} Ｎ/m2の等分布荷重による加圧試験を行ない、排水層及び耐根層等に有害な変形・破壊の起きないことを確認する。また、その時の圧縮応力に対する歪み（%）を測定する。（保水層を有する場合は保水層も対象とする。）
（ロ）試験体は耐根層から透水層までを通常使用状態にセットした3体とする。
加圧速度は10mm／ｍｉｎ以下とする。

1章 適用区分による風圧力の（ ・1 ・1.15 ・1.3）倍の風圧力に対応した工法
かん水装置 ・ 設置する（種類 ・　　）
既存保護層の撤去 ・ 行う ・ 行わない

新植した芝及び地被類の枯補償の期間 ※ 引き渡しの日から1年

5 透水性アスファルト舗装改修工事 [９．５．２～５、９]

下記以外は、１０章その他による

既存舗装の撤去及び再利用 ※ 図示

10 その他

1 フリーアクセスフロア

（２０．２．２）

構法	・ 置敷式	・ 支柱調整式
所定荷重	※ 3,000Ｎ ・ 5,000Ｎ	※ 3,000Ｎ ・ 5,000Ｎ
耐震性能	・ 1.0 ・ 0.6	・ 1.0 ⊙ 0.6
パネル寸法（mm）		500×500
高さ（mm）		50・100
表面仕上材	※ タイルカーペット ・ 帯電防止床タイル	※ タイルカーペット ⊙ 帯電防止床タイル
施工箇所	※ 図示	※ 図示

寸法精度
※ 標準仕様書20.2.2(2)(ｵ)(a)～(c)による

スロープ及びボーダー ※ 製造所の仕様による ・ 図示
配線用取り出しパネル
フリーアクセスフロア全体面積に対する設置割合 ※ 製造所の仕様による ・ 20~30パーセント
配線取り出し開口 ※ 製造所の仕様による
・ パネル枚につき、40mm×80mm程度の開口１箇所以上

空調用吹き出し（吸い込み）パネル ・ なし ・ あり（形式、施工箇所：※ 図示 ・ ）

（性能）
（１）耐荷重性能 変形5.0mm以下 残留変形3.0mm以下
（２）耐衝撃性能 残留変形3.0mm以下及び損傷がないこと
（３）ローリングロード性能
所定荷重1,000Ｎ（5,000Ｎの積載荷重は1,000Ｎ以上で任意）による繰り返し試験後、
残留変形3.0mm以下
（４）耐震性能

ｲ）固定台試験による耐震性能

項目	性能
①ベースプレート又はアンカーが耐力に達したとき又はコンクリート接着面が剥離したとき	水平荷重の1/2が下記の＜適用地震時水平力＞以上
②上記①以外の部分が耐力に達したとき	水平荷重の1/1.5が下記の＜適用地震時水平力＞以上
③適用地震時水平力を加力した時の支柱頂部の変位	構造床面からの高さの1/50以下

＜適用地震時水平力＞
3,000Ｎ 0.6タイプ 支柱一本が負担する床加重
｛（m2当り自重＋3,000Ｎ）/m2当りの支柱本数｝×0.6
3,000Ｎ 1.0タイプ 支柱一本が負担する床加重
｛（m2当り自重＋3,000Ｎ）/m2当りの支柱本数｝×1.0
5,000Ｎ 0.6タイプ 支柱一本が負担する床加重
｛（m2当り自重＋5,000Ｎ）/m2当りの支柱本数｝×0.6
5,000Ｎ 1.0タイプ 支柱一本が負担する床加重
｛（m2当り自重＋5,000Ｎ）/m2当りの支柱本数｝×1.0
ロ）振動台試験による耐震性能（設計床高さ≦300mmの場合のみ）
振動台試験において、パネルの脱落や使用上支障をきたす損傷、せり上がり、隙間及び水平移動がない。
（５）耐燃焼性能
建築基準法第２条第９号の規定に基づく不燃材料又は燃焼終了後の残炎時間が0秒
（６）帯電防止性能評価値（Ｕ）
0.6以上
（７）感電防止性能
漏えい抵抗(R)≧1×10^{6} Ω
（８）歩行感
通常の歩行において空洞音やがたつきがなく、歩行感に違和感がない
（９）メンテナンス性
交換が必要な部品については交換できるよう設計されている。
（試験方法）
（１）耐震性能
１）設計床高さ≦300mmの場合
試験体ユニット1000mm×2500mm程度
所定の重りの質量 3000Ｎ：200ｋ 5000Ｎ：350ｋ
加振 0.6：所定加速度600ｃｍ／S2 1.0：所定加速度1000ｃｍ／S2
２）300mm＜設計床高さ≦600mmの場合
①固定台による耐震性能試験
イ、支柱調整式－支柱分離型・支柱固定タイプの全てのタイプ共、下記の試験方法－１又は、試験方法－２による。
ロ、原則として、試験方法－１はパネル単体設置（Ａタイプ）に適用し、試験方法－２はパネル連結設置（Ｂタイプ）に適用するものとする。
②試験方法－１
イ、試験は、コンクリート（JIS A 5371プレキャスト無筋コンクリート製品 種類：N300）に接着した支柱の頂部に対し、水平方向に適用地震時水平力及び水平最大耐力まで加力し、 各測定点における水平力、支柱頂部の変形量を測定する。
ロ、加力方向は、支柱要素に対して最も不利な方向とする。試験体数は、３個とする。
③試験方法－２
イ、試験は、コンクリート（JIS A 5371プレキャスト無筋コンクリート製品 種類：N300）に接着した数ユニットの支柱の頂部に対し、水平方向に数ユニット分相当の、適用地震時水平力及び水平最大耐力まで加力し、各測定点における水平力、支柱頂部の変形量を測定する。加力方向は、支柱要素に対して最も不利な方向とする。
ロ、最終的に水平力を支持する支柱の本数で除した値を、支柱１本当たりの水平力とする。又、800mm×800mmに荷重板1,900Ｎ（3,000Ｎ／１m2 相当）を１箇所設ける。試験体数は、１セットとする。
④零点補正及び測定記録
試験体と試験機の隙間等を除去するため、始めに適用地震時水平力の1／2程度の水平力を加力した後、速やかに除荷して“０”にした状態を零点とする。又、水平力による各測定点の荷重及び変形曲線を測定し記録する。
３）共通事項
試験に使用する表面仕上げ材
種類：タイルカーペット 繊維素材：ナイロン100 %
パイル携帯：ループパイル
パイル長：3.0mm～4.0mm パッキング素材：塩化ビニル樹脂
全厚：6.0mm～7.0mm 単位質量：4.0ｋ/m2～6.0ｋ/m2
人体耐電圧：２KV以下

② 表示 （２０．２．１１）
案内用図記号はJIS Z 8210による。
誘導標識、非常用進入口等の表示 ※消防法に適合する市販品 ・
室名札、ピクトグラフ、案内板等の形状、寸法、材質、色、書体、印刷等の種別、取付け形式等
※ 図示

3 ブラインド （２０．２．１４）

形式	操作方法	種類	スラットの材質	スラット幅（mm）	ボックス レールの材種	幅・高さ 取付箇所
・横形	※手動	※ギア式 ・コード式 ・操作棒式	※アルミニウム合金製 □	※ 25 ・	※鋼製 ・	※図示 ・
	・電動	―				
・縦形	※手動	※２本操作コード式 ・１本操作コード式	※アルミスラット ・クロススラット	・ 80 ・ 100	アルミニウム合金製	※図示 ・
	・電動	―				

アルミスラットの材質 焼付け塗装仕上げ
クロススラットの材質 消防法で定める防炎性能の表示がある特殊樹脂加工

4 ロールスクリーン （２０．２．１５）

材種	操作方式	遮光性能	寸法（mm）	取付箇所	備考
・ガラス繊維製 ・合成・天然繊維製 ・木製 ・	・電動式 ・スプリング式 ※ チェーン式	・１級 ・２級 ・３級 ・	※ 図示 ・	※ 図示 ・	

巻取りパイプ、ウェイトバー、操作コード又は操作チェーンその他の材料
※ 製造所の仕様

5 カーテン （２０．２．１６）

形式		開閉操作	ひだの種類	生地の種別、品質、特殊加工等	取付箇所	備考
・シングル ・ダブル	・片引き ・引分け	・手引き ・ひも引き ・電動	・つまみひだ ・箱ひだ、片ひだ ・プレーンひだ		※図示 ・	
						（暗幕）

暗幕カーテンの両端、上部及び召合せの重なり ※ 300mm以上

6 カーテンレール （２０．２．１６）

材料による区分 ※ アルミニウム又はアルミニウム合金の押出し成型材
・ ステンレス製
強さによる区分 ※ 10-90
仕上げ ※ アルマイト
形状 ※ 角形

7 ブラインドボックス及びカーテンボックス

溝幅×深さ（mm） ・ 90×150 ・ 120×80 ・ 120×150 ・ 150×80 ・ 図示
材質 ・ 集成材（仕上げ：　　）
・ アルミニウム製 押出し型材（市販品）
表面処理 ・ BC-1 ・ BC-2（※標準色（　　） ・ 特注色（　　））
・ 鋼製（仕上げ：　　）

8 天井点検口

材種	寸法（mm）	形式		外枠	内枠
※ アルミニウム製	※ 450×450 ・ 600×600	※ 一般形	・ 屋内外用 ※ 屋内用	※ 額縁タイプ ・ 目地タイプ	※ 額縁タイプ ・ 目地タイプ
・	・	・ 気密形			

（品質・性能）
内外枠の材質 アルミニウム製
JIS H 4100 A6063S-5又は同等の性能を有するもの
表面処理 陽極酸化皮膜JIS H 8601(AA6)又は同等の性能を有するもの
（外部に用いる場合は、JIS H 8602のB種又は同等以上の性能を有するもの）
内枠及び外枠のコーナーピース
鋼板に亜鉛めっき等の防錆処理を行ったもの又は同等の性能を有するもの
外枠の取付け金物
鋼板に亜鉛めっき等の防錆処理を行ったもの又は同等の性能を有するもの
内枠の仕上げ材留付金物
アルミニウム及びアルミニウム合金押出形材、亜鉛めっき鋼板又は同等の性能を有するもの
耐久性能（繰り返し開閉試験）
（１）50回、100回、300回の内蓋の垂れ下がりが、0.5mm以内。
（２）開閉試験後、使用上支障をきたす異常がないこと。
枠の寸法許容差 ±0.5mm以内
外枠と内枠のクリアランス 片側2.0mm以内
（試験方法）
内蓋（内枠）の繰り返し開閉試験
（１）試験体は、枠見込み40mm程度のものとする。
吊り金物は、外枠を天井下地取付用補強材に直接留付ける方式（天井ボードなどの仕上材を挟んで固定しない方式）とする。標準仕様書14章4節により製作した試験体固定用天井下地開口補強に試験体の天井点検口450mm×450mmを吊り金具4箇所にて各メーカー仕様に従い取付ける。なお、野縁の種類は、19形とし仕上げ材は、せっこうボード厚さ9.5mm（JIS A 6901「せっこうボード製品」のGB-Rの難燃2級又は発熱性２級以上）二重張りとする。
（２）試験は、内蓋を閉じた状態から自由開放状態にする動作を繰り返し行う。
（３）測定は、上記繰り返し試験において、各50回、100回、300回毎に内蓋の垂れ下がり状態を測定する。

事業年度 年度 工事完成 年度	設計 令和 年 月	三原市都市部建築課	大	中	小	地域	施設	種類 建築	工事名 本郷小学校屋内運動場長寿命化改修工事	事務所名・建築士登録番号・氏名 有限会社 ＭａｓＭａｓ 一級建築士登録 第325897号 小松木 靖之 印	図面名称・縮尺 non scale (A3版-71%縮小) 改修工事特記仕様書-7	図番 A-07

9 床点検口

材種	寸法（mm）	形式		備考
・アルミニウム製 ・ステンレス製 ・鋼製	・450×450 ※600×600 ・	・一般形 ・密閉形	・屋内外用 ・屋内用	・鍵付き

密閉形とは、ボルト、ナット等メカニカル構造にパッキンを装着したものとする。

（品質・性能）

部材名	材質	屋内外用	屋内用
受枠材 蓋枠材	アルミニウム及びアルミニウム合金押出形材	JIS H 4100のA6063S -T5 （表面処理）JIS H 8602のB種又はJIS H 8601のAA15	
	ステンレス製	JIS G 4305のSUS304、SUS430J1L、SUS443J1 （表面処理）HL又は2B仕上げ程度	JIS G 4305のSUS430 （表面処理）HL又は2B仕上げ程度
	鋼製	―	標準仕様書表18.3.1及び表18.3.2のさび止め塗料塗り等の防錆処理を行ったもの
二重蓋の中蓋	鋳鉄	JIS G 5501のFC150、FC200	
	その他	塩化ビニル樹脂製等	
目地材	黄銅	JIS H 3100 のC2600、C2720、C2801 JIS H 3250 のC3602、C3604	
	ステンレス	JIS G 4305のSUS304、SUS430J1L又はSUS443J1 JIS G 4308のSUS304	
底板材コーナーピース底板補強材	ステンレス鋼板	JIS G 4305のSUS304、SUS430J1L,SUS443J1 JIS G 4308のSUS304	JIS G 4305のSUS430
	アルミニウム板	JIS H 4000(A1100P H24) 表面処理：陽極酸化塗装複合被膜 JIS H 8601(AA15) JIS H 8602(B)	―
	鋼材	―	鋼製又はJIS G 3313にメラミン樹脂焼付塗装若しくは、標準仕様書表18.3.1及び表18.3.2のさび止め塗料塗り等の防錆処理を行ったもの
パッキン材		塩化ビニル系ゴム、軟質塩化ビニル、クロロプレン、スポンジラバー、エチレンプロピレン等枠の材質、形状に適した弾力性、密着性を有するもの	
アンカー材		鋼製に電気亜鉛めっき又は防錆塗料を行ったもの	
取手		黄銅鋳鉄製、黄銅製、アルミニウム押出形材・合金鋳鉄製、ステンレス鋳鋼品、ステンレス製等 ステンレス鋼材、アルミニウム押出形材などで被覆した、合成樹脂製のものは、衝撃による変形・割れが生じないものとする	
鍵		黄銅製、ステンレス製、亜鉛合金製とする 施錠・開錠は、鍵又は開閉用ハンドル式とする	
蓋の耐荷重性能		蓋中央部が荷重値Pn=1,000Nにおいて残留たわみが点検口の有孔径の0.08%以内であること。 受け枠、蓋その他の使用上支障がないこと。 破壊荷重は、荷重値のPnの2倍以上であること 。	

受け枠寸法の許容差　±0.5mm以下
蓋付寸法の許容差　　±0.5mm以下
受け枠と蓋枠のクリアランス　片側2.0mm以内

（試験方法）

耐荷重試験

試験体は、強物用とし、600mm角程度、枠見込みは、40mm以下とする。

試験は、蓋枠の四周を支持させ、蓋の中央部にφ50mmの加圧板を設置し、加圧する。

本試験前に200Nを加圧した後、本試験を行う。

本試験は、1,000Nで加圧、荷重除去を3回繰り返し行った後、その後試験体が破壊する（終局荷重）まで加圧する。

測定は、蓋中央部にかかる加圧を200N増す毎にたわみと受け枠の変形その他の異常について1,000Nまで3回繰り返す。

⑩ 手すり

材質	表面仕上げ	直径（mm）	取付箇所
・集成材	・クリアラッカー　・	・35　・45　・	
・ステンレスパイプ	・ＨＬ程度　・		
・鋼製パイプ	・ＳＯＰ　・ＥＰ－Ｇ		
○ビニル製ハンドレール			

⑪ 天井見切り縁等

壁及び下がり壁と天井の取合いの見切縁（天井見切縁、下がり壁見切縁）の材種

※ アルミニウム既製品　・ビニル既製品

12 視覚障害者用床タイル（視覚障害者誘導用ブロック）

（１１．２．２、１９．２．２）

施工箇所		種類	寸法（mm）	厚さ（mm）
屋内		・塩化ビニル製	※300×300　・	・7.0　・
		・セラミックタイル	※300×300　・	・
		・レジンコンクリート製	※300×300　・	・
		・コンクリート製		
屋外		・セラミックタイル	※300×300　・	・
		・レジンコンクリート製	※300×300　・	・
		・コンクリート製		

突起の形状、配列及び寸法は JIS T 9251による

⑬ 鉄筋

８章耐震改修工事にかかる部分は除き、下記による　（５．２．１）（表５．２．１）

種類の記号	呼び名	備考
※ＳＤ２９５Ａ	※Ｄ１６以下	
※ＳＤ３４５	※Ｄ１９以上	

⑭ 溶接金網

８章耐震改修工事にかかる部分は除き、下記による　（５．２．２）

種類	網目寸法、鉄線の径（mm）	備考
※溶接金網		
・鉄筋格子		

⑮ 鉄筋の継手及び定着

８章耐震改修工事にかかる部分は除き、下記による　（５．３．４）

鉄筋の継手の方法等

※ 重ね継ぎ手

・

鉄筋の重ね継手の長さ

※ ４０ｄと標準仕様書表５．３．２の重ね継手の長さのうち大きい値とする

・

鉄筋の定着長さ

※ 柱に取り付ける梁の引っ張り鉄筋の直線定着長さは４０ｄ以上とし、それ以外は標準仕様書表５．３．４による

・

機械式定着工法

・適用する

適用箇所　・図示による　・

種類　・摩擦圧接接合　・螺合グラウト固定　・嵌合グラウト固定

⑯ コンクリートの気乾単位容積質量による種類及び強度等

８章耐震改修工事にかかる部分は除き、下記による　（６．２．１～４）

※ 普通コンクリート

設計基準強度（Ｆｃ）【Ｎ／mm2】	スランプ（ｃｍ）	適用箇所
※２４ ・	※標準仕様書6.2.2による ・	※コンクリート全て（無筋コンクリートを除く） ・

⑰ セメント

種類　（６．３．１）

※ 普通ポルトランドセメント、高炉セメントＡ種、シリカセメントＡ種又はフライアッシュセメントＡ種

・高炉セメントＢ種

・フライアッシュセメントＢ種

⑱ 型枠

８章耐震改修工事にかかる部分は除き、下記による　（６．８．２）

せき板の材料　※ 合板　厚さ（※１２mm　・　　）

・メッシュ型枠

・断熱材を兼用した型枠　厚さ２５mm以下かつ熱抵抗値１mh℃／kＣａｌ以上

19 無筋コンクリート

８章耐震改修工事にかかる部分は除き、下記による　（６．１４．１）

種類	設計基準強度（Ｆｃ）【Ｎ／mm2】	スランプ（mm）	施工箇所
※普通コンクリート ・	※１８ ・	※１５ ・	※標準仕様書6.14.1(4)(ｱ)～(ｳ)による ・

種類

※ 普通ポルトランドセメント、高炉セメントＡ種、シリカセメントＡ種又はフライアッシュセメントＡ種

・高炉セメントＢ種

・フライアッシュセメントＢ種

⑳ 床コンクリート直均し仕上げ

（８．１．４）（表８．１．５）

仕上げの平たんさは、図示以外は下記による

改修標準仕様書表8.1.5による平たんさの種別	施工箇所
ａ種	合成樹脂塗床、ビニル系床材張り、床コンクリート直均し仕上げ、フリーアクセスフロア（置敷式）　（　　）
ｂ種	カーペット張り、防水下地、セルフレベリング材塗り（　　）
ｃ種	タイル張り、モルタル塗り、フリーアクセスフロア（支柱調整式）（　　）

㉑ あと施工アンカー

（１４．１．３）

６章内装改修工事　軽量鉄骨天井下地及び８章耐震改修工事にかかる部分は除き、下記による

あと施工アンカー施工後の確認試験　※ 行う　・ 行わない

22 トイレブース

（２０．２．５）

表面材の材料	脚部	ドアエッジ
	形状	材質
※メラミン樹脂系化粧板 ・ポリエステル樹脂系化粧板	※幅木タイプ ・	※アルミニウム製 ・ステンレス製 ・表面材と同材

（品質・性能）

（１）パネル

項目	品質・性能
表面材	メラミン樹脂系、ポリエステル樹脂系化粧板又はメラミン樹脂系単一材とする。
裏打材	JIS A 6512「可動間仕切」の表9に対応する材質のうち、鋼材については、防食処理及び防錆処理を施した材料とする。ただし、メラミン樹脂系単一材の場合は適用しない。
心材	JIS A 6512「可動間仕切」の表9に対応する材質とする。ただし、メラミン樹脂系単一材の場合は適用しない。
枠材	JIS A 6512「可動間仕切」の表9に対応する材質のうち、鋼材については、亜鉛めっき
エッジ材	処理を施した材料とする。
小口	防水処理を施す。

（２）構造金物

項目	品質・性能
脚部（脚具、幅木）	JIS G 4305「冷間圧延ステンレス鋼板及び鋼帯」に規定するSUS304、SUS430J1L、SUS443J1とし、仕上げはHL程度とする。

（３）付属金物

項目	品質・性能
ヒンジ	耐蝕性のあるものとする。
ラッチセット	
戸当り	腐蝕の恐れのある材料には防錆処理を施してあるものとする。 戸当り部のゴムは、使用に十分耐える材質であるものとする。

（４）外観は、JIS A 6512「可動間仕切」の5.b）による。

（５）パネル表面材の耐薬品性・耐汚染性・耐ひっかき性・開閉耐久性

項目	品質・性能	
	耐薬品性及び耐汚染性	耐引っかき性
メラミン樹脂系化粧板及びメラミン樹脂系単一材	JIS K 6903(2008)「熱硬化性樹脂高圧化粧板」の表８品質による耐汚染性（Ｂ法）の規定を満足していること。	―
低圧メラミン樹脂系化粧板	ポリエステル樹脂系加工化粧合板、ポリエステル樹脂系化粧ＭＤＦ、ポリエステル樹脂系化粧パーティクルボードのいずれかの品質に適合していること。	
ポリエステル樹脂系加工化粧合板	JAS「合板の日本農林規格」第９条特殊加工化粧合板に示された耐汚染性Ｂ試験において、試験片の表面に色が残らないこと。	JAS「合板の日本農林規格」第９条特殊加工化粧合板に示された耐引っかき性Ｂ試験において、きずの深さの平均値が10μm以内であること。
ポリエステル樹脂系化粧ＭＤＦ	JIS A 5905「繊維板」の表18の規定に適合していること。	
ポリエステル樹脂系化粧パーティクルボード	JIS A 5908「パーティクルボード」の表11の規定に適合していること。	

（試験方法）

（１）ヒンジは、JIS A 1510-2「建築用ドア金物の試験方法－第2部：ドア用金物」に規定する試験による。

（２）戸当りの衝撃試験は、JIS A 1510-2に規定する試験による。

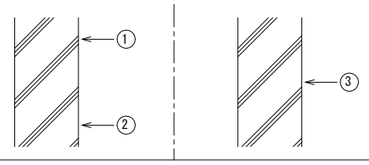
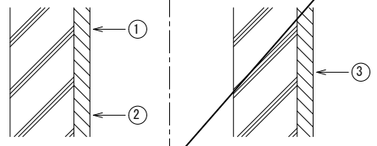
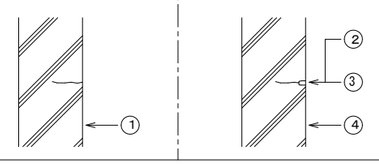
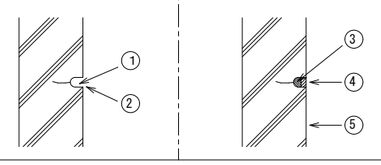
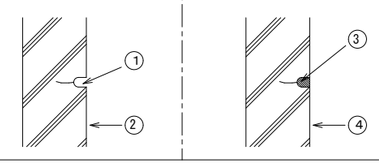
パネル材料のホルムアルデヒド放散量　※ JIS A 6512によりＦ☆☆☆☆以上

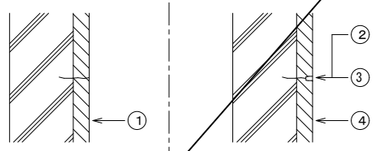
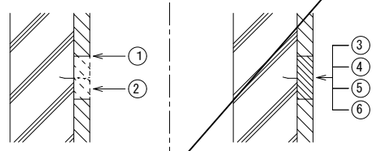
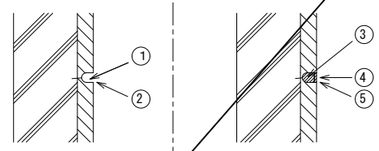
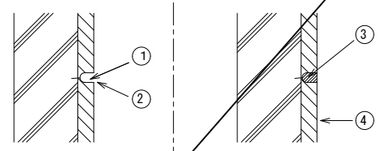
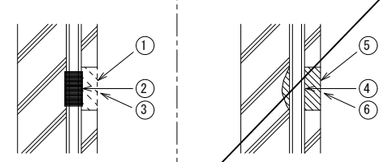
事業年度　4年度 工事完成　5年度	設計 令和5年2月	三原市都市部建築課	大	中	小	地域	施設	種類 建築	工事名 本郷小学校屋内運動場長寿命化改修工事	事務所名・建築士登録番号・氏名 有限会社　ＭａｓＭａｓ 一級建築士登録　第325897号 小松木　靖之　印	図面名称・縮尺　non scale　(A3版-71%縮小) 改修工事特記仕様書-8	図番 A-08

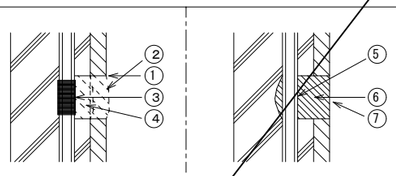
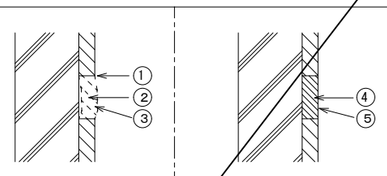
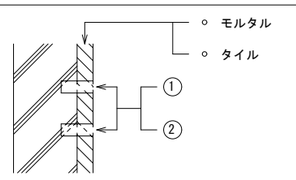
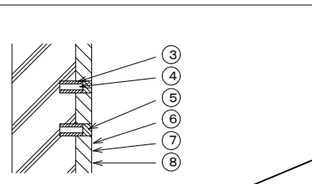
建築非構造部材の耐震性能に係る標準的な特記事項

建築設計基準		項目	特記事項
外壁	帳壁	CW（メタルPCa）	CW工事 取付方法、性能等 地震力に対する安全性 設計用震度：帳壁（仕上面及び構造体から仕上面までの接合部材）の性能 設計用水平震度（K_H）※１．０・ 設計用鉛直震度（K_v）※０．５・ 設計用震度の地震力に対して、部材に生じる応力度が所定の応力度以内にあり、有害な残留ひずみが生じないこと。ただし、所定の応力度以内にあることの確認が困難な場合は、試験等により設計用震度の地震力に対して有害な残留ひずみが生じないことを確認する。なお、水平方向の地震力に対する確認は面内方向及び面外方向について行う。 所定の応力度は、短期許容応力度とし、短期許容応力度が定められていない材料については、関連基規準（製造者等により構成される協会等が定める指針等を含む。）が定める値とする。 構造体の層間変形に対する追従性 層間変形角：帳壁（仕上面及び構造体から仕上面までの接合部材）の性能 ・１／１００ ・１／２００ ・ 左記の層間変形角に対して、脱落しないこと 層間変形角１／３００に対して、ほとんど補修の必要がなく、継続使用に耐えること。
		ＡＬＣパネル	外壁パネルの耐震性 地震力に対する安全性 設計用震度：帳壁（仕上面及び構造体から仕上面までの接合部材）の性能 設計用水平震度（K_H）※１．０・ 設計用鉛直震度（K_v）※０．５・ 設計用震度の地震力に対して、部材に生じる応力度が所定の応力度以内にあり、有害な残留ひずみが生じないこと。ただし、所定の応力度以内にあることの確認が困難な場合は、試験等により設計用震度の地震力に対して有害な残留ひずみが生じないことを確認する。なお、水平方向の地震力に対する確認は面内方向及び面外方向について行う。 所定の応力度は、短期許容応力度とし、短期許容応力度が定められていない材料については、関連基規準（製造者等により構成される協会等が定める指針等を含む。）が定める値とする。 構造体の層間変形に対する追従性 層間変形角：帳壁（仕上面及び構造体から仕上面までの接合部材）の性能 ・１／１００ ・１／２００ ・ 左記の層間変形角に対して、脱落しないこと
		押出成形ｾﾒﾝﾄ板（ＥＣＰ）	外壁パネルの耐震性 地震力に対する安全性 設計用震度：帳壁（仕上面及び構造体から仕上面までの接合部材）の性能 設計用水平震度（K_H）※１．０・ 設計用鉛直震度（K_v）※０．５・ 設計用震度の地震力に対して、部材に生じる応力度が所定の応力度以内にあり、有害な残留ひずみが生じないこと。ただし、所定の応力度以内にあることの確認が困難な場合は、試験等により設計用震度の地震力に対して有害な残留ひずみが生じないことを確認する。なお、水平方向の地震力に対する確認は面内方向及び面外方向について行う。 所定の応力度は、短期許容応力度とし、短期許容応力度が定められていない材料については、関連基規準（製造者等により構成される協会等が定める指針等を含む。）が定める値とする。 構造体の層間変形に対する追従性 層間変形角：帳壁（仕上面及び構造体から仕上面までの接合部材）の性能 ・１／１００ ・１／２００ ・ 左記の層間変形角に対して、脱落しないこと
外壁	仕上げ	石工事	―
屏	特定室等及び避難経路の屏重量がある屏	ＡＤ ＳＤ ＬＤ ＳＳＤ	ＲＣ壁に設置する特定室等及び避難経路の屏 ・耐震ドア　面内変形追随性の等級（・　） （建具符号：※建具表による　・　）
			重量がある屏 以下の設計用震度の地震力に対して、脱落が生じないものとする。なお、水平方向の地震力に対する確認は面内方向及び面外方向について行う。 設計用水平震度（K_H）　※１．０ 設計用鉛直震度（K_v）　※０．５ （建具符号：※建具表による　・　）
ガラス	ガラス	ガラス	構造体の層間変形に対する追従性 以下の構造体の層間変形角に対して、破損、脱落が生じないよう取り付けられているものとする。 構造体の層間変形角　・１／１００ ・１／２００ ・／
天井	特定天井	軽量鉄骨天井下地（特定天井）	範囲　※図示 特定天井の設計用震度及びクリアランスは以下による。 特定天井告示（平成２５年国土交通省告示第７７１号）による特定天井の設計用震度 検証ルート（　） 室名／階／設計用水平震度（KH）・／設計用鉛直震度（Kv）・／クリアランス（mm）・
天井	特定天井以外の在来工法による吊り天井のうち天井材の落下により重い影響がある室のもの	軽量鉄骨天井下地（緊結吊天井）	範囲　※図示 標準仕様書１４．４．１～１４．４．４に加えて、天井下地材における耐震性を考慮した補強は、以下の１）～４）のとおりとする。 １）野縁受けは、相互にジョイントを差し込んだ上でねじ留め。 ２）野縁や野縁受けの隣り合うジョイントの位置は、互いに１m以上離し、千鳥状に配置。 ３）野縁受けと吊りボルトの接合に用いるハンガーは、ねじ留め等の措置（開き止め）を講じる。 ４）野縁と野縁受けの接合に用いるクリップは、特定天井告示（平成２５年国土交通省告示第７７１号）第３第３項に適合する天井に用いられるもの又は耐風圧クリップ相当の緊結度合を「新たな特定天井の技術基準（天井と周囲の壁等との間に隙間を設けない仕様の追加）の解説（平成２８年７月版）」（国土交通省国土技術政策総合研究所他）の「付録１クリップの接合部の衝撃試験」により確認されたものを使用する。なお、当該クリップは、ＪＩＳＡ６５１７によらなくてもよいものとする。
天井	在来工法の吊り天井	軽量鉄骨天井下地	―
天井	システム天井	システム天井	※グリッドタイプ　・システム天井 範囲　※図示 耐震性 以下の設計用震度の地震力及び構造体の層間変形角に対して、脱落しないものとする。 なお、水平方向の地震力に対する確認は面内方向及び面外方向について行う。 設計用水平震度（K_H）　※１．０ 設計用鉛直震度（K_v）　※０．５ 構造体の層間変形角　・１／１００ ・１／２００ ・／
間仕切り	間仕切り	ＡＬＣパネル	間仕切りパネルの耐震性 地震力に対する安全性 設計用震度：帳壁（仕上面及び構造体から仕上面までの接合部材）の性能 設計用水平震度（K_H）※１．０・ 設計用鉛直震度（K_v）※０．５・ 設計用震度の地震力に対して、部材に生じる応力度が所定の応力度以内にあり、有害な残留ひずみが生じないこと。ただし、所定の応力度以内にあることの確認が困難な場合は、試験等により設計用震度の地震力に対して有害な残留ひずみが生じないことを確認する。なお、水平方向の地震力に対する確認は面内方向及び面外方向について行う。 所定の応力度は、短期許容応力度とし、短期許容応力度が定められていない材料については、関連基規準（製造者等により構成される協会等が定める指針等を含む。）が定める値とする。 構造体の層間変形に対する追従性 層間変形角：帳壁（仕上面及び構造体から仕上面までの接合部材）の性能 ・１／１００ ・１／２００ ・ 左記の層間変形角に対して、脱落しないこと
		押出成形ｾﾒﾝﾄ板（ＥＣＰ）	間仕切りパネルの耐震性 地震力に対する安全性 設計用震度：帳壁（仕上面及び構造体から仕上面までの接合部材）の性能 設計用水平震度（K_H）※１．０ 設計用鉛直震度（K_v）※０．５ 設計用震度の地震力に対して、部材に生じる応力度が所定の応力度以内にあり、有害な残留ひずみが生じないこと。ただし、所定の応力度以内にあることの確認が困難な場合は、試験等により設計用震度の地震力に対して有害な残留ひずみが生じないことを確認する。なお、水平方向の地震力に対する確認は面内方向及び面外方向について行う。 所定の応力度は、短期許容応力度とし、短期許容応力度が定められていない材料については、関連基規準（製造者等により構成される協会等が定める指針等を含む。）が定める値とする。 構造体の層間変形に対する追従性 層間変形角：帳壁（仕上面及び構造体から仕上面までの接合部材）の性能 ・１／１００ ・１／２００ 左記の層間変形角に対して、脱落しないこと
		軽量鉄骨壁下地	―
その他の建築非構造部材	フリーアクセスフロア	フリーアクセスフロア	20章　フリーアクセスフロアの特記事項による
	エキスパンションジョイント金物	エキスパンションジョイント金物	材質／階区分／建築物間のクリアランス（mm）／変位追従量（mm）／耐火性能／断熱性能／備考 ・アルミニウム製・ステンレス製／（　）階～（　）階／・５０・１００・１５０・／（避難経路の床等）・以上（その他）・以上／・有り（　）・無し／・有り（　）・無し／ ・アルミニウム製・ステンレス製／（　）階～（　）階／・５０・１００・１５０・／（避難経路の床等）・以上（その他）・以上／・有り（　）・無し／・有り（　）・無し／ 外部に設置するものは、防水型とする。 エキスパンションジョイントカバーには、脱落防止措置を講じる。
家具、門扉・囲障その他の工作物	壁等に固定する家具	壁等に固定する家具	固定方法　・壁固定（図示） ・床固定（図示） 以下の設計用震度の地震による引抜き力に対して固定金具に生じる応力度が所定の応力度以内にあり、有害な残留ひずみが生じないものとする。ただし、所定の応力度以内にあたる事の確認が困難な場合は、試験等により設計用震度の地震による引抜き力に対して有害な残留ひずみが生じないことを確認する。なお、水平方向の地震力に対する確認は面内方向及び面外方向について行う。 所定の応力度は、短期許容応力度とし、短期許容応力度が定められていない材料については、関連基規準（製造者等により構成される協会等が定める指針等を含む。）が定める値による。 設計用水平震度（K_H）　※１．０ 設計用鉛直震度（K_v）　※０．５ 家具名称／設置場所／備考 ・／・／・ ・／・／・ ・／・／・ ・／・／・ ・軽量鉄骨壁下地等への補強　（　※図示　・　） ※収納物の散乱防止措置（ラッチ機構、ロック機構等）を講ずる。 ・

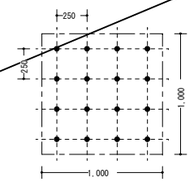
事業年度　年度 工事完成　年度	設計 令和　年　月	三原市都市部建築課	大	中	小	地域	施設	種類 建築	工事名 本郷小学校屋内運動場長寿命化改修工事	事務所名・建築士登録番号・氏名 有限会社　ＭａｓＭａｓ 一級建築士登録　第325897号 小松木　靖之　印	図面名称・縮尺　non scale　(A3版-71%縮小) 改修工事特記仕様書-9	図番 A-09

名　称	A　表面劣化部処理		B　ひび割れ部処理		
記号・仕様	A－1　打放し面表面劣化部処理　［サンダー工法］	A－2　モルタル面表面劣化部処理　［サンダー工法］	B－1　打放し面樹脂注入工法［標仕４．２．５］ ひび割れ幅　０．２～１．０㎜	B－2　打放し面Uカットシール材充てん工法［標仕４．２．６］ ひび割れ幅　１．０㎜以上	B－3　打放し面Uカットシール材充てん工法［標仕４．２．６］ ひび割れ幅　０．２～１．０㎜
改修前 / 改修後					
工　程	①既存仕上げ材及び脆弱層サンダーケレン（＊全面　・部分） ②高圧水洗浄（１５０～２００kg／ｃ㎡） ③セメント系下地調整材コテ塗り（１．５mm±０．５mm） 参考数量：外部仕上表による	①既存仕上げ材及び脆弱層サンダーケレン（＊全面　・部分） ②高圧水洗浄（１５０～２００kg／ｃ㎡） ③セメント系下地調整材コテ塗り（１．５mm±０．５mm） 参考数量：	①サンダーケレン ②ひび割れ部シール ③エポキシ樹脂注入 ④セメント系下地調整材コテ塗り（１．５mm±０．５mm） ※Ａ－１工法を行う場合は，①，④の工程はＡ－１工法に含む。 参考数量：外部仕上表による	①ひび割れ部Uカット ②高圧水洗浄（１５０～２００kg／ｃ㎡） ③シーリング材打設 ④Uカット部埋戻し　（ポリマーセメントモルタル） ⑤セメント系下地調整材コテ塗り（１．５mm±０．５mm） ※Ａ－１工法を行う場合は，②⑤の工程はＡ－１工法に含む。 参考数量：外部仕上表による	①ひび割れ部Uカット ②高圧水洗浄（１５０～２００kg／ｃ㎡） ③可とう性エポキシ樹脂充てん後けい砂 ④セメント系下地調整材コテ塗り（１．５mm±０．５mm） ※Ａ－１工法を行う場合は，②④の工程はＡ－１工法に含む。 参考数量：外部仕上表による

名　称	B　ひび割れ部処理				C　錆鉄筋部処理
記号・仕様	B－4　モルタル面樹脂注入工法［標仕４．３．６］ ひび割れ幅　０．２～１．０㎜	B－5　モルタル面躯体部樹脂注入工法［標仕４．３．６］ ひび割れ幅　０．２～１．０㎜	B－6　モルタル面Uカットシール材充てん工法 ひび割れ幅　１．０㎜以上	B－7　モルタル面Uカットエポキシ樹脂充てん工法 ひび割れ幅　０．２～１．０㎜	C－1　打放し面錆鉄筋部処理
改修前 / 改修後					
工　程	①サンダーケレン ②ひび割れ部シール ③エポキシ樹脂注入 ④セメント系下地調整材コテ塗り（１．５mm±０．５mm） ※Ａ－２工法を行う場合は，①，④の工程はＡ－２工法に含む。 参考数量：　ひび割れ幅　０．２～０．５㎜　（　　） ひび割れ幅　０．５～１．０㎜　（　　） （　）内は挙動ひび割れ数量を示す	①ひび割れ周囲モルタルカッター切り ②モルタル除去 ③ひび割れ部シール ④エポキシ樹脂注入 ⑤埋戻し ⑥セメント系下地調整材コテ塗り（１．５mm±０．５mm） ※Ａ－２工法を行う場合は，⑥の工程はＡ－２工法に含む。 参考数量：	①ひび割れ部Uカット ②高圧水洗浄（１５０～２００kg／ｃ㎡） ③シーリング材打設 ④Uカット部埋戻し　（ポリマーセメントモルタル） ⑤セメント系下地調整材コテ塗り（１．５mm±０．５mm） ※Ａ－２工法を行う場合は，②⑤の工程はＡ－２工法に含む。 参考数量：	①ひび割れ部Uカット ②高圧水洗浄（１５０～２００kg／ｃ㎡） ③可とう性エポキシ樹脂充てん後けい砂 ④セメント系下地調整材コテ塗り（１．５mm±０．５mm） ※Ａ－２工法を行う場合は，②④の工程はＡ－２工法に含む。 参考数量：	①錆鉄筋周辺のはつり ②錆落とし ③高圧水洗浄（１５０～２００kg／ｃ㎡） ④防錆処理 ⑤はつり部埋戻し整形 ⑥セメント系下地調整材コテ塗り（１．５mm±０．５mm） ※Ａ－２工法を行う場合は，③⑥の工程はＡ－２工法に含む。 参考数量：

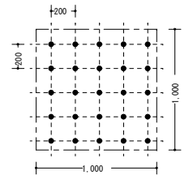
名　称	C　錆鉄筋部処理	D　浮き部処理		
記号・仕様	C－2　モルタル面錆鉄筋部処理	D－1　モルタル面はつり	D－2　モルタル面アンカーピンニング部分エポキシ樹脂注入工法　［標仕４．３．１１］ D－2’　タイル面アンカーピンニング部分エポキシ樹脂注入工法　［標仕４．４．９］	
改修前 / 改修後				
工　程	①カッター縁切り ②浮き部はつり ③錆落とし ④高圧水洗浄（１５０～２００kg／ｃ㎡） ⑤防錆処理 ⑥はつり部埋戻し整形 ⑦セメント系下地調整材コテ塗り（１．５mm±０．５mm） ※Ａ－２工法を行う場合は，④⑦の工程はＡ－２工法に含む。 参考数量：	①カッター縁切り ②浮き部はつり ③高圧水洗浄（１５０～２００kg／ｃ㎡） ④はつり部埋戻し整形 ⑤セメント系下地調整材コテ塗り（１．５mm±０．５mm） ※Ａ－２工法を行う場合は，③⑤の工程はＡ－２工法に含む。 参考数量：	①穿孔　一般部　ヶ所　指定部　ヶ所 ②孔内エアー清掃　一般部　ヶ所　指定部　ヶ所 ③エポキシ樹脂注入　一般部　ヶ所　指定部　ヶ所 ④ステンレスピン挿入　一般部　ヶ所　指定部　ヶ所	⑤穿孔跡埋戻し［パテ状エポキシ樹脂］　一般部　ヶ所　指定部　ヶ所 ⑥サンダーケレン ⑦高圧水洗浄（１５０～２００kg／ｃ㎡） ⑧セメント系下地調整材コテ塗り（１．５mm±０．５mm） ※Ａ－２工法を行う場合は，⑥，⑦，⑧の工程はＡ－２工法に含む。 参考数量：①一般部分： ②指定部分： ③峡幅部：

①一般部分標準グリッド（２５０×２５０）　③峡幅部
（指定部以外の部分）　（幅２００㎜以下で帯状に剥離している幅の狭い箇所）



● アンカーピン固定部

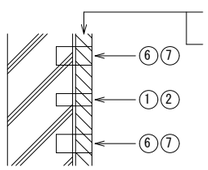
②指定部分標準グリッド（２００×２００）
（見上げ面、ひさしのはな、まぐさ隅角部分等）

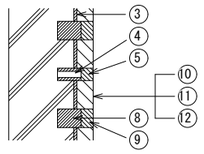


事業年度　年度 工事完成　年度	設計 令和　年　月	三原市都市部建築課	大	中	小	地域	施設	種類 建築	工事名 本郷小学校屋内運動場長寿命化改修工事	事務所名・建築士登録番号・氏名 有限会社　ＭａｓＭａｓ 一級建築士登録　第325897号 小松木　靖之　印	図面名称・縮尺　non scale　(A3版-71%縮小) 外壁改修工事特記仕様書-1	図番 A-10

名　称	D　浮き部処理
記号・仕様	D－３　モルタル面アンカーピンニング全面エポキシ樹脂注入工法　［標仕４．３．１２］ D－３’　タイル面アンカーピンニング全面エポキシ樹脂注入工法　［標仕４．４．１０］

改修前　改修後





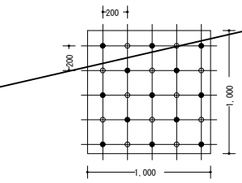
工　程

①ﾋﾟﾝ固定部穿孔	一般部	ヶ所	⑥注入口穿孔	一般部	ヶ所	⑫セメント系下地調整材コテ塗り（１．５mm±０．５mm）
	指定部	ヶ所		指定部	ヶ所	
②孔内ｴｱｰ清掃	一般部	ヶ所	⑦孔内エアー清掃	一般部	ヶ所	
	指定部	ヶ所		指定部	ヶ所	
③ｴﾎﾟｷｼ樹脂注入	一般部	ヶ所	⑧ｴﾎﾟｷｼ樹脂注入	一般部	ヶ所	
	指定部	ヶ所		指定部	ヶ所	
④ｽﾃﾝﾚｽﾋﾟﾝ挿入	一般部	ヶ所	⑨穿孔跡埋戻し［ｴﾎﾟｷｼﾊﾟﾃ］	一般部	ヶ所	
	指定部	ヶ所		指定部	ヶ所	
⑤穿孔跡埋戻し［ｴﾎﾟｷｼﾊﾟﾃ］	一般部	ヶ所	⑩ｻﾝﾀﾞｰｹﾚﾝ			
	指定部	ヶ所	⑪高圧水洗浄（１５０～２００kg／ｃ㎡）			

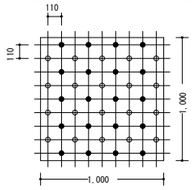
※Ａ－２工法を行う場合は，⑩，⑪，⑫の工程はＡ－２工法に含む。

参考数量：①一般部分：
②指定部分：
③峡幅部：

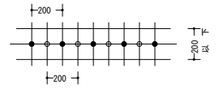
①一般部分標準グリッド（２００×２００）
（指定部以外の部分）



②指定部分標準グリッド（１１０×１１０）
（見上げ面、ひさしのはな、まぐさ隅角部分等）



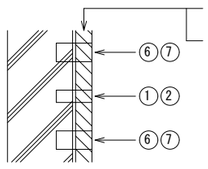
③峡幅部
（幅２００㎜以下で帯状に剥離している幅の狭い箇所）

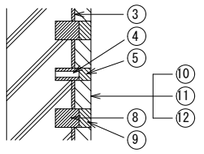


● アンカーピン固定部
○ 注入口

名　称	D　浮き部処理
記号・仕様	D－４　モルタル面アンカーピンニング全面ポリマーセメントスラリー注入工法　［標仕４．３．１３］ D－４’　タイル面アンカーピンニング全面ポリマーセメントスラリー注入工法　［標仕４．４．１１］

改修前　改修後





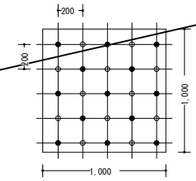
工　程

①ピン固定部穿孔	一般部	ヶ所	⑥注入口穿孔	一般部	ヶ所	⑫セメント系下地調整材コテ塗り（１．５mm±０．５mm）
	指定部	ヶ所		指定部	ヶ所	
②孔内エアー清掃	一般部	ヶ所	⑦孔内エアー清掃	一般部	ヶ所	
	指定部	ヶ所		指定部	ヶ所	
③ﾎﾟﾘﾏｰｾﾒﾝﾄｽﾗﾘｰ注入	一般部	ヶ所	⑧ﾎﾟﾘﾏｰｾﾒﾝﾄｽﾗﾘｰ注入	一般部	ヶ所	
	指定部	ヶ所		指定部	ヶ所	
④ｽﾃﾝﾚｽﾋﾟﾝ挿入	一般部	ヶ所	⑨穿孔跡埋戻し［ﾎﾟﾘﾏｰｾﾒﾝﾄｽﾗﾘｰ］	一般部	ヶ所	
	指定部	ヶ所		指定部	ヶ所	
⑤穿孔跡埋戻し［ﾎﾟﾘﾏｰｾﾒﾝﾄｽﾗﾘｰ］	一般部	ヶ所	⑩ｻﾝﾀﾞｰｹﾚﾝ			
	指定部	ヶ所	⑪高圧水洗浄（１５０～２００kg／ｃ㎡）			

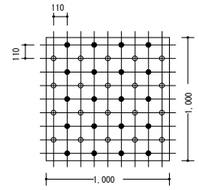
※Ａ－２工法を行う場合は，⑩，⑪，⑫の工程はＡ－２工法に含む。

参考数量：①一般部分：
②指定部分：
③峡幅部：

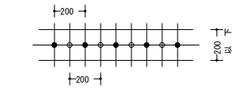
①一般部分標準グリッド（２００×２００）
（指定部以外の部分）



②指定部分標準グリッド（１１０×１１０）
（見上げ面、ひさしのはな、まぐさ隅角部分等）



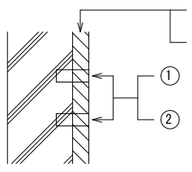
③峡幅部
（幅２００㎜以下で帯状に剥離している幅の狭い箇所）

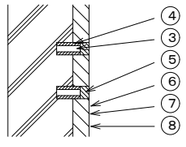


● ｱﾝｶｰﾋﾟﾝ固定部
○ 注入口

名　称	D　浮き部処理
記号・仕様	D－５　モルタル面注入口付アンカーピンニング部分エポキシ樹脂注入工法　［標仕４．３．１４］ D－５’　タイル面注入口付アンカーピンニング部分エポキシ樹脂注入工法　［標仕４．４．１２］

改修前　改修後





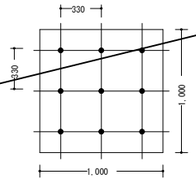
工　程

①穿孔	一般部	ヶ所	⑤穿孔跡埋戻し［エポキシパテ］	一般部	ヶ所
	指定部	ヶ所		指定部	ヶ所
②孔内エアー清掃	一般部	ヶ所	⑥サンダーケレン		
	指定部	ヶ所	⑦高圧水洗浄（１５０～２００kg／ｃ㎡）		
③ステンレスピン（注入口付）挿入	一般部	ヶ所	⑧セメント系下地調整材コテ塗り（１．５mm±０．５mm）		
	指定部	ヶ所			
④エポキシ樹脂注入	一般部	ヶ所			
	指定部	ヶ所			

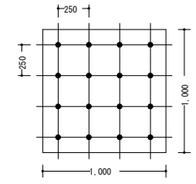
※Ａ－２工法を行う場合は，⑥，⑦，⑧の工程はＡ－２工法に含む。

参考数量：①一般部分：
②指定部分：
③峡幅部：

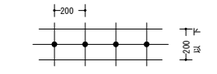
①一般部分標準グリッド（３３０×３３０）
（指定部以外の部分）



②指定部分標準グリッド（２５０×２５０）
（見上げ面、ひさしのはな、まぐさ隅角部分等）



③峡幅部
（幅２００㎜以下で帯状に剥離している幅の狭い箇所）



● 注入口付アンカーピン固定部

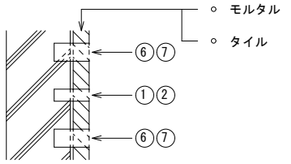
事業年度　年度 工事完成　年度	設計 令和 年 月	三原市都市部建築課	大	中	小	地域	施設	種類 建築	工事名 本郷小学校屋内運動場長寿命化改修工事	事務所名・建築士登録番号・氏名 有限会社　ＭａｓＭａｓ 一級建築士登録　第325897号 小松木　靖之　印	図面名称・縮尺　non scale　(A3版-71%縮小) 外壁改修工事特記仕様書-2	図番 A-11

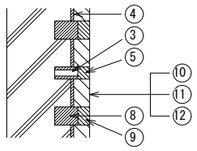
名　称　D　浮き部処理

記号・仕様

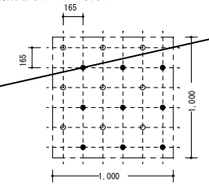
D－6　モルタル面注入口付アンカーピンニング全面エポキシ樹脂注入工法　［標仕４．３．１５］
D－6'　タイル面注入口付アンカーピンニング全面エポキシ樹脂注入工法　［標仕４．４．１３］

改修前　改修後

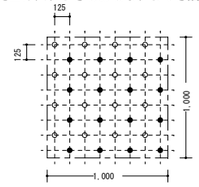




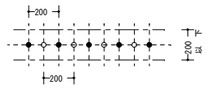
①一般部分標準グリッド（１６５×１６５）
（指定部以外の部分）



②指定部分標準グリッド（１２５×１２５）
（見上げ面、ひさしのはな、まぐさ隅角部分等）



③峡幅部
（幅２００㎜以下で帯状に剥離している幅の狭い箇所）



● 注入口付アンカーピン固定部
○ 注入口

工　程

①ピン固定部穿孔	一般部	ヶ所	⑤穿孔跡埋戻し［エポキシパテ］	一般部	ヶ所	⑨穿孔跡埋戻し［エポキシパテ］	一般部	ヶ所
	指定部	ヶ所		指定部	ヶ所		指定部	ヶ所
②孔内エアー清掃	一般部	ヶ所	⑥注入口穿孔	一般部	ヶ所	⑩サンダーケレン		
	指定部	ヶ所		指定部	ヶ所	⑪高圧水洗浄（１５０～２００kg／ｃ㎡）		
③ステンレスピン（注入口付）挿入	一般部	ヶ所	⑦孔内エアー清掃	一般部	ヶ所	⑫セメント系下地調整材コテ塗り（１．５mm±０．５mm）		
	指定部	ヶ所		指定部	ヶ所			
④エポキシ樹脂注入	一般部	ヶ所	⑧エポキシ樹脂注入	一般部	ヶ所	※Ａ－２工法を行う場合，⑩，⑪，⑫の工程はＡ－２工法に含む		
	指定部	ヶ所		指定部	ヶ所	参考数量：①一般部分：		
						②指定部分：		
						③峡幅部：		

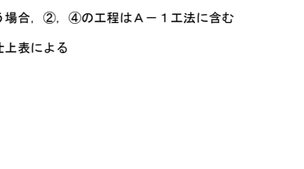
名　称　D　浮き部処理

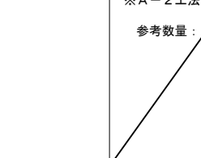
記号・仕様

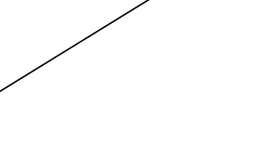
D－7　モルタル面注入口付アンカーピンニング全面ポリマーセメントスラリー注入工法　［標仕４．３．１６］
D－7'　タイル面注入口付アンカーピンニング全面ポリマーセメントスラリー注入工法　［標仕４．４．１４］
※標準グリッド等は，D－6，D－6'と同じ

D－8　タイル面注入口付アンカーピンニングエポキシ樹脂注入タイル固定工法（小口タイル以上）［標仕４．４．１５］

改修前　改修後









工　程

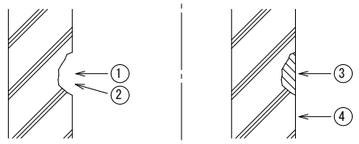
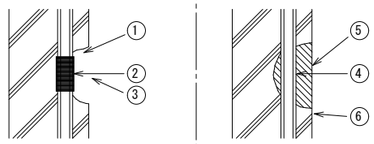
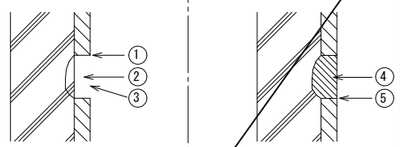
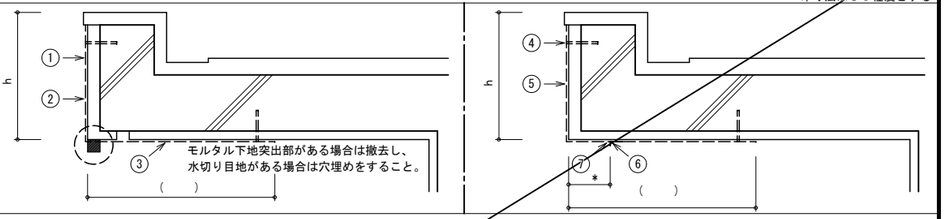
①ピン固定部穿孔	一般部	ヶ所	⑥注入口穿孔	一般部	ヶ所	⑫セメント系下地調整材コテ塗り（１．５mm±０．５mm）		
	指定部	ヶ所		指定部	ヶ所			
②孔内エアー清掃	一般部	ヶ所	⑦孔内エアー清掃	一般部	ヶ所			
	指定部	ヶ所		指定部	ヶ所			
③ステンレスピン（注入口付）挿入	一般部	ヶ所	⑧ポリマーセメントスラリー注入	一般部	ヶ所			
	指定部	ヶ所		指定部	ヶ所			
④ポリマーセメントスラリー注入	一般部	ヶ所	⑨穿孔跡埋戻し［ﾎﾟﾘﾏｰｾﾒﾝﾄﾓﾙﾀﾙ］	一般部	ヶ所	※Ａ－２工法を行う場合，⑩，⑪，⑫の工程はＡ－２工法に含む		
	指定部	ヶ所		指定部	ヶ所	参考数量：①一般部分：		
⑤穿孔跡埋戻し［ﾎﾟﾘﾏｰｾﾒﾝﾄﾓﾙﾀﾙ］	一般部	ヶ所	⑩サンダーケレン			②指定部分：		
	指定部	ヶ所	⑪高圧水洗浄（１５０～２００kg／ｃ㎡）			③峡幅部：		

①穿孔
②孔内エアー清掃
③ステンレスピン（注入口付）挿入
④エポキシ樹脂注入
⑤穿孔跡埋戻し　［化粧キャップもしくは調色樹脂パテ］

参考数量：

名　称　E　欠損部処理

F　外壁複合改修工法

記号・仕様	E－１　打放し面充填工法［標仕４．２．８］	E－２　打放し面欠損部処理［標仕４．２．３］	E－３　モルタル面欠損部処理［標仕４．３．３］	F　外壁複合改修工法
改修前　改修後				＊印寸法は８０程度とする 
工　程	①欠損部はつり等での整形 ②高圧水洗浄（１５０～２００kg／ｃ㎡） ③欠損はつり部埋戻し［※ﾎﾟﾘﾏｰｾﾒﾝﾄﾓﾙﾀﾙ　・エポキシ樹脂モルタル］ ④セメント系下地調整材コテ塗り（１．５mm±０．５mm） ※Ａ－１工法を行う場合，②，④の工程はＡ－１工法に含む 参考数量：外部仕上表による	①欠損部・錆鉄筋周辺はつり等での整形 ②錆落とし ③高圧水洗浄（１５０～２００kg／ｃ㎡） ④防錆処理 ⑤欠損はつり部埋戻し［※ﾎﾟﾘﾏｰｾﾒﾝﾄﾓﾙﾀﾙ　・エポキシ樹脂モルタル］ ⑥セメント系下地調整材コテ塗り（１．５mm±０．５mm） ※Ａ－１工法を行う場合，③，⑥の工程はＡ－１工法に含む 参考数量：外部仕上表による	①カッター繰切り ②欠損部はつり等での整形 ③高圧水洗浄（１５０～２００kg／ｃ㎡） ④欠損はつり部埋戻し［※ﾎﾟﾘﾏｰｾﾒﾝﾄﾓﾙﾀﾙ　・エポキシ樹脂モルタル］ ⑤セメント系下地調整材コテ塗り（１．５mm±０．５mm） （鉄筋の露出部がある場合はＥ－２による） ※Ａ－２工法を行う場合，③，⑤の工程はＡ－２工法に含む 参考数量：	下地補修後 ① プライマー下塗り ② ポリマーペースト中塗り ③ 三軸ネット張り ④ ワッシャー付アンカーピン打ち込み ⑤ ポリマーペースト中塗り ⑥ アルミ水切り取付け（L-30×15×2.0　ステンレスビス止@450） ⑦ シーリング打設（ＭＳ-２）

参考数量		
	ネット張り	㎡
	水切	m

事業年度　年度 工事完成　年度	設計 令和　年　月	三原市都市部建築課	大	中	小	地域	施設	種類 建築	工事名 本郷小学校屋内運動場長寿命化改修工事	事務所名・建築士登録番号・氏名 有限会社　ＭａｓＭａｓ 一級建築士登録　第325897号 小松木　靖之　印	図面名称・縮尺　non scale　(A3版-71%縮小) 外壁改修工事特記仕様書-1	図番 A-12

工事区分表

区分は○印を適用する。●印が有る場合は●印を適用する。

	項目	建築	電気	機械	昇降機	備考
1．躯体関係						
1．ＲＣ造（梁・壁・床）の貫通孔・開口部	貫通スリーブ					各工事の開口用
	貫通スリーブの補強					各工事の開口用
	開口補強を要する型枠材及び取付け					
	開口部の補強	○		○		
	開口補強を要しない型枠材及び取付け					
	貫通孔・開口部の墨出し	○		○		
	スリーブ・型枠の穴埋め					
2．Ｓ・ＳＲＣ造（梁・壁・床）の貫通孔・開口部	Ｓ・ＳＲＣ造鉄骨貫通鋼管スリーブ・補強					各工事の開口用
	開口補強を要する型枠材及び取付け					
	開口部の補強					各工事の開口用
	開口補強を要しない型枠材及び取付け					
	貫通スリーブ（工場施工部分）					各工事の開口用
	貫通スリーブ（工場施工部分以外）					
	貫通孔・開口部の墨出し					
	スリーブ・型枠の穴埋め					防火区画・防煙区画
	予備スリーブの穴埋め					防火区画・防煙区画
3．設備機器の基礎	屋上設置の基礎					
	屋上基礎で保護コンクリートにアンカーしない軽微なもの					
	室内設置のコンクリート基礎で軽微なもの					
	室内設置のコンクリート基礎で軽微なもの以外					
	屋外設置の基礎			○		
	機器取り付け用アンカー・架台			○		
4．昇降機関連	昇降路及び機械室の築造					
	昇降路内又は機械室天井のフック					
	ピットの防水仕上げ					
	各階出入口三方枠及び位置表示器乗場ボタン取付け用口部の仮枠穴開け					
	三方枠・出入口扉					
	乗り場敷居受け					
	乗場機器取付け後の壁・床・天井仕上げ					
	昇降路がＲＣ造の時の軌条・中間ビーム・ブラケット他昇降路内の鉄製部材一式					
	昇降路がＳ造の時の中間ビームブラケット受けピース、ファスナー					
	昇降路がＳ造の時のブラケット受け、中間ビーム・ファスナー以外の昇降路内の鉄製部材一式					
	電源及び接地線工事					
	機械室・ピットの点検用コンセント					
	煙感知器設置工事					
	停電時非常電源識別接点引込み工事					
	火災時識別リレー接点引込み工事					
	放送用信号線引込み工事					
	エレベーター監視盤への電源引込み工事					
	インターホン・エレベーター監視盤の昇降路外配管工事					
	同上配線工事					
	ピット点検用タラップ					
	機械室の配管用コンクリート及び床用防塵塗料					
	機械室床の機器搬入口の仮枠・補強及び復旧					
	機械室床のロープ用穴等の仮枠穴開け					
	機械室マシンビーム受け梁					
	機械室換気設備工事					

	項目	建築	電気	機械	昇降機	備考
	機械室照明設備工事					
	設備機器メンテナンス歩廊					
2．仕上げ関係						
1．軽鉄天井・壁下地	補強を要するボードの切込み及び下地の補強	○				
	補強を要しないボードの切込み	○				
	開口部の墨出し	○	○	○		
	リブ天井仕上げ材の器具廻り取合い					
2．既製間仕切り	切込み及び補強	○				
	位置ボックス		○			
	衛生器具類・機器類取付用の壁補強			○		
3．吊りボルト及びインサート	設備機器・器具・配管・配線・ダクト用			○		
	Ｓ造の場合の設備吊りボルト用構造部材					打合わせによる
4．外壁廻り	外壁ガラリ及びダクト接続用フランジ			○		
	ウエザーカバー、ベントキャップ			○		
	換気扇及び換気扇用枠			○		
5．湯沸室廻り	流し台・吊戸棚・水切り棚・コンロ台					
	湯沸器					
	既製品レンジフード換気扇					
	現場製作ＳＵＳフード					
	ミニキッチン本体					
	ミニキッチン用換気送風機・ダクト					
	ミニキッチン用衛生配管					
6．便所廻り	洗面カウンター（既製品）					
	洗面カウンター（既製品以外）					
	鏡（Ｗ６００×Ｈ９００まで）					
	鏡（Ｗ６００×Ｈ９００を越えるもの）					
	衛生陶器及び水栓類					
	手すり・ペーパーホルダー					
	オストメイト対応水洗器具					
	大型ベッド					
	乳幼児用いす					
	収納式着替え台					
7．浴室廻り	ユニットバス・ユニットシャワー					
	同上、出入口壁取合い部枠					
	既製品浴槽（風呂釜含む）					
	浴槽・洗い場の排水金物					
	洗濯機パン					
8．事務室廻り	ドアガラリ及びアンダーカット					
	フリーアクセスフロアの切込み及び補強					
	フリーアクセスフロア用マーカー					
9．その他	２重ピット及びトレンチのマンホール蓋					
	機器搬入用フック、ビーム					
	化粧マンホール上蓋及び蓋の仕上げ					屋外を除く
	点検口（天井・床下・壁）					
	排煙口等の天井仕上材の取付け					
	自動閉鎖装置を取付ける防火戸の切込み補強					
	消火器ＢＯＸ					
	厨房用グリーストラップ					
	トラフ・ピット類（蓋を含む）					

	項目	建築	電気	機械	昇降機	備考
	地下各水槽躯体及び防水・マンホール・タラップ					
	ＡＬＣ、押出成形セメント板（ＥＣＰ）壁の開口補強					
	油サービスタンク及びポンプの防油堤					
	フリーアクセスフロア内の防水堤					
	電気錠本体					
3．屋外排水設備・外構						
1．雨水	屋外雨水排水設備					
	桝及び桝蓋					
	ルーフドレン	○				
	たてとい及び横走り管	○				
2．雑排水・汚水	屋外雑排水及び屋外汚水排水設備			○		
	桝及び桝蓋			○		
	化粧マンホール上蓋及び蓋の仕上げ					
3．煙突	煙突					
	発電機室から煙突までの排気管					
	煙道接続用スリーブ					
4．浄化槽	現場施工形の土工事・山留め・杭・地盤改良・躯体工事					
	ユニット形の本体設置工事					
	ユニット形の山留め・杭・地盤改良・躯体工事					
	ユニット形の土工事（根切り）					
	ユニット形の土工事（埋戻し）					
	良好な地盤（山留め・杭・地盤改良が不要）で、浄化槽上部に重量物が載らない場合のユニット形の土工事・躯体工事					
5．地下貯油槽（タンク室を設ける場合）	タンク室の躯体（山留め工事関係を含む）					
	タンク室の乾燥砂充填					
	タンク室のタンク本体及び配管					
	タンク室を設けない場合のタンク及び設置工事					
6．その他	駐車場ガソリントラップ					
4．電気配線配管						
	機器附属の制御盤以降の配管配線（接地線共）					２次側
	機器附属の制御盤への電源供給配管配線					１次側
	自動制御と動力盤との電源供給の渡り配管配線					
	自動扉への電源供給					
	自動扉キースイッチ及びキースイッチまでの配管					
	自動扉本体及びキースイッチ以降の配線					
	電動シャッター電源供給					
	電動シャッター操作スイッチ用位置ボックス及び配管					
	電動シャッター本体・操作スイッチ及びその間の配線					
	室内機と屋外機の渡り（連絡）配線			○		エアコン、湯沸器等
	機器と附属操作スイッチの位置ボックスとその渡り配管		○			エアコン、全熱交換器等
	機器と操作スイッチの渡り配線			○		
	小便器用節水装置への電源供給		○			
	注油口内アース端子よりのアース用配管配線					

	項目	建築	電気	機械	昇降機	備考
	防火戸の連動制御器・煙感知器・吸着板・ラッチ受座の取付け					
	上記の配線					
	防火・防煙シャッター及び二次側配線					
	上記連動制御器・煙感知器の取付け及び配管配線					
	防煙ダンパー					
	上記連動制御器・煙感知器の取付け及び配管配線					
	排煙口					
	上記連動制御器・煙感知器の取付け及び配管配線					
	電気錠への電源供給					
	避雷導体間の接続工事					

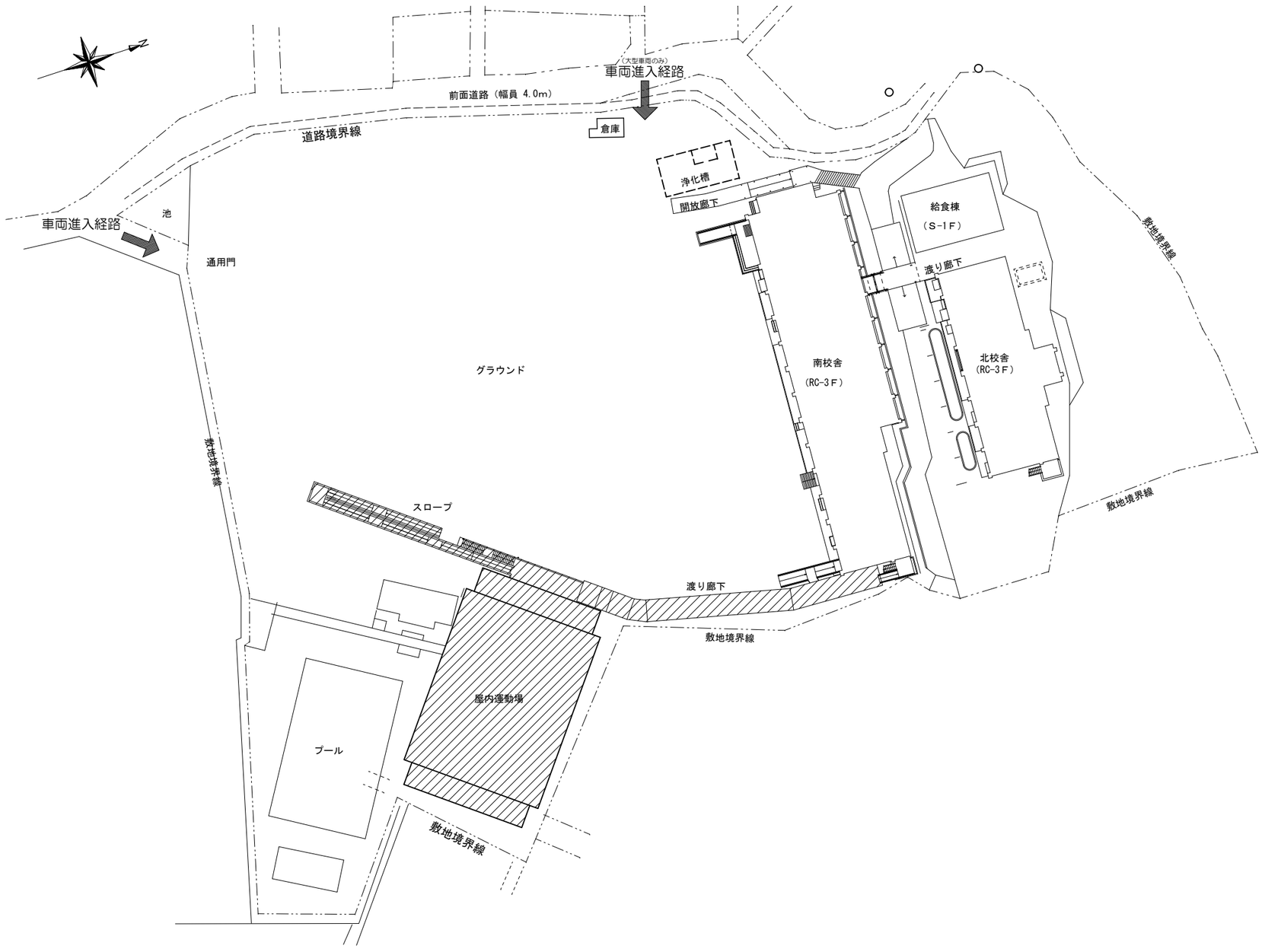
事業年度　年度 / 工事完成　年度	設計 / 令和 年 月	三原市都市部建築課	大	中	小	地域	施設	種類：建築	工事名：本郷小学校屋内運動場長寿命化改修工事	事務所名・建築士登録番号・氏名：有限会社　ＭａｓＭａｓ / 一級建築士登録　第325897号 / 小松木　靖之　印	図面名称・縮尺　non scale　(A3版-71%縮小)：工事区分表	図番：A-13

■工事概要

1．工事名称：本郷小学校屋内運動場長寿命化改修工事（建築主体工事）
2．工事場所：三原市本郷北三丁目
3．工事内容：
　・屋内運動場　内部・外部改修工事
　・渡り廊下　　改修工事
　・スロープ　　改修工事



附近見取図



配置図　1/500

凡例
工事範囲を示す。

事業年度　年度 工事完成　年度	設計 令和 年 月	三原市都市部建築課	大	中	小	地域	施設	種類 建築	工事名 本郷小学校屋内運動場長寿命化改修工事	事務所名・建築士登録番号・氏名 有限会社　ＭａｓＭａｓ 一級建築士登録　第325897号 小松木 靖之	図面名称・縮尺　S=1/500　(A3版-71%縮小) 附近見取図・配置図	図番 A-14

外部仕上げ表

改修前																												改修後		
				下地補修															既存塗膜等の除去				下地調整								
				コンクリート打放し仕上げ							モルタル塗り仕上げ													下地調整（塗装面下地）							
				ひび割れ部				欠損部			ひび割れ部					欠損部															
符号	場所・部位	下地	仕上げ	（1）	（1）	（2）	（1）	（1）	（2）		（1）	（1）	（2）	（1）	（2）	（3）	（1）	（1）	（1）	（1）	（2）	（3）	（イ）	（ロ）	（ハ）	（ニ）	（ホ）	（ヘ）	符号	仕上げ	備　考
				樹脂注入工法	Uカットシール材充填工法（0.2㎜以上1.0㎜）	Uカットシール材充填工法（1.0㎜超）	シール工法（0.2㎜未満）	充填工法	充填工法（発錆部分）	充填工法（番線・セパ跡等）	樹脂注入工法（0.2㎜以上1.0㎜）	Uカットシール材充填工法（0.2㎜以上1.0㎜）	Uカットシール材充填工法（1.0㎜超）	シール工法（0.2㎜未満）	充填工法（撤去部）	充填工法	充填工法（発錆部分）	モルタル塗替え工法（0.25㎡以上）	サンダー工法	高圧水洗工法 30MPa以上	塗膜はく離剤工法	水洗い工法 9MPa以上	ポリマーセメントペースト	下地調整材 C-2	鉄鋼面	コンクリート面モルタル面・ボード面	VP管面	鋼製建具面			
①	根廻り	C	ﾓﾙﾀﾙ金ｺﾃ押え　（既存のまま）				○												○			○		○		○			①	防水形複層塗材E　（新設）	
②	外壁	ALC	ｱｸﾘﾙﾘｼﾝ吹付　（一部撤去） ﾌｨﾗｰ処理下地　（既存のまま）			○	○															○				○			②	ｼﾘｺﾝ系外壁用高日射反射率塗料 水性ｻｰﾓｱｲｳｫｰﾙSi（日本ﾍﾟｲﾝﾄ）同等品　（新設）	
③	屋根 1	S	ｺﾞﾑｱｽﾌｧﾙﾄ複合塗膜防水　（一部撤去） OM本瓦葺(ｺｰﾙﾃﾝ鋼t=1.2)　（既存のまま） 下地22kgﾙｰﾌｨﾝｸﾞ　（既存のまま） ｸﾞﾗｽｳｰﾙ密度24Kｼｰﾄ　（一部敷込調整）																			○			○					③	高強度形ｳﾚﾀﾝｺﾞﾑ系塗膜防水X-2H 遮熱ﾄｯﾌﾟｺｰﾄ　（新設）	ﾊﾞｯｸｱｯﾌﾟ材（撤去） ｼｰﾘﾝｸﾞ処理（新設）
④	屋根 1（谷樋）		ｺﾞﾑｱｽﾌｧﾙﾄ複合塗膜防水　（一部撤去） ｵﾘｴﾝﾀﾙﾒﾀﾙ t=0.5 加工　（既存のまま）																			○			○					④	高強度形ｳﾚﾀﾝｺﾞﾑ系塗膜防水X-2H 遮熱ﾄｯﾌﾟｺｰﾄ　（新設）	
⑤	屋根 1（軒先・ｹﾗﾊﾞ・破風）		亜鉛合金ﾒｯｷ鋼板 t=0.5 ｶﾗｰ　（既存のまま）																						○					⑤	DP　（新設）	
⑤-1	屋根 1（軒裏）	C	ｱｸﾘﾙﾘｼﾝ吹付　（撤去）																○			○		○			○			⑤-1	可とう形外装薄塗材si　（新設）	
⑥	屋根 2（平場）	C	合成ｺﾞﾑ防水 t=2 ｼﾙﾊﾞｰ仕上　（撤去） 断熱材 t=20　（既存のまま） 均しﾓﾙﾀﾙ下地 t=15～40　（既存のまま）																			○							⑥	エポキシ樹脂モルタルのうえ ウレタン塗膜防水X-1　（新設）	
⑦	屋根 2（巾木）	C	合成ｺﾞﾑ防水 t=2 ｼﾙﾊﾞｰ仕上　（撤去） ﾓﾙﾀﾙ下地 t=15　（既存のまま）																			○							⑦	エポキシ樹脂モルタルのうえ ウレタン塗膜防水X-2　（新設）	押え金物 ｱﾙﾐ製（撤去） ｳﾚﾀﾝｼｰﾘﾝｸﾞ（撤去・新設）
⑧	屋根 2（腰壁）	C	ｺﾝｸﾘｰﾄ打放し　（既存のまま）																○			○		○			○			⑧	ｼﾘｺﾝ系外壁用高日射反射率塗料 水性ｻｰﾓｱｲｳｫｰﾙSi（日本ﾍﾟｲﾝﾄ）同等品　（新設）	
⑨	屋根 2（軒先）	C	ｱｸﾘﾙﾘｼﾝ吹付　（撤去）																○			○		○			○			⑨	ｼﾘｺﾝ系外壁用高日射反射率塗料 水性ｻｰﾓｱｲｳｫｰﾙSi（日本ﾍﾟｲﾝﾄ）同等品　（新設）	
⑩	屋根 1・屋根 2（笠木）		ｶﾗｰﾄﾀﾝ t=0.5　（既存のまま）																						○					⑩	DP　（新設）	
⑪	ﾃﾗｽ（平場）	C	押え普通ｺﾝｸﾘｰﾄ打 t=50　（既存のまま） 断熱材 t=25　（既存のまま） 合成ｺﾞﾑ防水 t=2　（既存のまま） 均しﾓﾙﾀﾙ下地 t=15～50　（既存のまま）																			○		○							⑪	ポリマーセメントモルタルのうえ　（新設） ウレタン塗膜防水X-1　（新設）	
⑫	ﾃﾗｽ（巾木）	C	ﾓﾙﾀﾙ金ｺﾃ押え　（撤去） 合成ｺﾞﾑ防水 t=2　（撤去） ﾓﾙﾀﾙ下地 t=15　（既存のまま）																			○	○							⑫	ポリマーセメントモルタルのうえ　（新設） ウレタン塗膜防水X-2　（新設）	押え金物 ｱﾙﾐ製（撤去） ｳﾚﾀﾝｼｰﾘﾝｸﾞ（撤去・新設）
⑬	ﾃﾗｽ（手摺壁内側・笠木・手摺壁外側）	C	ｺﾝｸﾘｰﾄ打放し　（既存のまま）																○			○		○			○			⑬	ｼﾘｺﾝ系外壁用高日射反射率塗料 水性ｻｰﾓｱｲｳｫｰﾙSi（日本ﾍﾟｲﾝﾄ）同等品　（新設）	
⑭	ﾃﾗｽ（手摺壁外側）	C	吹付ﾀｲﾙ（ｱｸﾘﾙ系）ﾍｯﾄﾞｶｯﾄ　（撤去）			○	○												○			○		○			○			⑭	ｼﾘｺﾝ系外壁用高日射反射率塗料 水性ｻｰﾓｱｲｳｫｰﾙSi（日本ﾍﾟｲﾝﾄ）同等品　（新設）	
⑮	軒裏（屋根 2・2階ｷﾞｬﾗﾘｰ・ﾃﾗｽ）	C	ｹｲｶﾙ板 t=6　（既存のまま）																			○				○			⑮	可とう形外装薄塗材si　（新設）	
⑯	柱	C	鉄骨現し（既存のまま）　OP塗（一部撤去）																						○					⑯	DP　（新設）	
⑯-1	柱型	C	ｺﾝｸﾘｰﾄ打放し　（既存のまま）																○			○		○			○			⑯-1	防水形複層塗材E　（新設）	
⑰	梁	C	鉄骨現し（既存のまま）　OP塗（一部撤去）																						○					⑰	DP　（新設）	
⑰-1	鉄骨ﾌﾞﾚｰｽ		鉄骨現し（既存のまま）　OP塗（一部撤去）																						○					⑰-1	DP　（新設）	
⑱	梁型	C	ｱｸﾘﾙﾘｼﾝ吹付　（撤去）																○			○		○			○			⑱	ｼﾘｺﾝ系外壁用高日射反射率塗料 水性ｻｰﾓｱｲｳｫｰﾙSi（日本ﾍﾟｲﾝﾄ）同等品　（新設）	
参考数量				m	m	596.8 m	259.5 m	㎡	㎡	か所	㎡	㎡	㎡	㎡	㎡	㎡	㎡	㎡	㎡	㎡	㎡										

略号　C：コンクリート　M：モルタル塗り　S：軽量鉄骨　DP：耐候性塗料塗り　複層塗材E：合成樹脂エマルション系複層仕上塗材　複層塗材RE：水性エポキシ樹脂エマルション系複層仕上塗材

特記事項

1　外壁改修については、設計時の全数調査報告書を基に、下地補修の前にひび割れ、コンクリートの剥落、タイルひび割れ･浮き及び仕上塗材の劣化部分等の不良箇所を十分に調査して、施工数量調査報告書及び工事施工計画書を作成し、監督員の承諾を受けた後、改修に着手すること。

2　外部建具周囲・打継目地等のシーリングは既存シーリング材を除去後打替えとする。

※　シーリングの打替えを行う場合は、既存シーリング材及びバックアップ材を除去し、下地及び除去したシーリング材について監督員の確認を受けた後に施工すること。また、除去したシーリング材は重量を測り、全量の写真撮影を行うこと。

3　本工事に支障となるものは、一時取外し、支障のないよう復旧すること。既設配管等により、取外しできない場合は監督員と協議すること。

4　水洗い工法は、高圧水洗機（９MPa以上）を使用して、粉化物・付着物等の除去、清掃を行う。

5　クリーニングは、金属、建具及びガラスに適合する洗剤での水洗い程度とする。

6　外壁塗材の除去

(1)　改修範囲内の塗材除去を行うこと。

(2)　除去作業については、平らな面を集塵装置付ディスクグライダーケレン工法で行い、建具取合い・出隅・入隅等を超音波ケレン工法で行うこと。

7　屋外既設 防水層（立上り共）は、撤去とする。脱気テープは@3.0m程度とする。

8　既存塗膜壁面で脆弱と思われる箇所については、付着強度が1.0 N/㎟以上であることを各面３ヶ所以上であることを確認すること

9　外壁のひび割れから常時漏水が認められた場合は、別途漏水防止工事を行う必要があるため、監督員と協議すること。

10　軒裏及び外壁のﾘｼﾝ吹付は、アスベストを含有していない。

~~11　アスベスト含有仕上塗材等の除去~~

~~(1)　アスベスト含有が判明した場合は改修範囲内のアスベストは全面除去を行うこと。~~

~~(2)　除去作業については、湿潤化した上で、平らな面を集塵装置付ディスクグライダー~~

~~(3)　ケレン工法で行い、狭小部、出隅・入隅等を超音波ケレン工法（HEPAフィルター付掃除機併用）で行うこと。~~

~~(4)　アスベストが飛散することのないよう「建築物等の解体等に係る石綿ばく露防止及び石綿飛散漏えい防止対策徹底マニュアル 令和3年3月（厚生労働省、環境省）」及び「建築物等の改修・解体時における石綿含有建築用仕上塗材からの石綿粉じん飛散防止処理技術指針 平成28年4月（国立研究開発法人建築研究所、日本建築仕上材工業会）」等を参考に適切に施工すること。~~

12　高強度形ｳﾚﾀﾝ系塗膜防水のプライマーについては、劣化部撤去範囲は金属下地用プライマーを使用すること。

事業年度　年度 工事完成　年度	設 計 令和 年 月	三原市都市部建築課	大	中	小	地域	施設	種類 建築	工事名 本郷小学校屋内運動場長寿命化改修工事	事務所名･建築士登録番号･氏名 有限会社　ＭａｓＭａｓ 一級建築士登録　第325897号 小松木 靖之	図面名称・縮尺　S=1/50　(A3版-71%縮小) 外部仕上表（１）	図 番 A-15

外部仕上げ表

改修前																																改修後		
				下地補修																既存塗膜等の除去				下地調整										
				コンクリート打放し仕上げ							モルタル塗り仕上げ													下地調整（塗装面下地）									
				ひび割れ部			欠損部				ひび割れ部				欠損部																		
符号	場所・部位	下地	仕上げ	（1）	（1）	（2）	（1）	（1）	（2）		（1）	（1）	（2）	（1）	（2）	（3）	（1）	（1）		（1）	（1）	（2）	（3）	（イ）	（ロ）	（ハ）	（ニ）	（ホ）	（ヘ）			符号	仕上げ	備　考
				樹脂注入工法	Uカットシール材充填工法（0.2mm～1.0mm）	Uカットシール材充填工法（1.0mm超）	シール工法（0.2mm未満）	充填工法	充填工法（発錆部分）	充填工法（番線・セパ跡等）	樹脂注入工法（0.2mm～1.0mm）	Uカットシール材充填工法（0.2mm～1.0mm）	Uカットシール材充填工法（1.0mm超）	シール工法（0.2mm未満）	充填工法（撤去部）	充填工法	充填工法（発錆部分）	モルタル塗替え工法（0.25㎡以上）		サンダー工法	高圧水洗工法 30MPa以上	塗膜はく離剤工法	水洗いエ法 9MPa以上	ポリマーセメントペースト	下地調整材 C-2	鉄鋼面	コンクリート面 モルタル面・ボード面	VP管面	鋼製建具面					
⑲	ﾋﾟﾛﾃｨ A・B・C（床）		土埋設 （既存のまま）																													⑲	—	
⑳	ﾋﾟﾛﾃｨ A・B・C（天井）	C	ｺﾝｸﾘｰﾄ打放し （既存のまま）																													⑳	ｸﾘｰﾆﾝｸﾞ	
㉑	ﾎﾟｰﾁ（床）	C	磁器質150角ﾀｲﾙ （既存のまま）																													㉑	ｸﾘｰﾆﾝｸﾞ	段鼻ﾀｲﾙ150×66（撤去・新設）
㉒	ﾎﾟｰﾁ（側溝）	C	ﾓﾙﾀﾙ金ｺﾃ押え （既存のまま）																													㉒	ｸﾘｰﾆﾝｸﾞ	
㉓	ﾎﾟｰﾁ（天井）	C	塩ﾋﾞ鋼板張り t=0.5 （既存のまま）																							○						㉓	DP （新設）	
㉔	西外部階段 A・B （蹴上・踏面）	C	ﾓﾙﾀﾙ金ｺﾃ押え （既存のまま）																				○				○					㉔	ﾉﾝｽﾘｯﾌﾟ塗装 （新設）	段鼻ﾀｲﾙ150×66（撤去・新設）
㉕	西外部階段 A・B（巾木）	C	ﾓﾙﾀﾙ金ｺﾃ押え H=100 （既存のまま）																				○				○					㉕	ﾉﾝｽﾘｯﾌﾟ塗装 （新設）	
㉖	西外部階段 A・B（手摺壁外側・笠木・内側）	C	吹付ﾀｲﾙ（ｱｸﾘﾙ系）ﾍｯﾄﾞｶｯﾄ （撤去）		○															○			○		○							㉖	ｼﾘｺﾝ系外壁用高日射反射率塗料 水性ｻｰﾓｱｲｿﾚｰｼｮﾝSi（日本ﾍﾟｲﾝﾄ）同等品 （新設）	
㉗	西外部階段 A・B（上裏）	C	ｺﾝｸﾘｰﾄ打放し （既存のまま）																	○			○		○		◯					㉗	可とう形外装薄塗材si （新設）	
㉗-1	西外部階段 A・B（軒裏梁・桁）		鉄骨現し（既存のまま） OP塗（一部撤去）																							○						㉗-1	DP （新設）	
㉘	鉄骨外部階段（踏面）	S	ﾓﾙﾀﾙ金ｺﾃ押え t=50 （既存のまま）																				○			○						㉘	ﾉﾝｽﾘｯﾌﾟ塗装 （新設）	段鼻ﾀｲﾙ150×66（撤去・新設）
㉙	鉄骨外部階段（蹴上）	S	ﾓﾙﾀﾙ金ｺﾃ押え （既存のまま）																				○			○						㉙	ﾉﾝｽﾘｯﾌﾟ塗装 （新設）	
㉚	鉄骨外部階段・ﾊﾞﾙｺﾆｰ（側桁・上裏）	S	鉄骨現し（既存のまま） OP塗（一部撤去）																							○						㉚	DP （新設）	
㉛	ﾊﾞﾙｺﾆｰ（床）	S	CPL t=6（既存のまま） OP塗（一部撤去）																							○						㉛	DP （新設）	
㉜	手摺（西外部階段 A・B、鉄骨外部階段、ﾃﾗｽ、ﾊﾞﾙｺﾆｰ）	C	ｽﾁｰﾙ製（既存のまま） OP塗（一部撤去）																							○						㉜	DP （新設）	
㉝	手摺（ｽﾛｰﾌﾟ）	S	ｽﾃﾝﾚｽ製 （既存のまま）																													㉝	ｸﾘｰﾆﾝｸﾞ	
㉞	竪樋養生管		SGP139.8φ GL+2000 OP塗 （撤去）																							○						㉞	SGP139.8φ GL+2000 DP塗 （新設）	掴金物：ｽﾃﾝﾚｽ製 @1200（撤去・新設）
㉟	竪樋		VP100φ VP塗 （撤去）																													㉟	ｶﾗｰ竪樋 100φ （新設）	掴金物：ｽﾃﾝﾚｽ製 @1200（撤去・新設）
㉟-1	集水器		角ます VP塗 （撤去）																													㉟-1	角ます （新設）	
㊱	竪樋（ﾋﾟﾛﾃｨ C）		VP50φ VP塗 （撤去）																													㊱	ｶﾗｰ竪樋 50φ （新設）	掴金物：ｽﾃﾝﾚｽ製 @1200（撤去・新設）
㊲	角型屋根ﾏﾝﾎｰﾙ		840×840 ｽﾁｰﾙ製 （撤去）																													㊲	屋根ﾏﾝﾎｰﾙ 840×840 ｽﾃﾝﾚｽ製 （新設）	
㊳	ﾙｰﾌﾄﾞﾚｲﾝ		鋳鉄製 100φ用 （撤去）																													㊳	改修用ﾄﾞﾚﾝ 100φ （新設）	ｵｰﾊﾞｰﾌﾛｰ管（新設）
㊴	ﾌﾛｱﾄﾞﾚｲﾝ		鋳鉄製 50φ用 （撤去）																													㊴	改修用ﾄﾞﾚﾝ 50φ （新設）	ｵｰﾊﾞｰﾌﾛｰ管（新設）
㊵	目地シーリング（ALC壁）		ｱｸﾘﾙ系ｼｰﾘﾝｸﾞ （撤去）																													㊵	PU-2 20×10 （新設）	
㊵-1	目地シーリング		ﾎﾟﾘｻﾙﾌｧｲﾄﾞ系ｼｰﾘﾝｸﾞ （撤去）																													㊵-1	PU-2 15×10 （新設）	
㊶	伸縮目地材（ﾃﾗｽ床）		非加硫ｺﾞﾑ系 20×50 （撤去）																													㊶	伸縮目地材 20×50 （新設）	
㊶-1	ﾀｲﾙ伸縮目地（ｽﾛｰﾌﾟ床）		非加硫ｺﾞﾑ系 20×50 （撤去）																													㊶-1	伸縮目地材 ·20×50 （新設）	
参考数量				m	62.5 m	m	m	㎡	㎡	か所	㎡	㎡	㎡	㎡	㎡	㎡	㎡	㎡		㎡	㎡	㎡												

略号　C：コンクリート　M：モルタル塗り　S：軽量鉄骨　DP：耐侯性塗料塗り　複層塗材E：合成樹脂エマルション系複層仕上塗材　複層塗材RE：水性エポキシ樹脂エマルション系複層仕上塗材

特記事項

1　外壁改修については、設計時の全数調査報告書を基に、下地補修の前にひび割れ、コンクリートの剥落、タイルひび割れ・浮き及び仕上塗材の劣化部分等の不良箇所を十分に調査して、施工数量調査報告書及び工事施工計画書を作成し、監督員の承諾を受けた後、改修に着手すること。

2　外部建具周囲・打継目地等のシーリングは既存シーリング材を除去後打替えとする。

※　シーリングの打替えを行う場合は、既存シーリング材及びバックアップ材を除去し、下地及び除去したシーリング材について監督員の確認を受けた後に施工すること。また、除去したシーリング材は重量を測り、全量の写真撮影を行うこと。

3　本工事に支障となるものは、一時取外し、支障のないよう復旧すること。既設配管等により、取外しできない場合は監督員と協議すること。

4　水洗い工法は、高圧水洗機（９MPa以上）を使用して、粉化物・付着物等の除去、清掃を行う。

5　クリーニングは、金属、建具及びガラスに適合する洗剤での水洗い程度とする。

6　外壁塗材の除去

(1)　改修範囲内の塗材除去を行うこと。

(2)　除去作業については、平らな面を集塵装置付ディスクグライダーケレン工法で行い、建具取合い・出隅・入隅等を超音波ケレン工法で行うこと。

7　屋外既設 防水層（立上り共）は、撤去とする。脱気テープは@3.0m程度とする。

8　既存塗膜壁面で脆弱と思われる箇所については、付着強度が1.0 N/mm²以上であることを各面３ヶ所以上であることを確認すること

9　外壁のひび割れから常時漏水が認められた場合は、別途漏水防止工事を行う必要があるため、監督員と協議すること。

10　軒裏及び外壁のﾘｼﾝ吹付は、アスベストを含有していない。

~~11　アスベスト含有仕上塗材等の除去~~

~~(1)　改修範囲内のアスベストは全面除去を行うこと。~~

~~(2)　除去作業については、湿潤化した上で、平らな面を集塵装置付ディスクグラインダー~~

~~(3)　ケレン工法で行い、狭小部、出隅・入隅等を超音波ケレン工法（HEPAフィルター付掃除機併用）で行うこと。~~

~~(4)　アスベストが飛散することのないよう「建築物等の解体等に係る石綿ばく露防止及び石綿飛散漏えい防止対策徹底マニュアル　令和3年3月（厚生労働省、環境省）」及び「建築物等の改修・解体時における石綿含有建築用仕上塗材からの石綿粉じん飛散防止処理技術指針　平成28年4月（国立研究開発法人建築研究所、日本建築仕上材工業会）」等を参考に適切に施工すること。~~

12　高強度形ｸﾚﾝ系塗膜防水のプライマーについては、劣化部撤去範囲は金属下地用プライマーを使用すること。

事業年度　年度 工事完成　年度	設 計 令和 年 月	三原市都市部建築課	大	中	小	地域	施設	種類 建築	工事名 本郷小学校屋内運動場長寿命化改修工事	事務所名・建築士登録番号・氏名 有限会社　ＭａｓＭａｓ 一級建築士登録　第325897号 小松木 靖之	図面名称・縮尺　S=1/50　(A3版-71%縮小) 外部仕上表（２）	図 番 A-16

外部仕上げ表

改修前																																		改修後		
符号	場所・部位	下地	仕上げ	下地補修																	既存塗膜等の除去				下地調整										符号	仕上げ	備　考
				コンクリート打放し仕上げ							モルタル塗り仕上げ																										
				ひび割れ部			欠損部				ひび割れ部				欠損部											下地調整（塗装面下地）										
				（1）	（1）	（2）	（1）	（1）	（2）		（1）	（1）	（2）	（1）	（2）	（3）	（1）	（1）			（1）	（1）	（2）	（3）	（イ）	（ロ）	（ハ）	（ニ）	（ホ）	（ヘ）							
				樹脂注入工法	Uカットシール材充填工法（0.2㎜～1.0㎜）	Uカットシール材充填工法（1.0㎜超）	シール工法（0.2㎜未満）	充填工法	充填工法（発錆部分）	充填工法（番線・セパ跡等）	樹脂注入工法（0.2㎜～1.0㎜）	Uカットシール材充填工法（0.2㎜～1.0㎜）	Uカットシール材充填工法（1.0㎜超）	シール工法（0.2㎜未満）	充填工法（撤去部）	充填工法	充填工法（発錆部分）	モルタル塗替え工法（0.25㎡以上）			サンダー工法	高圧水洗工法 30MPa以上	塗膜はく離剤工法	水洗い工法 9MPa以上	ポリマーセメントペースト	下地調整材 C-2	鉄鋼面	コンクリート面 モルタル面・ボード面	VP管面	鋼製建具面							
㊷	土間（1階ﾄｲﾚ）		CB　（撤去）																															㊷	ｺﾝｸﾘｰﾄ土間　t=100　金ｺﾃ押え Fc24S18　鉄筋金網D13x200x200　（新設）	
㊸	渡り廊下（床）	C	着色塗床仕上目地切　（既存のまま） ﾓﾙﾀﾙ金ｺﾃ押え　（一部撤去）																				○				○							㊸	ﾉﾝｽﾘｯﾌﾟ塗装　（新設） ﾓﾙﾀﾙ金ｺﾃ押え　（一部新設）	屋内運動場側　一部ｺﾝｸﾘｰﾄ（撤去・新設） 校舎側　一部ﾗｲﾝ引き（新設）
㊹	渡り廊下・西外部階段 B（屋根）	S	ﾙｰﾌﾃﾞｯｷ t=0.6 ｶﾗｰ　（撤去）																															㊹	折板H=90 内外(ﾎﾞﾙﾄ) t=0.6 ｶﾗｰ　（新設）	
㊺	渡り廊下・西外部階段 B（屋根裏面）	S	鉄骨現し　OP塗　（撤去）																							○								㊺	鉄骨現し　DP塗　（新設）	
㊻	渡り廊下・西外部階段 B（柱・梁）	S	鉄骨現し　□100角（既存のまま）OP塗（一部撤去）																							○								㊻	DP　（新設）	柱脚腐食部補修
㊼	渡り廊下（軒樋）	S	角樋 120角 VP塗　（撤去）																									○						㊼	角樋 120角　（新設）	
㊽	渡り廊下（竪樋）	S	VP65φ VP塗　（撤去）																															㊽	ｶﾗｰ竪樋　65φ　（新設）	
㊾	ｽﾛｰﾌﾟ（床）	C	ﾀｲﾙ　（既存のまま）																															㊾	ｸﾘｰﾆﾝｸﾞ	誘導ﾌﾞﾛｯｸ300角(既存のまま)
㊿	ｽﾛｰﾌﾟ（巾木・側溝）	C	ﾓﾙﾀﾙ金ｺﾃ押え　（既存のまま）																															50	ｸﾘｰﾆﾝｸﾞ	
51	ｽﾛｰﾌﾟ（手摺壁両面・天端）	C	吹付ﾀｲﾙ（ｱｸﾘﾙ系）　（撤去）		○		○	○													○					○		○							51	ｼﾘｺﾝ系外壁用高日射反射率塗料 水性ｻｰﾓｱｲｳｫｰﾙSi（日本ﾍﾟｲﾝﾄ）同等品　（新設）	
52	ｽﾛｰﾌﾟ（軒裏）	C	ｺﾝｸﾘｰﾄ打放し　（既存のまま）																															52	ｸﾘｰﾆﾝｸﾞ	
53	ｽﾛｰﾌﾟ（柱）	C	吹付ﾀｲﾙ（ｱｸﾘﾙ系）　（撤去）					○													○					○		○							53	ｼﾘｺﾝ系外壁用高日射反射率塗料 水性ｻｰﾓｱｲｳｫｰﾙSi（日本ﾍﾟｲﾝﾄ）同等品　（新設）	
54	ｽﾛｰﾌﾟ（柱・梁・桁）		鉄骨現し（既存のまま）　OP塗（一部撤去）																							○								54	DP　（新設）	
55	ﾒｯｼｭﾌｪﾝｽ(北側)		—																															55	H=1800　（新設）	
56	ﾈｯﾄﾌｪﾝｽ(東側)		（撤去）																															56	H=1800　（新設）	ﾌｪﾝｽ門扉 W=800(撤去・新設)
参考数量				m	113.7 m	m	49.5 m	15.6 ㎡	㎡	か所	㎡	㎡	㎡	㎡	㎡	㎡	㎡	㎡	㎡	㎡																	

略号　C　：コンクリート　　DP　：耐侯性塗料塗り
M　：モルタル塗り　　複層塗材E　：合成樹脂エマルション系複層仕上塗材
S　：軽量鉄骨　　複層塗材RE　：水性エポキシ樹脂エマルション系複層仕上塗材

特記事項

1　外壁改修については、設計時の全数調査報告書を基に、下地補修の前にひび割れ、コンクリートの剥落、タイルひび割れ・浮き及び仕上塗材の劣化部分等の不良箇所を十分に調査して、施工数量調査報告書及び工事施工計画書を作成し、監督員の承諾を受けた後、改修に着手すること。

2　外部建具周囲・打継目地等のシーリングは既存シーリング材を除去後打替えとする。

※　シーリングの打替えを行う場合は、既存シーリング材及びバックアップ材を除去し、下地及び除去したシーリング材について監督員の確認を受けた後に施工すること。また、除去したシーリング材は重量を測り、全量の写真撮影を行うこと。

3　本工事に支障となるものは、一時取外し、支障のないよう復旧すること。

4　水洗い工法は、高圧水洗機（９MPa以上）を使用して、粉化物・付着物等の除去、清掃を行う。

5　クリーニングは、金属、建具及びガラスに適合する洗剤での水洗い程度とする。

6　外壁塗材の除去

(1)　改修範囲内の塗材除去を行うこと。

(2)　除去作業については、平らな面を集塵装置付ディスクグライダーケレン工法で行い、建具取合い・出隅・入隅等を超音波ケレン工法で行うこと。

7　屋外既設 防水層（立上り共）は、撤去とする。脱気テープは@3.0m程度とする。

8　既存塗膜壁面で脆弱と思われる箇所については、付着強度が1.0 N㎜㎡以上であることを各面３ヶ所以上であることを確認すること

9　外壁のひび割れから常時漏水が認められた場合は、別途漏水防止工事を行う必要があるため、監督員と協議すること。

10　軒裏及び外壁のﾘｼﾝ吹付は、アスベストを含有していない。

~~11　アスベスト含有仕上塗材等の除去~~

~~(1)　改修範囲内のアスベストは全面除去を行うこと。~~

~~(2)　除去作業については、湿潤化した上で、平らな面を集塵装置付ディスクグラインダー~~

~~(3)　ケレン工法で行い、狭小部、出隅・入隅等を超音波ケレン工法（HEPAフィルター付掃除機併用）で行うこと。~~

~~(4)　アスベストが飛散することのないよう「建築物等の解体等に係る石綿ばく露防止及び石綿飛散漏えい防止対策徹底マニュアル　令和3年3月（厚生労働省、環境省）」及び「建築物等の改修・解体時における石綿含有建築用仕上塗材からの石綿粉じん飛散防止処理技術指針　平成28年4月（国立研究開発法人建築研究所、日本建築仕上材工業会）」等を参考に適切に施工すること。~~

12　高強度形ｸﾚﾝ系塗膜防水のプライマーについては、劣化部撤去範囲は金属下地用プライマーを使用すること。

事業年度　年度 工事完成　年度	設 計 令和 年 月	三原市都市部建築課	大	中	小	地域	施設	種類 建築	工事名 本郷小学校屋内運動場長寿命化改修工事	事務所名・建築士登録番号・氏名 有限会社　ＭａｓＭａｓ 一級建築士登録　第325897号 小松木 靖之	図面名称・縮尺　S=1/50　(A3版-71%縮小) 外部仕上表（３）	図 番 A-17

階	室名		床 下地	床 仕上	床 床ﾚﾍﾞﾙ	巾木 下地	巾木 仕上	巾木 塗装	腰壁・壁 下地	腰壁・壁 仕上	腰壁・壁 塗装	天井 下地	天井 仕上	天井 塗装	天井 廻り縁	天井 天井高(CH)	天井 梁型	備考
1	便所 (男・女)	改修前	C (一部撤去)	防水ﾓﾙﾀﾙ金ｺﾃ押え (撤去)	-100	—	—	—	ＡＬＣ	樹脂ﾌﾟﾗｽﾀｰ塗	—	ＬＧＳ	FK t=6 (撤去) (ｱｽﾍﾞｽﾄみなし含有)	ＥＰ (撤去)	塩ビ (撤去)	2,400		ﾄｲﾚﾌﾞｰｽ 手摺(撤去) 天井点検口×2(撤去)
		改修後	C (一部新設)	防水ﾓﾙﾀﾙ金ｺﾃ押え (一部新設)	-100	—	—	—	ＡＬＣ (既存のまま)	樹脂ﾌﾟﾗｽﾀｰ塗 (下地調整)	ＥＰ-Ｇ (新設)	ＬＧＳ (既存のまま)	FK t=6 (新設)	ＥＰ (新設)	塩ビ (新設)	2,400		ﾄｲﾚﾌﾞｰｽ(既存のまま) 室名札×2(新設) 天井点検口×2(新設)
	倉庫 (Ａ・Ｂ１・Ｂ２)	改修前	C	ｺﾝｸﾘｰﾄ金ｺﾃ押え (既存のまま)	±0	—	—	—	C ＡＬＣ	ＡＬＣ版 t=100 現し	—	C		—		—		室名札×3(撤去)
		改修後	C (既存のまま)	ｺﾝｸﾘｰﾄ金ｺﾃ押え (既存のまま)	±0	—	—	—	C (既存のまま) ＡＬＣ (既存のまま)	ＡＬＣ版 t=100 現し (既存のまま)	—	C (既存のまま)		—		—		室名札×3(新設)
2	玄関	改修前	軽量ｺﾝｸﾘｰﾄ (一部撤去) M	磁器150角ﾀｲﾙ (撤去) ﾋﾞﾆﾙ床ｼｰﾄt=2.5 (撤去) (ｱｽﾍﾞｽﾄみなし含有)	-100 ±0	ＡＬＣ (一部撤去)	ﾗﾜﾝt=25 H=100 (撤去)	ＯＰ (撤去)	ＡＬＣ (一部撤去)	T2ｼﾝﾅﾍﾞﾆﾔt=6.0 ﾋﾞﾆﾙｸﾛｽ張 (撤去)	—	ＬＧＳ (撤去)	GB－R t=9 (撤去) 岩綿吸音板 t=9 (撤去) (ｱｽﾍﾞｽﾄみなし含有)	—	塩ビ (撤去)	2,700～ 2,800		下足入×1(撤去)・下足入×1(一時撤去) 上り框 ﾃﾗｿﾞｰﾌﾞﾛｯｸ H=100(撤去) 天井L型見切材 L=4900(撤去) 天井点検口(撤去)
		改修後	軽量ｺﾝｸﾘｰﾄ (一部新設) M (下地調整)	防滑性ﾋﾞﾆﾙ床ｼｰﾄt=2.5 (新設) ﾋﾞﾆﾙ床ｼｰﾄt=2.5 木目 (新設)	-100 ±0	ＡＬＣ (既存のまま) ＬＧＳ (新設)	ﾗﾜﾝt=25 H=100 (新設)	ＳＯＰ (新設)	ＡＬＣ (既存のまま) ＬＧＳ (新設)	T2ｼﾝﾅﾍﾞﾆﾔt=6.0 (既存のまま) ﾋﾞﾆﾙｸﾛｽ張 (新設) GB-R t=12.5 (新設) ﾋﾞﾆﾙｸﾛｽ張 (新設)	—	ＬＧＳ (新設)	GB－R t=9.5 (新設) 岩綿吸音板 t=9 (新設)	—	塩ビ (新設)	2,700～ 2,800		下足入(再取付・SOP塗替) 上り框 ﾃﾗｿﾞｰﾌﾞﾛｯｸ H=100(新設) 天井L型見切材 L=4900(新設) 天井点検口(新設)
	事務室	改修前	M	ﾋﾞﾆﾙ床ｼｰﾄt=2.5 (撤去) (ｱｽﾍﾞｽﾄみなし含有)	±0	ＡＬＣ (一部撤去)	ﾋﾞﾆﾙ巾木 H=100 (撤去)	—	ＡＬＣ (一部撤去)	樹脂ﾌﾟﾗｽﾀｰ塗	—	ＬＧＳ (撤去)	GB-D t=9 (撤去) (ｱｽﾍﾞｽﾄみなし含有)	—	塩ビ (撤去)	2,400		換気扇枠 天井点検口(撤去) ﾌﾞﾗｲﾝﾄﾞBOX(撤去) 流し台L1200(撤去) 行事黒板1200×900(撤去) 室名札(撤去)
	倉庫(D)	改修後	M (下地調整)	ﾋﾞﾆﾙ床ｼｰﾄt=2.5 木目 (新設)	±0	ＡＬＣ (既存のまま) ＬＧＳ (新設)	ﾋﾞﾆﾙ巾木 H=100 (新設)	—	ＡＬＣ (既存のまま) ＬＧＳ (新設)	樹脂ﾌﾟﾗｽﾀｰ塗 (下地調整) GB-R t=12.5 (新設)	ＥＰ-Ｇ (新設)	ＬＧＳ (新設)	GB-D t=9.5 (新設)	EP-G (新設)	塩ビ (新設)	2,100		換気扇枠(既存のまま) 室名札(新設) 天井点検口(新設)
	多目的ﾄｲﾚ	改修後	M (下地調整)	ﾋﾞﾆﾙ床ｼｰﾄt=2.5 木目 (新設)	±0	ＡＬＣ (既存のまま) ＬＧＳ (新設)	床材立上げ H=60 (新設) 見切り金物 (新設)	—	ＡＬＣ (既存のまま) ＬＧＳ (新設)	樹脂ﾌﾟﾗｽﾀｰ塗 (既存のまま) GB－R t=15 (新設) GB－S t=12.5 (新設) FK-D t=6 (新設)	—	ＬＧＳ (新設)	FK t=6 (新設)	EP-G (新設)	塩ビ (新設)	2,400		室名札(新設) 天井点検口(新設)
	倉庫(C)	改修前	M	ﾋﾞﾆﾙ床ｼｰﾄt=2.5 (撤去) (ｱｽﾍﾞｽﾄみなし含有)	±0	ＡＬＣ	ﾗﾜﾝt=25 H=100	ＯＰ (撤去)	ＡＬＣ	樹脂ﾌﾟﾗｽﾀｰ塗	—	ＬＧＳ (撤去)	GB-D t=9 (撤去) (ｱｽﾍﾞｽﾄみなし含有)	—	塩ビ (撤去)	2,700		室名札(撤去) 天井点検口(撤去)
		改修後	M (下地調整)	ﾋﾞﾆﾙ床ｼｰﾄt=2.5 木目 (新設)	±0	ＡＬＣ (既存のまま)	ﾗﾜﾝt=25 H=100 (既存のまま)	ＳＯＰ (塗替)	ＡＬＣ (既存のまま)	樹脂ﾌﾟﾗｽﾀｰ塗 (下地調整)	ＥＰ-Ｇ (新設)	—	—	—	—	2,920		室名札(新設) 備品：スチールラック(新設)
	更衣室	改修前	M	ﾋﾞﾆﾙ床ｼｰﾄt=2.5 (撤去) (ｱｽﾍﾞｽﾄみなし含有)	±0	ＡＬＣ	ﾋﾞﾆﾙ巾木 H=100 (撤去)	—	ＡＬＣ	樹脂ﾌﾟﾗｽﾀｰ塗	—	ＬＧＳ	GB-D t=9 (撤去) (ｱｽﾍﾞｽﾄみなし含有)	—	塩ビ (撤去)	2,400		ﾛｯｶｰ 室名札(撤去) 天井点検口(撤去)
		改修後	M (下地調整)	ﾋﾞﾆﾙ床ｼｰﾄt=2.5 木目 (新設)	±0	ＡＬＣ (既存のまま)	ﾋﾞﾆﾙ巾木 H=100 (新設)	—	ＡＬＣ (既存のまま)	樹脂ﾌﾟﾗｽﾀｰ塗 (下地調整)	ＥＰ-Ｇ (新設)	ＬＧＳ (既存のまま)	GB-D t=9.5 (新設)	EP-G (新設)	塩ビ (新設)	2,400		ﾛｯｶｰ SOP塗(塗替) 室名札(新設) 天井点検口(新設)

凡例

符号	名称	符号	名称	符号	名称	符号	名称		
M	モルタル	ＯＰ	油性調合ペイント	ＧＢ-Ｓ	耐水ボード	ＦＫ	けい酸カルシウム板		
C	コンクリート	ＳＯＰ	合成樹脂調合ペイント	ＧＢ-Ｒ	石膏ボード	ＦＫ－Ｄ	化粧けい酸カルシウム板		
ＣＢ	コンクリートブロック	ＥＰ	合成樹脂エマルションペイント	ＧＢ-Ｄ	化粧石膏ボード				
ＲＣ	鉄筋コンクリート	ＥＰ-Ｇ	つや有合成樹脂エマルションペイント	ＧＢ-Ｆ	強化石膏ボード				
ＬＧＳ	軽量鉄骨下地	ＡＥＰ	アクリル樹脂水性エマルションペイント	ＧＢ-Ｒ-Ｈ	普通硬質強化石膏ボード				
				ＤＲ	ロックウール化粧吸音板				

＊特記事項　巾木・壁の塗装(新設)は、既存塗装面の下地調整を行うこと。

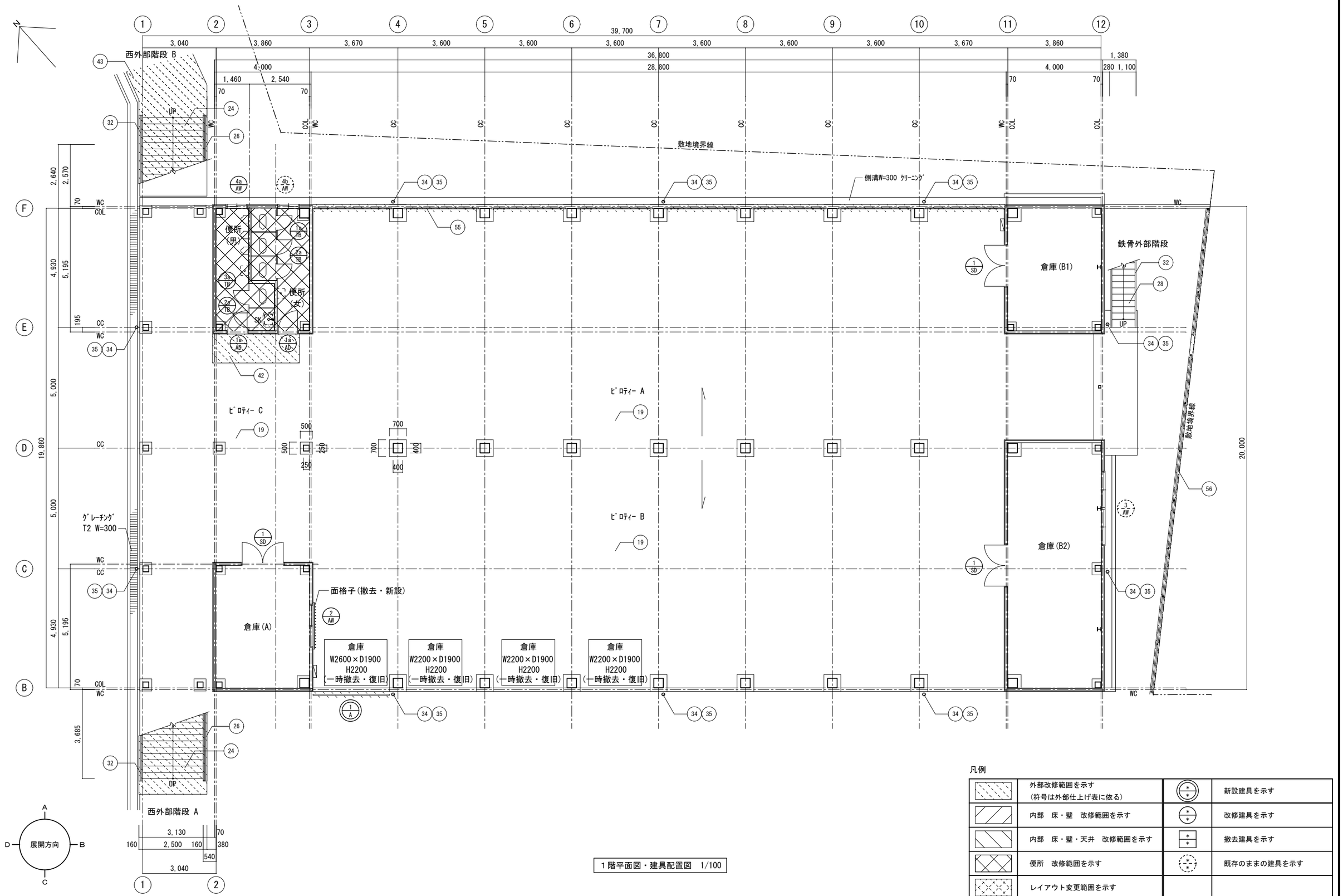
事業年度　年度 工事完成　年度	設計 令和 年 月	三原市都市部建築課	大	中	小	地域	施設	種類 建築	工事名 本郷小学校屋内運動場長寿命化改修工事	事務所名・建築士登録番号・氏名 有限会社　ＭａｓＭａｓ 一級建築士登録　第325897号 小松木 靖之	図面名称・縮尺　S=1/50 (A3版-71%縮小) 内部仕上表（１）	図番 A-18

階	室名		床 下地	床 仕上	床 ﾚﾍﾞﾙ	巾木 下地	巾木 仕上	巾木 塗装	腰壁・壁 下地	腰壁・壁 仕上	腰壁・壁 塗装	天井 下地	天井 仕上	天井 塗装	天井 廻り縁	天井 天井高(CH)	天井 梁型	備考
2	便所 (男・女)	改修前	ｼｰﾄ防水 t=2.0の上 M	磁器25角ﾓｻﾞｲｸﾀｲﾙ	-100	—	—	—	M	磁器100角ﾀｲﾙ	—	LGS	FK t=6 (撤去) (ｱｽﾍﾞｽﾄみなし含有)	EP (撤去)	塩ビ (撤去)	2,400		ﾄｲﾚﾌﾞｰｽ(撤去) 室名札×2(撤去) 天井点検口×2(撤去)
		改修後	ｼｰﾄ防水 t=2.0の上 M (既存のまま)	磁器25角ﾓｻﾞｲｸﾀｲﾙ (既存のまま) 均しﾓﾙﾀﾙの上 木製床組H50 (新設) 構造用合板t=12 (新設) ﾗﾜﾝ合板t=12 (新設) 耐水合板t=5.5 (新設) 塩ﾋﾞｼｰﾄt=2.5 木目 (新設)	±0	M (既存目荒し)	床材立上げ H=60 (新設) 見切り金物 (新設)	—	M (既存目荒し)	磁器100角ﾀｲﾙ (既存のまま) FK-D t=6 接着張り (新設)	—	LGS (既存のまま)	FK t=6 (新設)	EP (新設)	塩ビ (新設)	2,300		ﾄｲﾚﾌﾞｰｽ 木目(新設) 室名札×2(新設) 天井点検口×2(新設)
	屋内運動場	改修前	C	鋼製床組み (撤去) 合板t=12 (撤去) HPｼﾞﾑﾛｰﾘﾝｸﾞt=15(ﾌﾞﾅ) (撤去) ｳﾚﾀﾝ塗装3回塗 (撤去)	±0	ALC	ﾗﾜﾝt=25 H=100	OP (撤去)	ALC	木毛版t=30 ﾗﾜﾝﾌﾞﾅ30×45@100・60×25 T2ｼﾅﾍﾞﾆﾔt=6.0 ﾋﾞﾆﾙｸﾛｽ張 (撤去)	OP (撤去)	S	屋根下地材現し ｷﾞｬﾗﾘｰ裏：T2ｼﾅﾍﾞﾆﾔt=6.0 (撤去) ﾋﾞﾆﾙｸﾛｽ張 (撤去)	—	—	—		暗幕BOX(一部撤去) 暗幕・防球ﾈｯﾄ(一時撤去) 手摺 昇降器具(撤去) 消火器表示板(撤去)
		改修後	C (既存のまま)	鋼製床組み (新設) 合板t=12 (新設) HPｼﾞﾑﾛｰﾘﾝｸﾞt=15(ﾌﾞﾅ) (新設) ｳﾚﾀﾝ塗装3回塗 (新設)	±0	ALC (既存のまま)	ﾗﾜﾝt=25 H=100 (既存のまま)	SOP (塗替)	ALC (既存のまま)	木毛版t=30 (既存のまま) ﾗﾜﾝﾌﾞﾅ30×45@100・60×25 (既存のまま) T2ｼﾅﾍﾞﾆﾔt=6.0 (既存のまま) ﾋﾞﾆﾙｸﾛｽ張 (新設)	SOP (塗替)	S (既存のまま)	屋根下地材現し (既存のまま) ｷﾞｬﾗﾘｰ裏：T2ｼﾅﾍﾞﾆﾔt=5.5 (新設) ﾋﾞﾆﾙｸﾛｽ張 (新設)	—	—	—		暗幕BOX(一部新設・一部SOP塗替) 暗幕・防球ﾈｯﾄ(再取付) 手摺 SOP(塗替) 昇降器具(新設) 消火器表示板(新設)
	ｽﾃｰｼﾞ	改修前	C	鋼製床組み (撤去) 合板t=12 (撤去) HPｼﾞﾑﾛｰﾘﾝｸﾞt=15(ﾌﾞﾅ) (撤去) ｳﾚﾀﾝ塗装3回塗 (撤去)	+1000	ALC	ﾗﾜﾝt=25 H=100	OP (撤去)	ALC	T2ｼﾅﾍﾞﾆﾔt=5.5 目透かし ALC版 t=100 現し	OS	C		—	—	—		暗幕BOX 手摺 框(撤去) 幕(撤去) 緞帳(一時撤去)
		改修後	C (既存のまま)	鋼製床組み (新設) 合板t=12 (新設) HPｼﾞﾑﾛｰﾘﾝｸﾞt=15(ﾌﾞﾅ) (新設) ｳﾚﾀﾝ塗装3回塗 (新設)	+1000	ALC (既存のまま)	ﾗﾜﾝt=25 H=100 (既存のまま)	SOP (塗替)	ALC (既存のまま)	T2ｼﾅﾍﾞﾆﾔt=5.5 目透かし (既存のまま) ALC版 t=100 現し (既存のまま)	OS (既存のまま)	C (既存のまま)		—	—	—		暗幕BOX(既存のまま) 手摺 SOP(塗替) 框 SOP(新設) 幕(新設) 緞帳(再取付)
	物入 (ｽﾃｰｼﾞ下)	改修前	C	ｺﾝｸﾘｰﾄ金ｺﾃ押え	±0	ALC	雑巾摺	—	ALC	ALC版 t=100 現し	—	S	ｽﾃｰｼﾞ下合板現し	—	—	—		前面ﾊﾟﾈﾙ(撤去)
		改修後	C (既存のまま)	ｺﾝｸﾘｰﾄ金ｺﾃ押え (既存のまま)	±0	ALC (既存のまま)	雑巾摺 (既存のまま)	—	ALC (既存のまま)	ALC版 t=100 現し (既存のまま)	—	S (既存のまま)	ｽﾃｰｼﾞ下合板現し (既存のまま)	—	—	—		前面ﾊﾟﾈﾙ(新設)
	控室	改修前	C	ﾓﾙﾀﾙ金ｺﾃ押え ﾋﾞﾆﾙ床ｼｰﾄt=2.5 (撤去) (ｱｽﾍﾞｽﾄみなし含有)	±0	ALC	ﾗﾜﾝt=25 H=100	OP (撤去)	ALC	T2ｼﾅﾍﾞﾆﾔt=5.5 目透かし ALC版 t=100 現し	OS	C	屋根下地材現し	—	—	—		暗幕BOX 階段ﾉﾝｽﾘｯﾌﾟ(撤去)
		改修後	C (既存のまま)	ﾓﾙﾀﾙ金ｺﾃ押え (既存のまま) ﾋﾞﾆﾙ床ｼｰﾄt=2.5 (新設)	±0	ALC (既存のまま)	ﾗﾜﾝt=25 H=100 (既存のまま)	SOP (新設)	ALC (既存のまま)	T2ｼﾅﾍﾞﾆﾔt=5.5 目透かし (既存のまま) ALC版 t=100 現し (既存のまま)	OS (既存のまま)	C (既存のまま)	屋根下地材現し (既存のまま)	—	—	—		暗幕BOX SOP(塗替) 階段ﾉﾝｽﾘｯﾌﾟ(新設)
中2	屋内運動場 ギャラリー	改修前	C	ﾓﾙﾀﾙ金ｺﾃ押え ﾋﾞﾆｱｽﾀｲﾙ		C	ﾗﾜﾝt=25 H=100	OP (撤去)	C	T2ｼﾅﾍﾞﾆﾔt=5.5 目透かし	OP	S	屋根下地材現し	—	—	—	鉄骨現し	手摺 暗幕BOX
		改修後	C (既存のまま)	ﾓﾙﾀﾙ金ｺﾃ押え (既存のまま) ﾋﾞﾆｱｽﾀｲﾙ (既存のまま)		C (既存のまま)	ﾗﾜﾝt=25 H=100 (既存のまま)	SOP (新設)	C 鉄骨現し	T2ｼﾅﾍﾞﾆﾔt=5.5 目透かし (既存のまま)	OP (既存のまま)	S (既存のまま)	屋根下地材現し (既存のまま)	—	—	—	鉄骨現し (既存のまま)	手摺 SOP(塗替) 暗幕BOX(既存のまま)

凡例

符号	名称	符号	名称	符号	名称	符号	名称		
M	モルタル	OP	油性調合ペイント	GB-S	耐水ボード	FK	けい酸カルシウム板		
C	コンクリート	SOP	合成樹脂調合ペイント	GB-R	石膏ボード	FK-D	化粧けい酸カルシウム板		
CB	コンクリートブロック	EP	合成樹脂エマルションペイント	GB-D	化粧石膏ボード				
RC	鉄筋コンクリート	EP-G	つや有合成樹脂エマルションペイント	GB-F	強化石膏ボード				
LGS	軽量鉄骨下地	AEP	アクリル樹脂水性エマルションペイント	GB-R-H	普通硬質強化石膏ボード				
				DR	ロックウール化粧吸音板				

事業年度 年度 工事完成 年度	設計 令和 年 月	三原市都市部建築課	大	中	小	地域	施設	種類 建築	工事名 本郷小学校屋内運動場長寿命化改修工事	事務所名・建築士登録番号・氏名 有限会社 MasMas 一級建築士登録 第325897号 小松木 靖之	図面名称・縮尺 S=1/50 (A3版-71%縮小) 内部仕上表（1）	図番 A-19

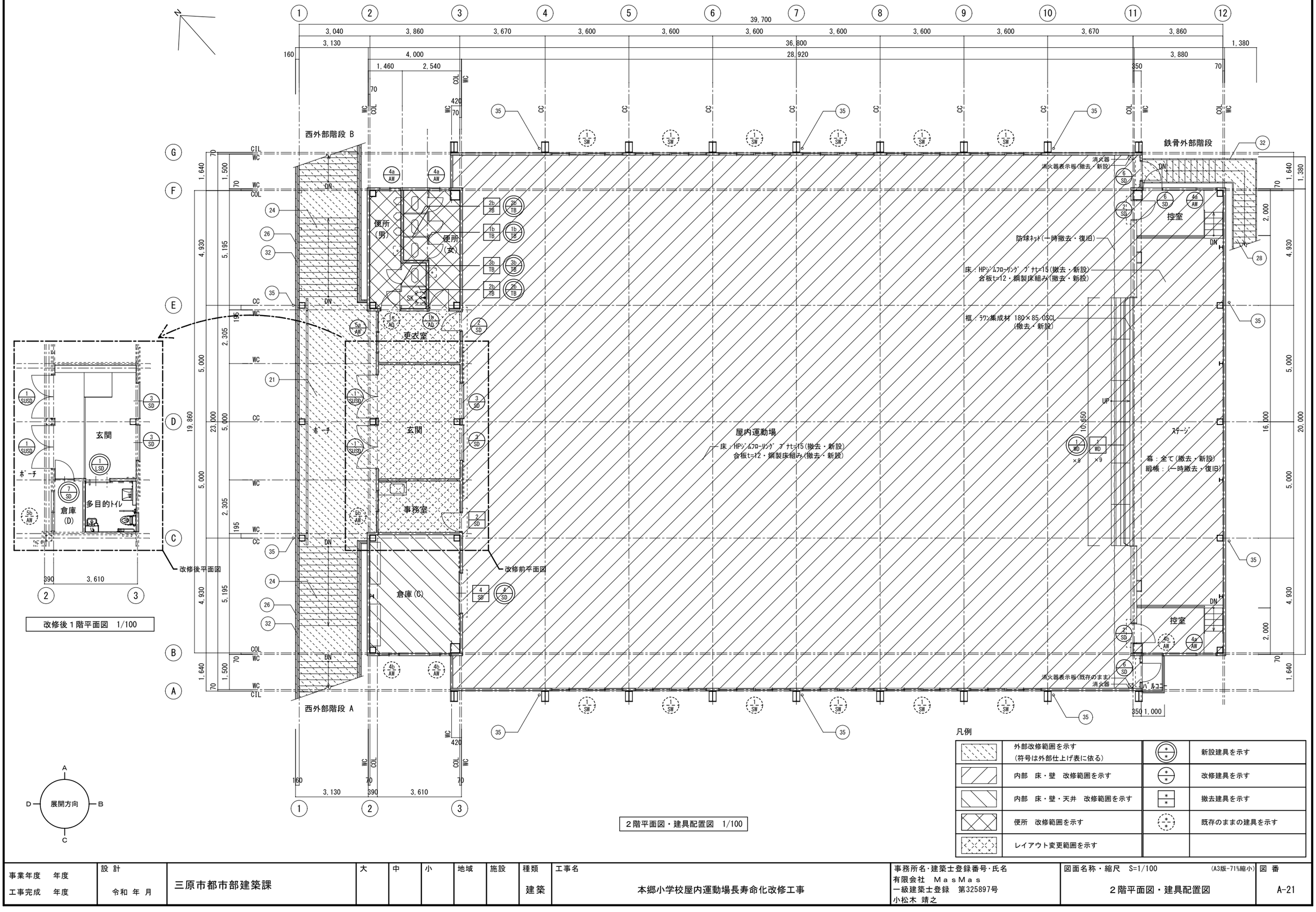


1階平面図・建具配置図　1/100

凡例

	外部改修範囲を示す (符号は外部仕上げ表に依る)		新設建具を示す
	内部　床・壁　改修範囲を示す		改修建具を示す
	内部　床・壁・天井　改修範囲を示す		撤去建具を示す
	便所　改修範囲を示す		既存のままの建具を示す
	レイアウト変更範囲を示す		

事業年度　年度 工事完成　年度	設計 令和 年 月	三原市都市部建築課	大	中	小	地域	施設	種類 建築	工事名 本郷小学校屋内運動場長寿命化改修工事	事務所名・建築士登録番号・氏名 有限会社　ＭａｓＭａｓ 一級建築士登録　第325897号 小松木 靖之	図面名称・縮尺　S=1/100　(A3版-71%縮小) 1階平面図・建具配置図	図番 A-20



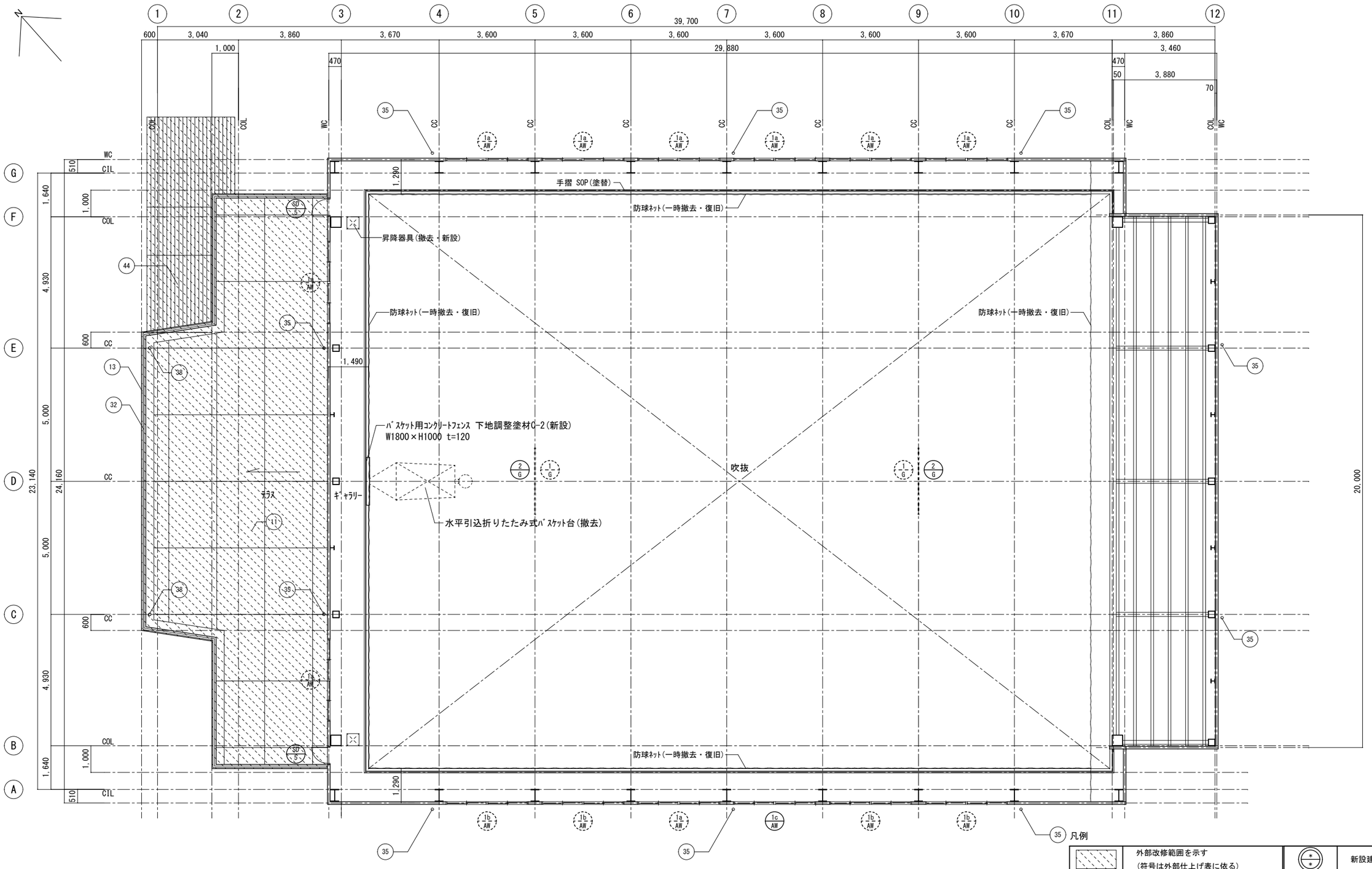
改修後１階平面図　1/100

２階平面図・建具配置図　1/100

凡例

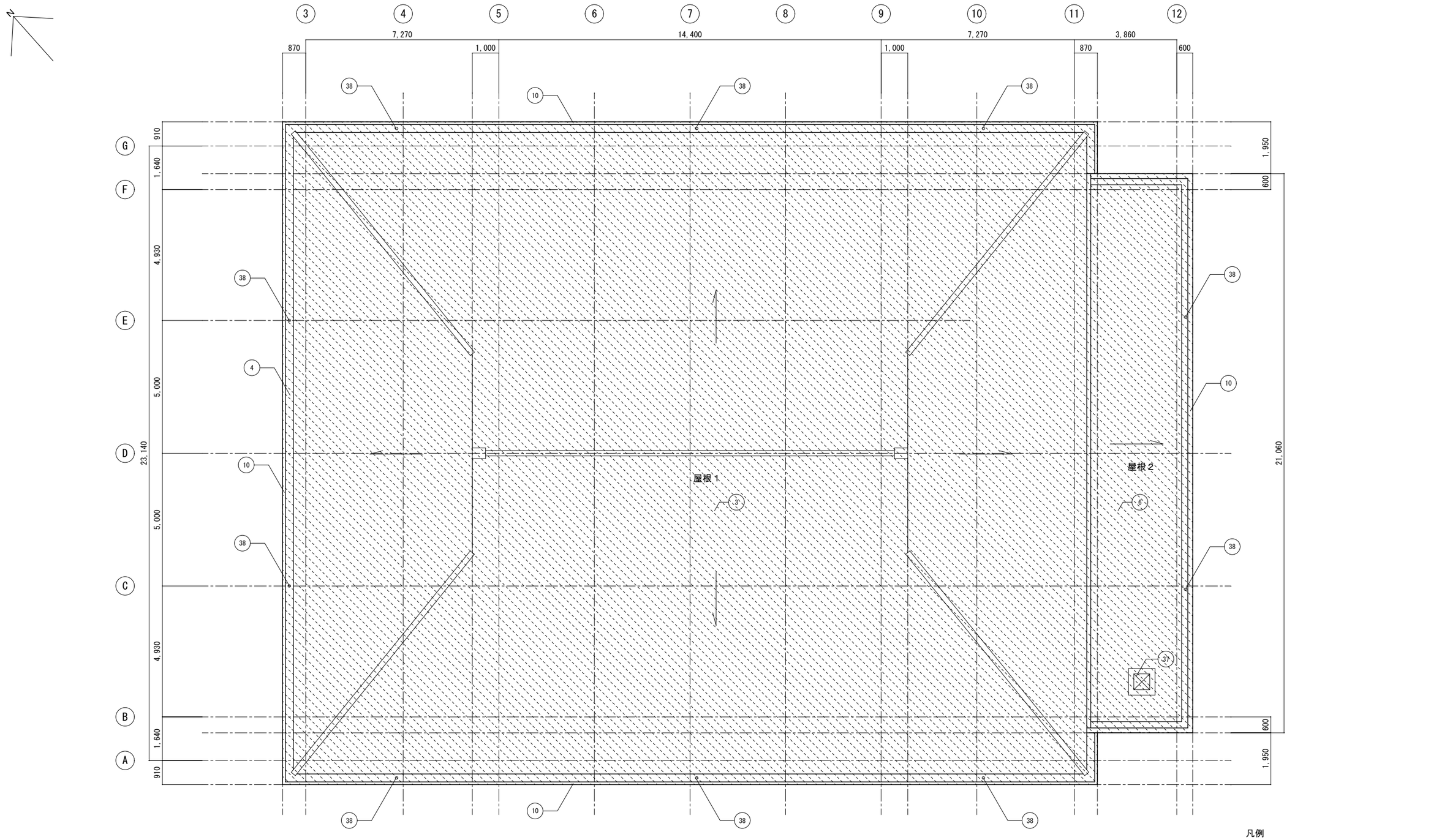
	外部改修範囲を示す (符号は外部仕上げ表に依る)		新設建具を示す
	内部　床・壁　改修範囲を示す		改修建具を示す
	内部　床・壁・天井　改修範囲を示す		撤去建具を示す
	便所　改修範囲を示す		既存のままの建具を示す
	レイアウト変更範囲を示す		

事業年度　年度 工事完成　年度	設計 令和 年 月	三原市都市部建築課	大	中	小	地域	施設	種類 建築	工事名 本郷小学校屋内運動場長寿命化改修工事	事務所名・建築士登録番号・氏名 有限会社　ＭａｓＭａｓ 一級建築士登録　第325897号 小松木 靖之	図面名称・縮尺　S=1/100　(A3版-71%縮小) ２階平面図・建具配置図	図番 A-21



ギャラリー平面図・建具配置図 1/100

事業年度 年度 工事完成 年度	設 計 令和 年 月	三原市都市部建築課	大	中	小	地域	施設	種類 建築	工事名 本郷小学校屋内運動場長寿命化改修工事	事務所名・建築士登録番号・氏名 有限会社 ＭａｓＭａｓ 一級建築士登録 第325897号 小松木 靖之	図面名称・縮尺 S=1/100 (A3版-71%縮小) ギャラリー平面図・建具配置図	図 番 A-22



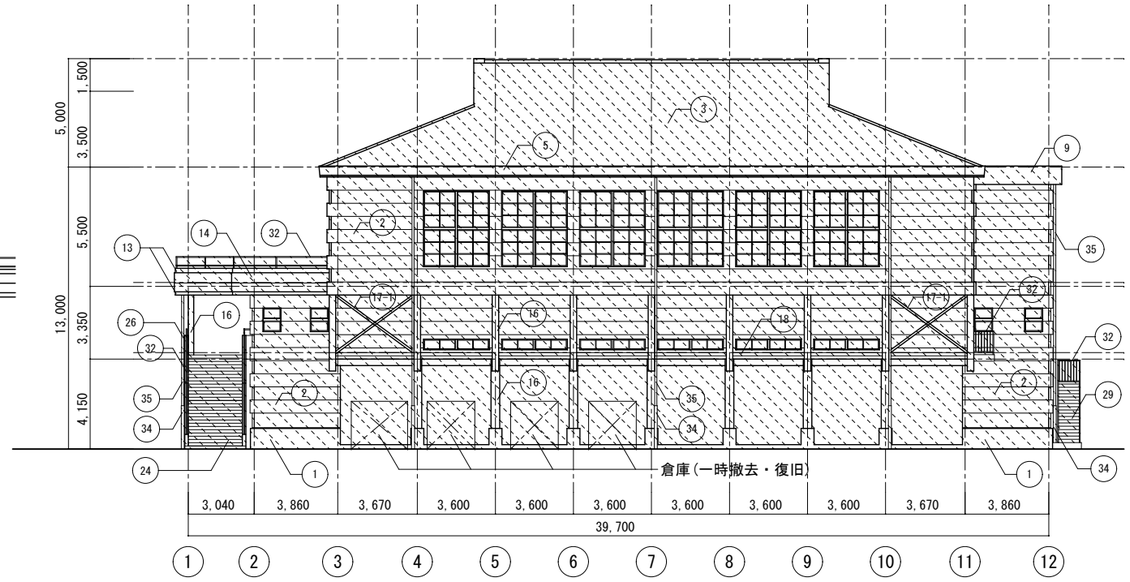
凡例

	外部改修範囲を示す （符号は外部仕上げ表に依る）
	内部　床・壁　改修範囲を示す
	内部　床・壁・天井　改修範囲を示す
	便所　改修範囲を示す
	レイアウト変更範囲を示す

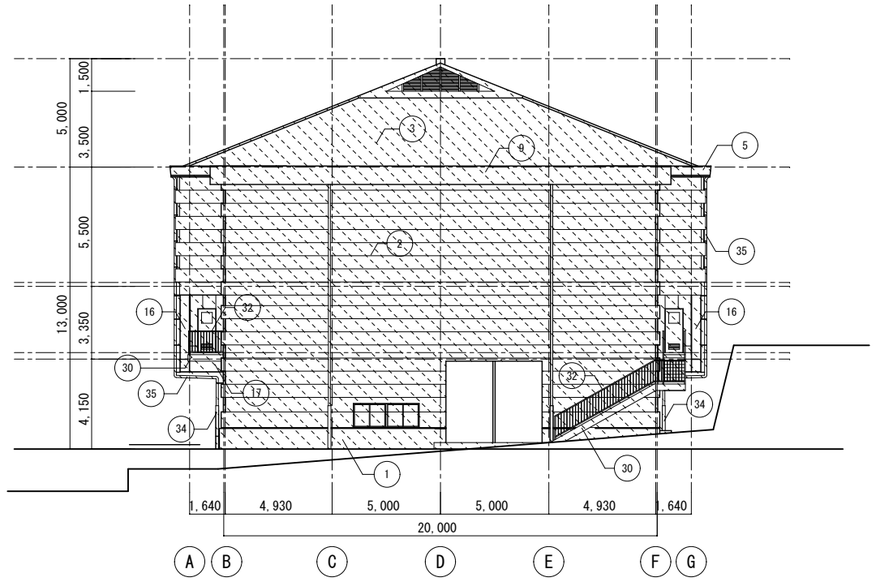
A
D 展開方向 B
C

屋根伏図　1/100

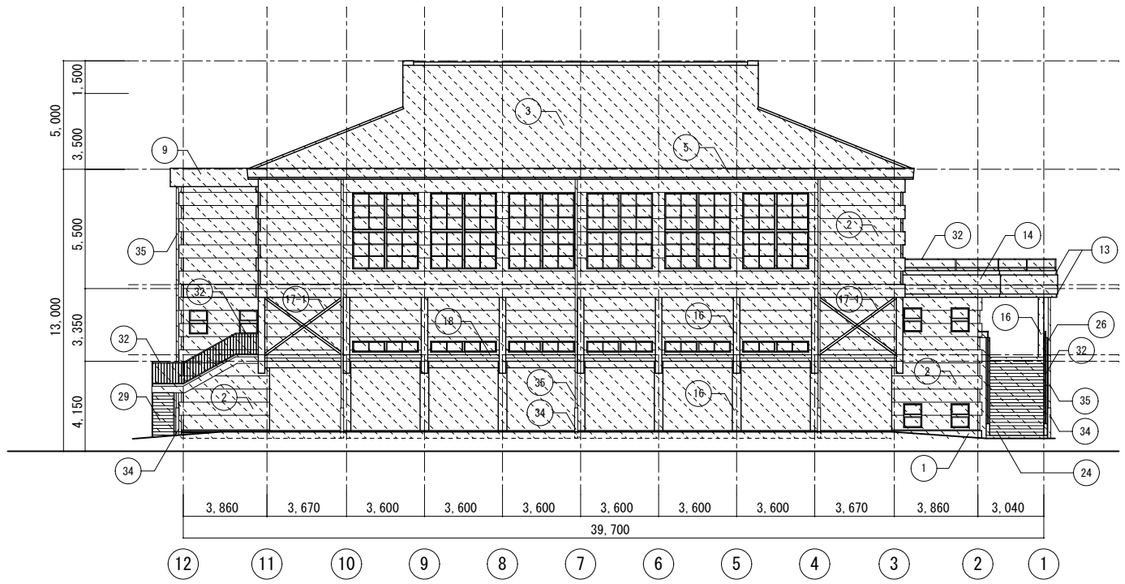
事業年度　年度 工事完成　年度	設計 令和 年 月	三原市都市部建築課	大	中	小	地域	施設	種類 建築	工事名 本郷小学校屋内運動場長寿命化改修工事	事務所名・建築士登録番号・氏名 有限会社　ＭａｓＭａｓ 一級建築士登録　第325897号 小松木 靖之	図面名称・縮尺　S=1/100　(A3版-71%縮小) 屋根伏図	図番 A-23



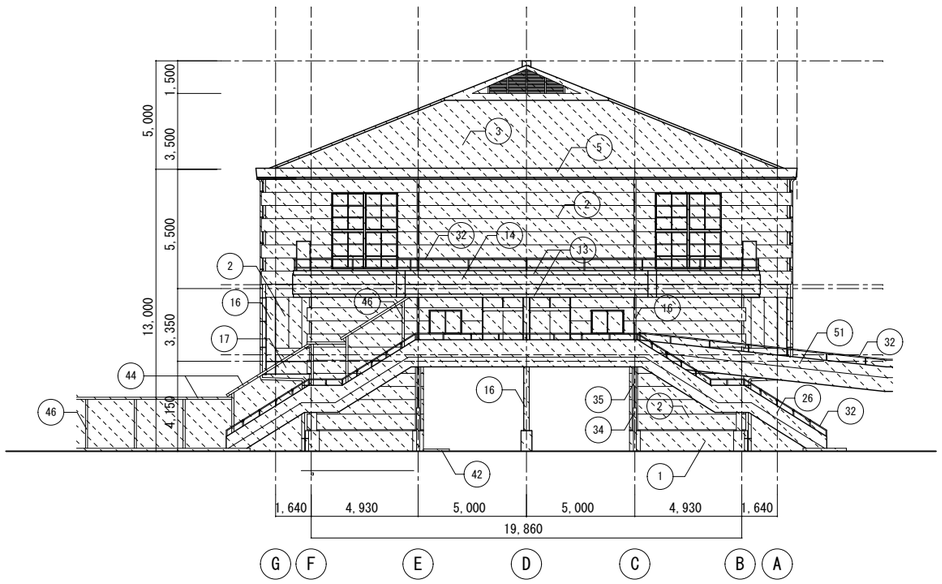
南立面図　1/200



東立面図　1/200



北立面図　1/200

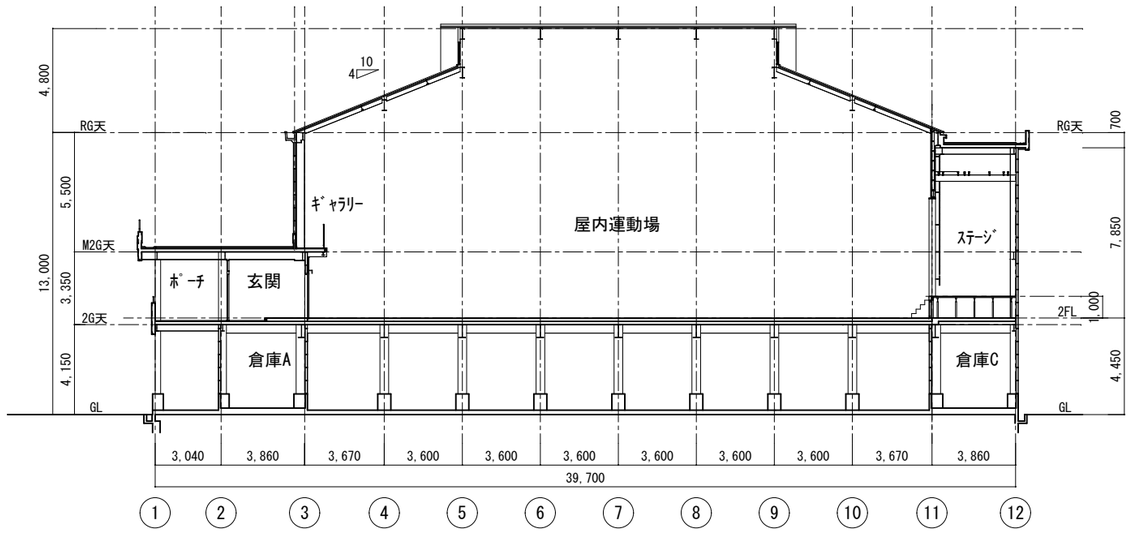


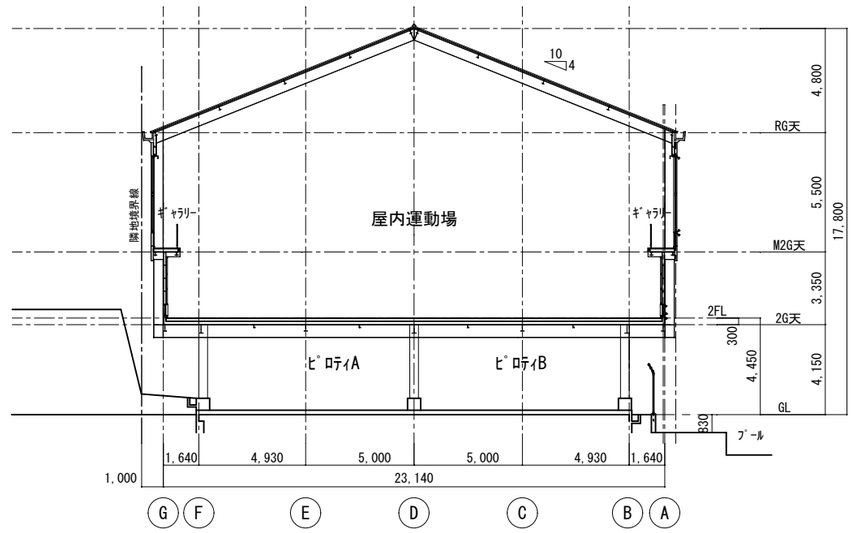
西立面図　1/200

凡例

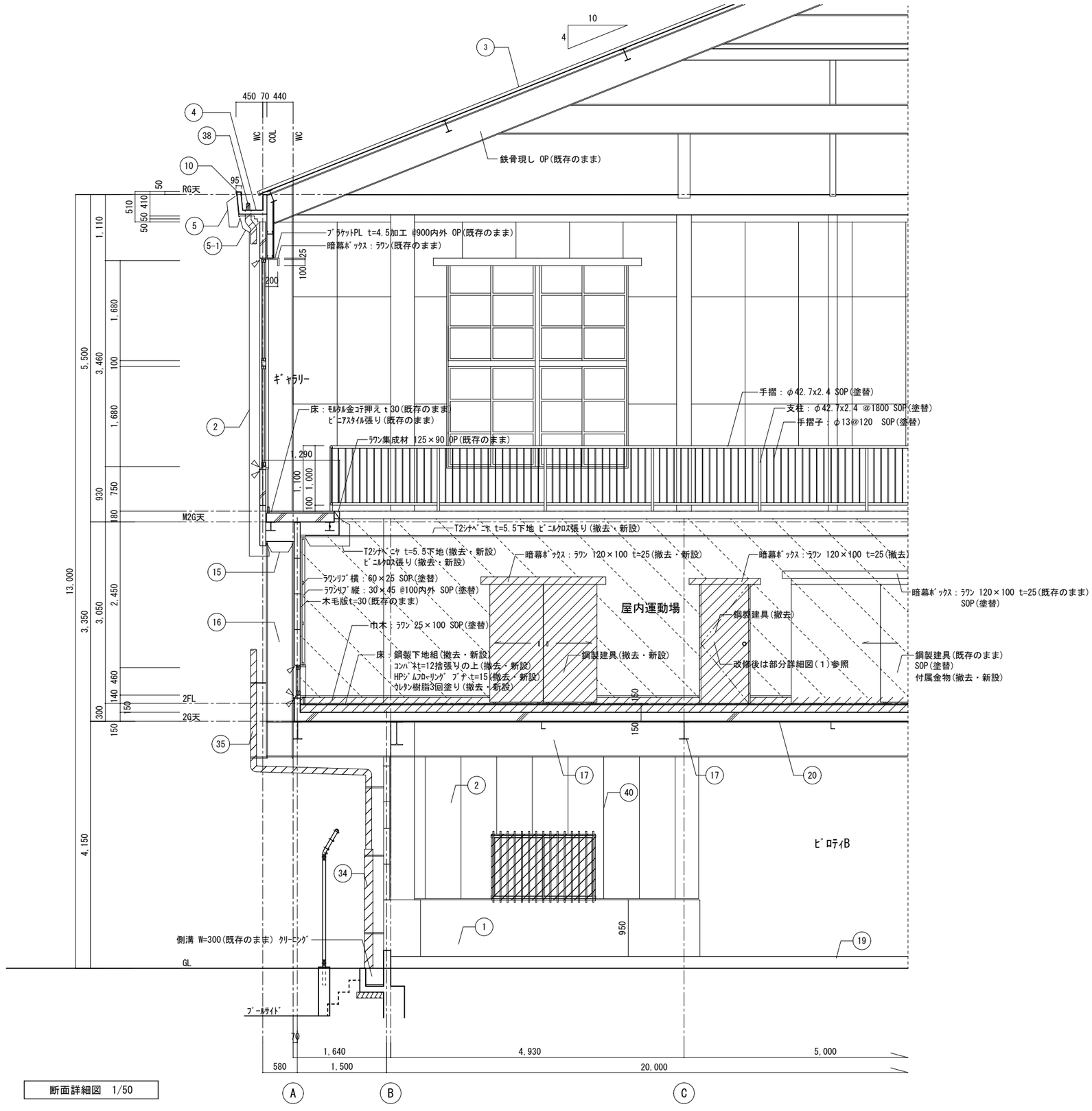
	外部改修範囲を示す (符号は外部仕上げ表に依る)

事業年度　年度 工事完成　年度	設計 令和 年 月	三原市都市部建築課	大	中	小	地域	施設	種類 建築	工事名 本郷小学校屋内運動場長寿命化改修工事	事務所名・建築士登録番号・氏名 有限会社　ＭａｓＭａｓ 一級建築士登録　第325897号 小松木 靖之	図面名称・縮尺　S=1/200　(A3版-71%縮小) 立面図	図番 A-24





事業年度　年度 工事完成　年度	設計 令和　年　月	三原市都市部建築課	大	中	小	地域	施設	種類 建築	工事名 本郷小学校屋内運動場長寿命化改修工事	事務所名・建築士登録番号・氏名 有限会社　ＭａｓＭａｓ 一級建築士登録　第325897号 小松木 靖之	図面名称・縮尺　S=1/200　(A3版-71%縮小) 断面図	図番 A-25

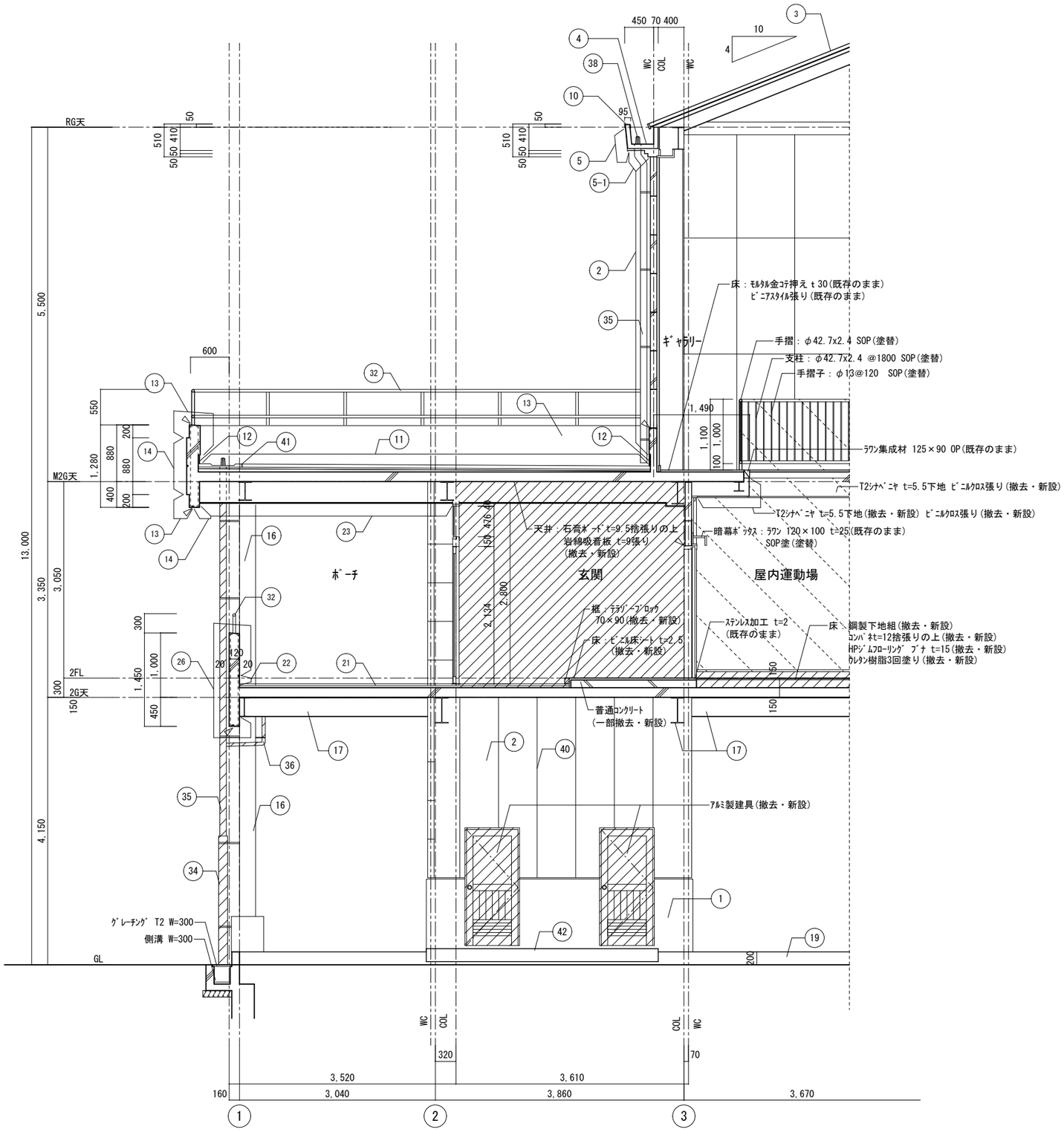


断面詳細図 1/50

凡例

	内部改修を示す
	撤去を示す
	カッター切を示す。
※	外部補修を示す (符号は外部仕上げ表に依る)

事業年度 年度 工事完成 年度	設計 令和 年 月	三原市都市部建築課	大	中	小	地域	施設	種類 建築	工事名 本郷小学校屋内運動場長寿命化改修工事	事務所名・建築士登録番号・氏名 有限会社 MasMas 一級建築士登録 第325897号 小松木 靖之	図面名称・縮尺 S=1/50 (A3版-71%縮小) 断面詳細図(1)	図番 A-26

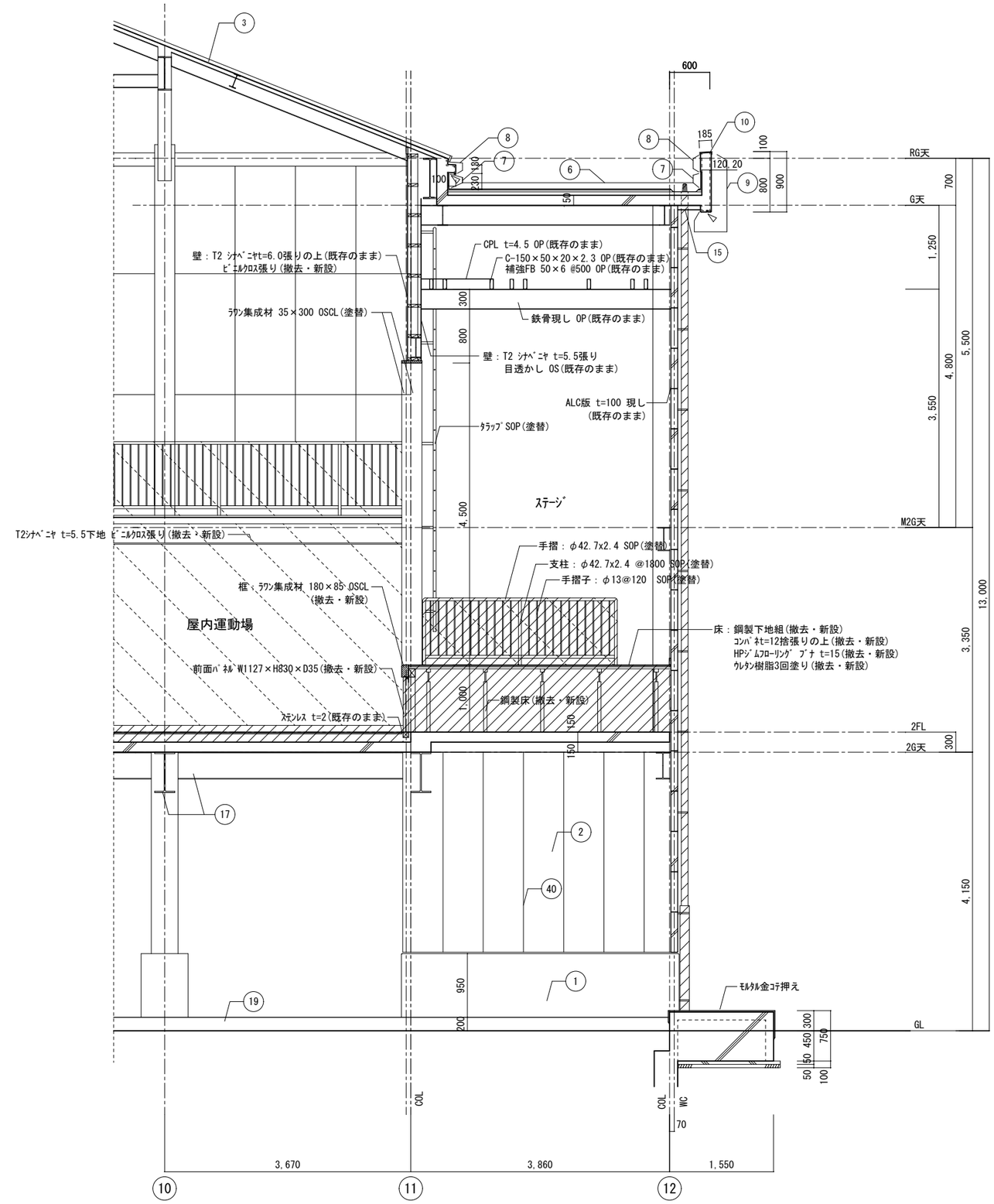


断面詳細図 1/50

凡例

	内部改修を示す
	撤去を示す
	カッター切を示す。
※	外部補修を示す (符号は外部仕上げ表に依る)

事業年度 年度 工事完成 年度	設 計 令和 年 月	三原市都市部建築課	大	中	小	地域	施設	種類 建築	工事名 本郷小学校屋内運動場長寿命化改修工事	事務所名・建築士登録番号・氏名 有限会社 ＭａｓＭａｓ 一級建築士登録 第325897号 小松木 靖之	図面名称・縮尺 S=1/50 (A3版-71%縮小) 断面詳細図(2)	図 番 A-27

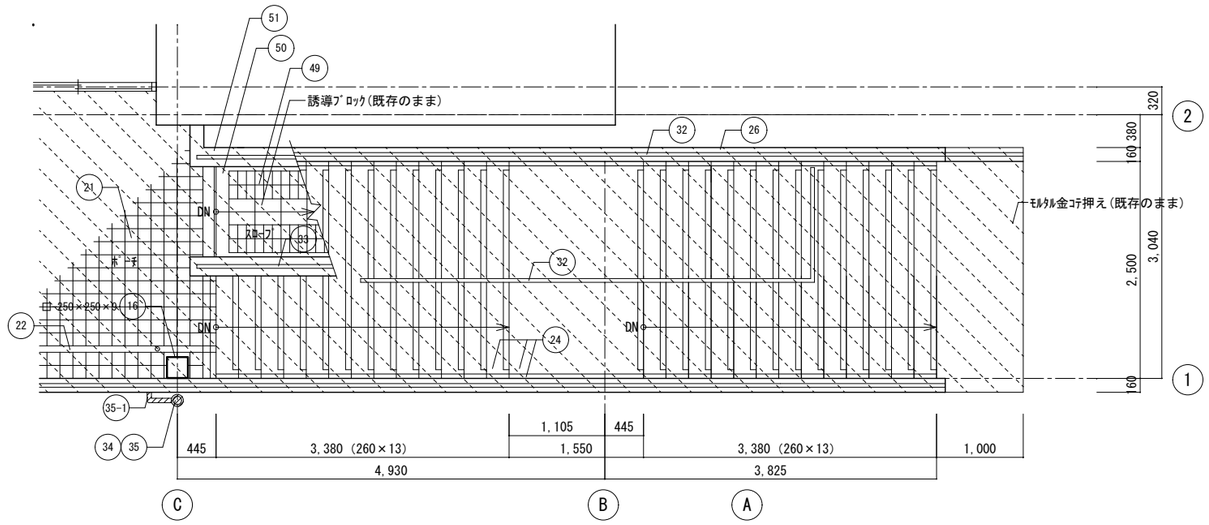


断面詳細図 1/50

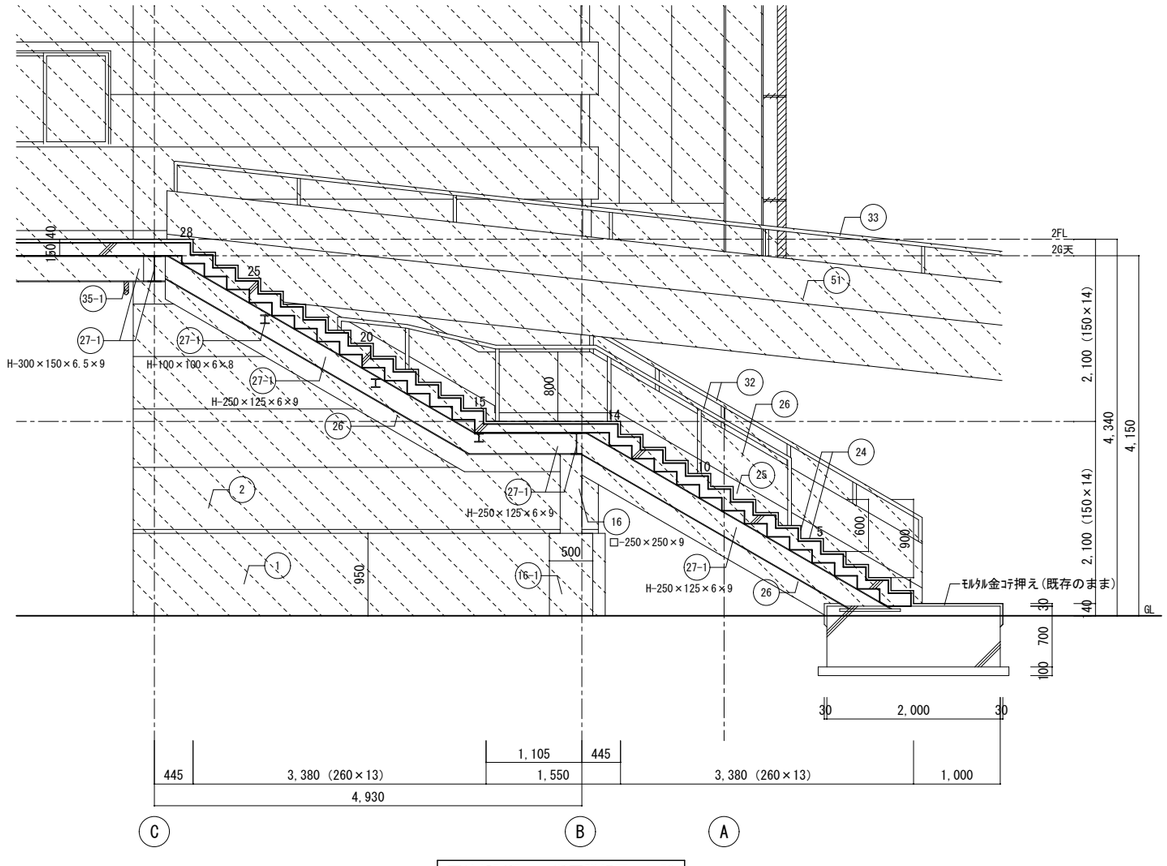
凡例

	内部改修を示す
	撤去を示す
	カッター切を示す。
※	外部補修を示す (符号は外部仕上げ表に依る)

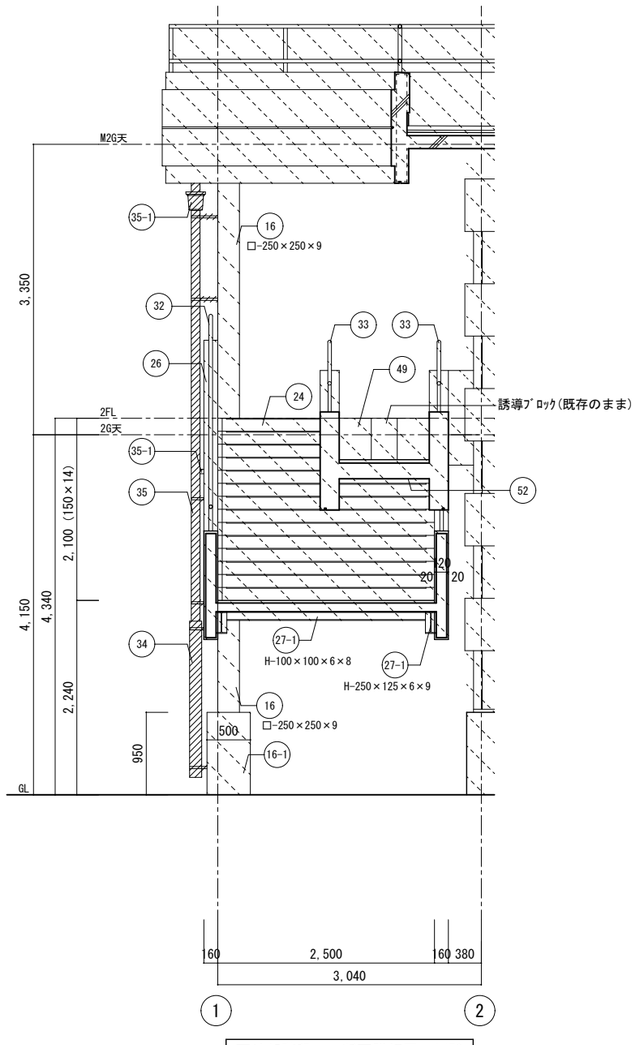
事業年度 年度 工事完成 年度	設計 令和 年 月	三原市都市部建築課	大	中	小	地域	施設	種類 建築	工事名 本郷小学校屋内運動場長寿命化改修工事	事務所名・建築士登録番号・氏名 有限会社 ＭａｓＭａｓ 一級建築士登録 第325897号 小松木 靖之	図面名称・縮尺 S=1/50 (A3版-71%縮小) 断面詳細図(3)	図番 A-28



西外部階段Ａ　平面詳細図　1/50



西外部階段Ａ　断面詳細図　1/50

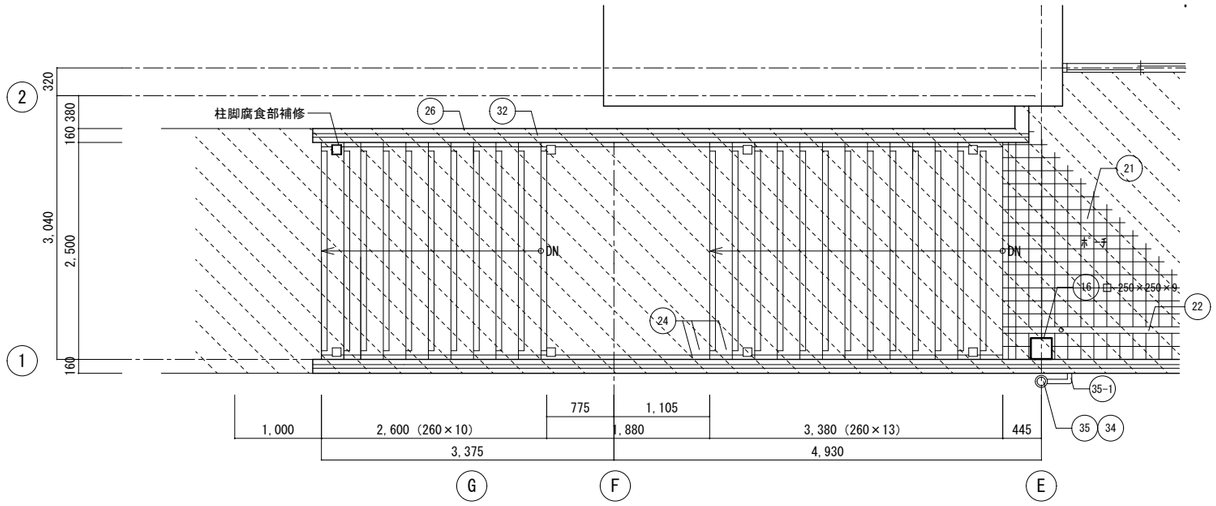


西外部階段Ａ　断面詳細図　1/50

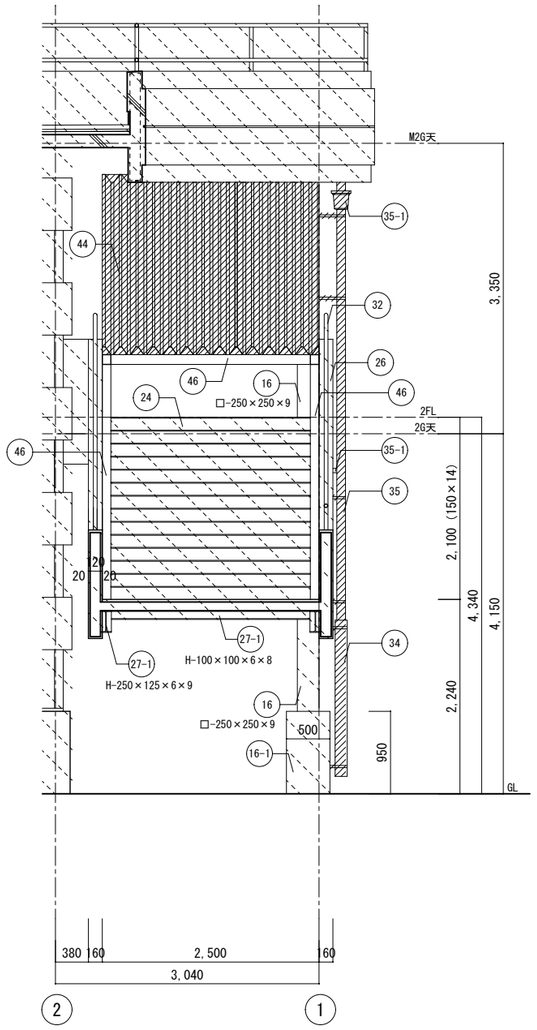
凡例

	改修・補修範囲を示す
	撤去を示す
※	外部補修を示す (符号は外部仕上げ表に依る)

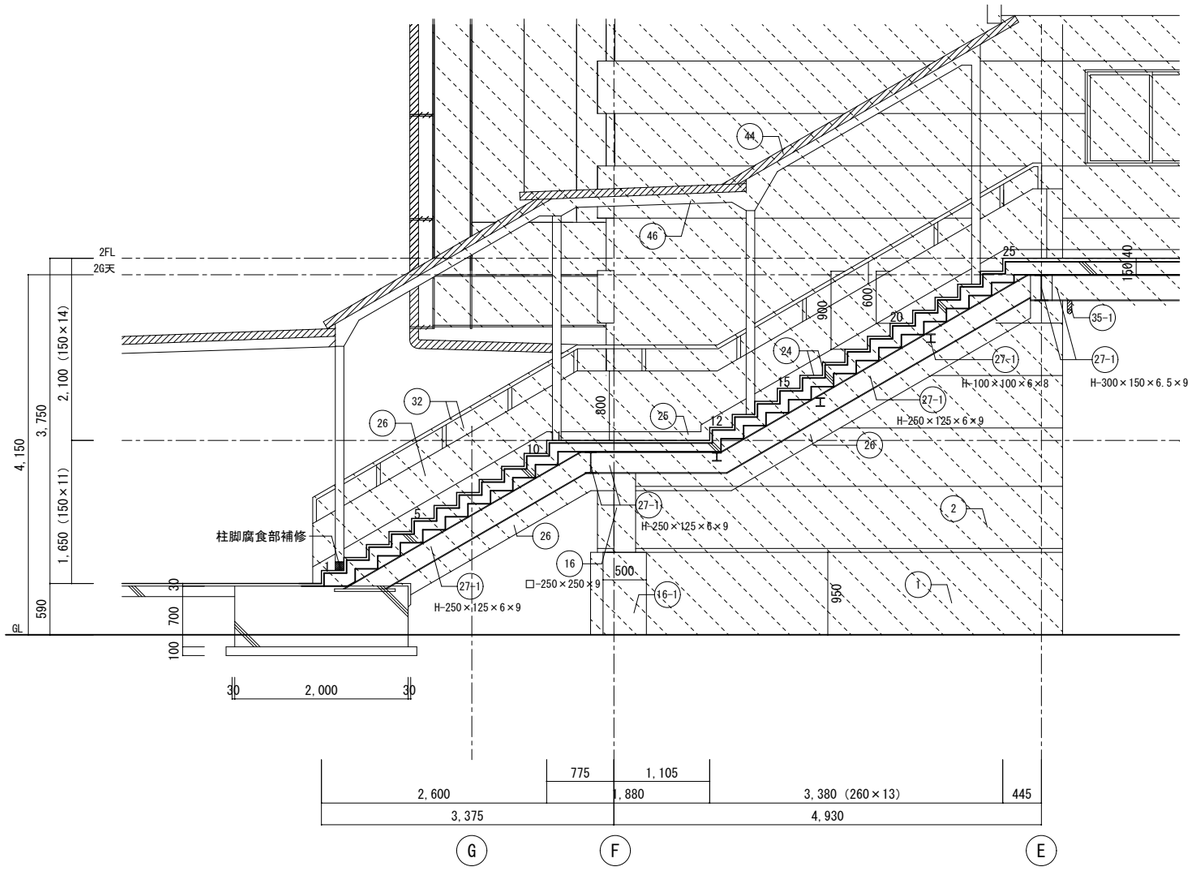
事業年度　年度 工事完成　年度	設計 令和 年 月	三原市都市部建築課	大	中	小	地域	施設	種類 建築	工事名 本郷小学校屋内運動場長寿命化改修工事	事務所名・建築士登録番号・氏名 有限会社　ＭａｓＭａｓ 一級建築士登録　第325897号 小松木 靖之	図面名称・縮尺　S=1/50　(A3版-71%縮小) 西外部階段Ａ　平面・断面詳細図	図番 A-29



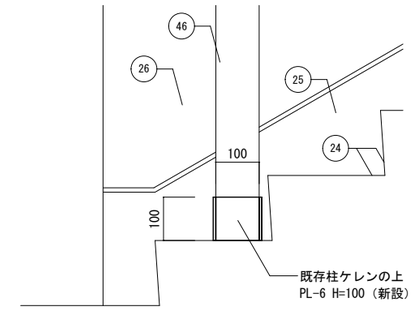
西外部階段Ｂ　平面詳細図　1/50



西外部階段Ｂ　断面詳細図　1/50



西外部階段Ｂ　断面詳細図　1/50

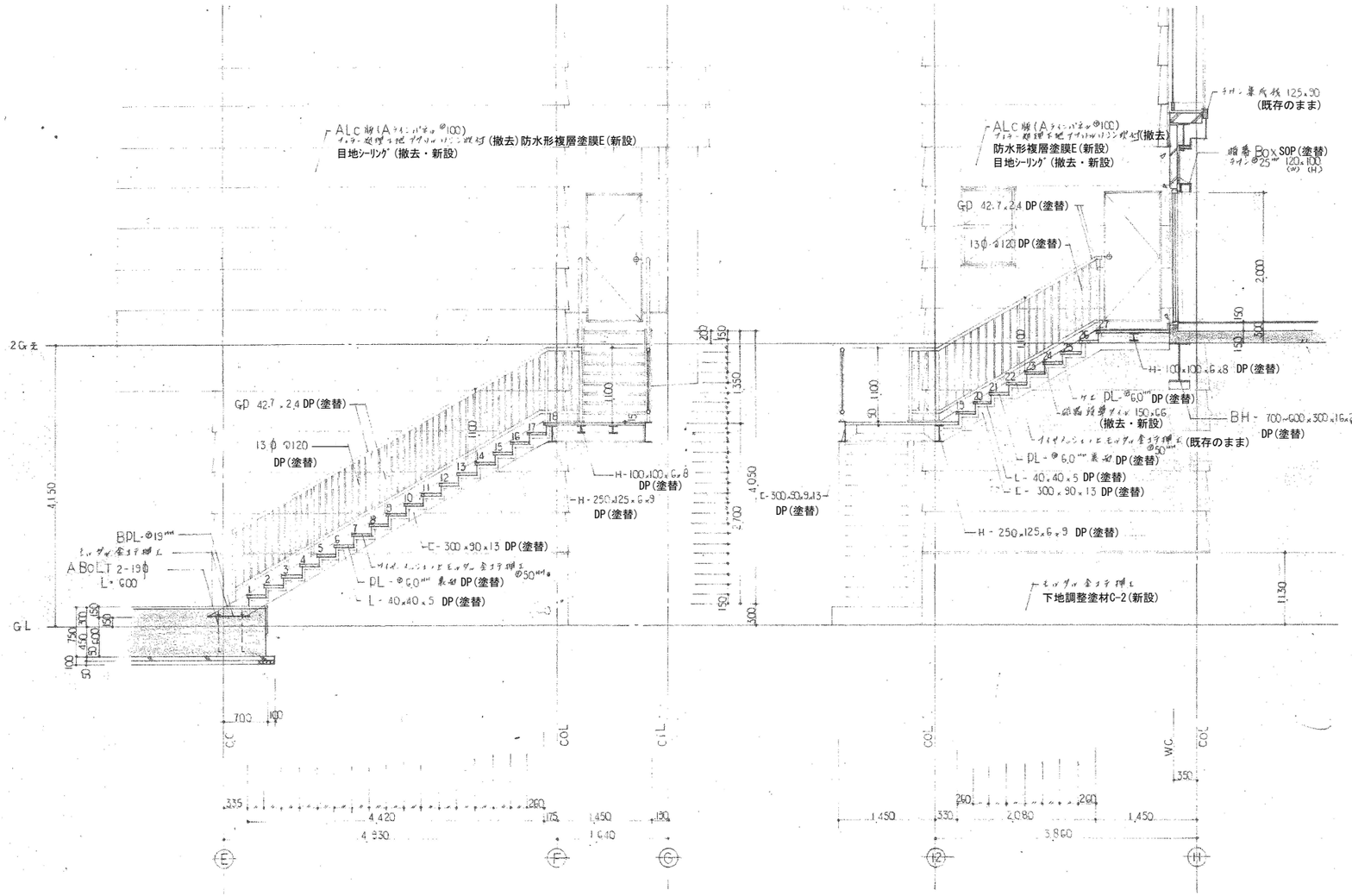


柱脚腐食部補修 部分詳細図　S=1/10

凡例

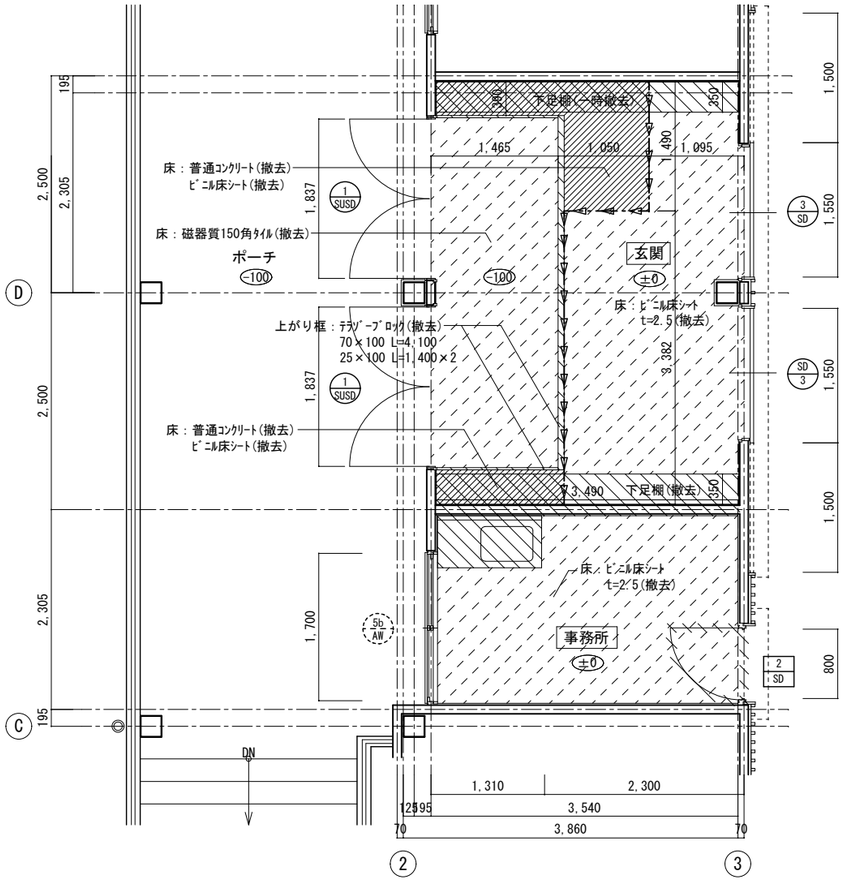
	改修・補修範囲を示す
	撤去を示す
	補修範囲を示す
※	外部補修を示す （符号は外部仕上げ表に依る）

事業年度　年度 工事完成　年度	設計 令和 年 月	三原市都市部建築課	大	中	小	地域	施設	種類 建築	工事名 本郷小学校屋内運動場長寿命化改修工事	事務所名・建築士登録番号・氏名 有限会社　ＭａｓＭａｓ 一級建築士登録　第325897号 小松木 靖之	図面名称・縮尺　S=1/10・1/50　(A3版-71%縮小) 西外部階段Ｂ　平面・断面詳細図	図番 A-30

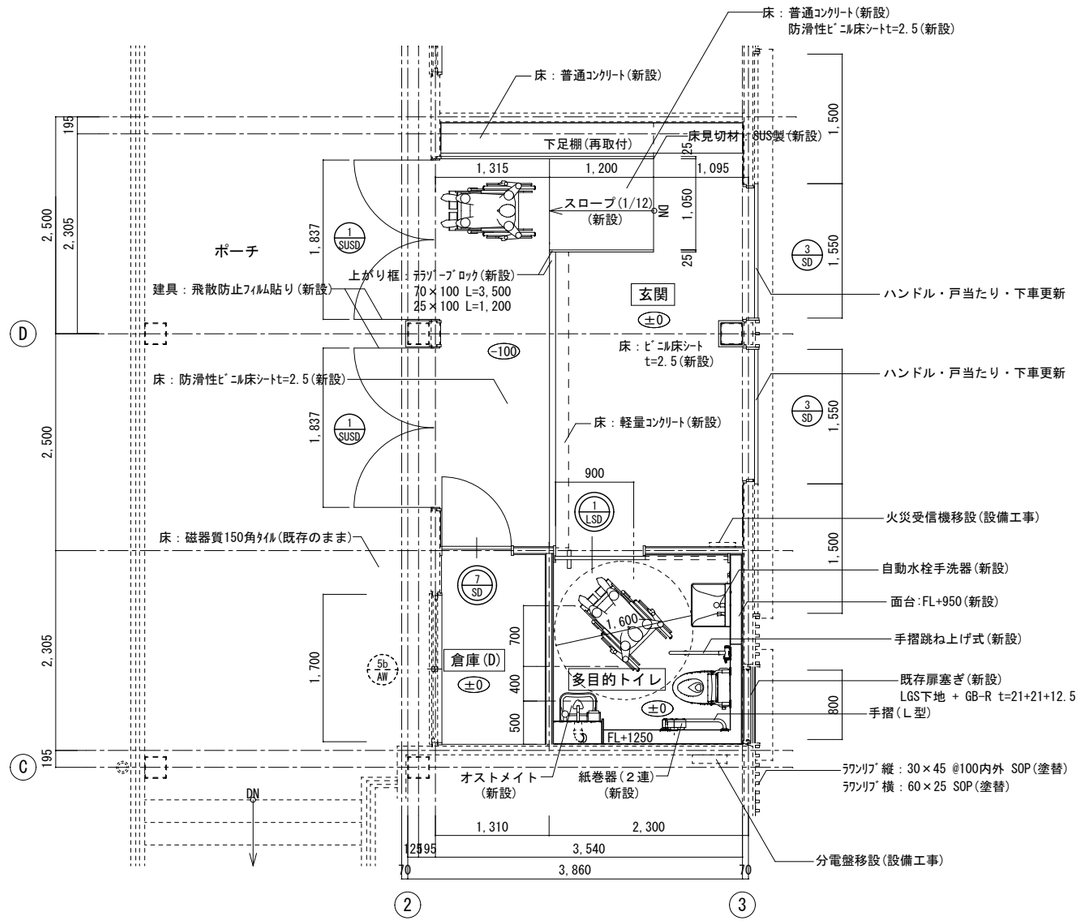


鉄骨外部階段　断面詳細図　1/50

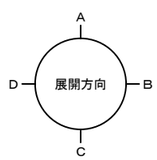
事業年度　年度 工事完成　年度	設計 令和 年 月	三原市都市部建築課	大	中	小	地域	施設	種類 建築	工事名 本郷小学校屋内運動場長寿命化改修工事	事務所名・建築士登録番号・氏名 有限会社　ＭａｓＭａｓ 一級建築士登録　第325897号 小松木 靖之	図面名称・縮尺　S=1/50　(A3版-71%縮小) 鉄骨外部階段　断面詳細図	図番 A-31



改修前　平面詳細図　1:50



改修後　平面詳細図　1:50



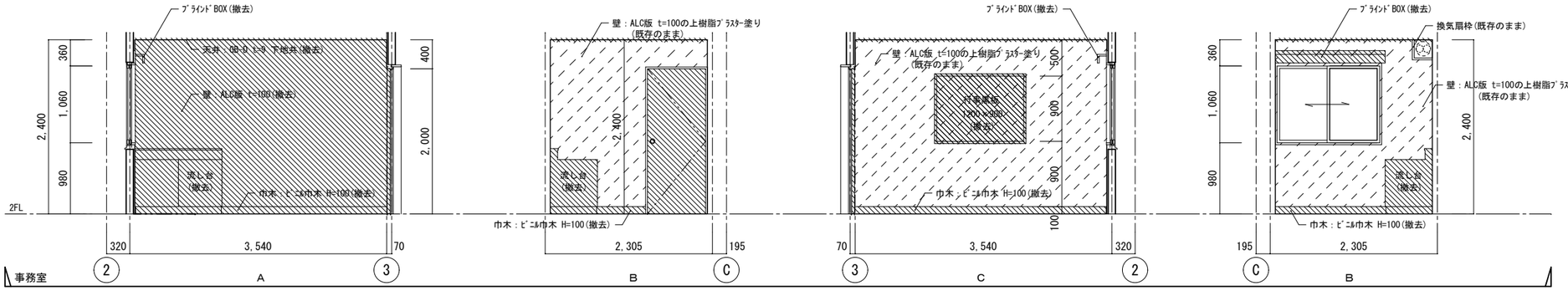
凡例

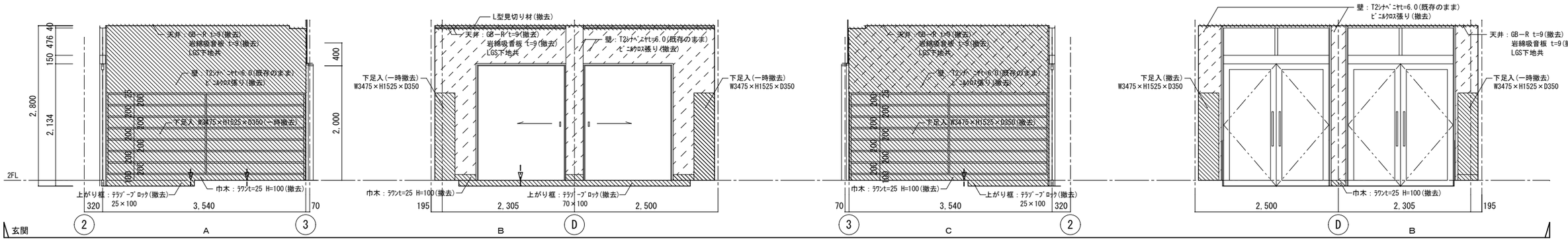
室名	工事対象室を示す。		新設建具を示す
±0	2FLからのレベルを示す。		改修建具を示す
	撤去範囲を示す		撤去建具を示す
	床　軽量ｺﾝｸﾘｰﾄ撤去範囲を示す		既存のままの建具を示す
	改修範囲を示す		カッター切を示す。

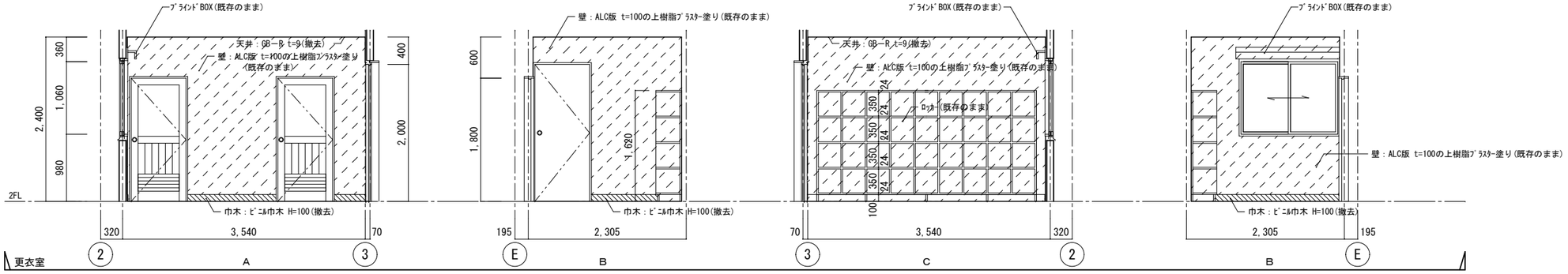
事業年度　年度 工事完成　年度	設 計 令和 年 月	三原市都市部建築課	大	中	小	地域	施設	種類 建築	工事名 本郷小学校屋内運動場長寿命化改修工事	事務所名・建築士登録番号・氏名 有限会社　ＭａｓＭａｓ 一級建築士登録　第325897号 小松木 靖之	図面名称・縮尺　S=1/50　(A3版-71%縮小) 改修前後　２階平面詳細図	図 番 A-32

凡例

	改修範囲を示す
	撤去範囲を示す
	カッター切を示す。



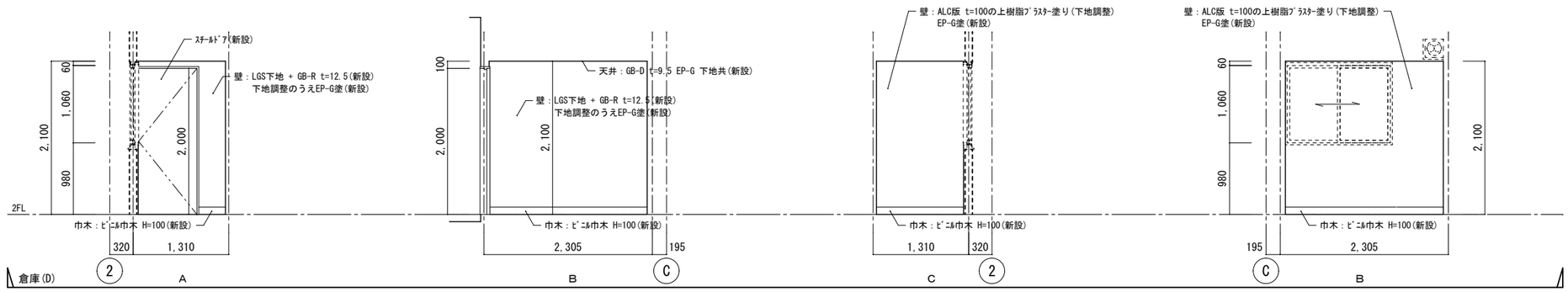


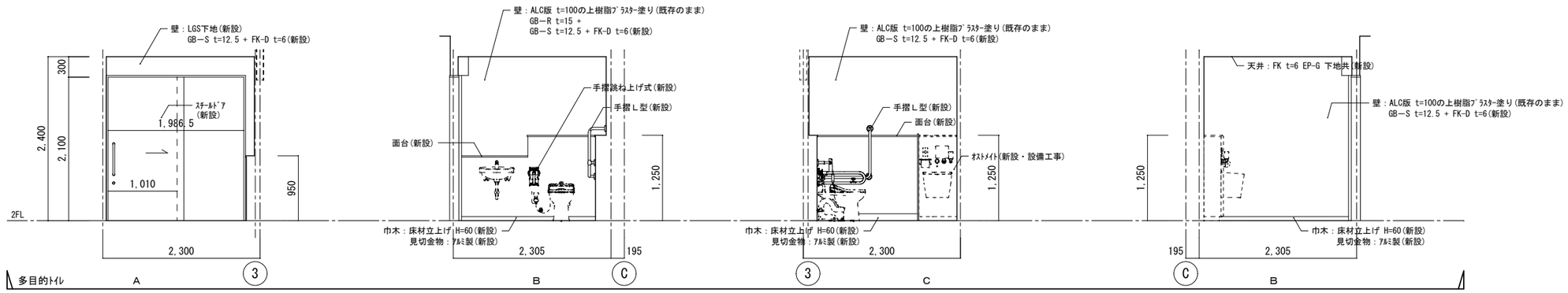


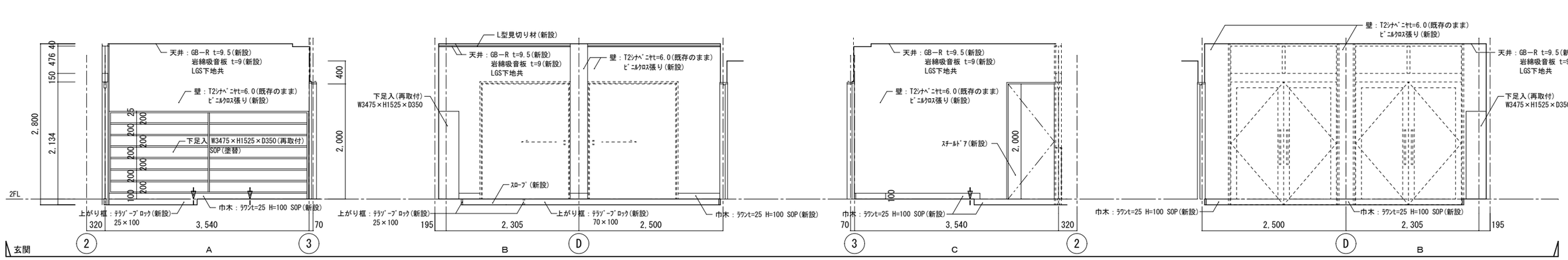
事業年度　年度 工事完成　年度	設計 令和 年 月	三原市都市部建築課	大	中	小	地域	施設	種類 建築	工事名 本郷小学校屋内運動場長寿命化改修工事	事務所名・建築士登録番号・氏名 有限会社　ＭａｓＭａｓ 一級建築士登録　第325897号 小松木 靖之	図面名称・縮尺　S=1/50　(A3版-71%縮小) 改修前　2階展開図	図番 A-33

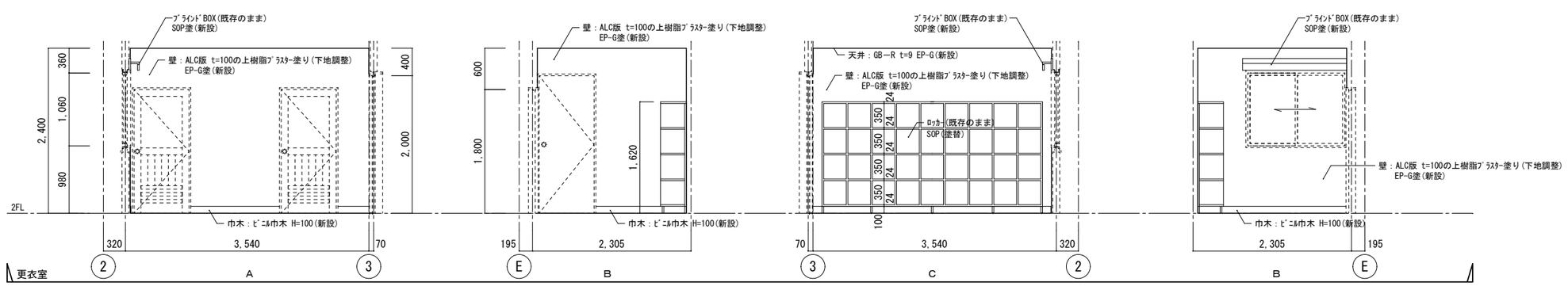
凡例

――――	改修範囲を示す。
- - - - - -	既存範囲を示す。

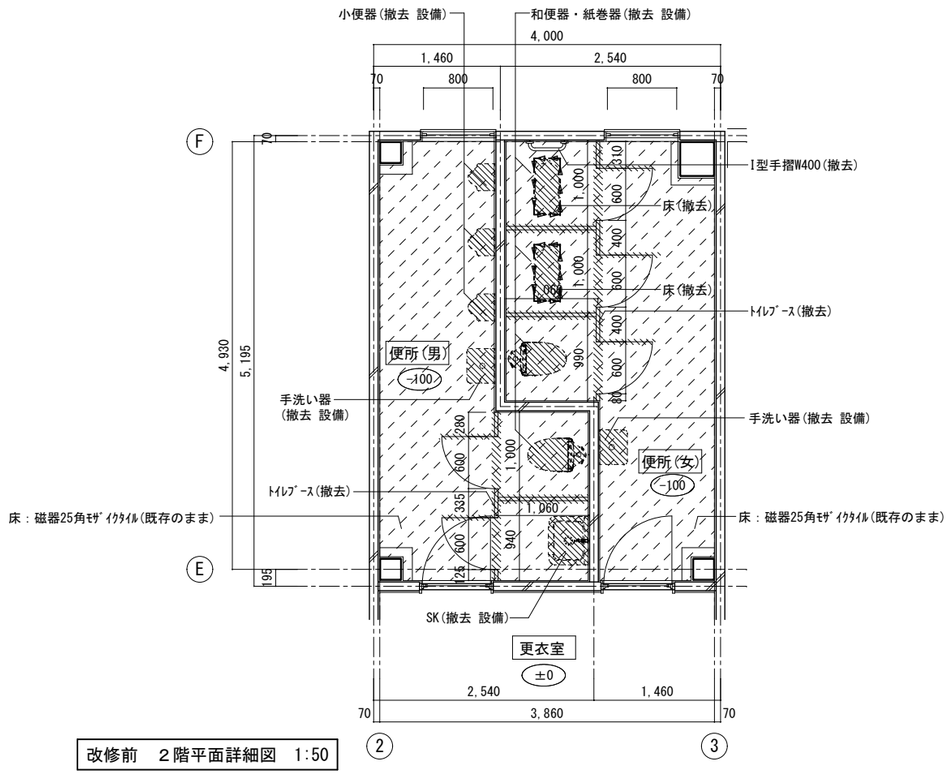




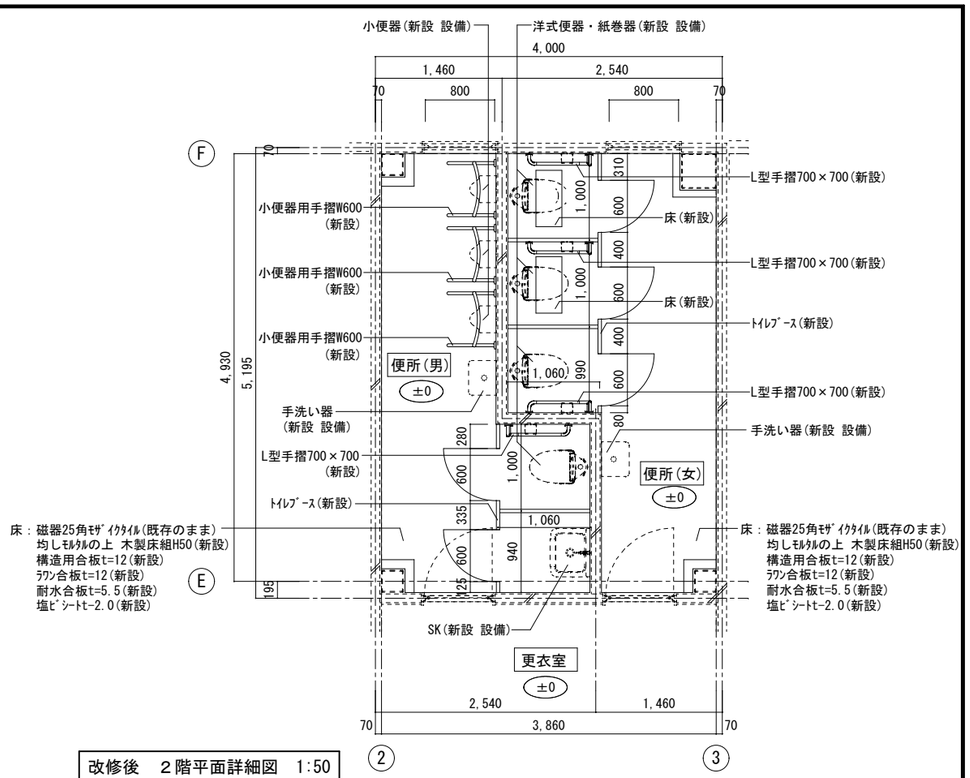




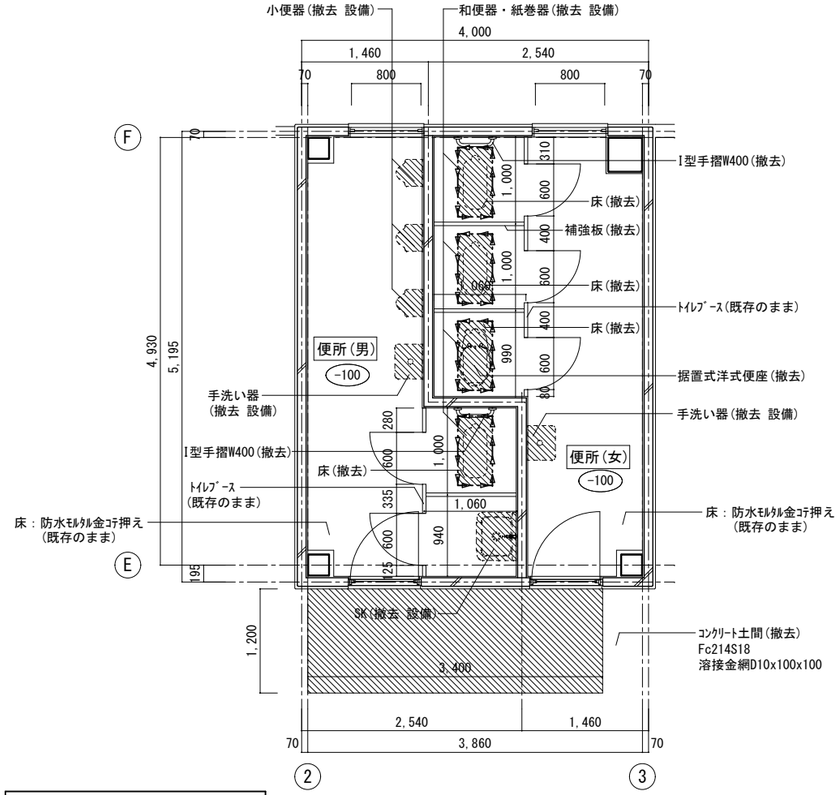
事業年度　年度 工事完成　年度	設計 令和 年 月	三原市都市部建築課	大	中	小	地域	施設	種類 建築	工事名 本郷小学校屋内運動場長寿命化改修工事	事務所名・建築士登録番号・氏名 有限会社　ＭａｓＭａｓ 一級建築士登録　第325897号 小松木 靖之	図面名称・縮尺　S=1/50　(A3版-71%縮小) 改修後　２階展開図	図 番 A-34

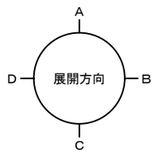


改修前　２階平面詳細図　1:50



改修後　２階平面詳細図　1:50





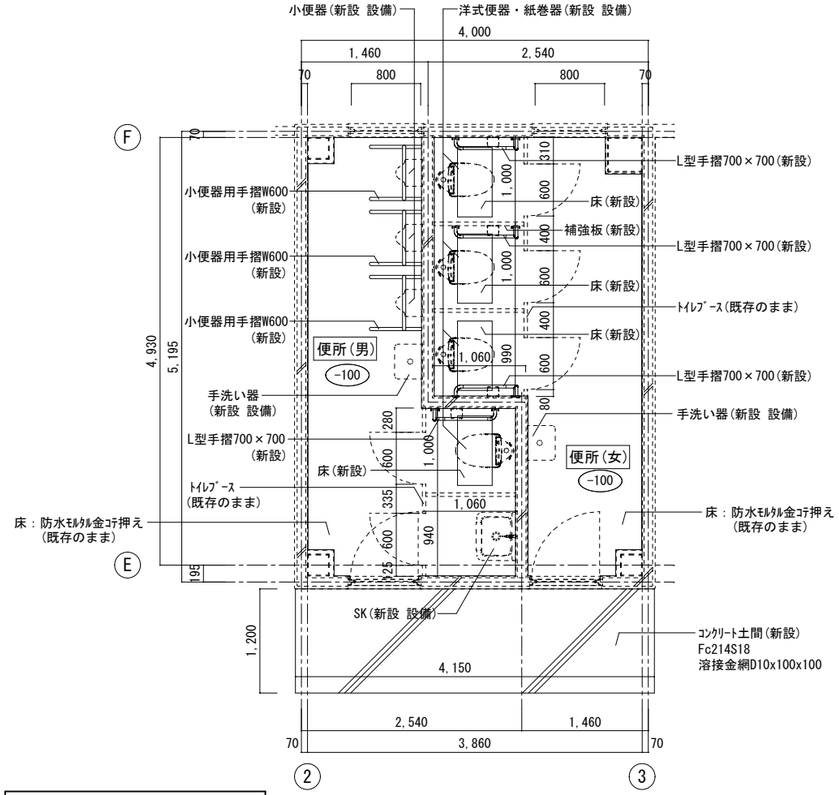
凡例

室名	工事対象室を示す。
±0	FLからのレベルを示す。
	改修範囲を示す
	撤去範囲を示す
	カッター切を示す。

改修前　１階平面詳細図　1:50

凡例

室名	工事対象室を示す。
±0	FLからのレベルを示す。
	改修範囲を示す。
	既存範囲を示す。

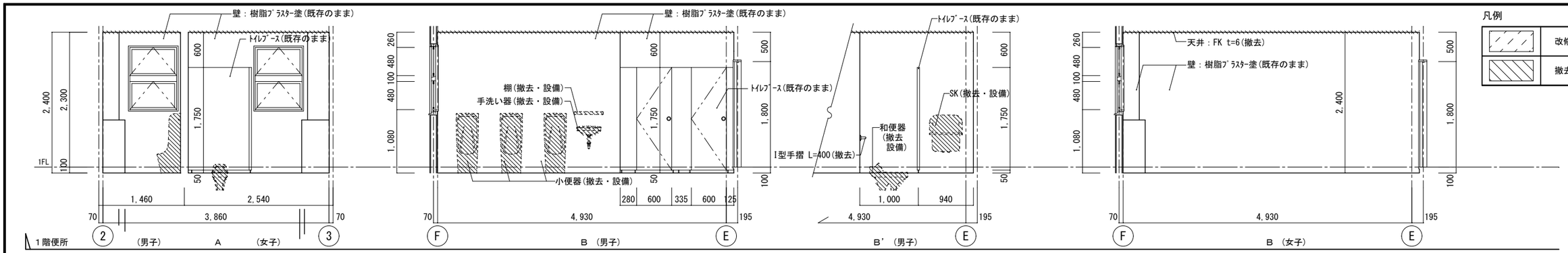


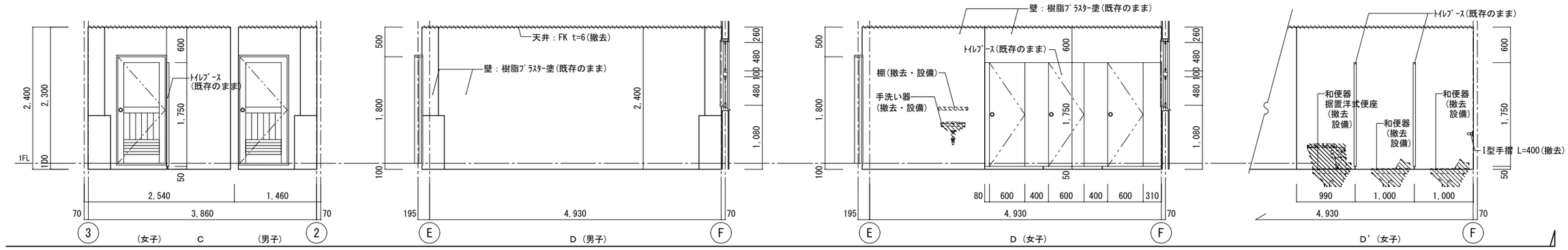
改修後　１階平面詳細図　1:50

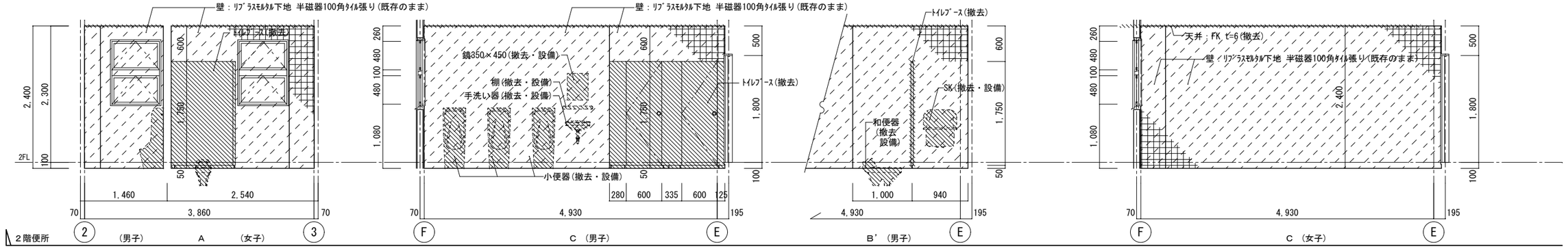
事業年度　年度 工事完成　年度	設 計 令和 年 月	三原市都市部建築課	大	中	小	地域	施設	種類 建築	工事名 本郷小学校屋内運動場長寿命化改修工事	事務所名・建築士登録番号・氏名 有限会社　ＭａｓＭａｓ 一級建築士登録　第325897号 小松木 靖之	図面名称・縮尺　S=1/50　(A3版-71%縮小) 改修前後　１・２階便所平面詳細図	図 番 A-35

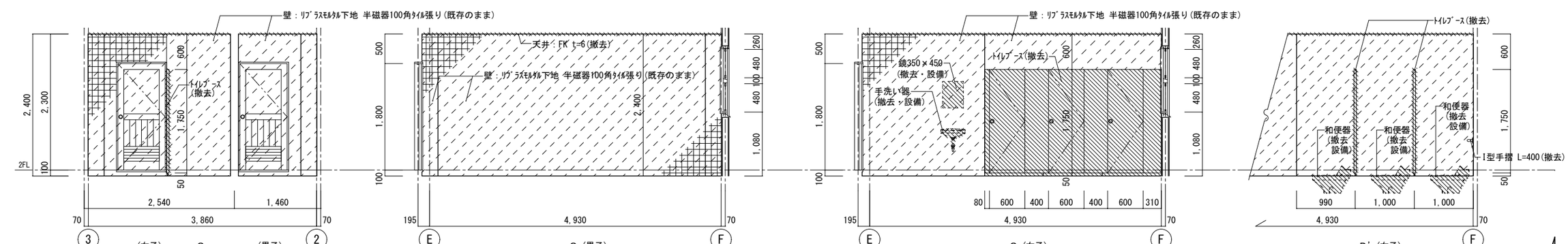
凡例

	改修範囲を示す
	撤去範囲を示す





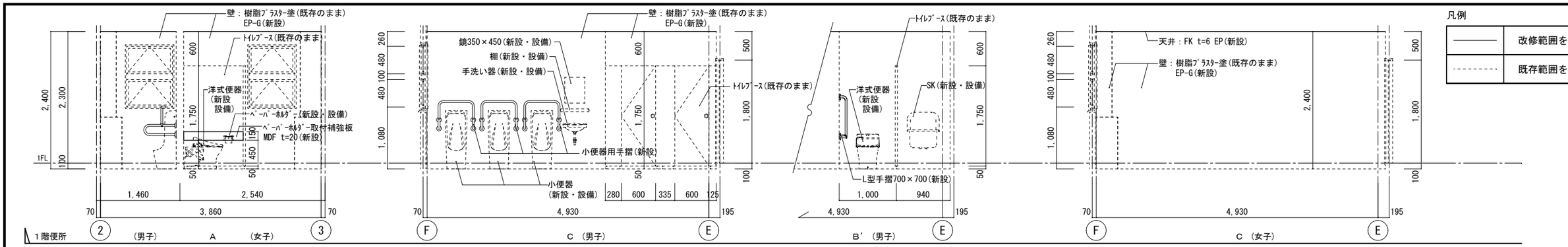


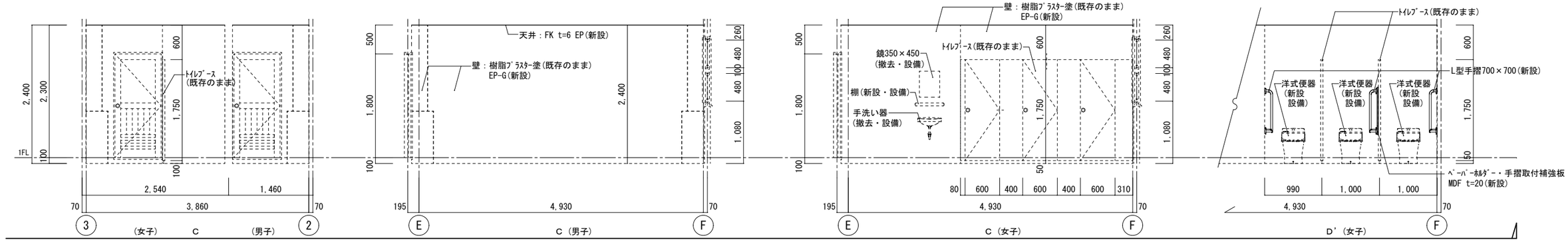


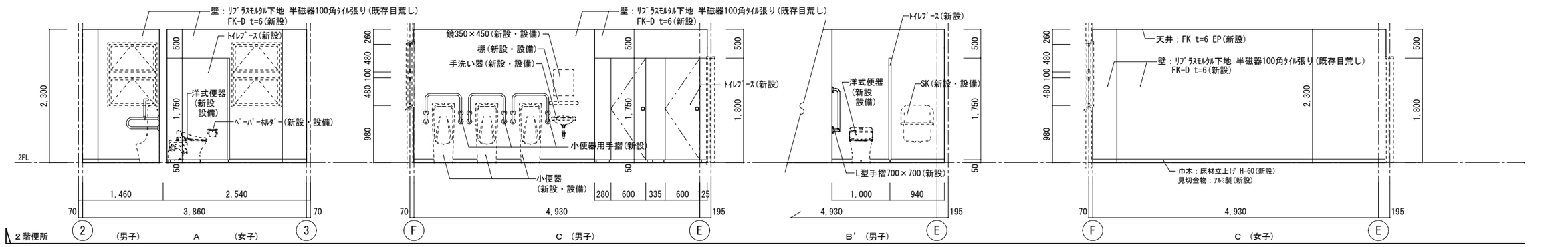
事業年度 年度 工事完成 年度	設計 令和 年 月	三原市都市部建築課	大	中	小	地域	施設	種類 建築	工事名 本郷小学校屋内運動場長寿命化改修工事	事務所名・建築士登録番号・氏名 有限会社 ＭａｓＭａｓ 一級建築士登録 第325897号 小松木 靖之	図面名称・縮尺 S=1/50 (A3版-71%縮小) 改修前 1・2階便所展開図	図番 A-36

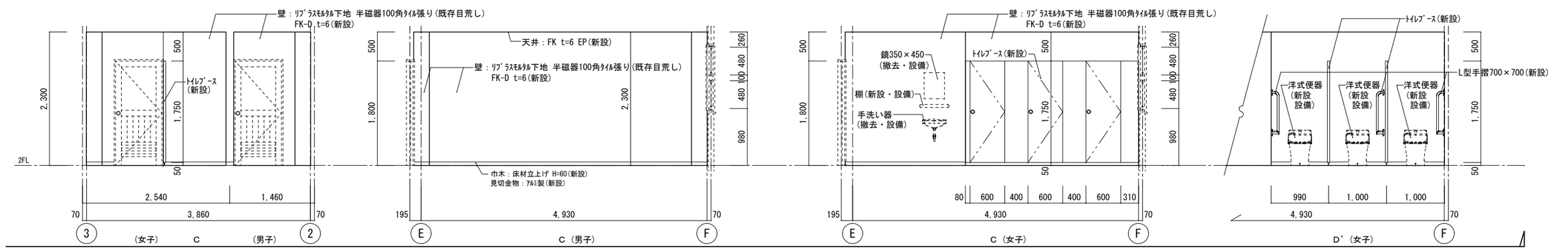
凡例

――――	改修範囲を示す。
- - - - -	既存範囲を示す。

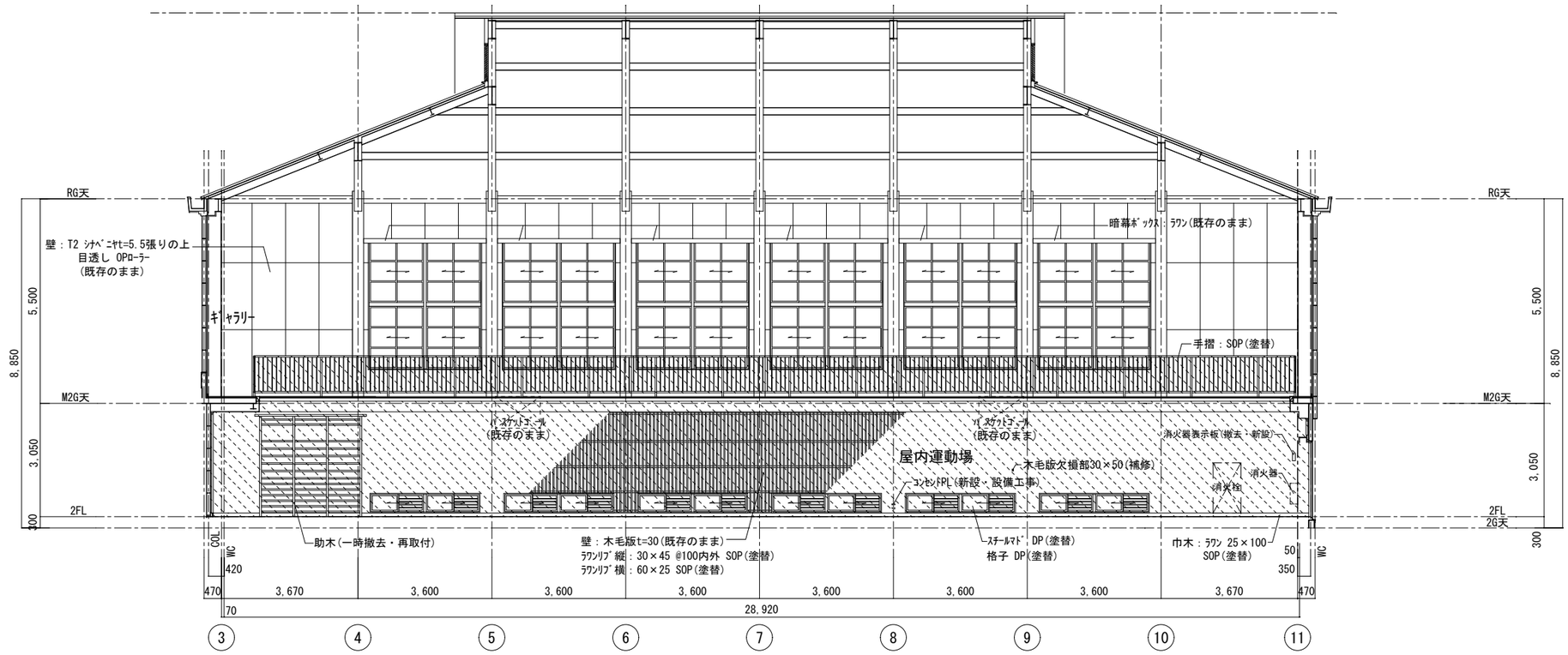




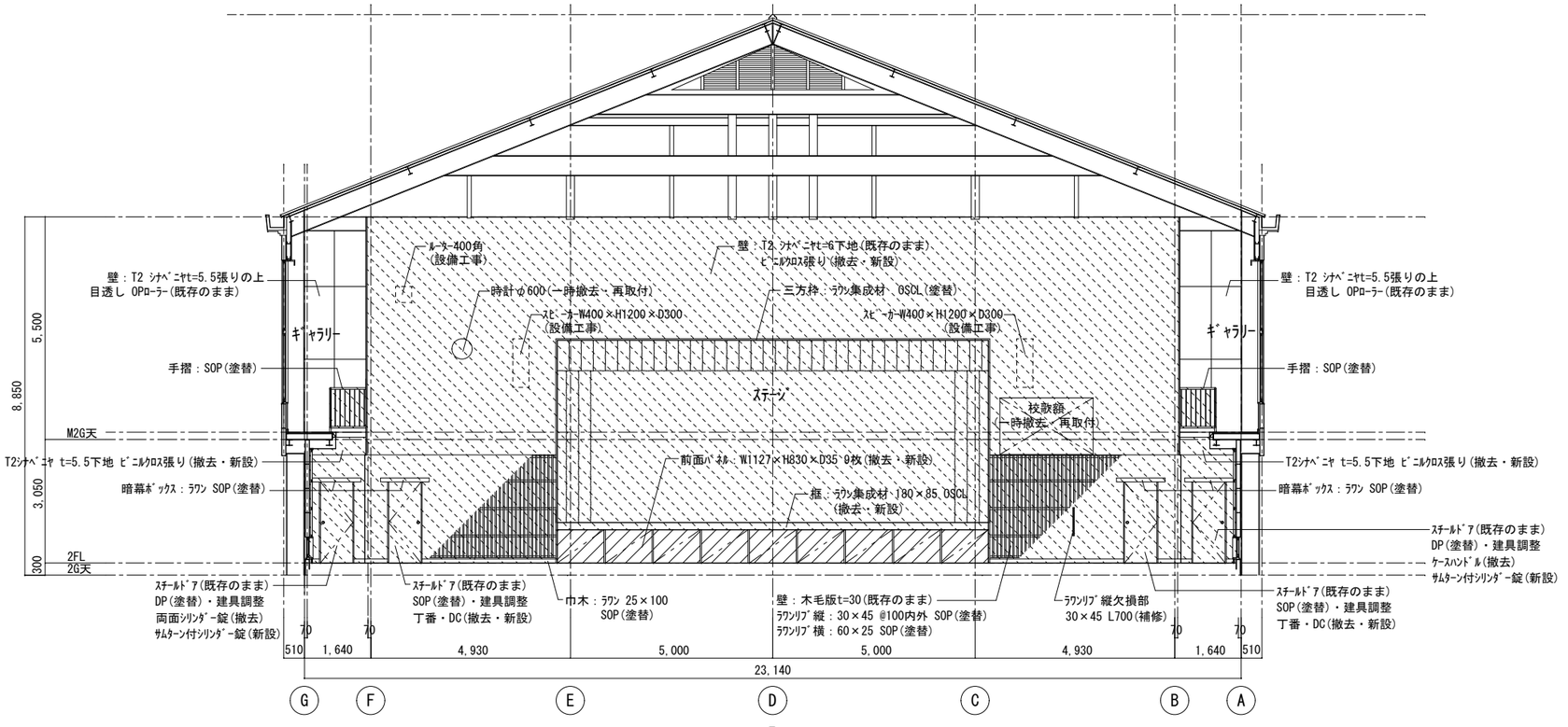




事業年度　年度 工事完成　年度	設計 令和 年 月	三原市都市部建築課	大	中	小	地域	施設	種類 建築	工事名 本郷小学校屋内運動場長寿命化改修工事	事務所名・建築士登録番号・氏名 有限会社　ＭａｓＭａｓ 一級建築士登録　第325897号 小松木 靖之	図面名称・縮尺　S=1/50　(A3版-71%縮小) 改修後　１・２階便所展開図	図 番 A-37



屋内運動場



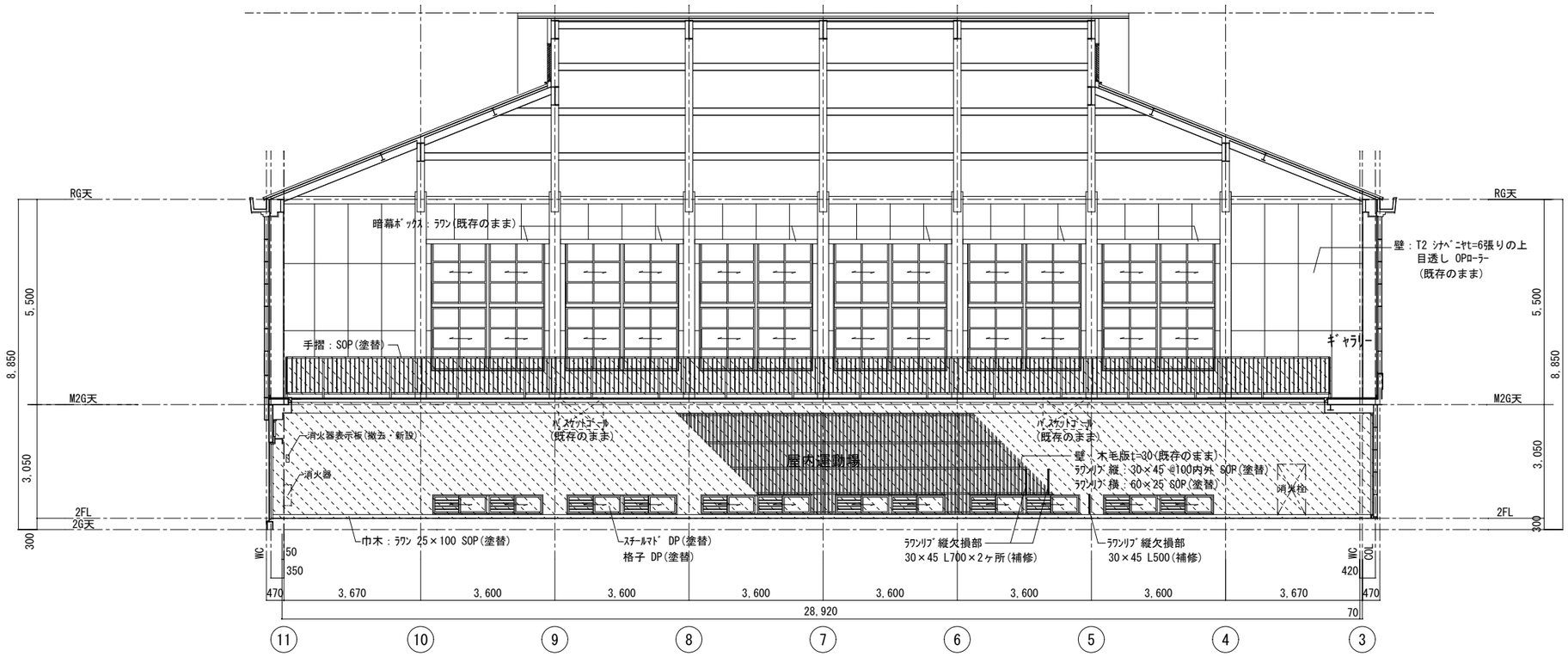
屋内運動場

B

凡例

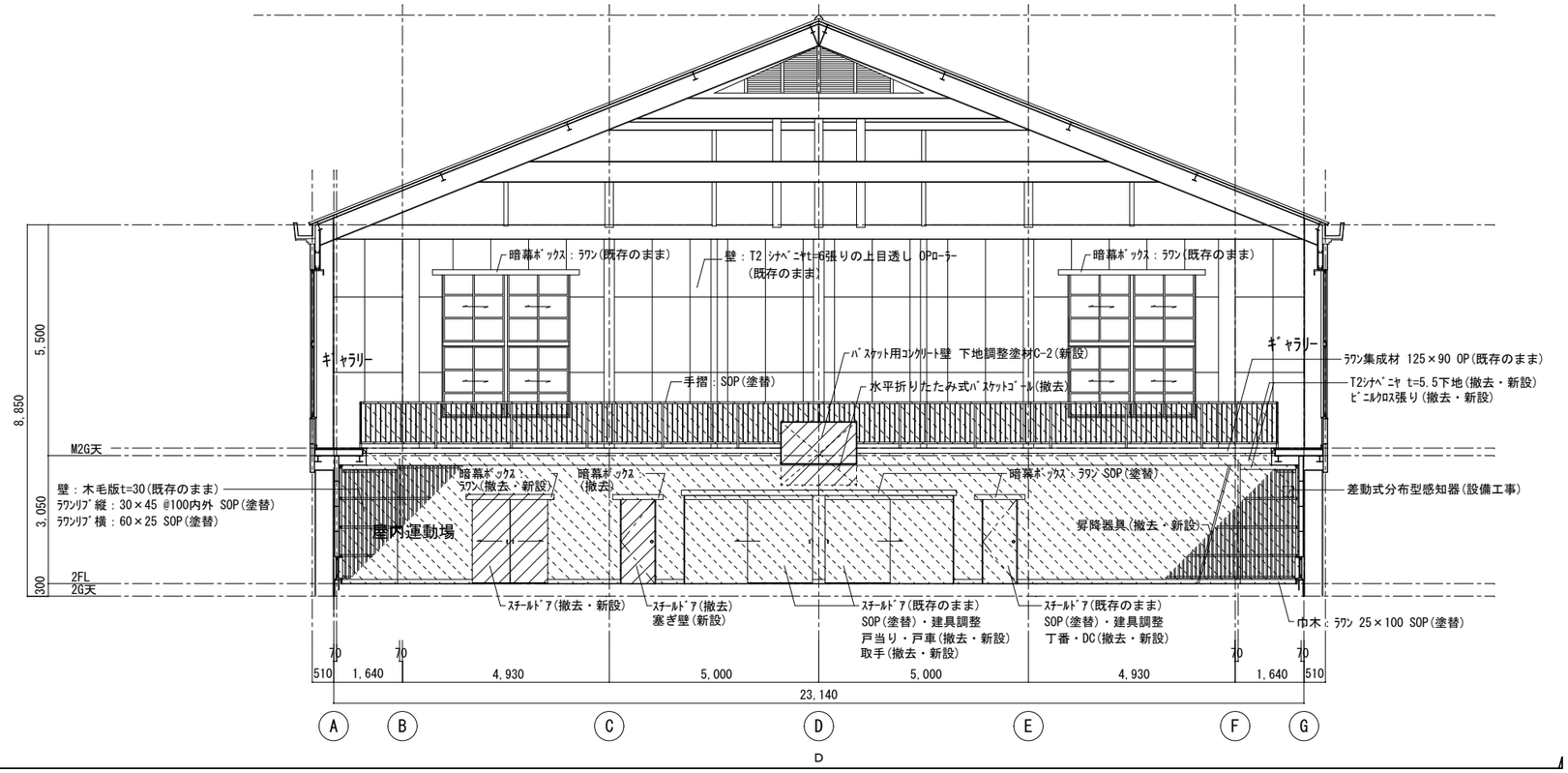
	改修範囲を示す
	撤去・新設を示す
	カッター切を示す。

事業年度　年度 工事完成　年度	設計 令和 年 月	三原市都市部建築課	大	中	小	地域	施設	種類 建築	工事名 本郷小学校屋内運動場長寿命化改修工事	事務所名・建築士登録番号・氏名 有限会社　ＭａｓＭａｓ 一級建築士登録　第325897号 小松木 靖之	図面名称・縮尺　S=1/100　(A3版-71%縮小) 屋内運動場　展開図(1)	図番 A-38



屋内運動場

C



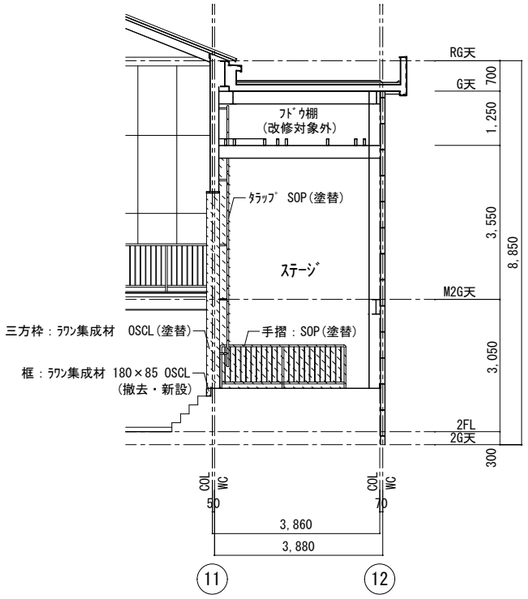
凡例

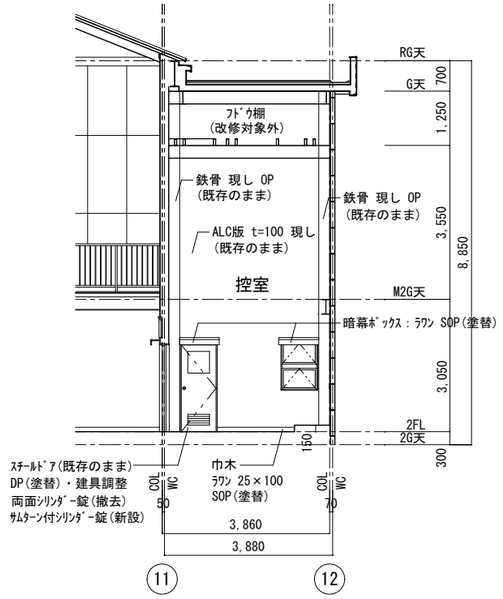
	改修範囲を示す
	撤去・新設を示す
	カッター切を示す。

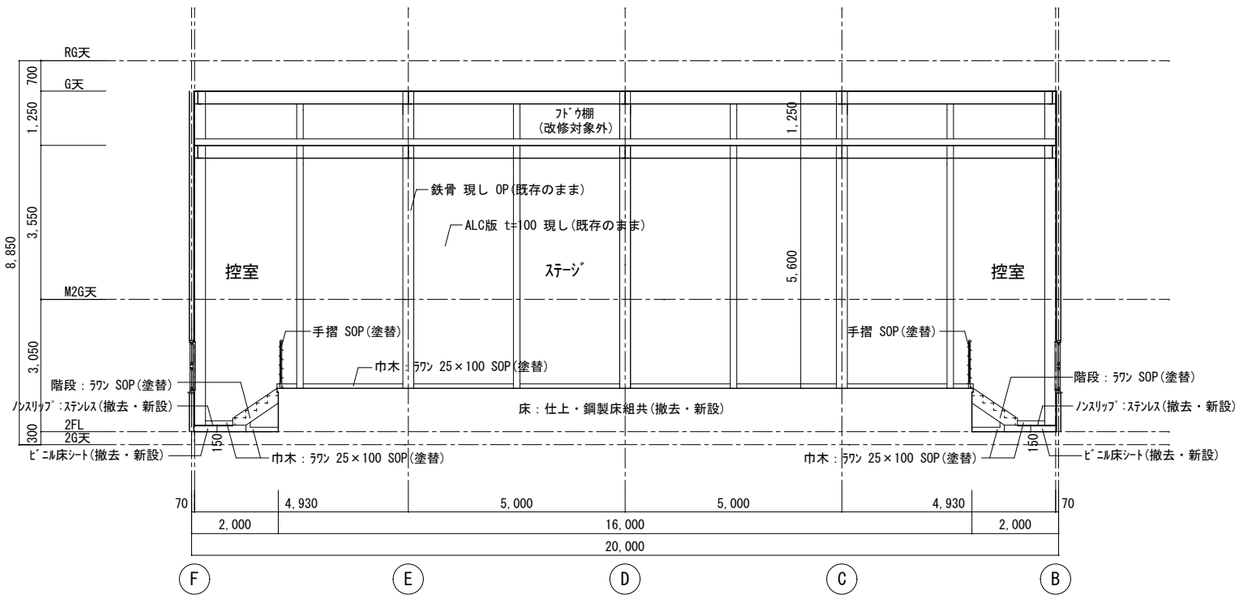
屋内運動場

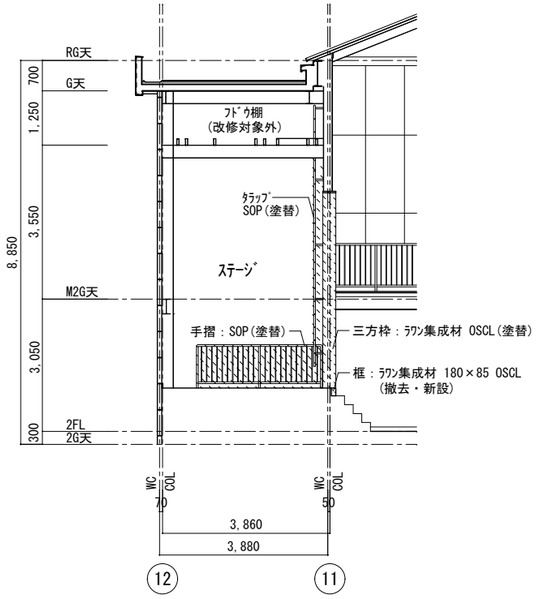
D

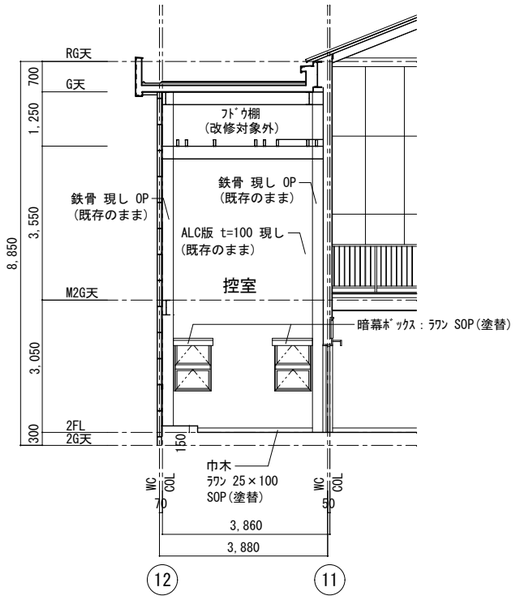
事業年度　年度 工事完成　年度	設計 令和 年 月	三原市都市部建築課	大	中	小	地域	施設	種類 建築	工事名 本郷小学校屋内運動場長寿命化改修工事	事務所名・建築士登録番号・氏名 有限会社　ＭａｓＭａｓ 一級建築士登録　第325897号 小松木 靖之	図面名称・縮尺　S=1/100　(A3版-71%縮小) 屋内運動場　展開図(2)	図番 A-39

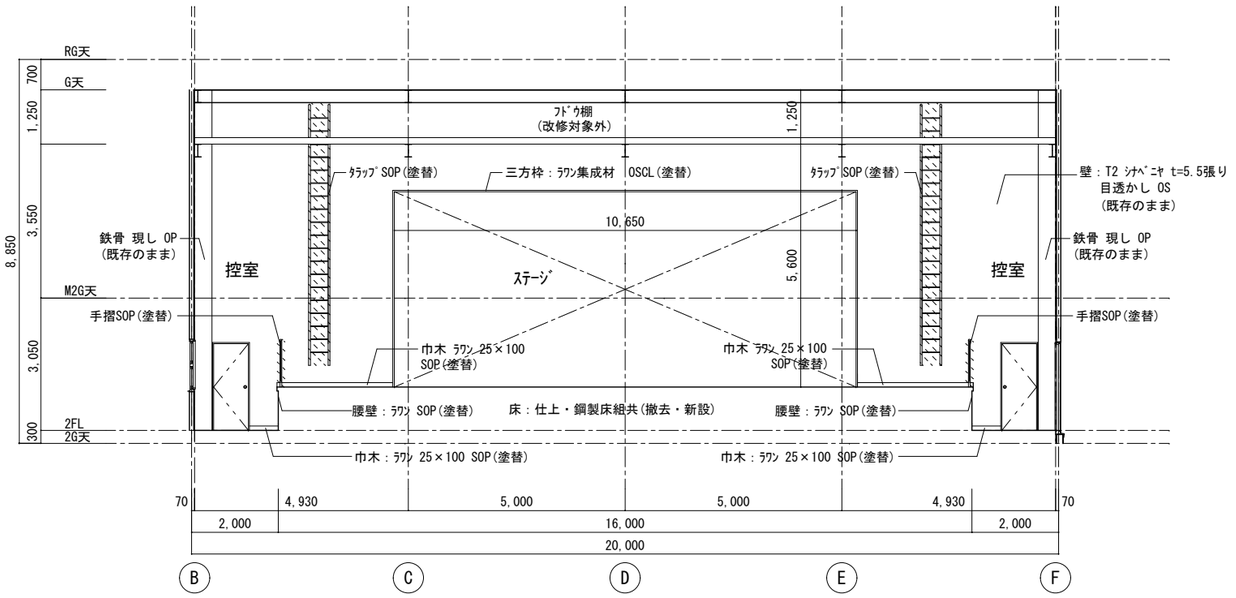








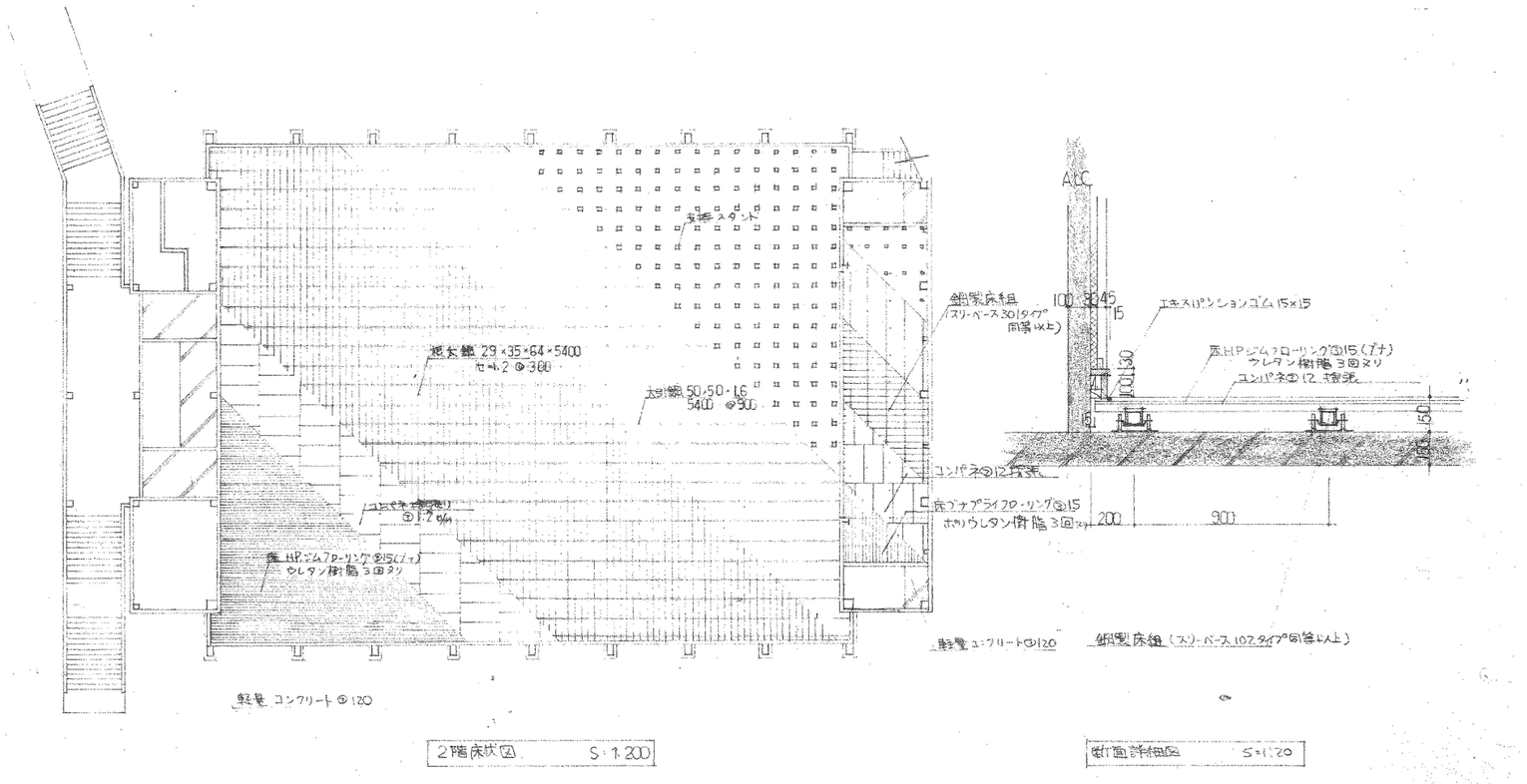




凡例

	改修範囲を示す
	撤去・新設を示す
	カッター切を示す。

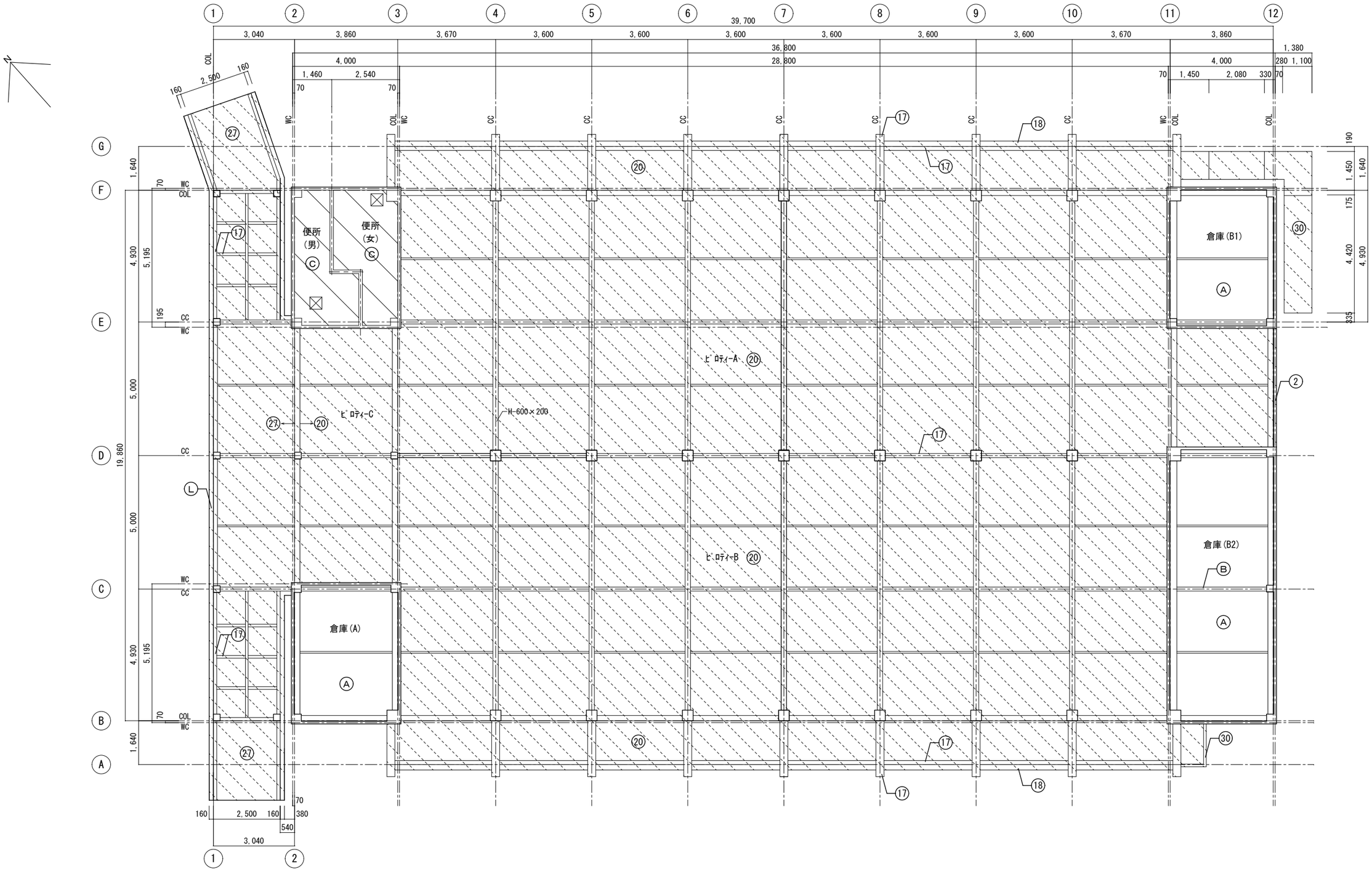
事業年度　年度 工事完成　年度	設 計 令和 年 月	三原市都市部建築課	大	中	小	地域	施設	種類 建築	工事名 本郷小学校屋内運動場長寿命化改修工事	事務所名・建築士登録番号・氏名 有限会社 ＭａｓＭａｓ 一級建築士登録　第325897号 小松木 靖之	図面名称・縮尺　S=1/100　(A3版-71%縮小) ｽﾃｰｼﾞ　展開図	図 番 A-40



2階床伏図 S=1:200

断面詳細図 S=1:20

事業年度 年度 工事完成 年度	設計 令和 年 月	三原市都市部建築課	大	中	小	地域	施設	種類 建築	工事名 本郷小学校屋内運動場長寿命化改修工事	事務所名・建築士登録番号・氏名 有限会社 ＭａｓＭａｓ 一級建築士登録 第325897号 小松木 靖之	図面名称・縮尺 S=1/20・1/200 (A3版-71%縮小) 2階床伏図・断面詳細図	図番 A-41



1階天井伏図　1/100

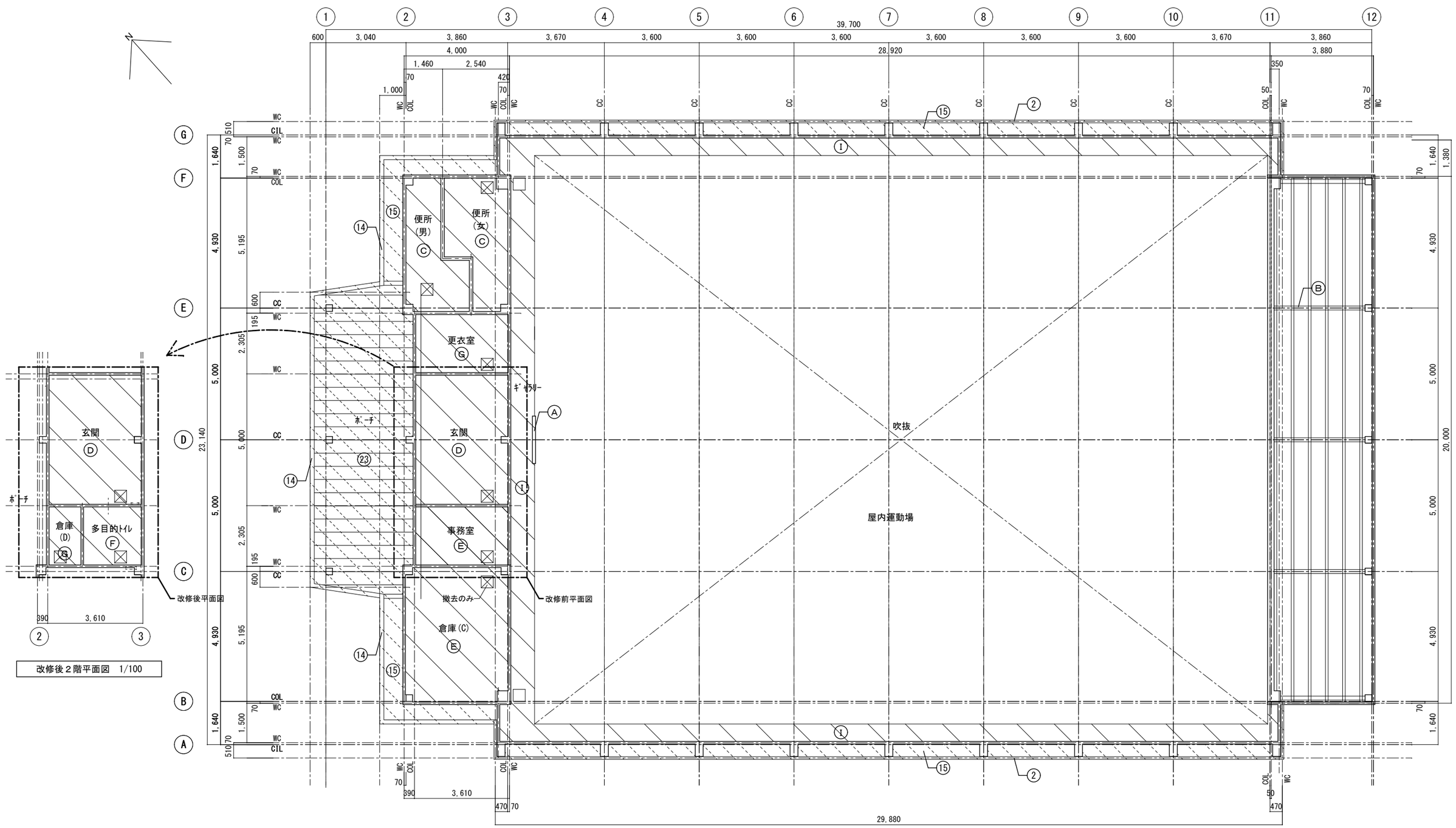
凡例

Ⓐ	合板型枠ｺﾝｸﾘｰﾄ打放し(既存のまま)	Ⓖ	GB-D t=9(撤去)　GB-D t=9.5 EP-G(新設)
Ⓑ	鉄骨現し OP(既存のまま)	Ⓗ	GB-D t=9(既存のまま)　EP-G(新設)
Ⓒ	ｹｲｶﾙ板 t=6.0張り EP(撤去・新設)	Ⓘ	T2ﾝﾅﾍﾞﾆﾔﾋﾞt=6下地 ﾋﾞﾆﾙｸﾛｽ張り(撤去・新設)
Ⓓ	石膏ﾎﾞｰﾄﾞt=9.0捨張り 石綿吸音板t=9.0張り(撤去) 石膏ﾎﾞｰﾄﾞt=9.5捨張り 石綿吸音板t=9.0張り(新設)	Ⓙ	22kgﾙｰﾌｨﾝｸﾞ ｸﾞﾗｽｳｰﾙ密度24Kｼｰﾄ(既存のまま)
Ⓔ	GB-D t=9(撤去)	☒	天井点検口(455×455)
Ⓕ	GB-D t=9(撤去)　FK t=6(新設)		

凡例

	外部改修範囲を示す (符号は外部仕上げ表に依る)
	改修範囲を示す

事業年度　年度 工事完成　年度	設計 令和 年 月	三原市都市部建築課	大	中	小	地域	施設	種類 建築	工事名 本郷小学校屋内運動場長寿命化改修工事	事務所名・建築士登録番号・氏名 有限会社　ＭａｓＭａｓ 一級建築士登録　第325897号 小松木 靖之	図面名称・縮尺　S=1/100　(A3版-71%縮小) 1階天井伏図	図番 A-42



改修後２階平面図　1/100

２階天井伏図　1/100

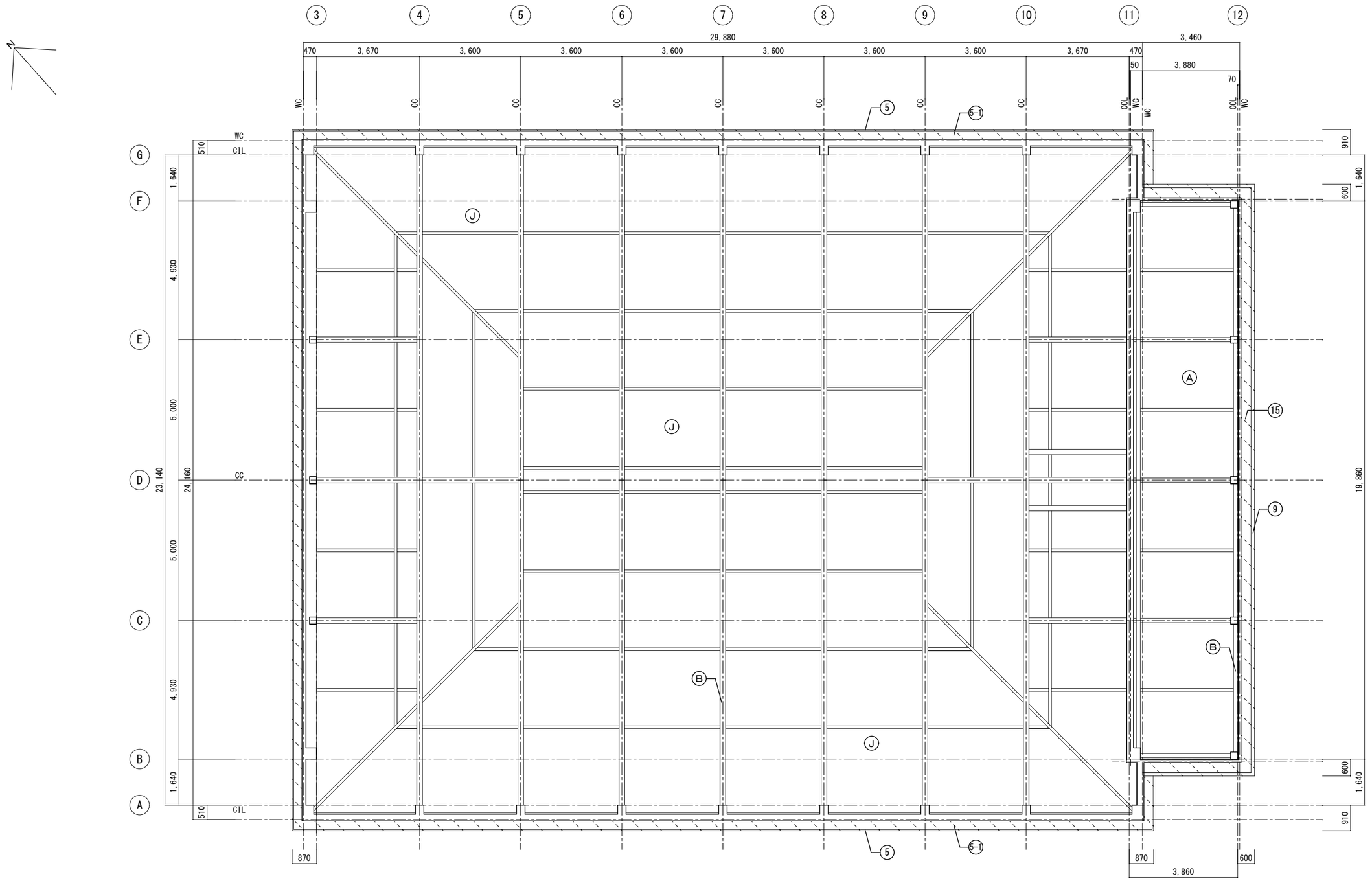
凡例

Ⓐ	合板型枠ｺﾝｸﾘｰﾄ打放し 下地調整塗材C-2(新設)	Ⓖ	GB-D t=9(撤去)　GB-D t=9.5 EP-G(新設)
Ⓑ	鉄骨現し OP(既存のまま)	Ⓗ	GB-D t=9(既存のまま)　EP-G(新設)
Ⓒ	ｹｲｶﾙ板 t=6.0張り EP(撤去・新設)	Ⓘ	T2ｼﾝﾅﾍﾞﾆﾔt=6下地 ﾋﾞﾆﾙｸﾛｽ張り(撤去・新設)
Ⓓ	石膏ﾎﾞｰﾄﾞt=9.0捨張り 石綿吸音板t=9.0張り(撤去) 石膏ﾎﾞｰﾄﾞt=9.5捨張り 石綿吸音板t=9.0張り(新設)	Ⓙ	22kgﾙｰﾌｨﾝｸﾞ ｸﾞﾗｽｳｰﾙ密度24Kｼｰﾄ(既存のまま)
Ⓔ	GB-D t=9(撤去)	☒	天井点検口(455×455)
Ⓕ	GB-D t=9(撤去)　FK t=6(新設)		

凡例

	外部改修範囲を示す (符号は外部仕上げ表に依る)
	改修範囲を示す

事業年度　年度 工事完成　年度	設 計 令和 年 月	三原市都市部建築課	大	中	小	地域	施設	種類 建築	工事名 本郷小学校屋内運動場長寿命化改修工事	事務所名・建築士登録番号・氏名 有限会社　ＭａｓＭａｓ 一級建築士登録　第325897号 小松木 靖之	図面名称・縮尺　S=1/100　(A3版-71%縮小) ２階天井伏図	図 番 A-43



R階天井伏図　1/100

凡例

Ⓐ	合板型枠ｺﾝｸﾘｰﾄ打放し(既存のまま)	Ⓖ	GB-D　t=9(撤去)　GB-D　t=9.5　EP-G(新設)
Ⓑ	鉄骨現し　OP(既存のまま)	Ⓗ	GB-D　t=9(既存のまま)　EP-G(新設)
Ⓒ	ｹｲｶﾙ板　t=6.0張り　EP(撤去・新設)	Ⓘ	T2ｼﾅﾍﾞﾆﾔt=6下地　ﾋﾞﾆﾙｸﾛｽ張り(撤去・新設)
Ⓓ	石膏ﾎﾞｰﾄﾞt=9.0捨張り　石綿吸音板t=9.0張り(撤去) 石膏ﾎﾞｰﾄﾞt=9.5捨張り　石綿吸音板t=9.0張り(新設)	Ⓙ	22kgﾙｰﾌｨﾝｸﾞ　ｸﾞﾗｽｳｰﾙ密度24Kｼｰﾄ(既存のまま)
Ⓔ	GB-D　t=9(撤去)	☒	天井点検口(455×455)
Ⓕ	GB-D　t=9(撤去)　FK t=6(新設)		

凡例

	外部改修範囲を示す (符号は外部仕上げ表に依る)

事業年度　年度 工事完成　年度	設計 令和　年　月	三原市都市部建築課	大	中	小	地域	施設	種類 建築	工事名 本郷小学校屋内運動場長寿命化改修工事	事務所名・建築士登録番号・氏名 有限会社　ＭａｓＭａｓ 一級建築士登録　第325897号 小松木 靖之	図面名称・縮尺　S=1/100　(A3版-71%縮小) R階天井伏図	図番 A-44

共　通　事　項

表示略号

略　号	建　具	略　号	ガ　ラ　ス
ＡＤ	アルミ製戸	Ｐ	フロート板ガラス
ＡＷ	アルミ製窓	Ｆ	型板ガラス
ＡＧ	アルミ製がらり	ＮＦ	網入型板ガラス
ＳＴ	鋼製三方枠	ＷＦ	線入型板ガラス
ＳＳＴ	ステンレス製三方枠	ＮＰ	網入磨板ガラス
ＳＤ	鋼製戸	ＷＰ	線入磨板ガラス
ＳＷ	鋼製窓	ＨＡＰ	熱線吸収フロート板ガラス
ＳＧ	鋼製がらり	Ｔ（　）	強化ガラス（材料板ガラス）
ＳＳ	重量シャッター	ＩＧ（Ｏ）（　）	複層ガラス（材料板ガラス）
ＬＳＤ	鋼製軽量戸		（Ｏ）は断熱性、日射取得性・
ＬＳ	軽量シャッター		日射遮蔽性による区分を示す
ＳＳＤ	ステンレス製戸	ＨＲ（　）	熱線反射ガラス（材料板ガラス）
ＳＳＷ	ステンレス製窓	ＤＳ（　）	倍強度ガラス（材料板ガラス）
ＳＳＧ	ステンレス製がらり	Ｌ（　）	合わせガラス（材料板ガラス）
ＯＨＤ	オーバーヘッドドア		
ＡＣＷ	アルミ製カーテンウォール	Ｌｏｗ-Ｅ	低放射ガラス
ＰＤ	樹脂製戸		
ＰＷ	樹脂製窓		
Ｈ	ふすま		
ＰＡ	紙張り障子		
ＷＤ	木製戸		
ＷＷ	木製窓		
Ａ	アルミ製縦格子		
ＴＢ	トイレブース		

（Ｏ－ＯＯ－ＯＯ）、（Ｏ－ＯＯ）は国交省標準詳細図の詳細番号を示す。
複層ガラスは、室内・室外側に使用するガラスは下記のとおりとする。
［内（材料板ガラス）＋Ａ＋外（材料板ガラス）］
【内：室内側ガラス、外：室外側ガラス、Ａ：空気、ＡＲ：アルゴン】
網入りガラスの網の形状は（ ※ ひし網　　・ かく網）とする。

平面図表示建具金物記号

	ドアクローザー（ストップ付）
	ドアクローザー（ストップなし）
D / D	ドアクローザー（ディレードアクション機能付）

平面図表示建具符号

整理番号
建具略号

アルミニウム製建具の枠見込み

框見込み寸法（mm）	特記なき場合は、形式が引違い・片引き・上げ下げ窓で、複層ガラスを使用する場合は、枠見込み100mmとする。
ＳＤ　40（Ｈ＝2,400以下、扉一枚の幅＝950以下） 及び　50（Ｈ＝2,400超える、扉一枚の幅＝1,600以下） ＳＳＤ　50（Ｈ＝2,700以上、扉一枚の幅＝1,500以下） 　　60（Ｈ＝3,200以上、扉一枚の幅＝2,000以下） ＬＤ　36	Ｈ　19.5（戸ぶすまは30mm） ＰＡ　30 ＷＤ　30（Ｈ＝1,000未満、扉一枚の幅＝950以下） 　36（Ｈ＝2,000未満、扉一枚の幅＝950以下） 　40（Ｈ＝2,400未満、扉一枚の幅＝950以下） ＷＤ（かまち戸）　36mm
形　状	（１）ＳＤのうち、点検扉は特記以外は片面フラッシュ戸とする。 （２）排煙窓の適用は「備考」欄による。 （３）特殊な性能（簡易気密、防音、断熱、耐震）の建具の適用は「備考」欄による。 （４）水切りの幅は、「備考」欄による。 （５）標準型建具の適用は「標準型建具の適用」欄に○が付いたものとする。
仕　上　げ	（１）ＳＴ、ＳＤ、ＳＷ、ＳＧ、ＳＳ及びＬＤの仕上げは特記以外はＳＯＰとする。 （２）ＳＤ及びＬＤのドアガラリは、鋼板⑦1.2にＳＯＰとする。 （３）ふすまの上張りの種類は、「備考」欄による。
建具金物	（１）ドアクローザーの適用は建具配置図（平面図）による。なお、ドアクローザーの取付は室内側を原則とする。 （２）壁当たりとなる開き戸は壁面からの逃げ寸法を100mm程度とし、ドアクローザーの有無にかかわらず戸当たりを設ける。 （３）クレセントの高さは1,500mm以下、排煙窓オペレーター装置の高さは800mmから1,500mmとする。 （４）扉の把手は特記なき場合は、レバーハンドルとし握り玉の適用は「建具金物」欄による。 （５）扉の握り玉、把手類の取付位置は床面から1,000mmとし、押板類は1,100mmとする。 （６）防犯建物部品は「建具金物」欄による。 （７）建具金物は下表により、それ以外は「建具金物」欄による。

外部	一般扉	丁番　　シリンダー箱錠（片面サムターン）
	自由開き扉	フロアヒンジ（片自由、ストップ付き）シリンダー本締り錠（片面サムターン） 押棒（引手）（内外共）はステンレス押棒（ＳＵＳ 304 ＨＬ程度、Ｌ≒400）
	自動ドア（スライディングドア）	引戸用本締り錠（片面サムターン）
内部	一般室	ピボットヒンジ　シリンダー箱錠（片面サムターン）
	湯沸室	ピボットヒンジ　錠なし
	便所、洗面所	ピボットヒンジ　錠なし 押棒（引手）（内外共）はステンレス押棒（ＳＵＳ 304 ＨＬ程度、Ｌ≒400）
	自閉式上吊り引戸	自閉・制御装置（ストップ付）　ステンレス製振れ止め軸 押棒（引手）（内外共）はステンレス押棒（ＳＵＳ 304 ＨＬ程度、Ｌ≒400） 多機能便所：表示装置・非常開装置・大型サムターン付引戸錠（ロッド式） 多機能便所以外：引戸錠（ロッド式）
	随時閉鎖式防火戸	ヒンジクローザー（ピボット型、ストップなし）　ケースハンドル錠
	点検扉	軸吊りヒンジ　点検口錠
	自由開き扉	フロアヒンジ（片自由、ストップ付き）シリンダー本締り錠（片面サムターン） 押棒（引手）（内外共）はステンレス押棒（ＳＵＳ 304 ＨＬ程度、Ｌ≒400）
	窓	クレセント

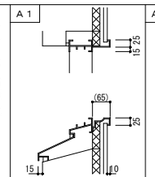
防　火　戸	（１）ヒューズ装置、熱感知器又は煙感知器との連動は「備考」欄による。 （２）防火戸の種類は下表により、適用は「防火戸の種類」欄による。 （３）防火戸の解錠機構は別途とする。 （４）扉にラッチ受座用切込み開口補強を行う。

種　類		性　能
特	特定防火設備（遮炎１時間）	耐火建築物及び準耐火建築物（以下「耐火建築物等」という）の各階において、特定の床面積以内ごとに設ける防火設備
		11階以上の各階において内装に不燃又は準不燃材料を用いた場合に、特定の床面積ごとに設ける防火設備
		耐火建築物等において用途が異なる部分の相互間に設ける防火設備
防	防火設備（遮炎２０分）	耐火建築物等の外壁に設ける防火設備
		防火地域及び準防火地域以外の建築物の外壁に設ける防火設備
		11階以上の各階において内装に難燃材料を用いた場合に、特定の床面積ごとに設ける防火設備
		準耐火建築物に形成された竪穴の周囲に設ける防火設備
		木造建築物等において用途が異なる部分の相互間に設ける防火設備

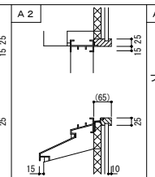
自動ドア開閉装置	（１）自動ドアの開閉装置は「備考」欄による。 （２）自動ドアの開閉装置の防犯性能、凍結防止措置の適用は、「備考」欄による。 （３）センサーの種類は、「備考」欄による。
付属電気設備	自動扉、電動シャッター、電動オーバーヘッドドアの電動機が三相電動機０．４ＫＷ以上の場合は、機器付属の操作盤内に電動機保護用遮断機及び進相用コンデンサーを設置する。

建具枠・くつずり詳細図（枠廻り記号）

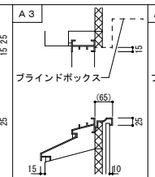
アルミニウム製建具枠

Ａ１


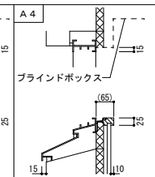
(4-51-1) (4-51-6)

Ａ２


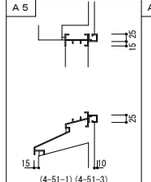
(4-51-1) (4-51-7)

Ａ３


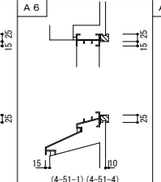
(4-51-1) (4-52-4)

Ａ４


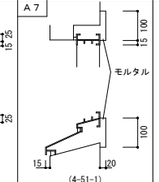
(4-51-1) (4-52-5)

Ａ５


(4-51-1) (4-51-3)

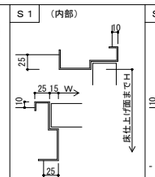
Ａ６


(4-51-1) (4-51-4)

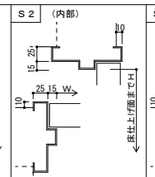
Ａ７


(4-51-1)

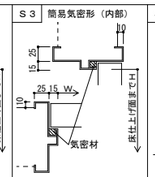
建具枠

Ｓ１（内部）


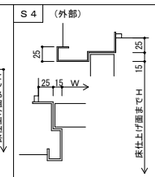
(4-21-1, -3) (4-22-1) (4-23-3) (4-25-1)

Ｓ２（内部）


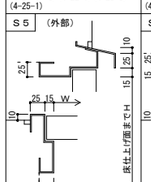
(4-22-2, -3, -4) (4-23-1, -4) (4-24-1, -3)

Ｓ３ 簡易気密形（内部）


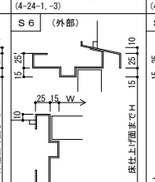
(4-21-2, -4) (4-23-2) (4-24-2) (4-45-1, -2)

Ｓ４（外部）


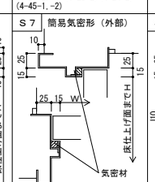
(4-41-3) (4-42-3)

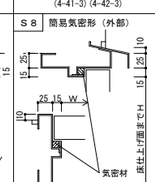
Ｓ５（外部）


(4-41-1, -2) (4-42-1)

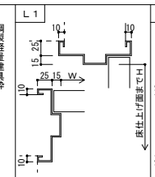
Ｓ６（外部）


(4-42-2)

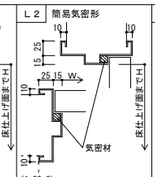
Ｓ７ 簡易気密形（外部）


Ｓ８ 簡易気密形（外部）


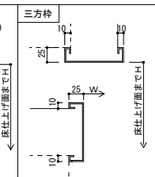
建具枠（軽量建具）

Ｌ１


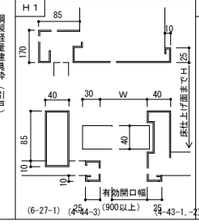
(4-22-5) (4-23-5) (4-24-4)

Ｌ２ 簡易気密形


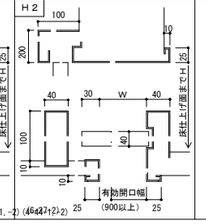
(4-23-2) (4-24-2) (4-46-1, -2, -3)

三方枠


建具枠（軽量建具）（出入口）

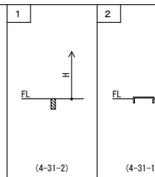
Ｈ１


(6-27-1) (4-44-3)

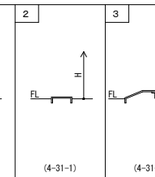
Ｈ２


(4-43-1, -2) (4-44-1, -2)

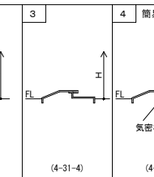
くつずり

１


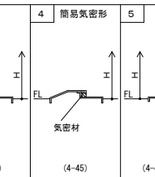
(4-31-2)

２


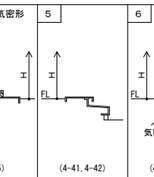
(4-31-1)

３


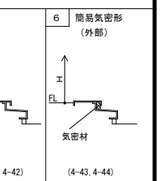
(4-31-4)

４ 簡易気密形


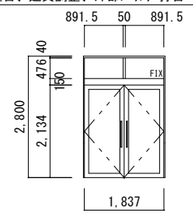
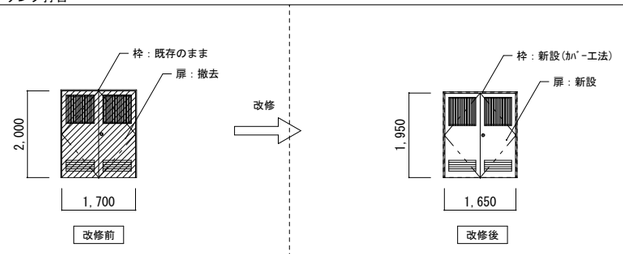
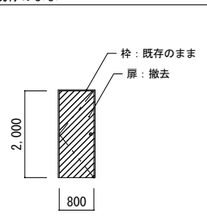
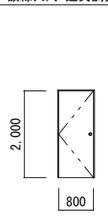
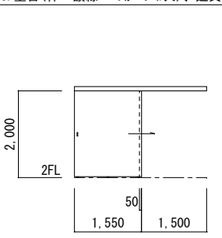
(4-45)

５


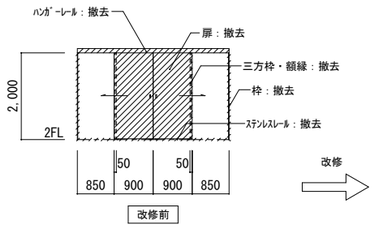
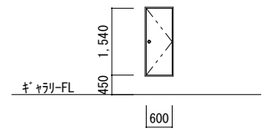
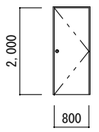
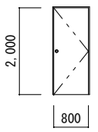
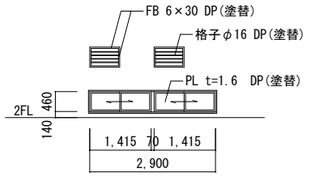
(4-41, 4-42)

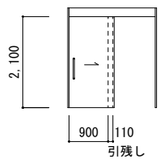
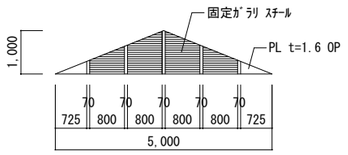
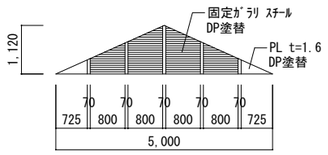
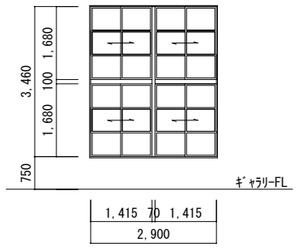
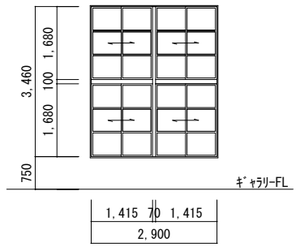
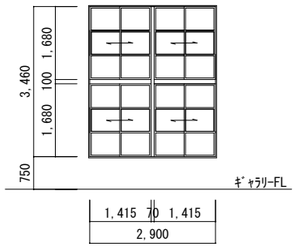
６ 簡易気密形（外部）


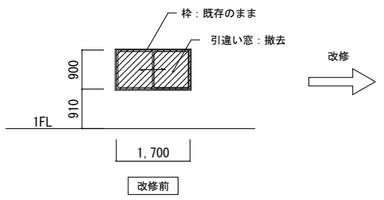
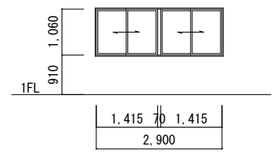
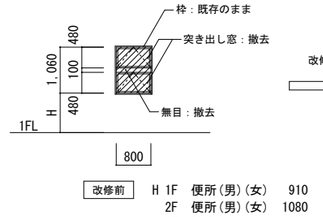
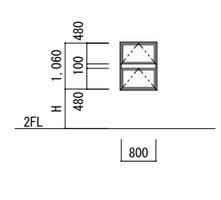
(4-43, 4-44)

符号・数量	1 SUSD × 2	1 SD × 3	2 SD × 1	2 SD × 3	3 SD × 2
改修内容	ﾌﾛｱﾋﾝｼﾞ取替 DP塗替、建具調整、外部ｼｰﾘﾝｸﾞ打替	撤去・新設（カバー工法） 外部シーリング打替	扉：撤去 枠・額縁：既存のまま	丁番・DC取替 SOP塗替（枠・額縁共）、建具調整	戸当り・戸車・取手取替 SOP塗替（枠・額縁・ﾊﾝｶﾞｰﾚｰﾙ共）、建具調整
図　示					
室　名	２階　玄関	１階　倉庫（A・B1・B2）	屋内運動場 2階　事務室	屋内運動場 2階　更衣室・控室	２階　玄関
付属金物	ﾌﾛｱﾋﾝｼﾞ（撤去・新設） 押棒・錠・附属金物一式（既存のまま）	握り玉付ｼﾘﾝﾀﾞｰ錠・ﾌﾗｯｼｭ落とし・DC（撤去） ﾋﾟﾎﾞｯﾄﾋﾝｼﾞ（撤去）	握り玉付ｼﾘﾝﾀﾞｰ錠・ﾌﾗｯｼｭ落とし・DC（新設） 丁番（新設）	丁番・握り玉付ｼﾘﾝﾀﾞｰ錠・DC（撤去）	丁番・DC（撤去・新設） 握り玉付ｼﾘﾝﾀﾞｰ錠（既存のまま）	戸当り・戸車φ40（撤去・新設） 舟底引手（撤去）、丸棒取手（新設）
枠巾見込	100	86	86	86	40
硝　子	Ｔ-12（既存のまま）、ランマFIX：Ｐ-5（既存のまま） 飛散防止ﾌｨﾙﾑ貼り（新設）　ｸﾞﾚｲｼﾞﾝｸﾞﾋﾞｰﾄ 外部面（撤去・新設）	Ｆ-4（撤去）	Ｆ-4（新設）		
備　考		ｽﾃﾝﾚｽ金網付（撤去）	ｽﾃﾝﾚｽ金網付（新設）	沓摺：ｽﾃﾝﾚｽ（既存のまま）	沓摺：ｽﾃﾝﾚｽ（既存のまま）	ｶﾞｲﾄﾞﾛｰﾗｰφ40（既存のまま） 受ｱﾝｸﾞﾙLS=75×75×9・ｽﾃﾝﾚｽﾚｰﾙt=2加工（既存のまま）

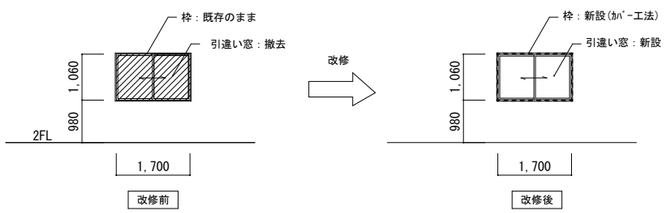
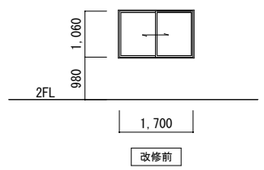
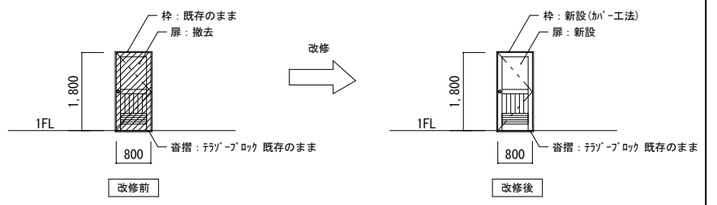
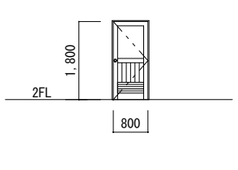
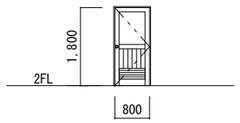
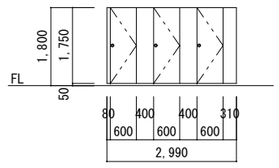
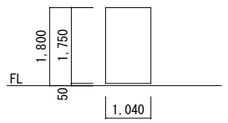
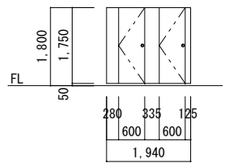
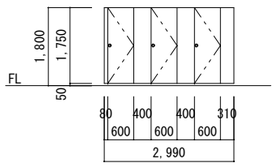
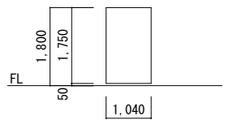
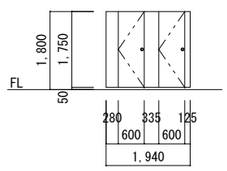
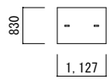
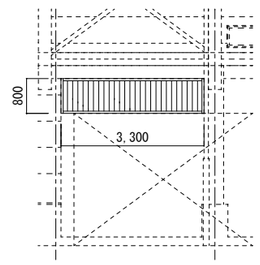
事業年度　年度 工事完成　年度	設計 令和　年　月	三原市都市部建築課	大	中	小	地域	施設	種類 建築	工事名 本郷小学校屋内運動場長寿命化改修工事	事務所名・建築士登録番号・氏名 有限会社　ＭａｓＭａｓ 一級建築士登録　第325897号 小松木 靖之	図面名称・縮尺　S=1/100　(A3版-71%縮小) 建具表(1)	図番 A-45

符号・数量	4 SD × 1	4 SD × 1	5 SD × 2	6 SD × 3	7 SD × 1	1 SW × 12
改修内容	撤去	新設	DC取替、DP塗替(枠共)、額縁(既存のまま) 建具調整、外部ｼｰﾘﾝｸﾞ打替	取手取替、DP塗替(枠・額縁共) 建具調整、外部ｼｰﾘﾝｸﾞ打替	新設	DP塗替(枠・額縁共)、外部ｼｰﾘﾝｸﾞ打替
図　示				 取手：北鉄骨階段出入口　両面ｼﾘﾝﾀﾞｰ錠 北控室出入口　両面ｼﾘﾝﾀﾞｰ錠 南ﾊﾞﾙｺﾆｰ出入口　ｹｰｽﾊﾝﾄﾞﾙ		
室　名	2階　倉庫(C)	2階　倉庫(C)	屋内運動場ｷｬﾗﾘｰ	屋内運動場 2階　鉄骨外部階段、ﾊﾞﾙｺﾆｰ	2階　倉庫(D)	屋内運動場
付属金物	受ｱﾝｸﾞﾙLS=75×75×9・ﾊﾝｶﾞｰﾚｰﾙOP塗り・戸当り(撤去) ｽﾃﾝﾚｽﾚｰﾙt=2加工・戸車φ40・舟底引手・ｶﾞｲﾄﾞﾛｰﾗｰφ40(撤去)	受ｱﾝｸﾞﾙLS=75×75×9・ﾊﾝｶﾞｰﾚｰﾙSOP塗り・戸当り(新設) ｽﾃﾝﾚｽﾚｰﾙt=2加工・戸車φ40・舟底引手・ｶﾞｲﾄﾞﾛｰﾗｰφ40(新設)	DC(撤去・新設) 丁番・握り玉付ｼﾘﾝﾀﾞｰ錠(既存のまま)	握り玉錠：両面ｼﾘﾝﾀﾞｰ錠×2(撤去)　ｹｰｽﾊﾝﾄﾞﾙ×1(撤去) ｻﾑﾀｰﾝ付ｼﾘﾝﾀﾞｰ錠(新設)×3 DC(撤去・新設)、ﾋﾟﾎﾞｯﾄﾋﾝｼﾞ・戸当り(既存のまま)	握り玉付ｼﾘﾝﾀﾞｰ錠・DC・丁番(新設)	防球格子付(DP塗替)、ｸﾚｾﾝﾄ(既存のまま)
枠巾見込	40	40	86	86	86	70
硝　子						
備　考						

符号・数量	1 LSD × 1	1 G × 2	2 G × 2	1a AW × 9	1b AW × 4	1c AW × 1
改修内容	新設	既存のまま	DP塗替	既存のまま、外部ｼｰﾘﾝｸﾞ打替、ｸﾘｰﾆﾝｸﾞ	既存のまま(建具調整)、外部ｼｰﾘﾝｸﾞ打替、ｸﾘｰﾆﾝｸﾞ	ｸﾚｾﾝﾄ取替 建具調整、外部ｼｰﾘﾝｸﾞ打替、ｸﾘｰﾆﾝｸﾞ
図　示						
室　名	2階　多目的ﾄｲﾚ	屋内運動場	屋内運動場	屋内運動場ｷｬﾗﾘｰ	屋内運動場ｷｬﾗﾘｰ	屋内運動場ｷｬﾗﾘｰ
付属金物	ﾊﾝｶﾞｰﾚｰﾙ・ﾊﾝｶﾞｰﾛｰﾗｰ・ﾌﾚ止ﾒﾛｰﾗｰ・自閉制動装置(新設) ｽﾃﾝﾚｽﾄﾞｱﾊﾝﾄﾞﾙ(L=450)・他標準仕様書金物一式(新設)			ｸﾚｾﾝﾄ・附属金物一式(既存のまま)	ｸﾚｾﾝﾄ・附属金物一式(既存のまま)	ｸﾚｾﾝﾄ(撤去・新設) 附属金物一式(既存のまま)
枠巾見込	120	86	86	70	70	70
硝子				F-4(既存のまま)　ｸﾞﾚｲｼﾞﾝｸﾞﾋﾞｰﾄ 外部面(撤去・新設)	F-4(既存のまま)　ｸﾞﾚｲｼﾞﾝｸﾞﾋﾞｰﾄ 外部面(撤去・新設)	F-4(既存のまま)　ｸﾞﾚｲｼﾞﾝｸﾞﾋﾞｰﾄ 外部面(撤去・新設)
備考			防虫網付：ｽﾃﾝﾚｽ(既存のまま)			

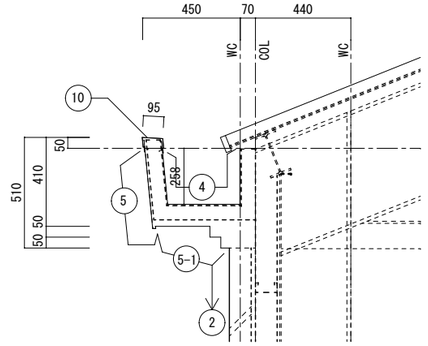
符号・数量	2 AW × 1	3 AW × 1	4a AW × 5	4b AW × 4
改修内容	撤去・新設（カバー工法） 外部シーリング打替	既存のまま、外部ｼｰﾘﾝｸﾞ打替、ｸﾘｰﾆﾝｸﾞ	撤去・新設（カバー工法） 外部シーリング打替	既存のまま、外部ｼｰﾘﾝｸﾞ打替、ｸﾘｰﾆﾝｸﾞ
図　示			 H 1F　便所(男)(女)　910 2F　便所(男)(女)　1080 2F　控室　980 H 1F　便所(男)(女)　910 2F　便所(男)(女)　980 2F　控室　980	 H 2F　倉庫(C)　980
室　名	1階　倉庫(A)	1階　倉庫(B2)	1階　便所(男)、2階　便所(男)(女) 2階　控室	1階　便所(女) 2階　倉庫(C)
付属金物	ｸﾚｾﾝﾄ(撤去)、附属金物一式(撤去)　ｸﾚｾﾝﾄ(新設)、附属金物一式(新設)	ｸﾚｾﾝﾄ・附属金物一式(既存のまま)	ｶﾑﾗｯﾁﾊﾝﾄﾞﾙ・ｶﾑﾗｯﾁﾊﾝﾄﾞﾙ受け(撤去) ｱｰﾑﾋﾟﾎﾞｯﾄ・ｽﾄｯﾊﾟｰ(撤去)　ｶﾑﾗｯﾁﾊﾝﾄﾞﾙ・ｶﾑﾗｯﾁﾊﾝﾄﾞﾙ受け(新設) ｱｰﾑﾋﾟﾎﾞｯﾄ・ｽﾄｯﾊﾟｰ(新設)	ｶﾑﾗｯﾁﾊﾝﾄﾞﾙ・ｶﾑﾗｯﾁﾊﾝﾄﾞﾙ受け(既存のまま) ｱｰﾑﾋﾟﾎﾞｯﾄ・ｽﾄｯﾊﾟｰ(既存のまま)
枠巾見込	70	70		70
硝子	F-4(撤去)　F-4(新設)	F-4(既存のまま)　ｸﾞﾚｲｼﾞﾝｸﾞﾋﾞｰﾄ 外部面(撤去・新設)	F-4(撤去)　F-4(新設)	F-4(既存のまま)　ｸﾞﾚｲｼﾞﾝｸﾞﾋﾞｰﾄ 外部面(撤去・新設)
備考	面格子(撤去)　面格子(新設)			

事業年度　年度 工事完成　年度	設 計 令和 年 月	三原市都市部建築課	大	中	小	地域	施設	種類 建築	工事名 本郷小学校屋内運動場長寿命化改修工事	事務所名・建築士登録番号・氏名 有限会社　ＭａｓＭａｓ 一級建築士登録　第325897号 小松木 靖之	図面名称・縮尺　S=1/100　(A3版-71%縮小) 建具表(2)	図 番 A-46

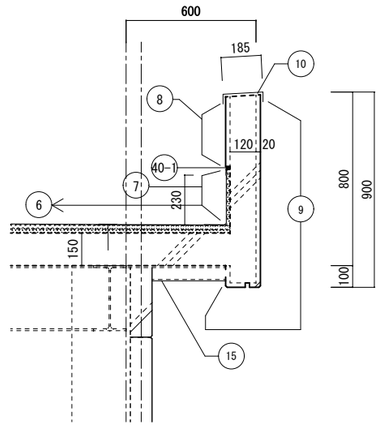
符号・数量	5a / AW × 1		5b / AW × 1	1a / AD × 2	1b / AD × 1
改修内容	撤去・新設（カバー工法） SOP塗替(額縁)、外部シーリング打替		SOP塗替(額縁)、建具調整、外部シーリング打替 ｸﾘｰﾆﾝｸﾞ	撤去・新設（カバー工法） 外部シーリング打替	DC取替 SOP塗替(額縁)、建具調整、ｸﾘｰﾆﾝｸﾞ
図　示					
室　名	２階　更衣室		２階　事務室	１階　便所(男)(女)	２階　便所(女)
付属金物	ｸﾚｾﾝﾄ(撤去)、附属金物一式(撤去)	ｸﾚｾﾝﾄ(新設)、附属金物一式(新設)	ｸﾚｾﾝﾄ(既存のまま)、附属金物一式(既存のまま)	握り玉ｼﾘﾝﾀﾞｰ錠・丁番・DC・戸当り・ｱﾝｸﾞﾙﾋﾞｰｽ(撤去)	握り玉ｼﾘﾝﾀﾞｰ錠・丁番・DC・戸当り・ｱﾝｸﾞﾙﾋﾞｰｽ(新設)	DC(撤去・新設) 握り玉ｼﾘﾝﾀﾞｰ錠・丁番・戸当り・ｱﾝｸﾞﾙﾋﾞｰｽ(既存のまま)
枠巾見込	70		70	70		70
硝　子	Ｆ-4(撤去)	Ｆ-4(新設)	Ｆ-4(既存のまま)　ｸﾞﾚｲｼﾞﾝｸﾞﾋﾞｰﾄ 外部面(撤去･新設)	Ｆ-4(撤去)	Ｆ-4(新設)	Ｆ-4(既存のまま)　ｸﾞﾚｲｼﾞﾝｸﾞﾋﾞｰﾄ 外部面(撤去･新設)
備　考	網戸ｻﾗﾝ(撤去)	網戸ｻﾗﾝ(新設)	網戸ｻﾗﾝ(既存のまま)	沓摺：ﾃﾗｿﾞｰﾌﾞﾛｯｸ(既存のまま)	沓摺：ﾃﾗｿﾞｰﾌﾞﾛｯｸ(既存のまま)	沓摺：ｽﾃﾝﾚｽ(既存のまま)
符号・数量	1c / AD × 1	1a / TB × 1	2a / TB × 3	3a / TB × 1	1b / TB × 1　　1b / TB × 1	2b / TB × 3　　2b / TB × 3
改修内容	既存のまま SOP塗替(額縁)、建具調整、ｸﾘｰﾆﾝｸﾞ	既存のまま	既存のまま	既存のまま	撤去　　新設	撤去　　新設
図　示						
室　名	２階　便所(男)	１階　便所(男)(女)	１階　便所(男)(女)	１階　便所(男)(女)	２階　便所(男)(女)	２階　便所(男)(女)
付属金物	DC(既存のまま) 握り玉ｼﾘﾝﾀﾞｰ錠・丁番・戸当り・ｱﾝｸﾞﾙﾋﾞｰｽ(既存のまま)	ﾗﾊﾞﾄﾘｰﾋﾝｼﾞ・握り玉・表示錠・帽子掛け(既存のまま) 頭つなぎ(ｽﾃﾝﾚｽ)・受け金物(ｽﾃﾝﾚｽ)(既存のまま)	頭つなぎ(ｽﾃﾝﾚｽ)・受け金物(ｽﾃﾝﾚｽ)(既存のまま)	ﾗﾊﾞﾄﾘｰﾋﾝｼﾞ・握り玉・表示錠・帽子掛け(既存のまま) 頭つなぎ(ｽﾃﾝﾚｽ)・受け金物(ｽﾃﾝﾚｽ)(既存のまま)	ﾗﾊﾞﾄﾘｰﾋﾝｼﾞ・握り玉・表示錠・帽子掛け(撤去・新設) 頭つなぎ(ｽﾃﾝﾚｽ)・受け金物(ｽﾃﾝﾚｽ)(撤去・新設)	頭つなぎ(ｽﾃﾝﾚｽ)・受け金物(ｽﾃﾝﾚｽ)(撤去・新設)
枠巾見込	70	40	40	40	40	40
硝子	Ｆ-4(既存のまま)　ｸﾞﾚｲｼﾞﾝｸﾞﾋﾞｰﾄ 外部面(撤去･新設)					
備考		ﾒﾗﾐﾝ化粧合板	ﾒﾗﾐﾝ化粧合板	ﾒﾗﾐﾝ化粧合板	ﾒﾗﾐﾝ化粧合板	ﾒﾗﾐﾝ化粧合板
符号・数量	3b / TB × 1　　3b / TB × 1	1 / WD × 9　　1 / WD × 9	1 / A × 1			
改修内容	撤去　　新設	撤去　　新設	新設 既存有刺鉄線(撤去)			
図　示						
室　名	２階　便所(男)(女)	ステージ下	1階　ﾋﾟﾛﾃｨ-B			
付属金物	ﾗﾊﾞﾄﾘｰﾋﾝｼﾞ・握り玉・表示錠・帽子掛け(撤去・新設) 頭つなぎ(ｽﾃﾝﾚｽ)・受け金物(ｽﾃﾝﾚｽ)(撤去・新設)	引手×2(撤去・新設)	アルミ製縦格子			
枠巾見込	40	35				
硝子						
備考	片面化粧色板合板(木目)、片面ﾗﾜﾝﾍﾞﾆﾔ					

事業年度　年度 工事完成　年度	設 計 令和 年 月	三原市都市部建築課	大	中	小	地域	施設	種類 建築	工事名 本郷小学校屋内運動場長寿命化改修工事	事務所名･建築士登録番号･氏名 有限会社　ＭａｓＭａｓ 一級建築士登録　第325897号 小松木 靖之	図面名称・縮尺　S=1/100　(A3版-71%縮小) 建具表(3)	図 番 A-47

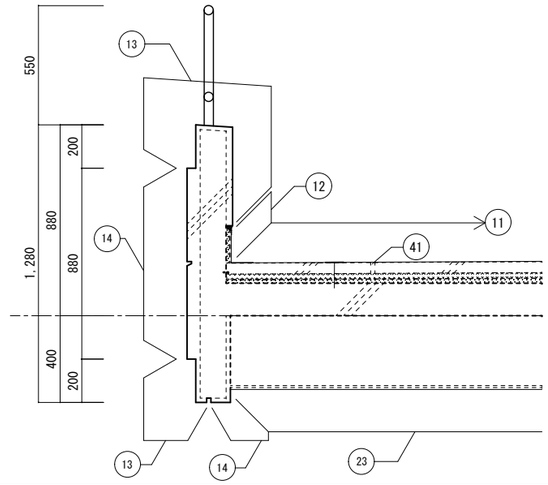
屋根１　軒先部詳細図　1/20



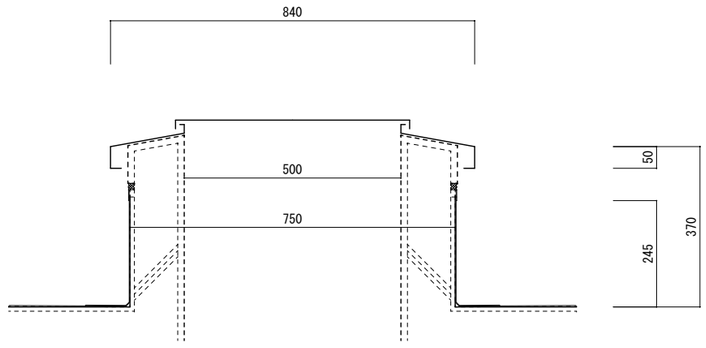
屋根２　軒先部詳細図　1/20



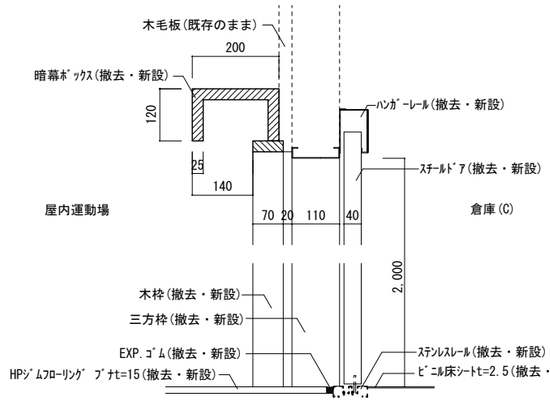
ﾃﾗｽ　詳細図　1/20



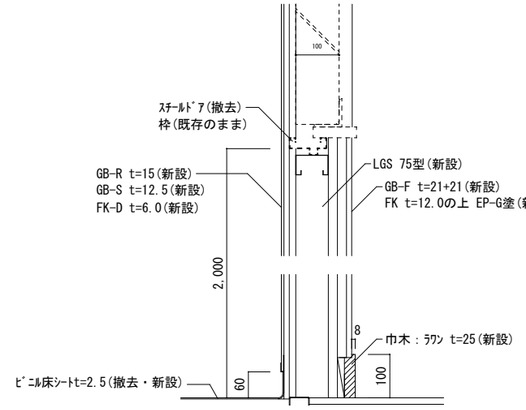
屋根マンホール 断面詳細図　1/10



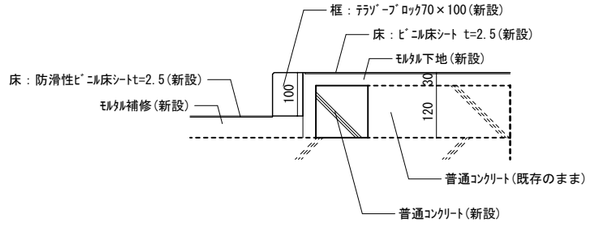
SD-4　詳細図　1/10



SD-2・壁新設部　1/10



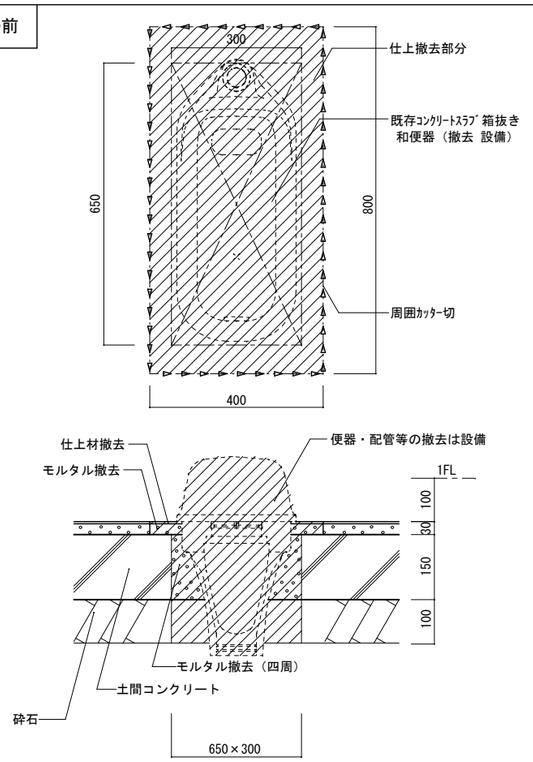
上がり框（玄関）　1/10



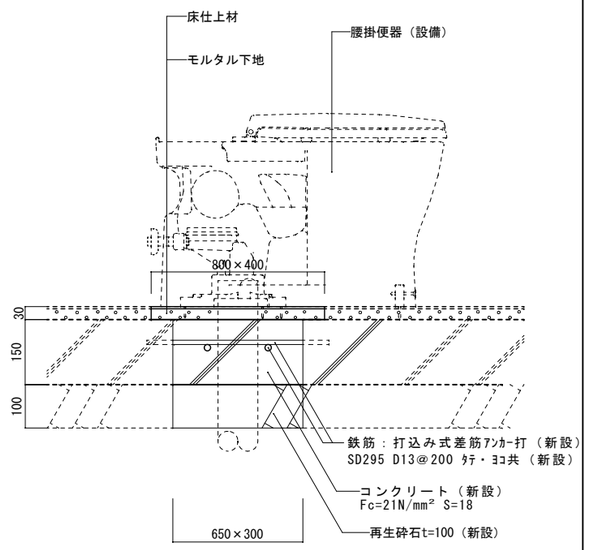
事業年度　年度 工事完成　年度	設 計 令和 年 月	三原市都市部建築課	大	中	小	地域	施設	種類 建築	工事名 本郷小学校屋内運動場長寿命化改修工事	事務所名・建築士登録番号・氏名 有限会社　ＭａｓＭａｓ 一級建築士登録　第325897号 小松木 靖之	図面名称・縮尺　S=1/20・1/10　(A3版-71%縮小) 部分詳細図（１）	図 番 A-48

大便器改修（ 1階 ）　1/10

改修前

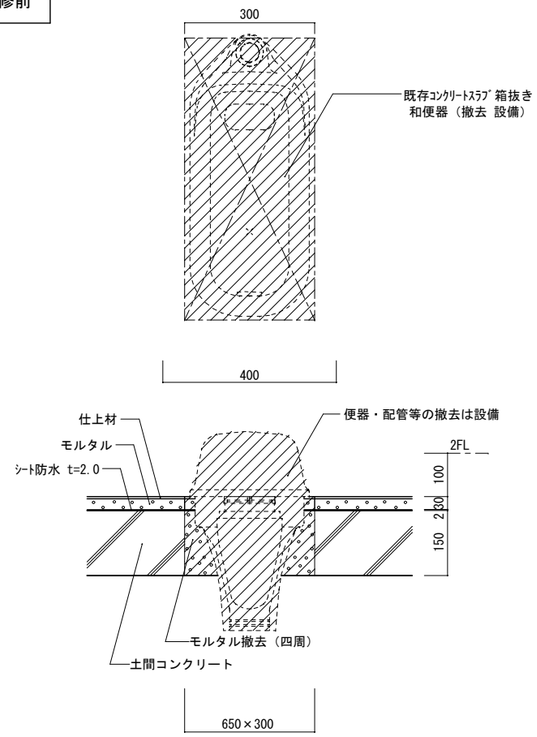


改修後

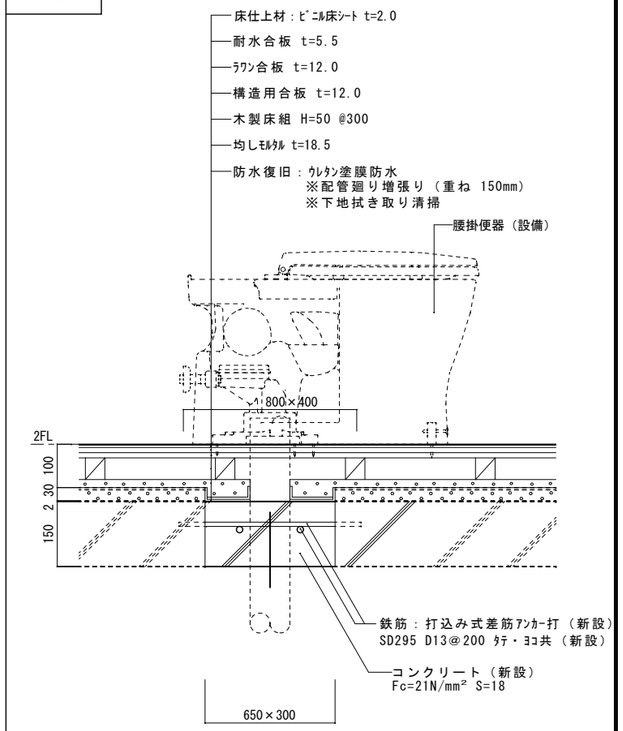


大便器改修（ 2階 ）　1/10

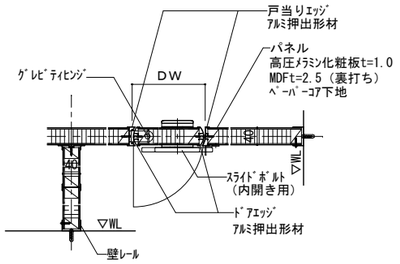
改修前



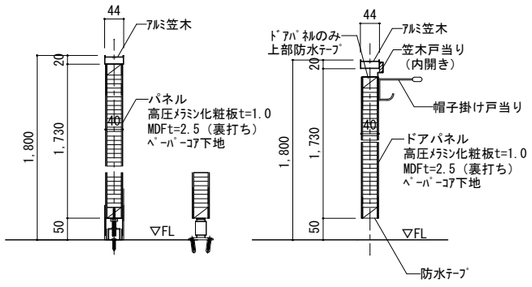
改修後



便所トイレブース　1/10

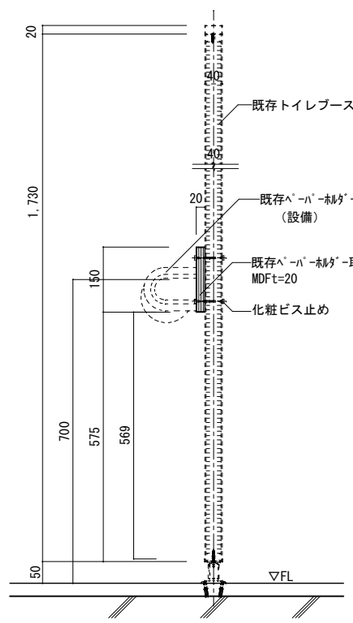


平面詳細図　1/10

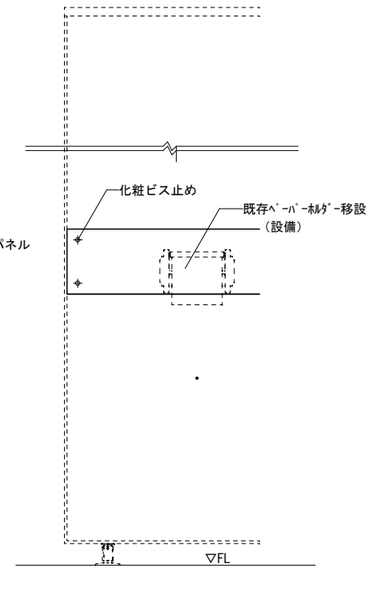


断面詳細図　1/10

既存トイレブース補強・既存ペーパーホルダー取付補強　1/10



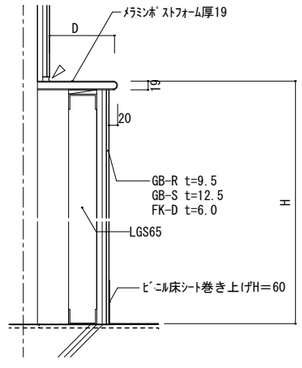
断面詳細図　1/10



正面図　1/10

面台　1/20

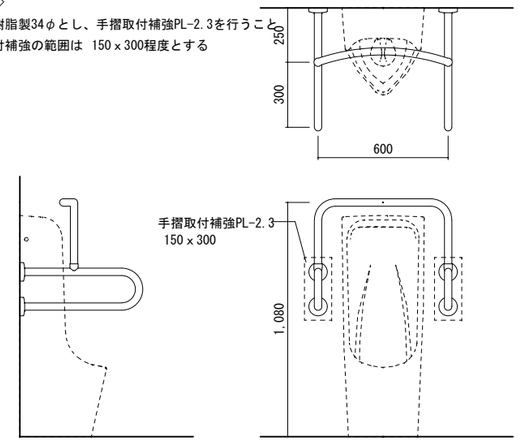
〈特記事項〉
・D、W、H寸法は平面詳細図による



事業年度　年度 工事完成　年度	設 計 令和 年 月	三原市都市部建築課	大	中	小	地域	施設	種類 建築	工事名 本郷小学校屋内運動場長寿命化改修工事	事務所名・建築士登録番号・氏名 有限会社 ＭａｓＭａｓ 一級建築士登録 第325897号 小松木 靖之	図面名称・縮尺 S=1/10 (A3版-71%縮小) 部分詳細図（２）	図 番 A-49

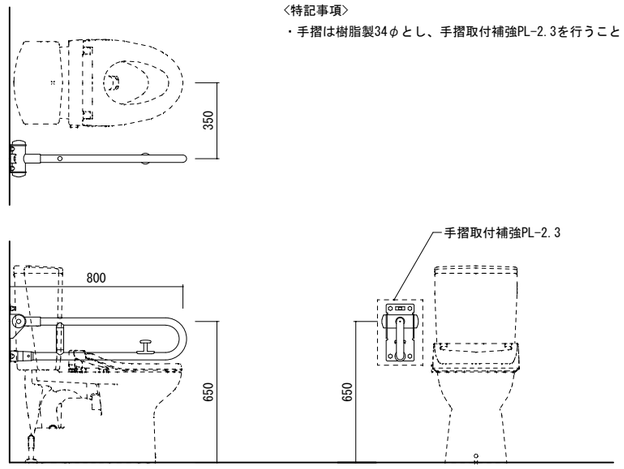
小便器用手摺 1/20

〈特記事項〉
・手摺は樹脂製34φとし、手摺取付補強PL-2.3を行うこと
・手摺取付補強の範囲は 150 x 300程度とする



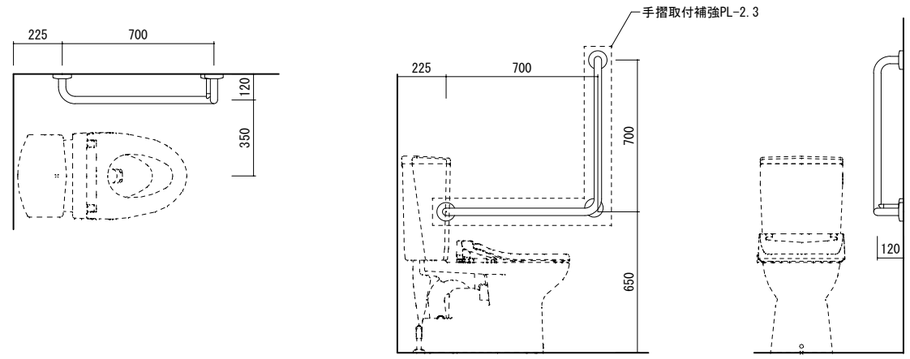
跳ね上げ式手摺(可動式) 1/20

〈特記事項〉
・手摺は樹脂製34φとし、手摺取付補強PL-2.3を行うこと

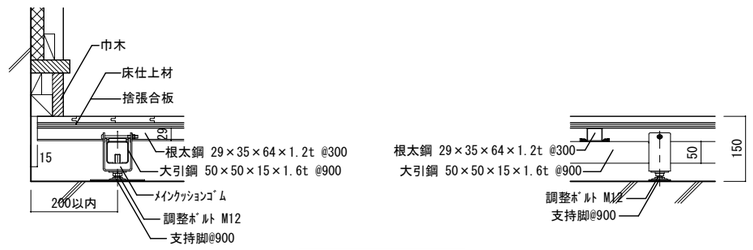


L型手摺 1/20

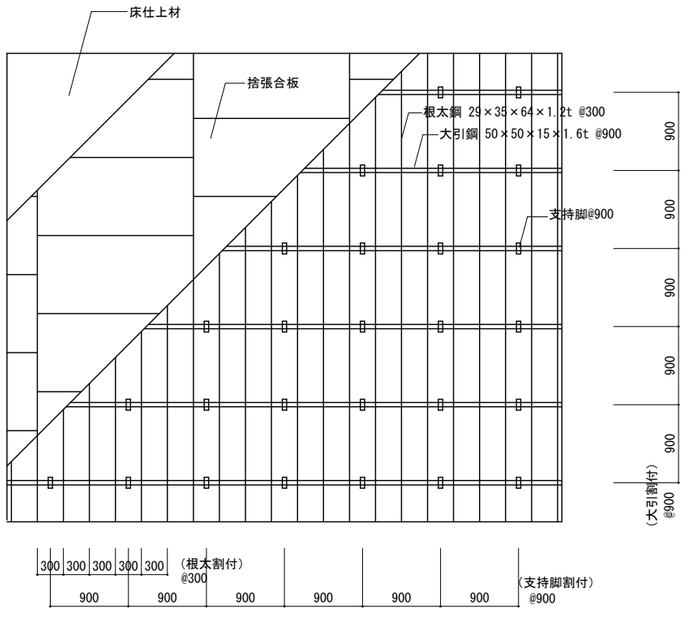
〈特記事項〉
・手摺は樹脂製34φとし、手摺取付補強PL-2.3を行うこと



鋼製床（低床用 H=150） 1/10・1/50

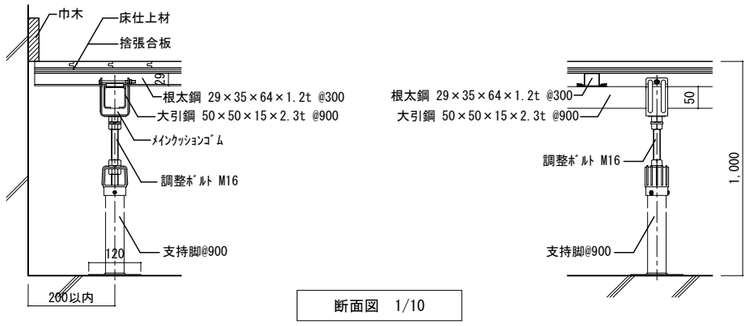


断面図 1/10

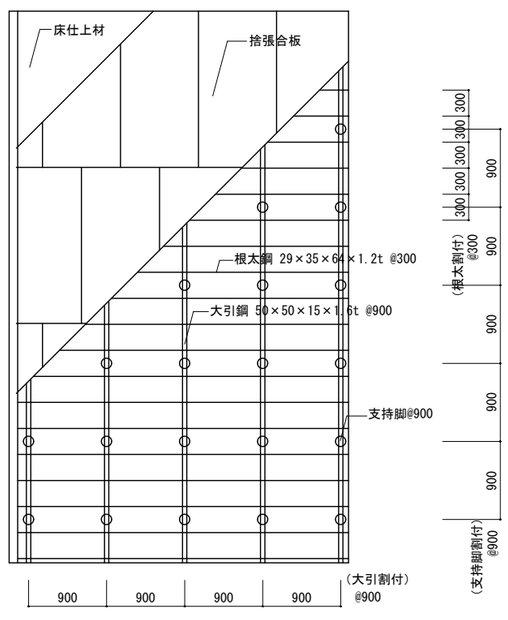


割り付け図 1/50

鋼製床（高床ﾀｲﾌﾟ H=1000） 1/10・1/50

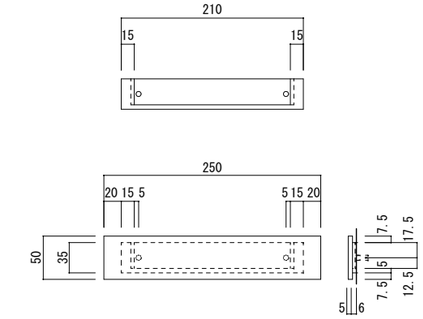


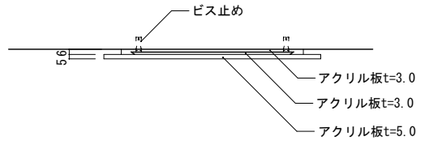
断面図 1/10



割り付け図 1/50

室名札（平付け型） 1/5





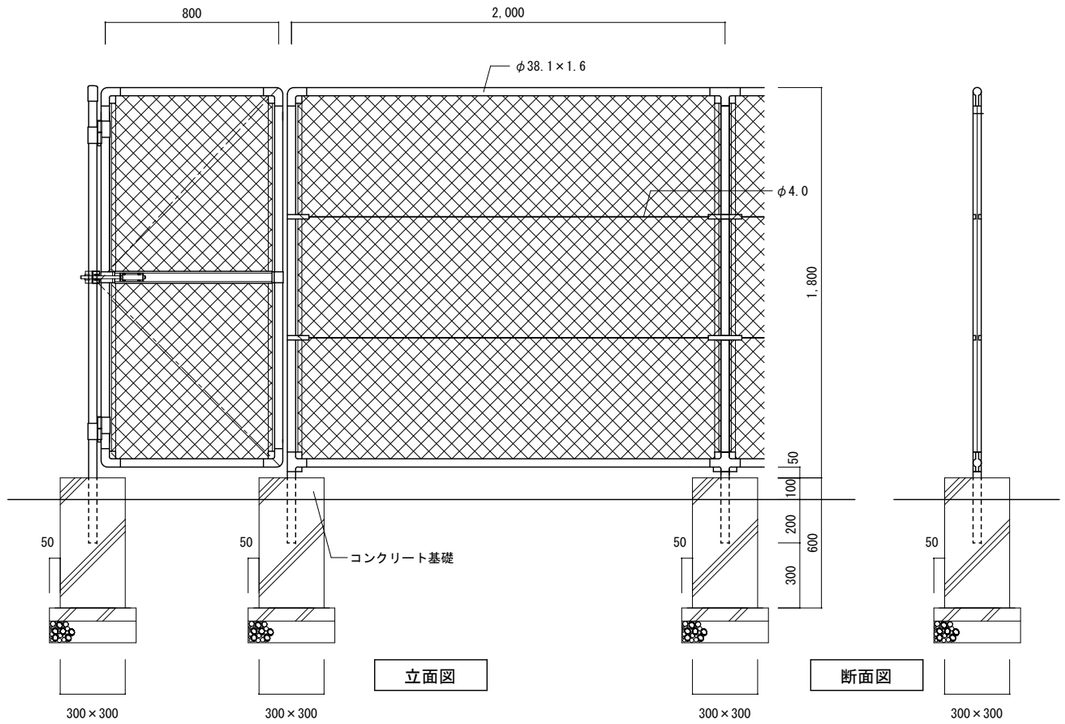
室名札リスト

	1階	2階			合計
平付	5	6			11

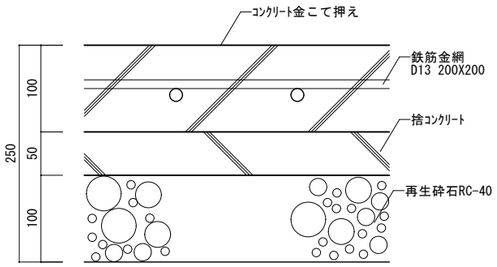
※ 表示色は、現場監督員の指示による。
詳細は、国交省標準図を準拠のこと。

事業年度 年度 工事完成 年度	設計 令和 年 月	三原市都市部建築課	大	中	小	地域	施設	種類 建築	工事名 本郷小学校屋内運動場長寿命化改修工事	事務所名・建築士登録番号・氏名 有限会社 ＭａｓＭａｓ 一級建築士登録 第325897号 小松木 靖之	図面名称・縮尺 S=1/5・1/10・1/20・1/50 (A3版-71%縮小) 部分詳細図（３）	図番 A-50

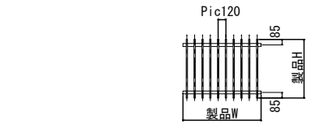
東側ネットフェンス　1/20



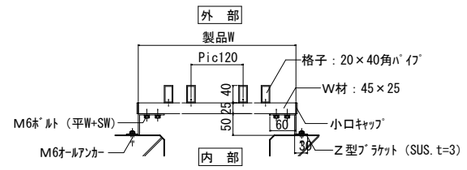
ｺﾝｸﾘｰﾄ土間詳細図　1/5



アルミ格子　1/10

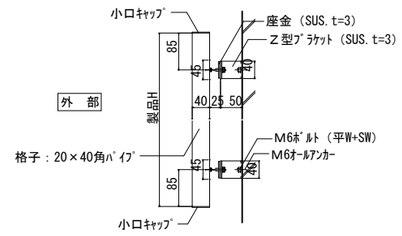


外観姿図



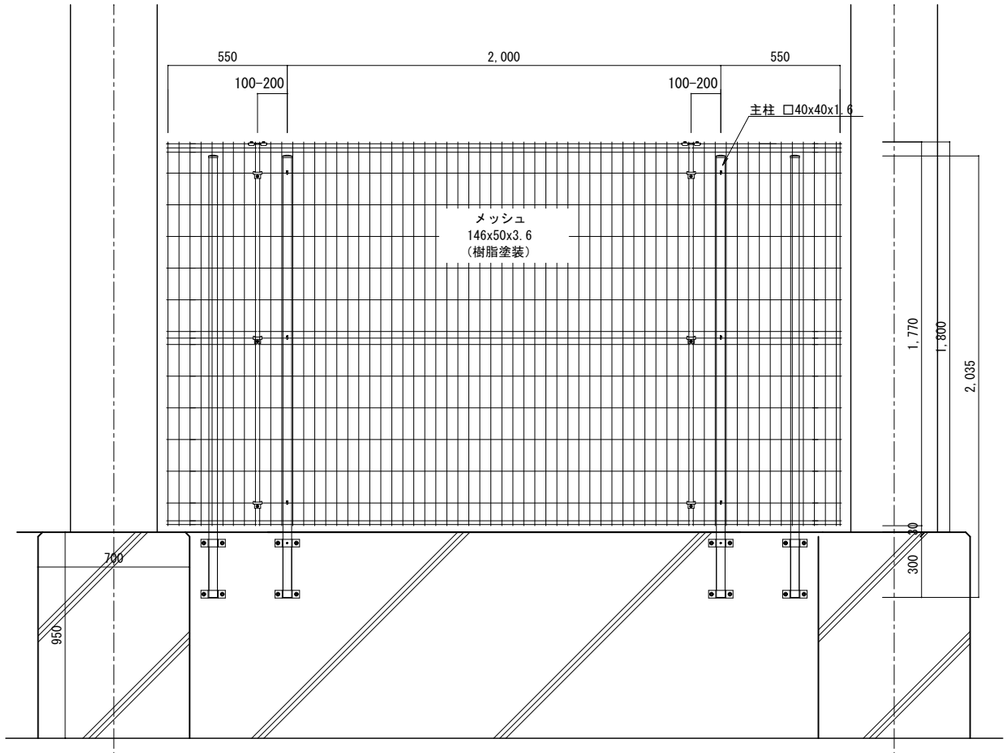
横断面図　1/10

鉄筋：接着系差筋ｱﾝｶｰ打（新設）
SD295 D13@200 ﾀﾃ・ﾖｺ共（新設）

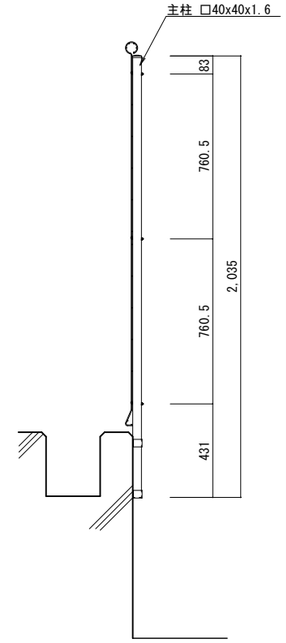


縦断面図　1/10

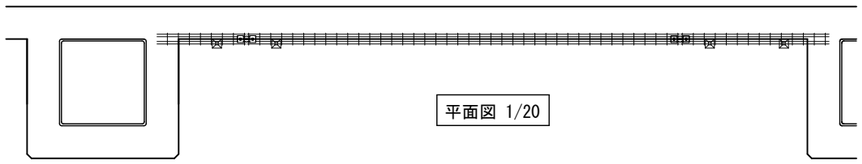
北側メッシュフェンス　1/10・1/20



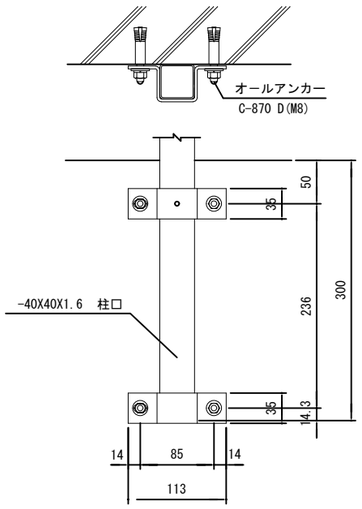
立面図 1/20



断面図 1/20

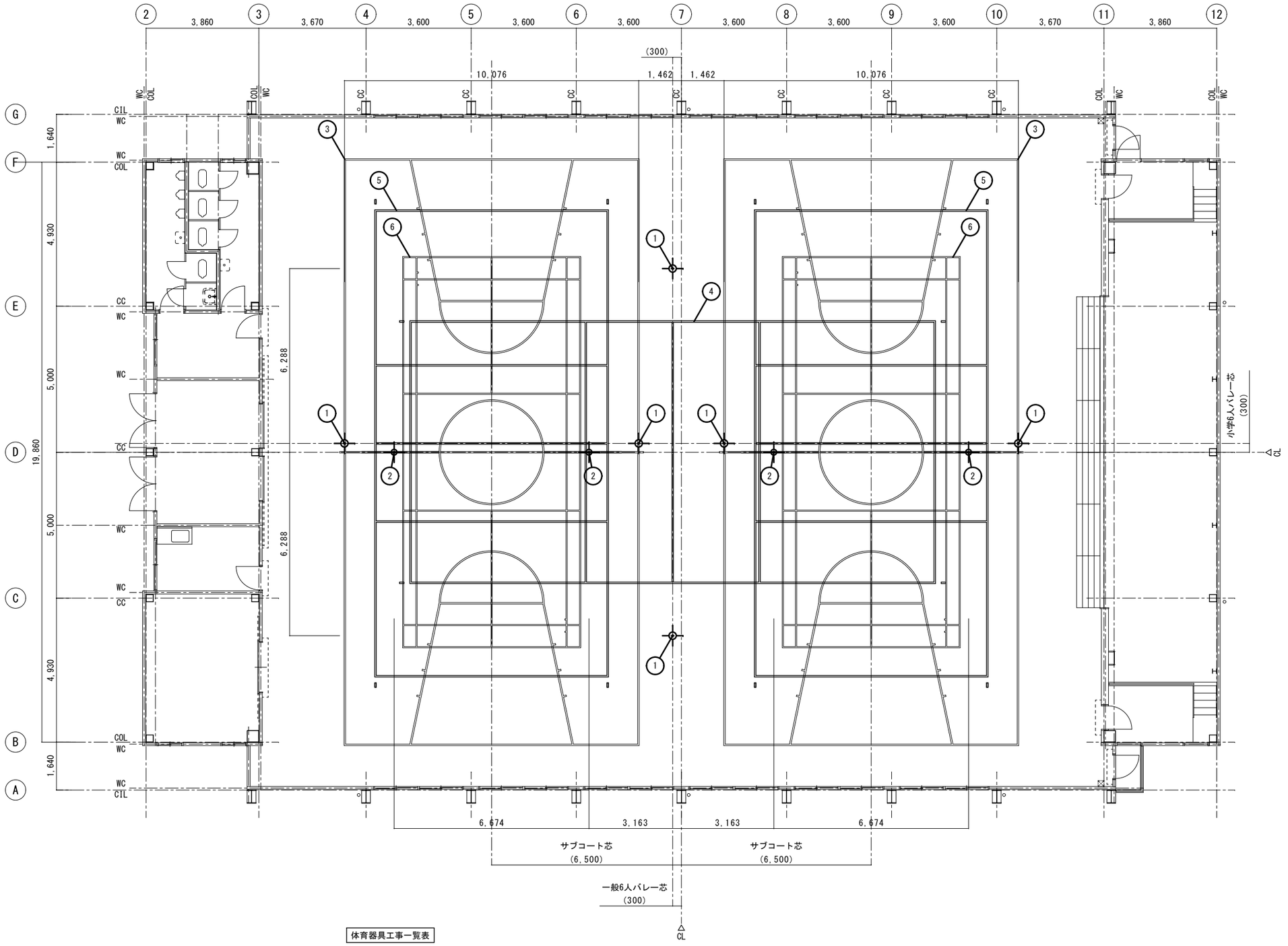


平面図 1/20



柱脚部詳細図 1/10

事業年度　年度 工事完成　年度	設計 令和 年 月	三原市都市部建築課	大	中	小	地域	施設	種類 建築	工事名 本郷小学校屋内運動場長寿命化改修工事	事務所名・建築士登録番号・氏名 有限会社　ＭａｓＭａｓ 一級建築士登録　第325897号 小松木 靖之	図面名称・縮尺　S=1/5・1/10・1/20　(A3版-71%縮小) 部分詳細図（４）	図 番 A-51



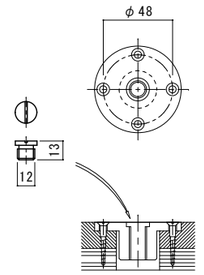
体育器具工事一覧表

NO	品　番	数量	品　名　／　仕　様	ライン色	ライン巾	優先順位
1	BV401	3対	バレー用床止金具　フローリング用　完全落蓋型　亜鉛ダイカスト製			
2	BD613	2組	バドミントン(T字ねじ止式)用　床止金具　フローリング用　ビス止式		50㎜	
3	SL212	2面	ミニバスケットボールコート　20,000×10,000(※但し、既存バスケット台合わせとする)　全線		50㎜	
4	SL213	1面	一般6人制バレーコート　18,000×9,000　全線		50㎜	
5	SL213	2面	小学生6人制バレーコート　16,000×8,000　全線		50㎜	
6	SL215	2面	バドミントンコート　13,400×6,100　全線		40㎜	

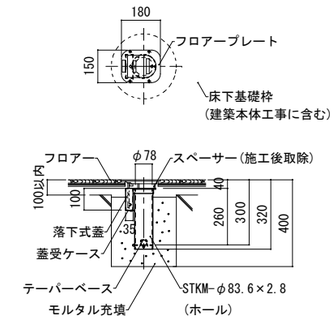
※優先順位・ライン色は、打合せ等により決定のこと

※バスケット・バレーコート配置位置は参考とする。既存バスケット台及び、既存床下基礎位置確認後決定のこと

BD613　バドミントン(T字式)用床止金具
S=1:3

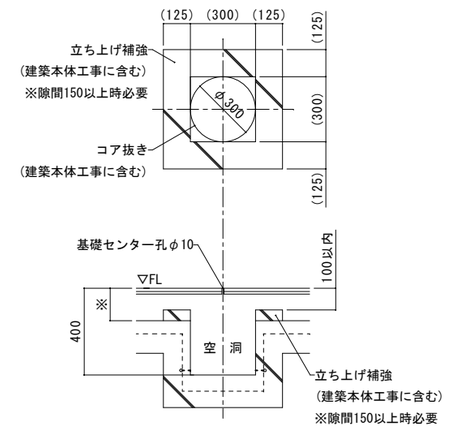


BV401　バレー床金具
S=1:20



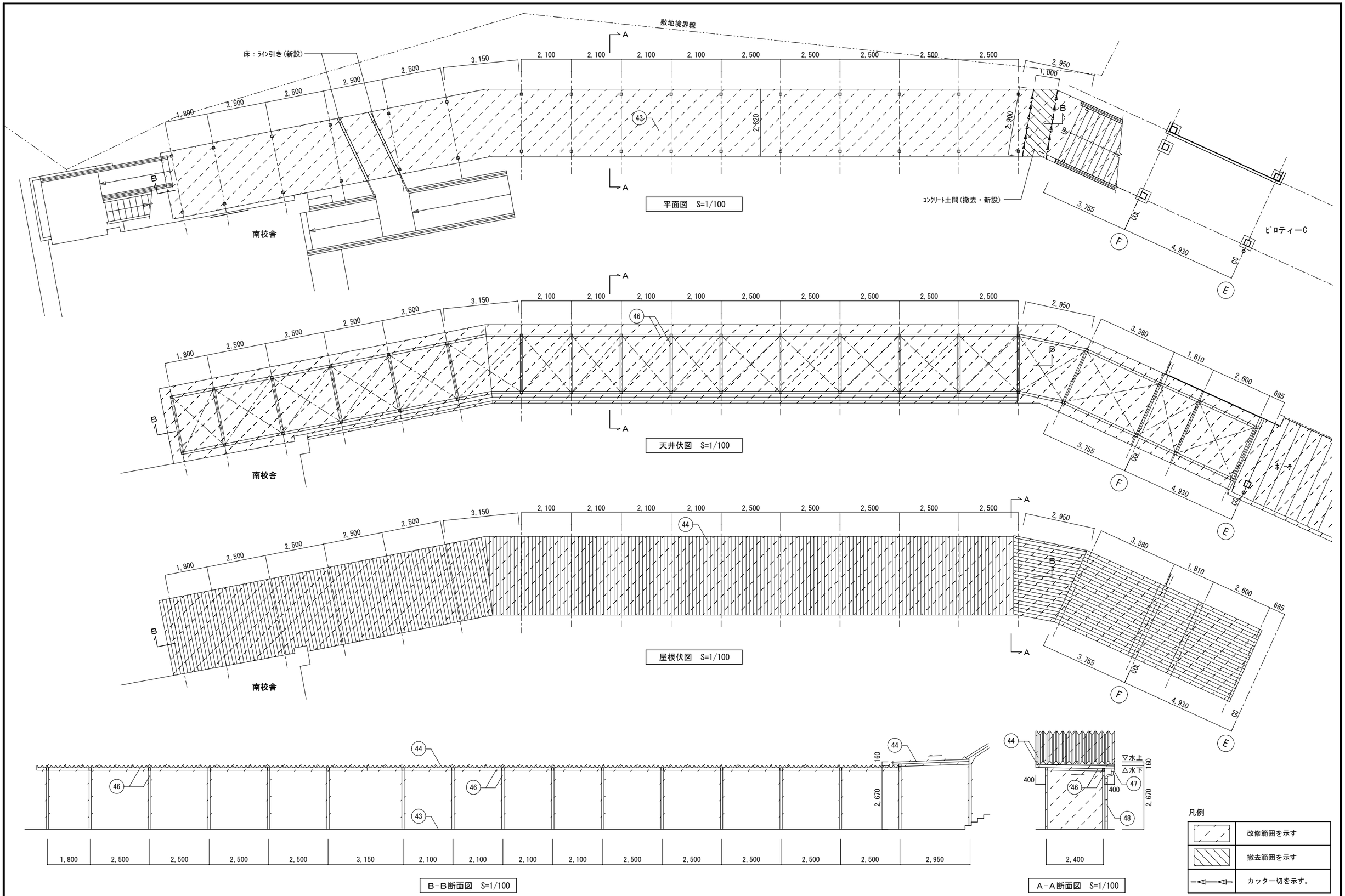
※既存床下基礎枠図は参考図示とする
※図中括弧内寸法は参考記入とする

既存床下基礎枠図
S=1:20
(建築本体工事に含む)

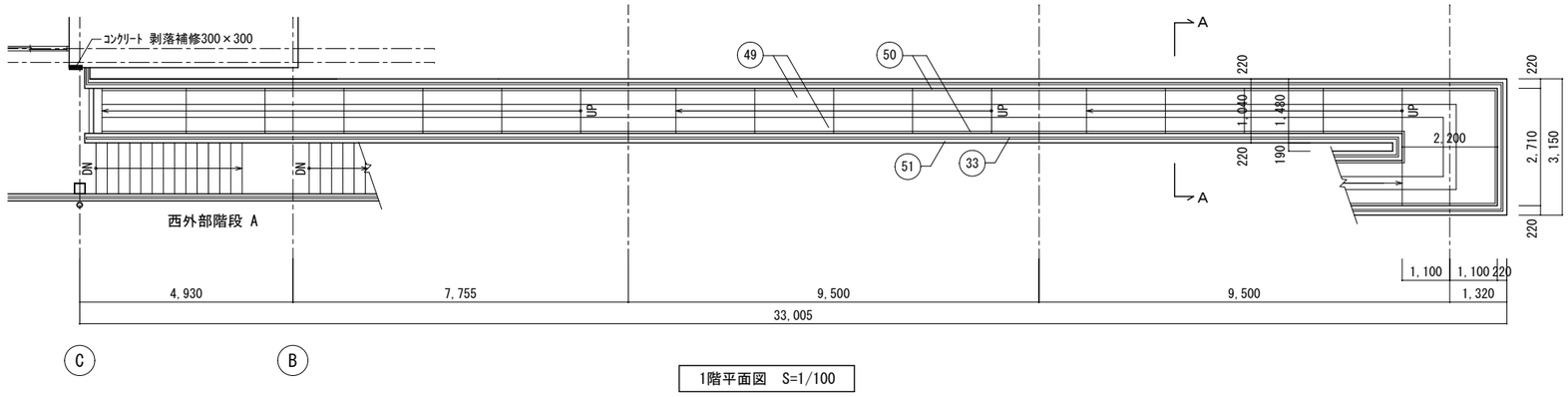


●図中※寸法(フロアー仕上面～既存基礎枠天端迄の隙間)が
100以上の場合、立ち上げ補強(建築本体工事に含む)を新設願います

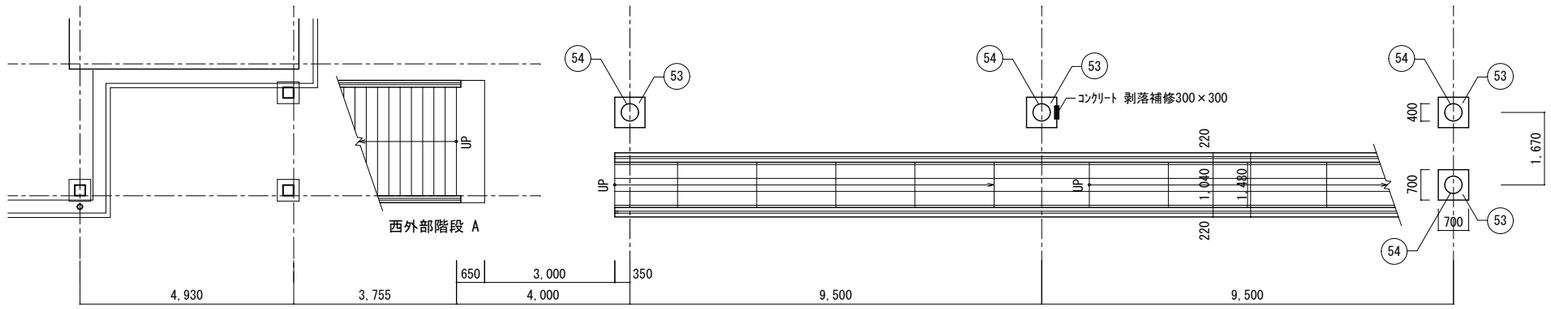
事業年度　年度 工事完成　年度	設計 令和 年 月	三原市都市部建築課	大	中	小	地域	施設	種類 建築	工事名 本郷小学校屋内運動場長寿命化改修工事	事務所名・建築士登録番号・氏名 有限会社　ＭａｓＭａｓ 一級建築士登録　第325897号 小松木 靖之	図面名称・縮尺　S=1/100　(A3版-71%縮小) 屋内運動場ｺｰﾄﾗｲﾝ図	図 番 A-52



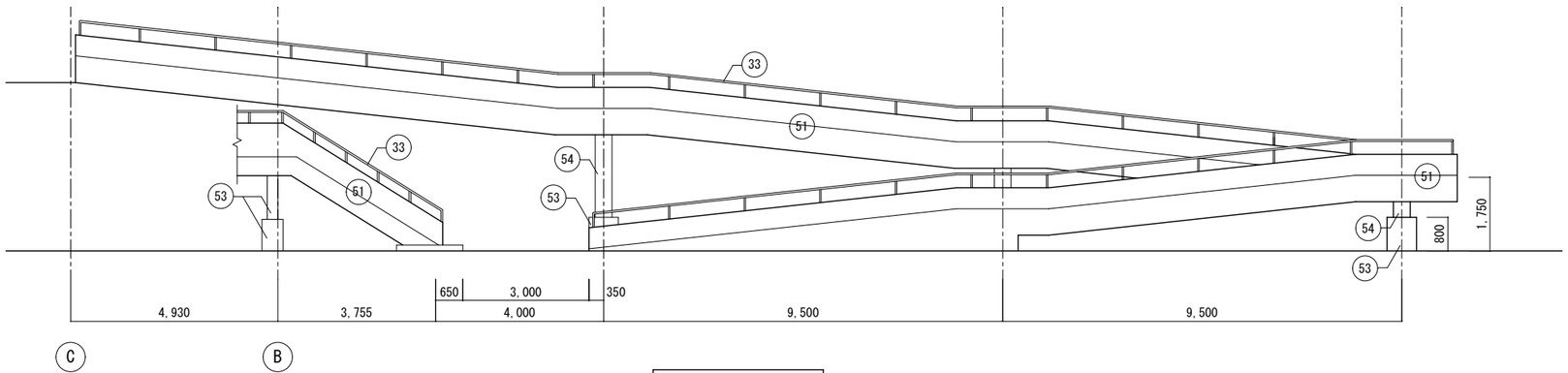
事業年度 年度 工事完成 年度	設計 令和 年 月	三原市都市部建築課	大	中	小	地域	施設	種類 建築	工事名 本郷小学校屋内運動場長寿命化改修工事	事務所名・建築士登録番号・氏名 有限会社 ＭａｓＭａｓ 一級建築士登録 第325897号 小松木 靖之	図面名称・縮尺 S=1/100 (A3版-71%縮小) 渡り廊下 平面図・天井伏図・屋根伏図・断面図	図番 A-53



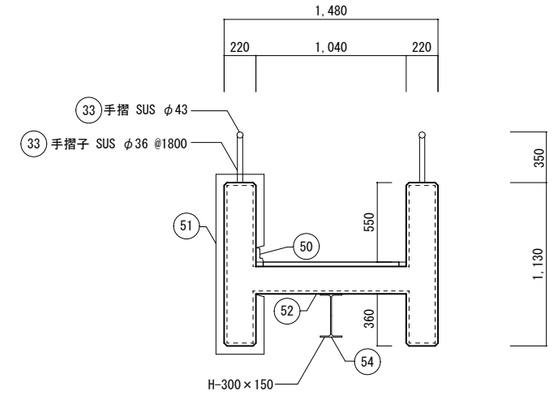
1階平面図　S=1/100



2階平面図　S=1/100

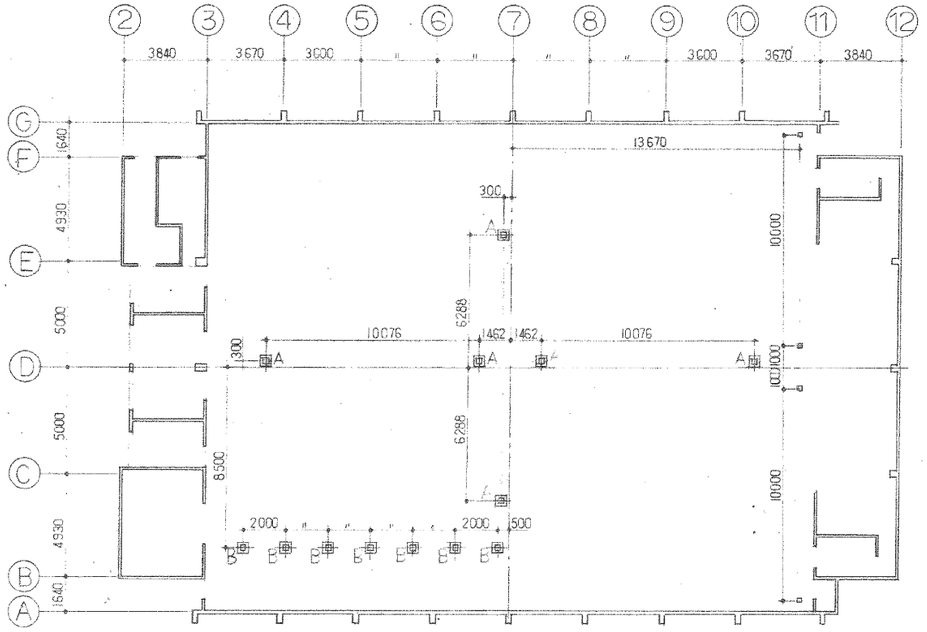


立面図　S=1/100



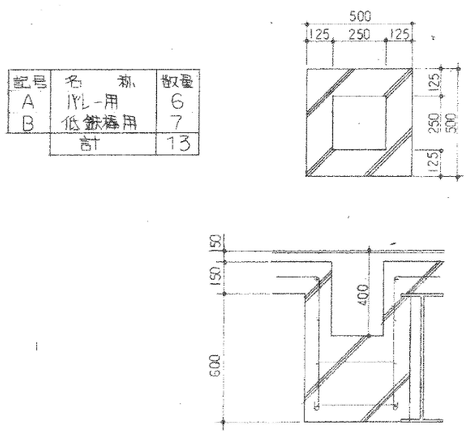
A－A断面図　S=1/30

事業年度　年度 工事完成　年度	設 計 令和 年 月	三原市都市部建築課	大	中	小	地域	施設	種類 建築	工事名 本郷小学校屋内運動場長寿命化改修工事	事務所名・建築士登録番号・氏名 有限会社　ＭａｓＭａｓ 一級建築士登録　第325897号 小松木 靖之	図面名称・縮尺　S=1/30・100　(A3版-71%縮小) ｽﾛｰﾌﾟ平面図・立面図・断面図	図 番 A-54



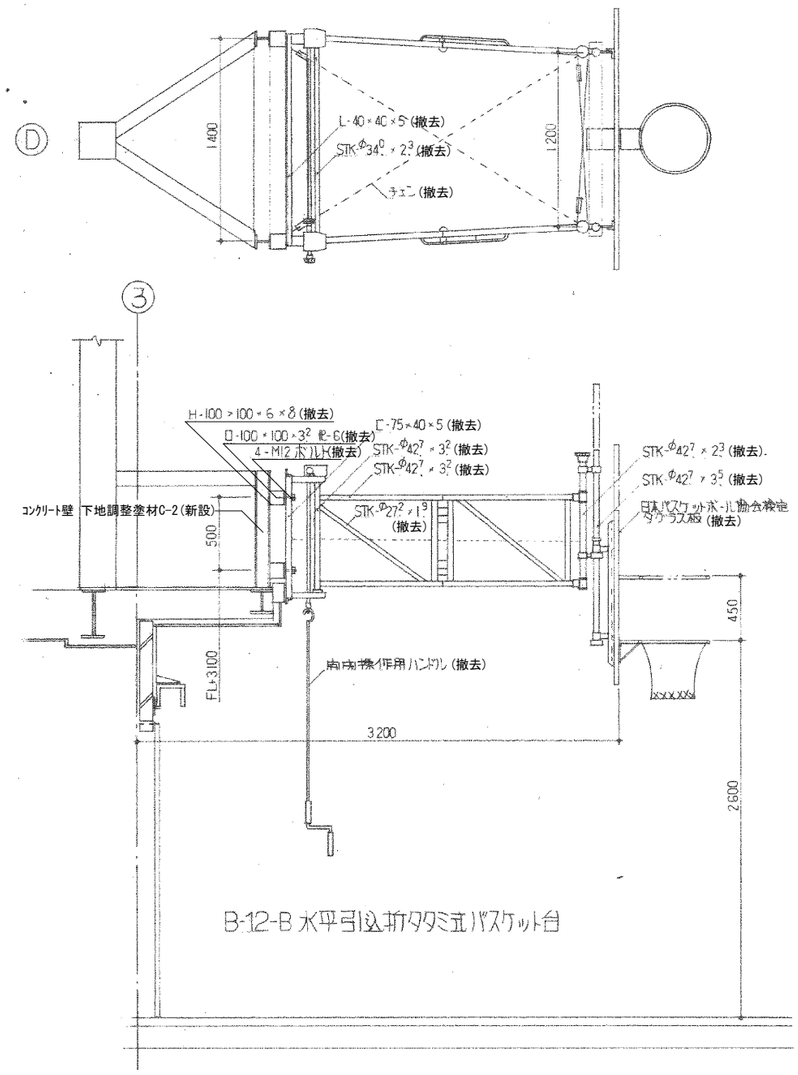
体育器具用基礎平面図　1/200

記号	名称	数量
A	バレー用	6
B	低鉄棒用	7
	計	13



防球ネット用基礎 4個

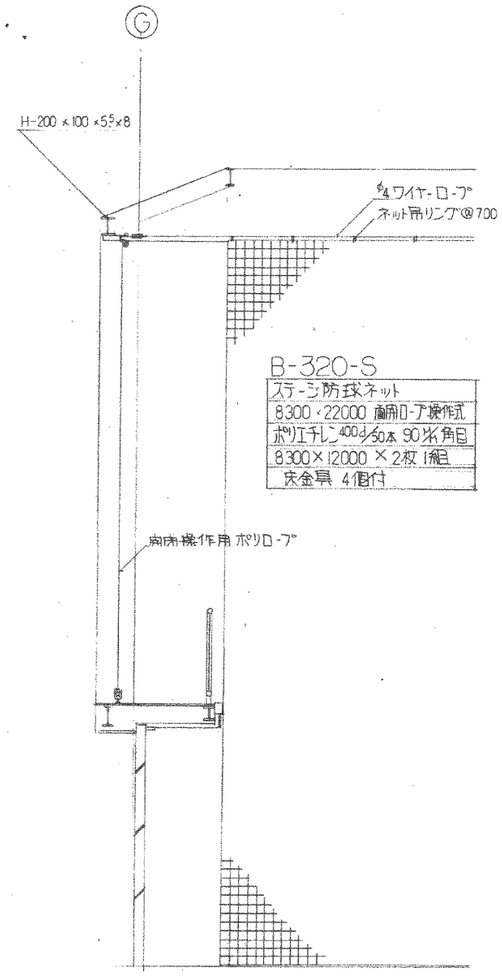
体育器具用基礎詳細図　1/20



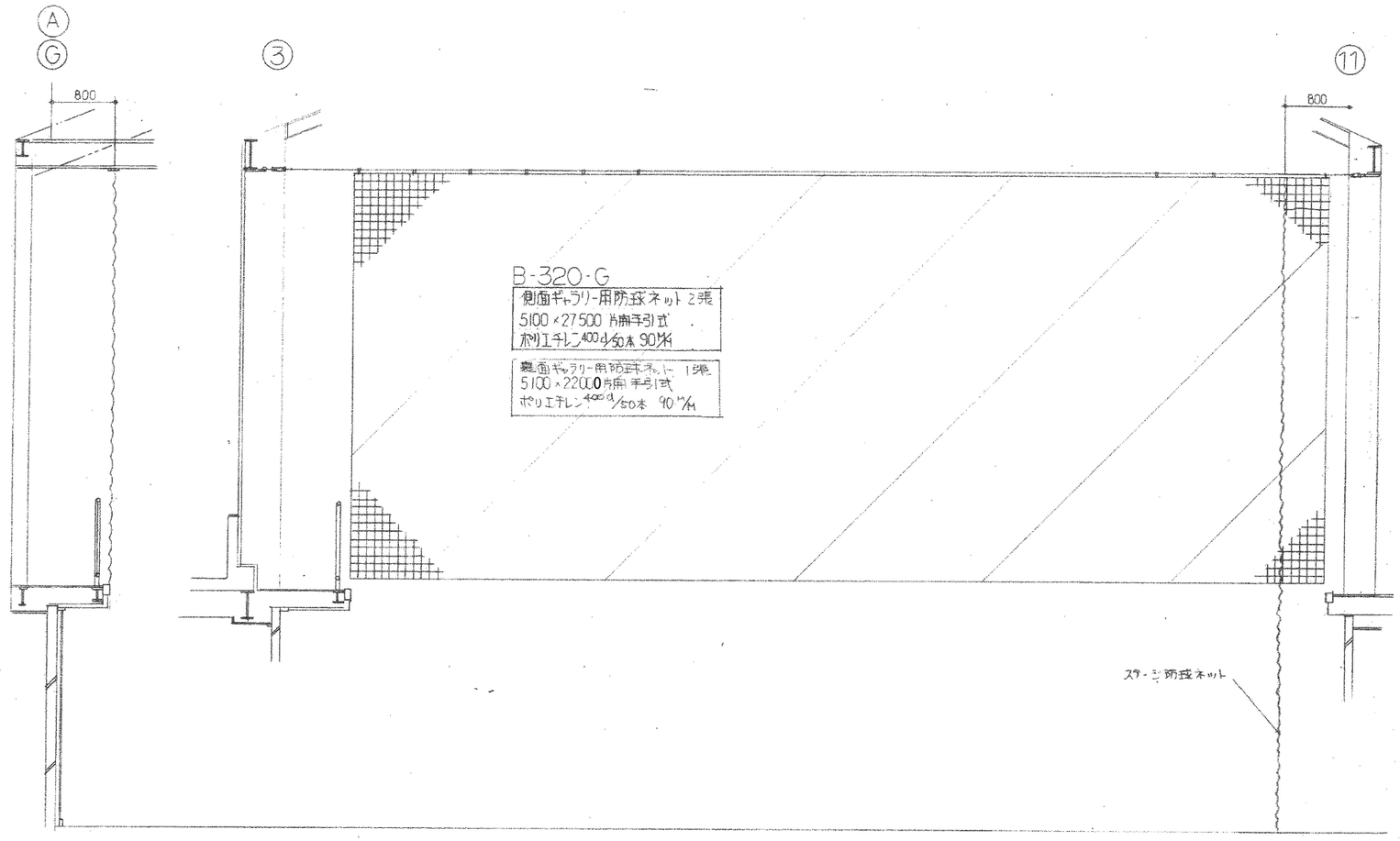
B-12-B 水平引込折りたたみ式バスケット台

水平引込折りたたみ式ﾊﾞｽｹｯﾄ台撤去図　1/30

事業年度　年度 工事完成　年度	設計 令和 年 月	三原市都市部建築課	大	中	小	地域	施設	種類 建築	工事名 本郷小学校屋内運動場長寿命化改修工事	事務所名・建築士登録番号・氏名 有限会社　ＭａｓＭａｓ 一級建築士登録　第325897号 小松木 靖之	図面名称・縮尺　S=1/20・1/30・1/200 (A3版-71%縮小) （参考図１）体育器具用基礎図 ﾊﾞｽｹｯﾄ台撤去図	図番 A-55

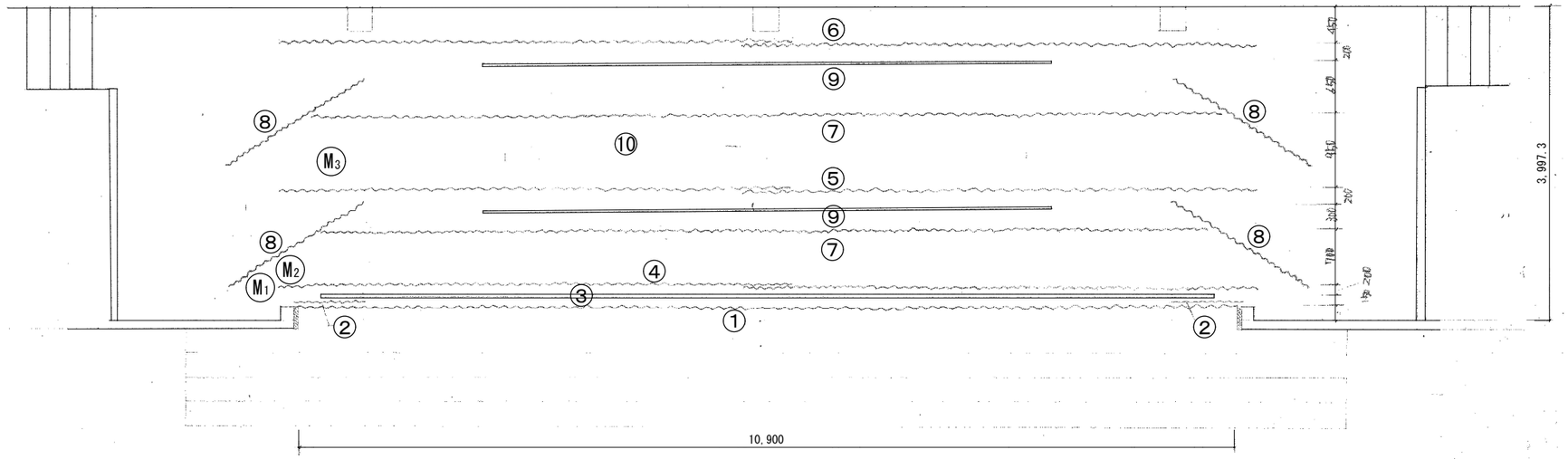


ｽﾃｰｼﾞ防球ﾈｯﾄ詳細図　1/50

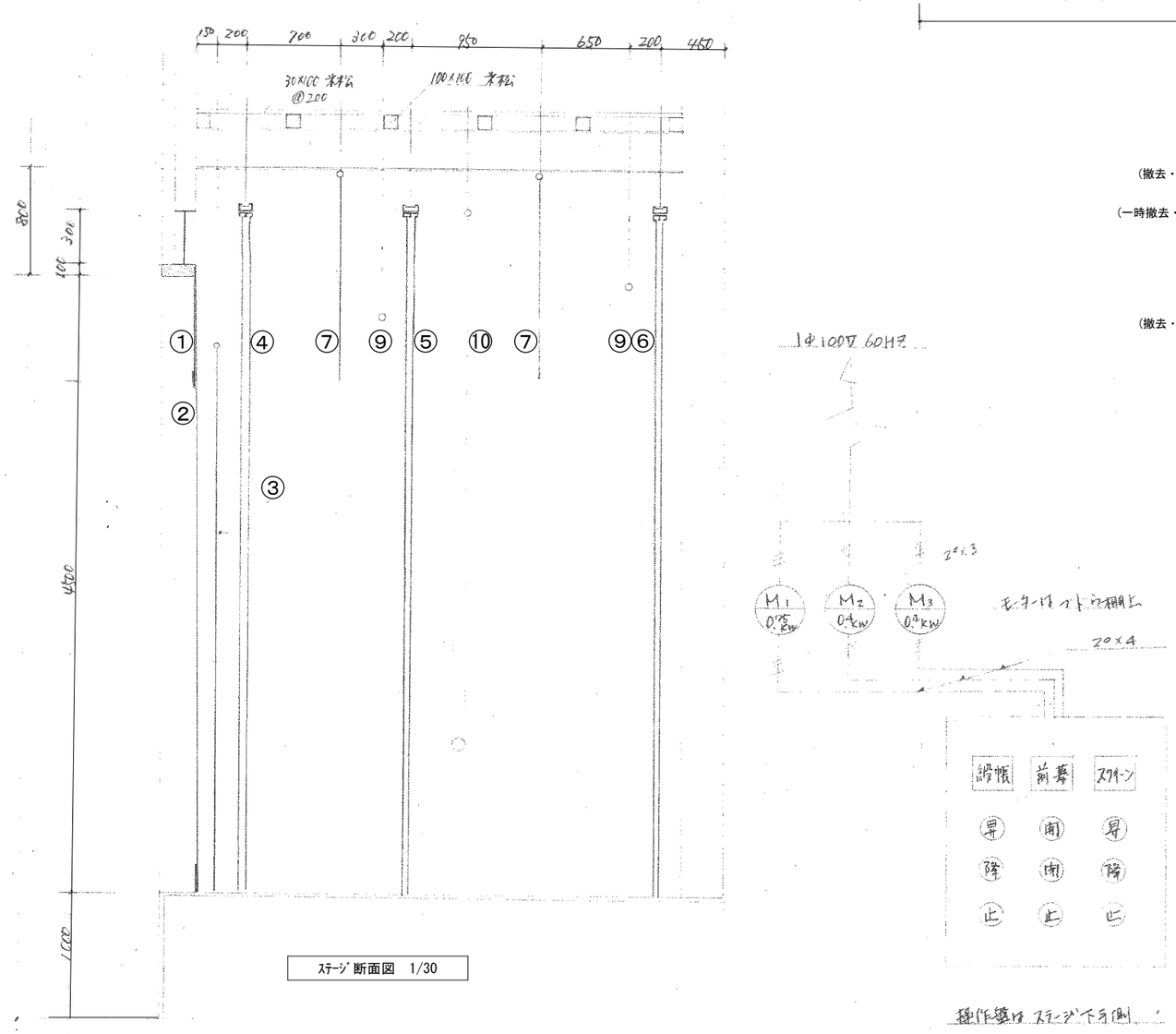


側面・裏面防球ﾈｯﾄ詳細図　1/50

事業年度　年度 工事完成　年度	設計 令和 年 月	三原市都市部建築課	大	中	小	地域	施設	種類 建築	工事名 本郷小学校屋内運動場長寿命化改修工事	事務所名・建築士登録番号・氏名 有限会社　ＭａｓＭａｓ 一級建築士登録　第325897号 小松木 靖之	図面名称・縮尺　S=1/50　(A3版-71%縮小) （参考図２）防球ﾈｯﾄ詳細図	図番 A-56



ｽﾃｰｼﾞ平面図　1/50

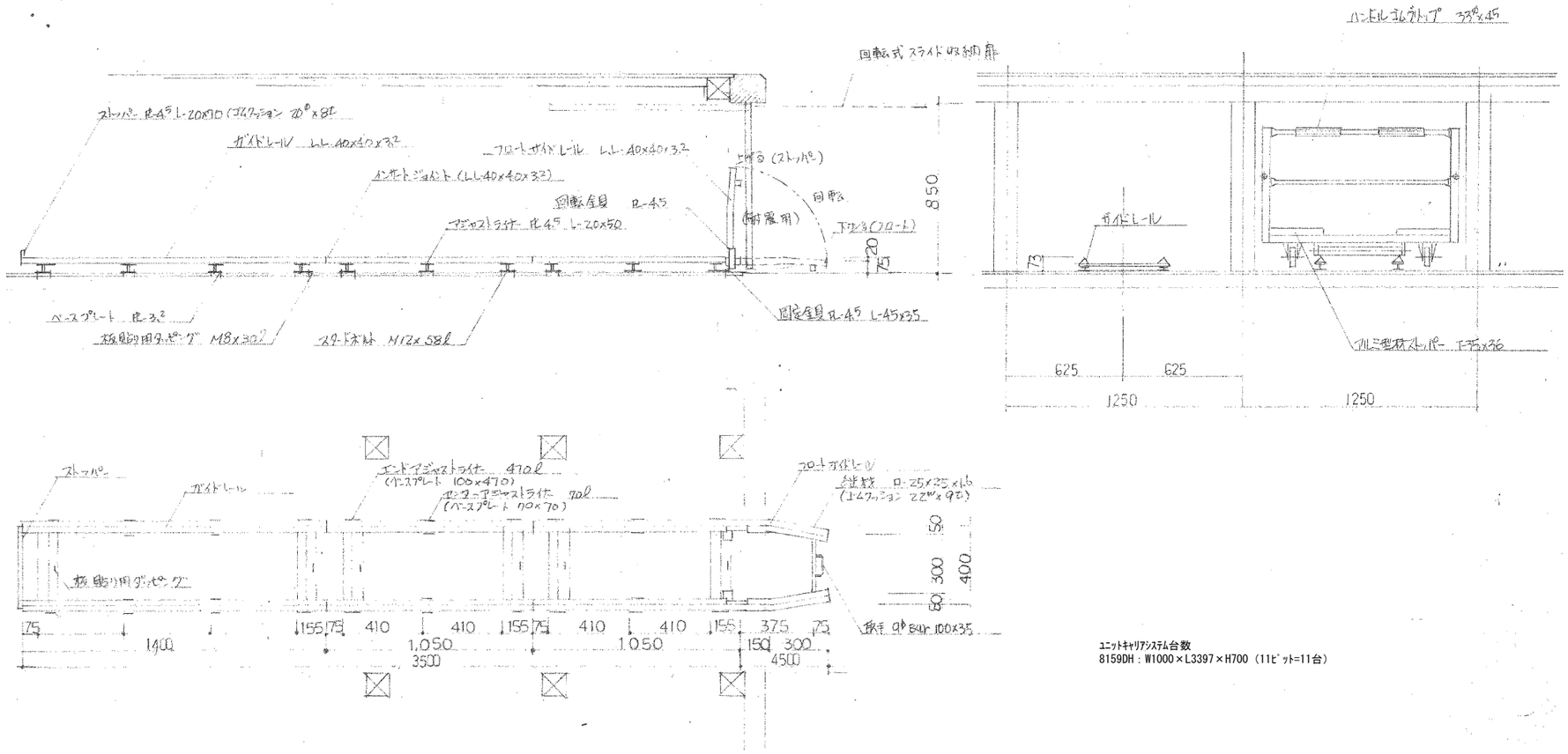


ｽﾃｰｼﾞ断面図　1/30

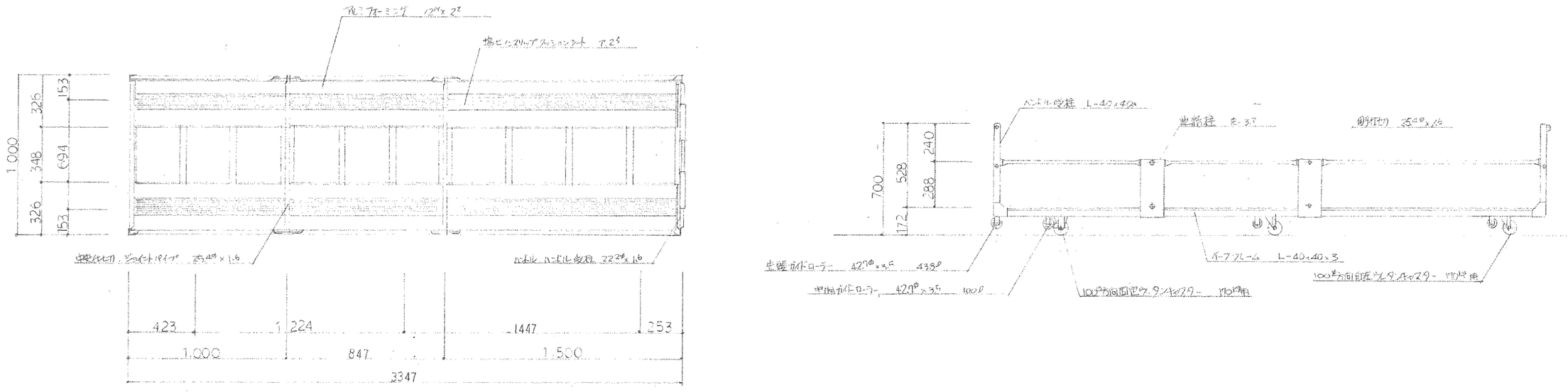
ｽﾃｰｼﾞ幕・緞帳

	No	名称	数	方式	備考	幕仕様	幕寸法 巾	幕寸法 高さ	枚数
(撤去・新設)	①	一文字幕	1式	固定	釘打 ﾌﾟﾛｾﾆｱﾑｱｰﾁ内面	カワシマ パルコ フレンジ120 枝章ｱｯﾌﾟﾘｹ 裏地	11,500	900	1
	②	袖幕	1対	固定	釘打 ﾌﾟﾛｾﾆｱﾑｱｰﾁ内面	カワシマ パルコ フレンジ210 倍ヒダ 裏地	900	4,600	2
(一時撤去・復旧)	③	緞帳	1式	電動折上式	YM-B8 100V×0.75kw 親滑車170φ ﾜｲﾔｰ4φ	カワシマ 山波 裏地	11,000	4,000	1
(撤去・新設)	④	前幕	1式	電動開閉式	YMB-4 100V×0.4kw	カワシマ パルコ フレンジ210 倍ヒダ	6,300	5,000	2
	⑤	中幕	1式	手動ﾛｰﾌﾟ引分式	Z40型ﾚｰﾙ	カワシマ パルコ フレンジ210 倍ヒダ	6,300	5,000	2
	⑥	後幕	1式	手動ﾛｰﾌﾟ引分式	Z40型ﾚｰﾙ	カワシマ パルコ フレンジ210 倍ヒダ	6,300	5,000	2
	⑦	カスミ幕	2式	固定	パイプ吊	カワシマ パルコ フレンジ210 倍ヒダ	11,000	1,500	2
	⑧	脇幕	2対	固定	パイプ吊	カワシマ パルコ フレンジ210 倍ヒダ	2,000	5,000	4
	⑨	バトン	2ヶ所	手動昇降簡易型	L=7000 38φ				
	⑩	スクリーン	1式	手動巻上式	ｲﾒｰｼﾞ寸法 W6000×H2300 YMB4 100V×0.4kw				

事業年度　年度 工事完成　年度	設計 令和 年 月	三原市都市部建築課	大	中	小	地域	施設	種類 建築	工事名 本郷小学校屋内運動場長寿命化改修工事	事務所名・建築士登録番号・氏名 有限会社 ＭａｓＭａｓ 一級建築士登録 第325897号 小松木 靖之	図面名称・縮尺 S=1/30・1/50 (A3版-71%縮小) （参考図３） ｽﾃｰｼﾞ器具平面図・断面図	図番 A-57



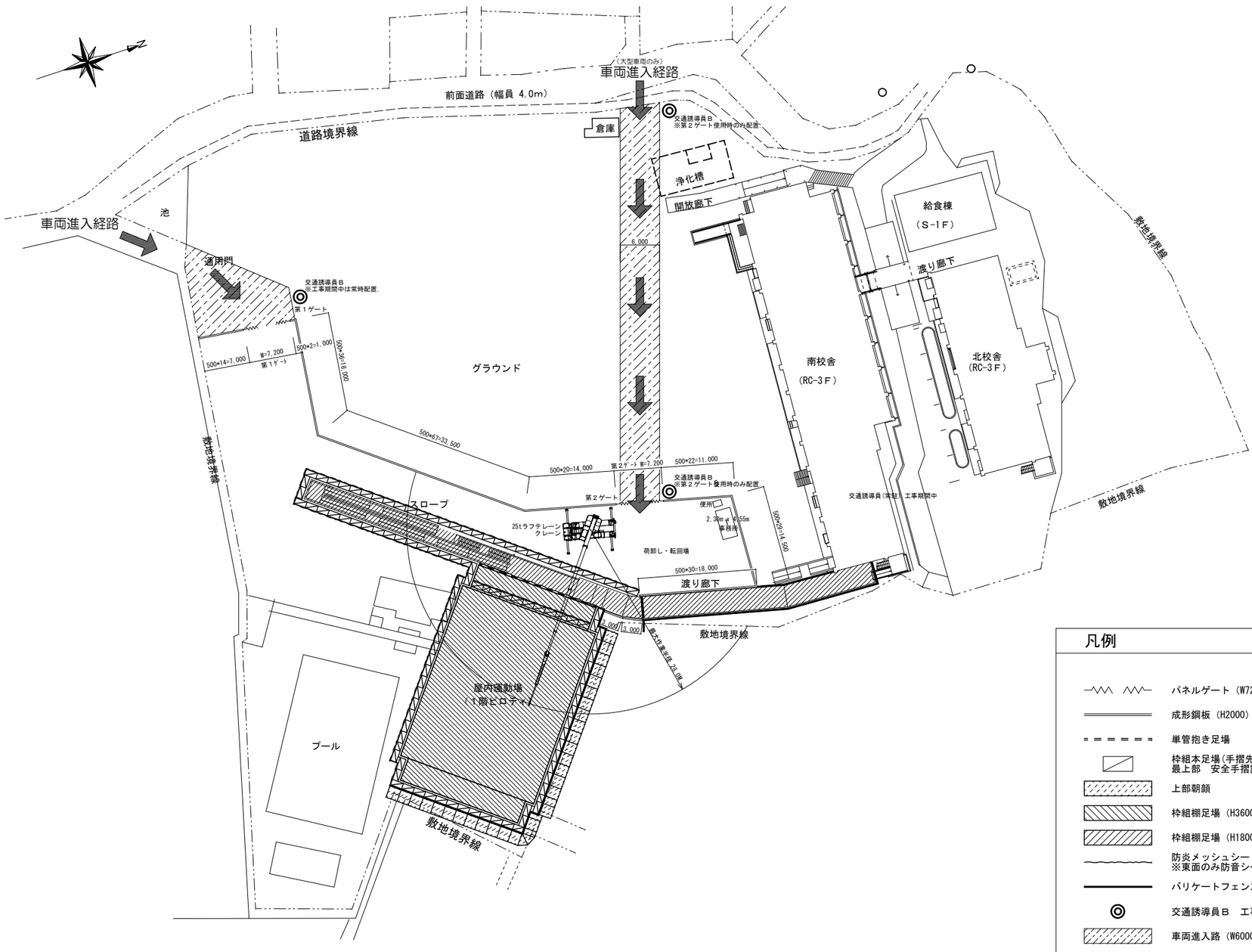
ユニットキャリア8159DH ピット内詳細図 1/20



ユニットキャリア8159DH詳細図 1/20

ユニットキャリアシステム台数
8159DH：W1000×L3397×H700（11ピット=11台）

事業年度 年度 工事完成 年度	設計 令和 年 月	三原市都市部建築課	大	中	小	地域	施設	種類 建築	工事名 本郷小学校屋内運動場長寿命化改修工事	事務所名・建築士登録番号・氏名 有限会社 ＭａｓＭａｓ 一級建築士登録 第325897号 小松木 靖之	図面名称・縮尺 S=1/20 (A3版-71%縮小) （参考図４）ユニットキャリア・ピット内詳細図	図番 A-58



仮設計画図　1/500

凡例

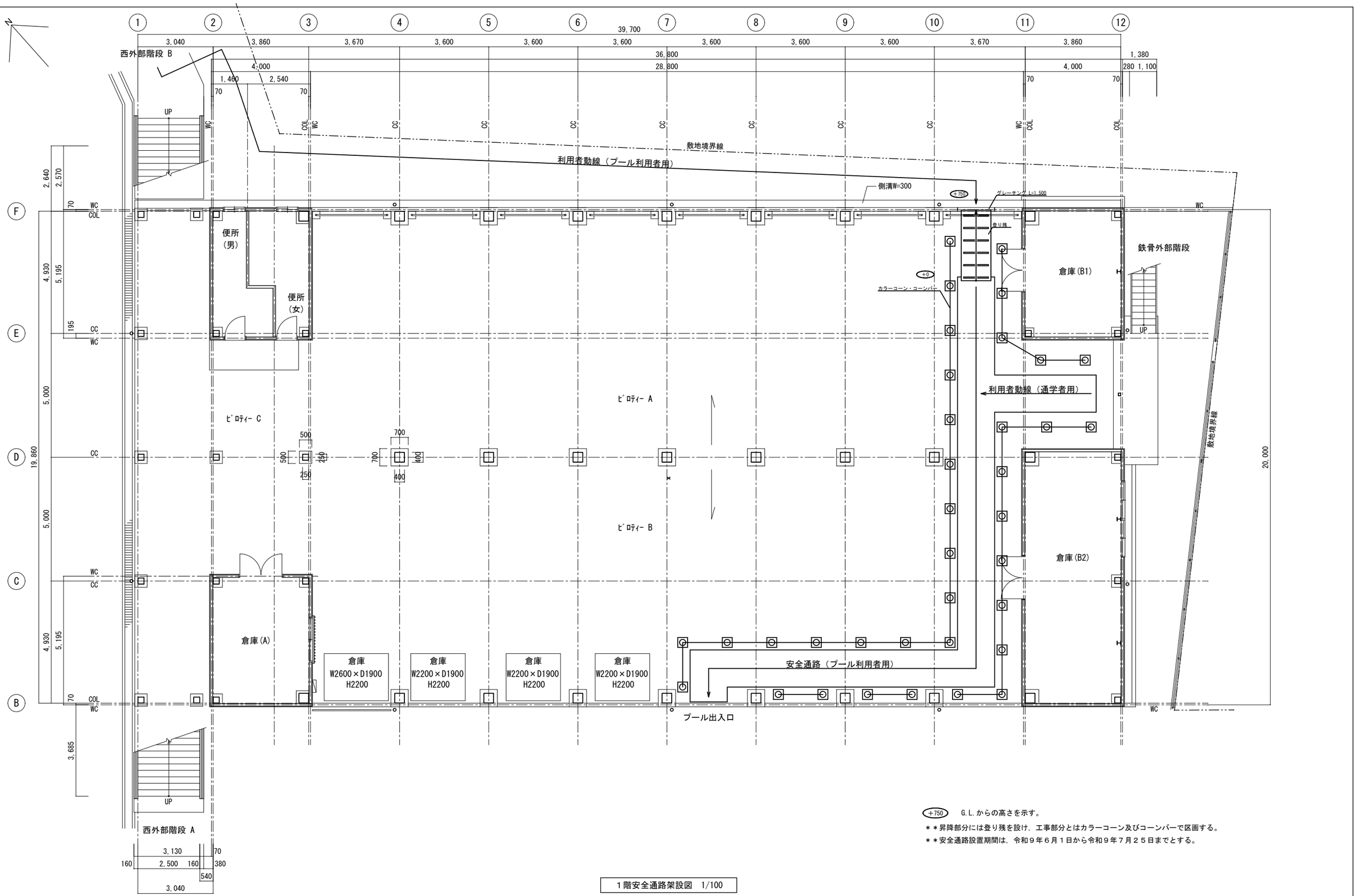
- パネルゲート（W7200）
- 成形鋼板（H2000）
- 単管抱き足場
- 枠組本足場(手摺先行方式)　W=900
  最上部　安全手摺設置
- 上部朝顔　※北面・東面
- 枠組棚足場（H3600）　※１階ピロティ
- 枠組棚足場（H1800）　※渡り廊下・スロープ
- 防炎メッシュシート貼
  ※東面のみ防音シート貼
- バリケートフェンス（H1800）
- 交通誘導員Ｂ　工事期間中は常時配置すること
- 車両進入路（W6000）

・工事関係車両の入退場は，児童との接触事故を防止するため，7:40～8:15及び15:40～16:00を除く時間帯とすること．
・第２ゲートを使用して搬出入を行う際は，事前に学校関係者及び監督員と搬入時刻，車両台数等について協議した上で計画すること．
・車両進入経路及びグラウンドの工事使用部分については，工事完了後，整地及び転圧（程度によっては真砂土の入替）を行い，現状復旧すること．

三　原　市　役　所
三原市港町３丁目５番１号　TEL(0848)６４－２１１１

課長	係長	設計	校閲	日付	備考

業務名称	本郷小学校屋内運動場長寿命化改修工事（建築主体工事）	図面名称	仮設計画図（参考図）	縮尺	S=1/500	図面番号	A-59



+750　G.L.からの高さを示す。

＊＊昇降部分には登り残を設け，工事部分とはカラーコーン及びコーンバーで区画する。

＊＊安全通路設置期間は，令和９年６月１日から令和９年７月２５日までとする。

１階安全通路架設図　1/100

三　原　市　役　所

三原市港町３丁目５番１号　TEL(0848)６４－２１１１

課長	係長	設計	校閲	日付		備考	

業務名称	本郷小学校屋内運動場長寿命化改修工事（建築主体工事）	図面名称	安全通路架設図（参考図）	縮尺	S=1/100	図面番号	A-60

本郷小学校屋内運動場長寿命化改修工事（建築主体工事）

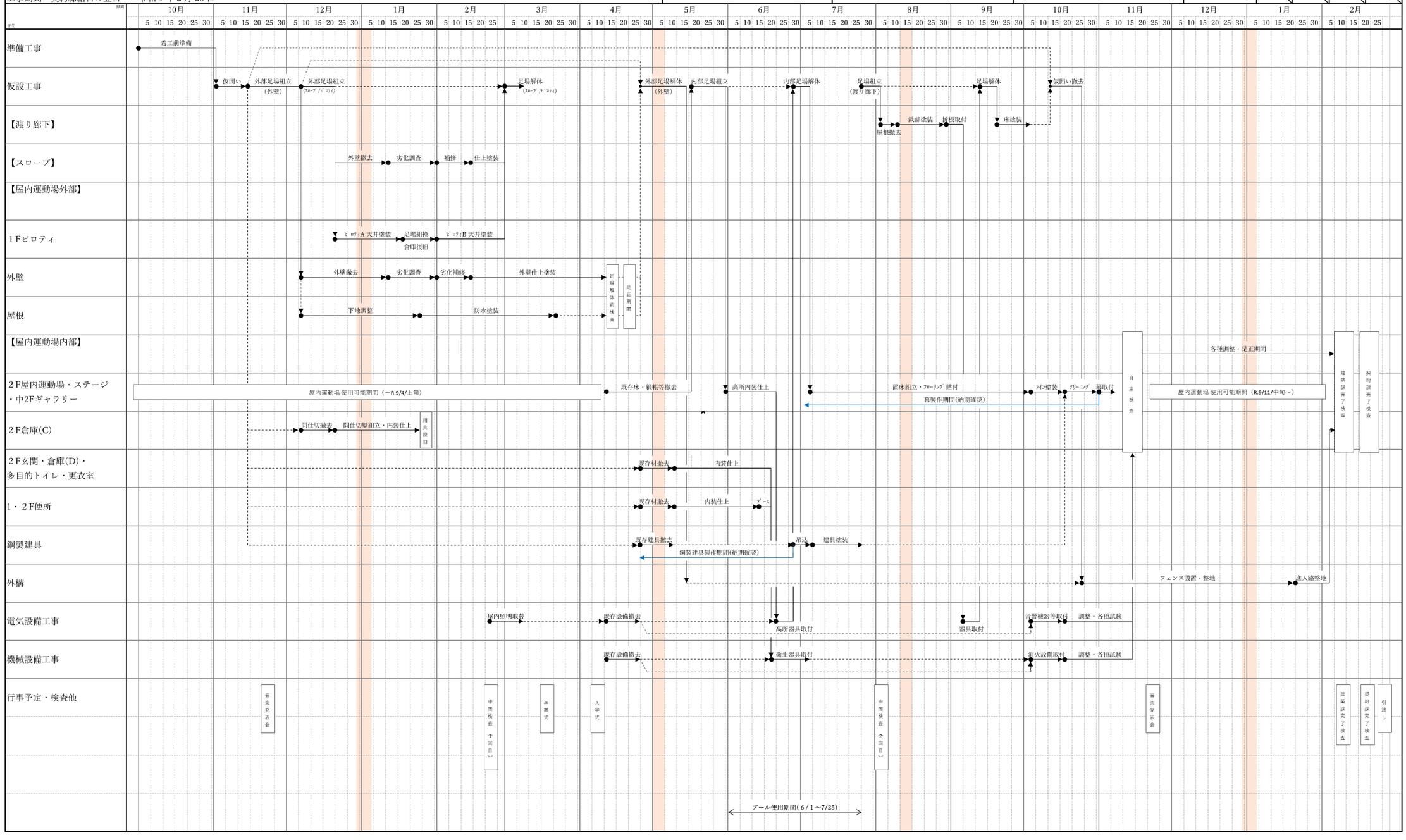
全体工程表（参考）

工事期間　契約締結日の翌日 ～ 令和９年２月28日

発注者	三原市長 岡田吉弘	構　造	鉄骨造	階数	2階建て
設計者	株式会社MasMas	建面積		着工	契約締結日の翌日
受注者	未　定				
工事場所	三原市本郷北三丁目	延面積	925.00㎡	竣工	令和9年2月28日

三原市都市部建築課

課長	係長	係員	作成



三原市役所	課長	係長	設計	校閲	日付		備考		業務名称	本郷小学校屋内運動場長寿命化改修工事（建築主体工事）	図面名称	全体工程表（参考）	縮尺	N.S.	図面番号	A-61
三原市港町３丁目５番１号　TEL(0848)６４－２１１１																

参　考　数　量　書

工　事　名　称　　本郷小学校屋内運動場長寿命化改修工事（建築主体工事）

工　事　場　所　　三原市本郷北三丁目

［工　事　概　要］

用途、構造、面積	屋内運動場、鉄骨造2階建て、床面積925㎡
工　事　範　囲	改修工事一式（建築主体工事）
別 途 発 注 工 事	本郷小学校屋内運動場長寿命化改修工事（設備工事）
工　　期	契約締結日の翌日　～　　令和10年2月28日
一　般　事　項	

《 工事予算内訳 》　　合　計　金　額

〈内　　訳〉

区　　分	金　　額	概　　要
設　計　金　額		
消　費　税　額		
合　計　金　額		

工事費内訳

名　　称	数　　量	単 位	金　　額	備　　考
直接工事費				
建築工事	1	式		
計				
共通費				
共通仮設費	1	式		
現場管理費	1	式		
一般管理費等	1	式		
計				
工事価格	1	式		
消費税等相当額	1	式		消費税率 10 %
工事費	1	式		

工事種別内訳

名　　称	数　　量	単 位	金　　額	備　　考
建築工事	1	式		
計				

建築工事　種目別内訳

名　　称	数　　量	単 位	金　　額	備　　考
屋内運動場	1	式		
計				

建築工事　科目別内訳

屋内運動場				
名　　称	数　　量	単 位	金　　額	備　　考
直接仮設	1	式		
防水改修	1	式		
外壁改修	1	式		
建具改修	1	式		
内装改修	1	式		
塗装改修	1	式		
環境配慮改修	1	式		
外構改修	1	式		
発生材処理	1	式		
計				

建築工事　中科目別内訳

屋内運動場					
科　目　名　称	中　科　目　名　称	数　　量	単 位	金　　額	備　　考
直接仮設		1	式		
計					
防水改修	撤去	1	式		
防水改修	防水	1	式		
防水改修	屋根及びとい	1	式		
計					
外壁改修	撤去	1	式		
外壁改修	改修	1	式		
計					
建具改修	撤去	1	式		
建具改修	改修	1	式		
計					
内装改修	撤去	1	式		
内装改修	内装改修	1	式		
内装改修	ユニット及びその他改修	1	式		

建築工事　中科目別内訳

屋内運動場					
科　目　名　称	中　科　目　名　称	数　　量	単 位	金　　額	備　　考
計					
塗装改修	改修	1	式		
計					
環境配慮改修		1	式		
計					
外構改修	撤去	1	式		
外構改修	土間改修	1	式		
外構改修	外構改修	1	式		
計					
発生材処理	運搬	1	式		
発生材処理	処分	1	式		
計					

建築工事　細目別内訳

屋内運動場		直接仮設				
名　　称	摘　　要	数　　量	単 位	単　　価	金　　額	備　　考
単管抱足場	6か月	149	㎡			
枠組本足場 (手すり先行方式)	W=900 6か月	2,395	㎡			
安全手すり	枠組本足場用 6か月	202	m			
足場外部養生ｼｰﾄ	防炎ﾒｯｼｭｼｰﾄⅠ類 6か月	2,157	㎡			
足部外部養生ｼｰﾄ	防音ｼｰﾄ 6か月	238	㎡			
朝顔	1段 6か月	1	式			
内部仕上足場 (手すり先行方式)	枠組棚足場 H=3600 6か月	788	㎡			
内部仕上足場 (手すり先行方式)	枠組棚足場 H=1800 6か月	293	㎡			
内部仕上足場	脚立足場 2か月	764	㎡			
ﾛｰﾘﾝｸﾞﾀﾜｰ	5段 2か月	1	台			
墨出し	一 般 RC･SRC造 地上階	764	㎡			
養生	一 般 RC･SRC造 地上階	764	㎡			
整理清掃 後片付け	一 般 RC･SRC造 地上階	764	㎡			
計						

建築工事　細目別内訳

屋内運動場	防水改修	撤去				
名　　称	摘　　要	数　　量	単 位	単　　価	金　　額	備　　考
既存防水層撤去	屋上防水層 ｼｰﾄ防水層　　集積共 平面	76.2	㎡			
既存防水層撤去	屋上防水層 ｼｰﾄ防水層　　集積共 立上り	23.7	㎡			
巾木ﾓﾙﾀﾙ撤去	集積共	11.6	㎡			
押え金物撤去	集積共	108	m			
ｼｰﾘﾝｸﾞ撤去	押え金物ｼｰﾘﾝｸﾞ　　集積共	108	m			
ｼｰﾘﾝｸﾞ撤去	外壁　集積共	2,360	m			
ﾊﾞｯｸｱｯﾌﾟ撤去	屋根　集積共	3,447	m			
ﾙｰﾌﾄﾞﾚｲﾝ撤去	100φ　集積共	12	か所			
ﾌﾛｱﾄﾞﾚｲﾝ撤去	50φ　集積共	2	か所			
伸縮目地材撤去	集積共	148	m			
角型屋根ﾏﾝﾎｰﾙ 撤去	集積共	1	か所			
折板屋根撤去	集積共	154	㎡			
たてどい撤去	鋼管　集積共 SGP139.8φ	20	m			
たてどい撤去	VP管　集積共 100φ	142	m			
たてどい撤去	VP管　集積共 65φ	10.7	m			

建築工事　細目別内訳

屋内運動場		防水改修			撤去	
名　　称	摘　　要	数　　量	単 位	単　　価	金　　額	備　　考
たてどい撤去	VP管　集積共 50φ	4	m			
軒どい撤去	VP管　集積共 角樋 120角	33.8	m			
集水器撤去	角ます 集積共	2	か所			
掴金物撤去	集積共	120	か所			
計						

建築工事　細目別内訳

屋内運動場	防水改修	防水

名　　称	摘　　要	数　　量	単 位	単　　価	金　　額	備　　考
既存塗膜除去 下地調整	劣化部補修 下地調整RB種(塗替え面) 錆止め塗料As種(鉛･ｸﾛﾑﾌﾘｰ1種	117	㎡			
水洗い	屋根1　9MPa以上	1,172	㎡			
塗膜防水(材工共)	X-2H 密着工法 ｳﾚﾀﾝｺﾞﾑ系高強度形 表面塗装ﾒｰｶｰ標準色 遮熱仕様	1,172	㎡			
水洗い	屋根2　9MPa以上	88.3	㎡			
下地調整	ｴﾎﾟｷｼ樹脂ﾓﾙﾀﾙ塗り	88.3	㎡			
塗膜防水(材工共)	X-1 緩衝工法 ｳﾚﾀﾝｺﾞﾑ系　平面 表面塗装ﾒｰｶｰ標準色 遮熱仕様 脱気筒共	76.2	㎡			
塗膜防水(材工共)	X-2 密着工法 ｳﾚﾀﾝｺﾞﾑ系　立上り 表面塗装ﾒｰｶｰ標準色 遮熱仕様	12.1	㎡			
水洗い	ﾃﾗｽ　9MPa以上	137	㎡			
塗膜防水(材工共)	X-1 緩衝工法 ｳﾚﾀﾝｺﾞﾑ系　平面 表面塗装ﾒｰｶｰ標準色 遮熱仕様 ﾎﾟﾘﾏｰｾﾒﾝﾄﾓﾙﾀﾙ共 脱気筒共	126	㎡			
塗膜防水(材工共)	X-2 密着工法 ｳﾚﾀﾝｺﾞﾑ系　立上り 表面塗装ﾒｰｶｰ標準色 遮熱仕様 ﾎﾟﾘﾏｰｾﾒﾝﾄﾓﾙﾀﾙ共	11.6	㎡			
ｼｰﾘﾝｸﾞ	一般部 ﾎﾟﾘｳﾚﾀﾝ系(PU-2) 15×10	108	m			
ｼｰﾘﾝｸﾞ	一般部 ﾎﾟﾘｳﾚﾀﾝ系(PU-2) 20×10	2,360	m			
ｼｰﾘﾝｸﾞ	一般部 ﾎﾟﾘｳﾚﾀﾝ系(PU-2) 25×10	3,886	m			
ｼｰﾘﾝｸﾞ	一般部 ﾎﾟﾘｳﾚﾀﾝ系(PU-2) 30φ ﾎﾞﾙﾄ部	1,208	か所			
改修用ﾙｰﾌﾄﾞﾚｲﾝ	100φ	12	か所			

建築工事　細目別内訳

屋内運動場		防水改修			防水	
名　　称	摘　　要	数　　量	単 位	単　　価	金　　額	備　　考
改修用ﾌﾛｱﾄﾞﾚｲﾝ	50φ	2	か所			
ｵｰﾊﾞｰﾌﾛｰ管	50φ　SUS製	12	か所			
成形伸縮目地材	25×50 付着層ﾀｲﾌﾟ	148	m			
角型屋根ﾏﾝﾎｰﾙ	840×840 SUS製	1	か所			
計						

建築工事　細目別内訳

屋内運動場	防水改修	屋根及びとい

名　　称	摘　　要	数　　量	単 位	単　　価	金　　額	備　　考
折板屋根	H90	154	㎡			
ﾀｲﾄﾌﾚｰﾑ	折板H90	96.2	m			
止面戸	折板H90	96.2	m			
竪樋養生管	径139.8	20	m			
DP塗装	竪管養生管 径139.8	20	m			
硬質ﾎﾟﾘ塩化ﾋﾞﾆﾙ管とい(ｶﾗｰ)	径100	142	m			
硬質ﾎﾟﾘ塩化ﾋﾞﾆﾙ管とい(ｶﾗｰ)	径65	10.7	m			
硬質ﾎﾟﾘ塩化ﾋﾞﾆﾙ管とい(ｶﾗｰ)	径50	4	m			
塩ビ角樋	120×120	33.8	m			
集水器	角ます	2	か所			
掴金物	SUS製	120	か所			
計						

建築工事　細目別内訳

屋内運動場	外壁改修	撤去				
名　　称	摘　　要	数　　量	単 位	単　　価	金　　額	備　　考
床ﾀｲﾙ撤去	下地ﾓﾙﾀﾙ共 集積共	12	㎡			
計						

建築工事　細目別内訳

屋内運動場	外壁改修				改修
名　　称	摘　　要	数　　量	単 位	単　　価	金　　額	備　　考
施工数量調査 (外壁改修)	打放し面･仕上塗材改修	1,826	㎡			
ｻﾝﾀﾞｰｹﾚﾝ	根廻り	120	㎡			
水洗い	根廻り 9MPa以上	120	㎡			
下地調整塗材 改修仕様	C-2 厚1～2mm程度 こて塗り 塗装下地　ｺﾝｸﾘｰﾄ面	120	㎡			
下地調整 改修仕様	ｺﾝｸﾘｰﾄ面 RB種(塗替え面)	120	㎡			
防水形複層塗材E	ｺﾝｸﾘｰﾄ面　凹凸状　吹付け ｱｸﾘﾙ系 水系 つやあり 上塗2回 下地調整費別途	120	㎡			
ｻﾝﾀﾞｰｹﾚﾝ	外壁	479	㎡			
水洗い	外壁　9MPa以上	1,546	㎡			
下地調整塗材 改修仕様	C-2 厚1～2mm程度 こて塗り 塗装下地　ｺﾝｸﾘｰﾄ面	479	㎡			
下地調整 改修仕様	ALC面 RB種(塗替え面)	1,546	㎡			
外壁用遮熱塗装	水性ｻｰﾓｱｲｳｫｰﾙSi(日本ﾍﾟｲﾝﾄ)同等品 ｼﾘｺﾝ系 水系 つやあり 上塗2回 平滑仕上げ 下地調整費別途	1,546	㎡			
Uｶｯﾄｼｰﾙ材充填工法	1.0mm以上　挙動　有り	773	m			
ｼｰﾙ工法		309	m			
充填工法	ﾎﾟﾘﾏｰｾﾒﾝﾄﾓﾙﾀﾙ	15.6	㎡			
ｻﾝﾀﾞｰｹﾚﾝ	軒天	113	㎡			

建築工事　細目別内訳

屋内運動場	外壁改修	改修

名　　称	摘　　要	数　　量	単 位	単　　価	金　　額	備　　考
水洗い	軒天　9MPa以上	160	㎡			
下地調整塗材 改修仕様	C-2 厚1～2mm程度 こて塗り 塗装下地　ｺﾝｸﾘｰﾄ面	113	㎡			
下地調整 改修仕様	ｺﾝｸﾘｰﾄ面 RB種(塗替え面)	113	㎡			
下地調整 改修仕様	けい酸ｶﾙｼｳﾑ板面 RB種(塗替え面)	46.9	㎡			
可とう形 外装薄塗材si		160	㎡			
段鼻ﾀｲﾙ貼り	垂れ付き段鼻Ⅰ類 無ゆう 150*66	200	m			
床ｸﾘｰﾆﾝｸﾞ		89.3	㎡			
壁ｸﾘｰﾆﾝｸﾞ		20.3	㎡			
天井ｸﾘｰﾆﾝｸﾞ		721	㎡			
柱脚腐食部補強		0.1	t			
計						

建築工事　細目別内訳

屋内運動場		建具改修			撤去	
名　　称	摘　　要	数　　量	単 位	単　　価	金　　額	備　　考
鋼製戸撤去	両開き戸 扉のみ 集積共	22.3	㎡			
鋼製戸撤去	両開き戸 枠共　集積共	3.6	㎡			
建具金物撤去	SUSD1：ﾌﾛｱﾋﾝｼﾞ撤去 SD1：握り玉付ｼﾘﾝﾀﾞｰ錠・ﾌﾗﾝｽ落とし・DC・ﾋﾟﾎﾞｯﾄﾋﾝｼﾞ SD2：丁番・DC SD3：戸当り・戸車φ40・舟底引手 SD5：DC SD6：握り玉錠：両面ｼﾘﾝﾀﾞｰ錠・DC SD6：ｹｰｽﾊﾝﾄﾞﾙ・DC AW1c：ｸﾚｾﾝﾄ　AD1b：DC	1	式			
ｱﾙﾐ面格子撤去	1700*900 集積共	1	か所			
ｶﾞﾗｽ撤去	集積共	9.7	㎡			
ｼｰﾘﾝｸﾞ撤去	建具廻り 集積共	446	m			
ｼｰﾘﾝｸﾞ撤去	ｶﾞﾗｽとめ 集積共	51.9	m			
ｶﾞﾗｽとめ撤去	外部面　集積共	200	m			
計						

建築工事　細目別内訳

屋内運動場		建具改修			改修	
名　　称	摘　　要	数　　量	単 位	単　　価	金　　額	備　　考
SUSD1	ﾌﾛｱﾋﾝｼﾞ・建具調整	2	か所			
SUSD1	飛散防止ﾌｨﾙﾑ貼り	3.9	㎡			
SD1	新設(ｶﾊﾞｰ工法・)握り玉付ｼﾘﾝﾀﾞｰ錠・ﾌﾗﾝｽ落とし・DC・丁番	3	か所			
SD2	丁番・DC・握り玉付ｼﾘﾝﾀﾞｰ錠・建具調整	3	か所			
SD3	戸当り・戸車φ40・丸棒取手・建具調整	2	か所			
SD4	新設	1	か所			
SD5	DC・建具調整	2	か所			
SD6	握り玉錠：両面ｼﾘﾝﾀﾞｰ錠・ｻﾑﾀｰﾝ付ｼﾘﾝﾀﾞｰ錠・DC・建具調整	3	か所			
SD7	新設	1	か所			
LSD1	新設	1	か所			
TB1b	TA40ｱﾙﾐｴｯｼﾞ ﾒﾗﾐﾝ化粧板　巾木	1	組			
TB2b	TA40ｱﾙﾐｴｯｼﾞ ﾒﾗﾐﾝ化粧板　巾木	3	組			
TB3b	TA40ｱﾙﾐｴｯｼﾞ ﾒﾗﾐﾝ化粧板　巾木	1	組			
AW1b	建具調整	4	か所			
AW1c	ｸﾚｾﾝﾄ・建具調整	1	か所			

建築工事　細目別内訳

屋内運動場		建具改修			改修	
名　　称	摘　　要	数　　量	単 位	単　　価	金　　額	備　　考
AW2	新設(ｶﾊﾞｰ工法)・ｱﾙﾐ面格子	1	か所			
AW4a	新設(ｶﾊﾞｰ工法)	5	か所			
AW5a	新設(ｶﾊﾞｰ工法)	1	か所			
AW5b	建具調整	1	か所			
AD1a	新設(ｶﾊﾞｰ工法)	2	か所			
AD1b	建具調整	1	か所			
AD1c	建具調整	1	か所			
ｼｰﾘﾝｸﾞ	一般部 ﾎﾟﾘｳﾚﾀﾝ系(PU-2) 15×10	446	m			
DP塗り 改修仕様	鉄鋼建具面　　1級 下地RB種(塗替え面)	40.8	㎡			
SOP塗り 改修仕様	鋼製建具面　　工程B種 塗料1種 錆止工程C 下地RB種(塗替え面)	28.2	㎡			
型板ｶﾞﾗｽ	厚さ4　特寸 2.18㎡以下 ｶﾞﾗｽとめ材別途 清掃別途	9.7	㎡			
ｶﾞﾗｽとめ(ｼｰﾘﾝｸﾞ) (両面)	ｼﾘｺﾝ　　1成分形 SR-1 ｶﾞﾗｽ規格2.18㎡以下	51.9	㎡			
ｶﾞﾗｽとめ(ｶﾞｽｹｯﾄ)	ｶﾞﾗｽ規格2.18㎡以下	148	㎡			
建具清掃	内外両面 ｶﾞﾗｽｸﾘｰﾆﾝｸﾞ含む	202	㎡			
計						

建築工事　細目別内訳

屋内運動場	内装改修	撤去				
名　　称	摘　　要	数　　量	単 位	単　　価	金　　額	備　　考
鋼製床組撤去	つか立て 集積共	731	㎡			
床下地板撤去	集積共	731	㎡			
ﾌﾛｰﾘﾝｸﾞ撤去	集積共	731	㎡			
ｴｷｽﾊﾟﾝｼｮﾝｺﾞﾑ撤去	集積共	144	m			
框撤去	ﾃﾗｰｿﾞﾌﾞﾛｯｸ 集積共	7.1	m			
框撤去	木製框 180*85 集積共	10.7	m			
階段ﾉﾝｽﾘｯﾌﾟ撤去	集積共	9.8	m			
幅木撤去	木製幅木　集積共	8.6	m			
幅木撤去	ﾋﾞﾆﾙ幅木 集積共	21.7	m			
壁ｸﾛｽ撤去	集積共	150	㎡			
廻り縁撤去	塩ﾋﾞ製 集積共	115	m			
天井点検口撤去	集積共	8	か所			
天井下地撤去	集積共	47.2	㎡			
天井ｸﾛｽ撤去	集積共	145	㎡			
室名札撤去	集積共	8	か所			

建築工事　細目別内訳

屋内運動場	内装改修	撤去				
名　　称	摘　　要	数　　量	単 位	単　　価	金　　額	備　　考
下足入撤去	集積共	1	か所			
天井見切材撤去	ｱﾙﾐ製　集積共	4.9	m			
ﾌﾞﾗｲﾝﾄﾞBOX 暗幕BOX撤去	集積共	3	か所			
流し台撤去	L=1200　集積共	1	台			
行事黒板撤去	1200*90 集積共	1	か所			
ﾄｲﾚﾌﾞｰｽ撤去	集積共	5	か所			
便所手すり撤去	塩ビ製 I型 集積共	3	か所			
消火器表示板撤去	集積共	2	か所			
昇降ﾊｼｺﾞ撤去	集積共	1	か所			
ﾊﾞｽｹｯﾄｺﾞｰﾙ撤去	集積共	1	か所			
ｶｯﾀｰ入れ	ｺﾝｸﾘｰﾄ面 厚さ20～30㎜	20.3	m			
ｺﾝｸﾘｰﾄ撤去	鉄筋切断共 ｺﾝｸﾘｰﾄﾌﾞﾚｰｶ 集積共	0.4	m3			
床ﾓﾙﾀﾙ撤去	集積共	12.5	㎡			
床ﾀｲﾙ撤去	下地ﾓﾙﾀﾙ共 集積共	6	㎡			
ALCﾊﾟﾈﾙ撤去	人力　　集積共	1.2	m3			

建築工事　細目別内訳

屋内運動場		内装改修			撤去	
名　　称	摘　　要	数　　量	単 位	単　　価	金　　額	備　　考
計						

建築工事　細目別内訳

屋内運動場	内装改修	内装改修				
名　　称	摘　　要	数　　量	単 位	単　　価	金　　額	備　　考
砂利地業	再生ｸﾗｯｼｬﾗﾝ	0.1	m3			
鉄筋金網敷き	D13@200 ｱﾝｶｰ共	9.8	㎡			
普通ｺﾝｸﾘｰﾄ	JIS A5308　FC=24　S18 粗骨材20	0.8	m3			
ｺﾝｸﾘｰﾄ打設手間	土間　ﾎﾟﾝﾌﾟ打設 50m3/回程度　S15～S18 -　圧送費､基本料別途	0.8	m3			
ｺﾝｸﾘｰﾄﾎﾟﾝﾌﾟ圧送	30m3以上 50m3/回未満 基本料金別途加算	0.8	m3			
ｺﾝｸﾘｰﾄﾎﾟﾝﾌﾟ圧送基本料金	30m3以上 50m3/回未満	1	回			
塗膜防水(材工共)	X-2 密着工法 ｳﾚﾀﾝｺﾞﾑ系　平面 表面塗装ﾒｰｶｰ標準色	1.3	㎡			
床ﾓﾙﾀﾙ塗り	金ごて ﾓﾙﾀﾙ仕上げ 厚30	33.1	㎡			
素地ごしらえ	ﾎﾞｰﾄﾞ面 工程A種	6.7	㎡			
素地ごしらえ 改修仕様	ALC面 工程A種	136.3	㎡			
壁 下地調整塗材	C-2 厚1～2mm程度 こて塗り 塗装下地　ｺﾝｸﾘｰﾄ面	4	㎡			
目荒し	ﾀｲﾙ面	58.5	㎡			
木製床組	ころばし	20.8	㎡			
針葉樹構造用合板貼り	t=12	20.8	㎡			
ﾗﾜﾝﾍﾞﾆﾔ貼り	t=12	20.8	㎡			

建築工事　細目別内訳

屋内運動場	内装改修	内装改修				
名　　称	摘　　要	数　　量	単 位	単　　価	金　　額	備　　考
耐水合板貼り	t=5.5	20.8	㎡			
鋼製床組		731	㎡			
構造用合板貼り	t=12	731	㎡			
ﾌﾞﾅ複合ﾌﾛｰﾘﾝｸﾞ	t=15	731	㎡			
ｴｷｽﾊﾟﾝｼｮﾝｺﾞﾑ	12*25	144	m			
上り框 ﾃﾗｿﾞﾌﾞﾛｯｸ	幅100 厚さ30	6.7	m			
上り框	ﾗﾜﾝ 180*85	12.8	m			
床見切縁	SUS製	2.1	m			
階段ﾉﾝｽﾘｯﾌﾟ	ﾋﾞﾆｰﾙﾀｲﾔ入れ式 SUS製	9.8	m			
防滑ﾋﾞﾆﾙ床ｼｰﾄ	柄　　厚さ2.5 複層ﾋﾞﾆﾙ床ｼｰﾄFS 一般床 熱溶接工法 防滑仕様	7.2	㎡			
ﾋﾞﾆﾙ床ｼｰﾄ	柄　　厚さ2.5 複層ﾋﾞﾆﾙ床ｼｰﾄFS 一般床 突付け　　-	82	㎡			
ﾋﾞﾆﾙ床ｼｰﾄ 立上げ	柄　　厚さ2.5 複層ﾋﾞﾆﾙ床ｼｰﾄFS 一般床 突付け　　-	2.1	㎡			
壁見切縁	ｱﾙﾐ製	35.7	m			
木製幅木	ﾗﾜﾝ 100*25	8.2	m			
ﾋﾞﾆﾙ幅木	高さ100	17.5	m			

建築工事　細目別内訳

屋内運動場	内装改修	内装改修				
名　　称	摘　　要	数　　量	単 位	単　　価	金　　額	備　　考
ﾘﾌﾞ補修	ﾗﾜﾝ 30*45	2.6	m			
軽量鉄骨壁下地	65形 下地張りなし @300	16.2	㎡			
軽量鉄骨天井下地	19形(屋内) ふところ1.5m未満 下地張りなし @300 ｲﾝｻｰﾄ別途	26.4	㎡			
天井廻縁	塩化ﾋﾞﾆﾙ製	101	m			
天井点検口	一般ﾀｲﾌﾟ ｱﾙﾐ製 内外枠共額縁 450角	8	個			
ｸﾞﾗｽｳｰﾙ断熱材 敷込調整		1	式			
壁 せっこうﾎﾞｰﾄﾞ 張り(GB-R)	厚12.5　不燃 鋼製､木､ﾎﾞｰﾄﾞ下地 突付け －　　－	15.6	㎡			
壁 せっこうﾎﾞｰﾄﾞ 張り(GB-R)	厚15.0　不燃 鋼製､木､ﾎﾞｰﾄﾞ下地 突付け －　　－	5.5	㎡			
壁 ｼｰｼﾞﾝｸﾞ せっこうﾎﾞｰﾄﾞ 張り(GB-S)	厚12.5　不燃 鋼製､木､ﾎﾞｰﾄﾞ下地 突付け －　　－	20	㎡			
壁　強化せっこう ﾎﾞｰﾄﾞ張り(GB-F)	厚21.0　不燃 鋼製､木､ﾎﾞｰﾄﾞ下地 突付け 下張GB-F　　厚21.0共	1.6	㎡			
壁 けい酸 ｶﾙｼｳﾑ板張り	ﾀｲﾌﾟ2(ﾉﾝｱｽ)0.8FK 厚 6 鋼製､木､ﾎﾞｰﾄﾞ下地 突付け －　　－	78.6	㎡			
天井　化粧 せっこうﾎﾞｰﾄﾞ 張り(GB-D)	厚 9.5　準不燃 ﾄﾗﾊﾞｰﾁﾝ 突付け	12.3	㎡			
天井　ﾛｯｸｳｰﾙ 化粧吸音板張り (DR)	ﾌﾗｯﾄ内部用 厚 9　不燃 下張GB-R　　厚12.5共	18.1	㎡			
天井 けい酸 ｶﾙｼｳﾑ板張り(FK)	ﾀｲﾌﾟ2(ﾉﾝｱｽ)0.8FK 厚 6 突付け	46.9	㎡			
天井下地貼り	ﾗﾜﾝﾍﾞﾆﾔ t=5.5	145	㎡			

建築工事　細目別内訳

屋内運動場		内装改修			内装改修	
名　　称	摘　　要	数　　量	単 位	単　　価	金　　額	備　　考
壁紙貼り	壁　ﾎﾞｰﾄﾞ面　工程B種 － 素地ごしらえ共	147	㎡			
壁紙貼り	天井 ﾎﾞｰﾄﾞ面　工程B種 － 素地ごしらえ共	145	㎡			
計						

建築工事　細目別内訳

屋内運動場	内装改修	ユニット及びその他改修

名　　称	摘　　要	数　　量	単 位	単　　価	金　　額	備　　考
室名札	平付け型　ｱｸﾘﾙ板 t=5 白 UV印刷 8-43-1 250×50	11	個			
暗幕BOX	木製 120*200	2.1	m			
手洗いﾗｲﾆﾝｸﾞ	L2130*H900*D150	1	か所			
便所手すり	固定手すり(L型) 6-22-5,6-23,6-25-1,6-26 樹脂被覆ﾀｲﾌﾟ	9	か所			
便所手すり	可動手すり(はねあげﾛｯｸ式) 6-23,6-25-1,6-26 樹脂被覆ﾀｲﾌﾟ	1	か所			
便所手すり	小便器用手すり 6-28-1 樹脂被覆ﾀｲﾌﾟ	6	か所			
便所手すり補強板		1	か所			
昇降ﾊｼｺﾞ		1	か所			
消火器表示板	塩ﾋﾞ製 蓄光文字	2	枚			
ｽﾁｰﾙﾗｯｸ		2	台			
緞帳・幕・飾り板		1	式			別紙 00-0001
下足入	一時撤去再取付け	1	か所			
肋木	一時撤去再取付け	1	か所			
掛け時計	一時撤去再取付け	1	か所			
校歌 2600*1300	一時撤去再取付け	1	か所			

建築工事　細目別内訳

屋内運動場	内装改修	ユニット及びその他改修				
名　　称	摘　　要	数　　量	単 位	単　　価	金　　額	備　　考
暗幕 5000*2000	一時撤去再取付け	2	か所			
暗幕 1200*2000	一時撤去再取付け	6	か所			
防球ﾈｯﾄ 28000*8000	一時撤去再取付け	3	か所			
防球ﾈｯﾄ 32000*8000	一時撤去再取付け	2	か所			
計						

建築工事　細目別内訳

屋内運動場	塗装改修	改修				
名　　称	摘　　要	数　　量	単 位	単　　価	金　　額	備　　考
DP塗 改修仕様	鉄部　　1級 下地調整RB種(塗替え面) 錆止め塗料As種(鉛・ｸﾛﾑﾌﾘｰ1種	1,277	㎡			
DP塗 改修仕様	鉄部細幅　　1級 下地調整RB種(塗替え面) 錆止め塗料As種(鉛・ｸﾛﾑﾌﾘｰ1種	570	m			
EP塗り 改修仕様	ﾎﾞｰﾄﾞ面　　工程B種(一般) 下地調整RB種(塗替え面)	41.6	㎡			
EP-G塗り	けい酸ｶﾙｼｳﾑ板面　工程B種 素地ごしらえ	5.3	㎡			
EP-G塗り 改修仕様	ﾎﾞｰﾄﾞ面　　工程B種(一般) 下地調整RB種(塗替え面)	6.7	㎡			
EP-G塗り 改修仕様	ｺﾝｸﾘｰﾄ面　　工程B種(一般) 下地調整RB種(塗替え面)	136.3	㎡			
SOP塗り 改修仕様	木部　　工程B種 下地調整RB種(塗替え面)	13.2	㎡			
SOP塗り 改修仕様	巾木　　工程B種 下地調整RB種(塗替え面)	232	m			
SOP塗り 改修仕様	木部細幅　　工程B種 下地調整RB種(塗替え面)	2,791	m			
SOP塗り 改修仕様	鉄部細幅　　工程B種 下地調整RB種(塗替え面)	589	m			
ｳﾚﾀﾝ樹脂塗装	3回塗り	731	㎡			
樹脂ﾜｯｸｽ仕上げ		731	㎡			
ｺｰﾄﾗｲﾝ引き		1	式			別紙 00-0002
水洗い	外部階段(踏面・蹴上・巾木) 渡り廊下	196	㎡			
下地調整 改修仕様	ﾓﾙﾀﾙ面 RB種(塗替え面)	176	㎡			

建築工事　細目別内訳

屋内運動場	塗装改修				改修	
名　　称	摘　　要	数　　量	単 位	単　　価	金　　額	備　　考
下地調整 改修仕様	鉄鋼面 RB種(塗替え面)	19.8	㎡			
ﾉﾝｽﾘｯﾌﾟ塗装	弾性ｳﾚﾀﾝ塗床 防滑仕様	196	㎡			
床ﾗｲﾝ引き	W=100	5.8	m			
計						

建築工事　細目別内訳

屋内運動場		環境配慮改修				
名　　称	摘　　要	数　　量	単 位	単　　価	金　　額	備　　考
床養生		98	㎡			
壁養生		272	㎡			
整理清掃後片付け		98	㎡			
ﾋﾞﾆﾙ床ﾀｲﾙ撤去	石綿含有 集積共	62.4	㎡			
天井合板･ﾎﾞｰﾄﾞ撤去	一重張り 石綿含有 集積共　石膏ﾎﾞｰﾄﾞt=9	38.4	㎡			
天井合板･ﾎﾞｰﾄﾞ撤去	一重張り 石綿含有 集積共　ｹｲｶﾙ板t=6	41.6	㎡			
天井合板･ﾎﾞｰﾄﾞ撤去	二重張り 石綿含有 集積共 石膏ﾎﾞｰﾄﾞ+石綿吸音板t=9+9	18.1	㎡			
除去石綿処理		1.3	m3			
計						

建築工事　細目別内訳

屋内運動場	外構改修	撤去				
名　　称	摘　　要	数　　量	単 位	単　　価	金　　額	備　　考
CB撤去	人力　　集積共	0.6	m3			
ｶｯﾀｰ入れ	ｺﾝｸﾘｰﾄ面 厚さ20～30㎜	5.8	m			
ｺﾝｸﾘｰﾄ撤去	鉄筋切断共 ｺﾝｸﾘｰﾄﾌﾞﾚｰｶ 集積共	0.3	m3			
床ﾓﾙﾀﾙ撤去	集積共	2.9	㎡			
ﾌｪﾝｽ撤去	H=1800　　集積共	20	m			
ﾌｪﾝｽ扉撤去	H=1800　　集積共	0.8	㎡			
有刺鉄線撤去	集積共	2.6	㎡			
計						

建築工事　細目別内訳

屋内運動場	外構改修	土間改修

名　　称	摘　　要	数　　量	単 位	単　　価	金　　額	備　　考
すきとり	積み込み共 H300程度	0.6	m3			
砂利地業	再生ｸﾗｯｼｬﾗﾝ	0.4	m3			
鉄筋金網敷き	D13@200 ｱﾝｶｰ共	7	㎡			
普通ｺﾝｸﾘｰﾄ	JIS A5308　FC=18　S18 粗骨材20	0.2	m3			
ｺﾝｸﾘｰﾄ打設手間	捨てｺﾝｸﾘｰﾄ　人力打設 -　S15～S18 -　-	0.2	m3			
普通ｺﾝｸﾘｰﾄ	JIS A5308　FC=24　S18 粗骨材20	0.8	m3			
ｺﾝｸﾘｰﾄ打設手間	土間　ﾎﾟﾝﾌﾟ打設 50m3/回程度　S15～S18 -　圧送費､基本料別途	0.8	m3			
ｺﾝｸﾘｰﾄﾎﾟﾝﾌﾟ圧送	30m3以上 50m3/回未満 基本料金別途加算	0.8	m3			
ｺﾝｸﾘｰﾄﾎﾟﾝﾌﾟ圧送基本料金	30m3以上 50m3/回未満	1	回			
床ｺﾝｸﾘｰﾄ直均し仕上げ	金ごて 直均し仕上げ	4.1	㎡			
床ﾓﾙﾀﾙ塗り	金ごて ﾓﾙﾀﾙ仕上げ 厚30	2.9	㎡			
計						

建築工事　細目別内訳

屋内運動場	外構改修				外構改修	
名　　称	摘　　要	数　　量	単 位	単　　価	金　　額	備　　考
ﾈｯﾄﾌｪﾝｽ	H=1800 基礎共	20	m			
ﾈｯﾄﾌｪﾝｽ用門扉	W=800 片開き 基礎共	1	か所			
ﾒｯｼｭﾌｪﾝｽ	H=1800 ｱﾝｶｰ共	28.9	m			
侵入防止柵	ｱﾙﾐ製縦格子 3300*800	1	か所			
倉庫 2200*1900*2200	一時撤去再取付け	4	か所			
樹木枝打ち	北側法面	140	㎡			
側溝清掃	W=300	59.6	m			
計						

建築工事　細目別内訳

屋内運動場		発生材処理			運搬	
名　　称	摘　　要	数　　量	単 位	単　　価	金　　額	備　　考
とりこわし 発生材運搬	ﾀﾞﾝﾌﾟﾄﾗｯｸ　2t積級 人力積込　がれき類	3.5	m3			
とりこわし 発生材運搬	ﾀﾞﾝﾌﾟﾄﾗｯｸ　2t積級 人力積込　ｶﾞﾗｽ	0.04	m3			
とりこわし 発生材運搬	ﾀﾞﾝﾌﾟﾄﾗｯｸ　2t積級 人力積込　廃ﾌﾟﾗｽﾁｯｸ	1.1	m3			
とりこわし 発生材運搬	ﾀﾞﾝﾌﾟﾄﾗｯｸ　2t積級 人力積込　金属くず	2.7	m3			
とりこわし 発生材運搬	ﾀﾞﾝﾌﾟﾄﾗｯｸ　2t積級 人力積込　木くず	11	m3			
とりこわし 発生材運搬	ﾀﾞﾝﾌﾟﾄﾗｯｸ　2t積級 人力積込　繊維くず	0.3	m3			
とりこわし 発生材運搬	ﾀﾞﾝﾌﾟﾄﾗｯｸ　2t積級 人力積込　廃石膏ボード	0.8	m3			
とりこわし 発生材運搬	ﾀﾞﾝﾌﾟﾄﾗｯｸ　2t積級 人力積込　廃ｱｽﾍﾞｽﾄ	1.3	m3			
建設発生土運搬	ﾀﾞﾝﾌﾟﾄﾗｯｸ　2t積級 人力積込	0.6	m3			
計						

建築工事　細目別内訳

屋内運動場		発生材処理			処分	
名　　称	摘　　要	数　　量	単 位	単　　価	金　　額	備　　考
発生材処分	がれき類	3.5	m3			
発生材処分	ｶﾞﾗｽ	0.04	m3			
発生材処分	廃ﾌﾟﾗｽﾁｯｸ	1.1	m3			
発生材処分	金属くず	2.7	m3			
発生材処分	木くず	11	m3			
発生材処分	繊維くず	0.3	m3			
発生材処分	廃石膏ﾎﾞｰﾄﾞ	0.8	m3			
発生材処分	廃ｱｽﾍﾞｽﾄ	1.3	m3			
発生材処分	建設発生土	0.6	m3			
計						

建築工事　別紙明細

屋内運動場	内装改修	ユニット及びその他改修

名　　称	摘　　要	数　　量	単 位	単　　価	金　　額	備　　考
緞帳・幕・飾り板		1	式			別紙 00-0001
飾り板	700*1200*32	9	か所			
緞帳	一時撤去再取付け	1	組			
前幕	撤去新設 6300*5000 2枚	1	組			
一文字幕	撤去新設 11500*900	1	枚			
袖幕	撤去新設 900*4600 2枚	1	組			
中幕	撤去新設 6300*5000 2枚	1	組			
後幕	撤去新設 6300*5000 2枚	1	組			
カスミ幕	撤去新設 11000*1500 2枚	1	組			
脇幕	撤去新設 2000*5000 4枚	1	組			
ﾊﾞﾄﾝ	撤去新設 2か所　L7000　38φ	1	か所			
ｽｸﾘｰﾝ	撤去新設 6000*2300	1	枚			
計						

建築工事　別紙明細

屋内運動場	塗装改修	改修				
名　　称	摘　　要	数　　量	単 位	単　　価	金　　額	備　　考
ｺｰﾄﾗｲﾝ引き		1	式			別紙 00-0002
ﾊﾞﾚｰ6人	ﾒｲﾝ	1	面			
ﾊﾞﾚｰ6人	ｻﾌﾞ	2	面			
ﾐﾆﾊﾞｽｹｯﾄ	既存合わせ	2	面			
ﾊﾞﾄﾞﾐﾝﾄﾝ	ﾀﾞﾌﾞﾙｽ	2	面			
バレー用床留器具		3	組			
ﾊﾞﾄﾞﾐﾝﾄﾝ 用床留器具		2	組			
計						

共通仮設費(積上)　明細

名　　称	摘　　要	数　　量	単 位	単　　価	金　　額	備　　考
仮囲い	成形鋼板H=2000 12か月	123	m			
ﾊﾟﾈﾙｹﾞｰﾄ	L=7200 H=2100 12か月	2	か所			
ﾊﾞﾘｹｰﾄﾞﾌｪﾝｽ	H=1800 12か月	117	m			
安全通路	2か月	1	式			
ｸﾞﾗｳﾝﾄﾞ整地・転圧	t=100	119.5	m3			
交通誘導員B	常時	264	人			
交通誘導員B	大型車両進入時	40	人			
ﾗﾌﾃﾚｰﾝｸﾚｰﾝ(油圧伸縮ｼﾞﾌﾞ型)	25t吊り　　ｵﾍﾟﾚｰﾀ付き 賃料 標準	5	日			
ｱｽﾍﾞｽﾄ分析調査	定性分析 JIS A 1481-1 採取共	4	か所			
計						

現場管理費(積上)　明細

名　　称	摘　　要	数　　量	単 位	単　　価	金　　額	備　　考
工事情報共有システム		1	式			
計						